保健科学研究科 博士(前期)課程

授業科目名	保健科学特論Ｉ	担当者	齋藤　圭介、原田　和宏、京極　真、森下　元賀、中瀬　克己、高橋　淳、寺岡　睦、森　芳史、河村　顕治
配当学科・研究科	2013～ 2016年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学1年／ 2017～ 2022年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学1年	ナンバリング	

必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	木曜3限		

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに／９．産業と技術革新の基盤をつくろう／１２．つくる責任・つかう責任
到達目標	学生は修士論文を書くために医学・全般において広い知識を習得し、研究者としての倫理、研究方法について学ぶことができる。
授業概要	保健科学研究科の研究指導教員がオムニバスでそれぞれのトピックスを講義する。 木曜日3限目、教室は11号館３階の共同研究室で行う。
アクティブラーニングの内容	実習
評価方法と割合	紹介された文献など研究論文の内容理解への努力や、テーマを掘り下げていく研究姿勢（20%）、理解促進ために提出を求める課題の内容や質疑応答における発現状況（80%）について評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題等は、授業でフィードバックする。
履修条件・注意事項	講義は、最もその分野に適した教員によって行う。 時間を厳守すると共に、与えられた課題の達成のみならず自分自身で考え、積極的に問題点を見つけ出し、明確な質疑応答が出来るようにすること。
事前学習・事後学習とその時間	予習として、あらかじめ提示されたものがあれば予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて講義を受けること。 また、復習として、毎回の講義の内容を確認し、自分なりにノートにまとめること。 なお、予習、復習には各2時間程度を要する。
オフィスアワー	各担当教員のオフィスアワーをオフィスアワーの時間とする。

授業計画	担当者
1）修士での研究の進め方	京極　真
2）研究倫理	京極　真
3）研究者としての心構え	髙橋　淳
4）研究の基礎と考え方①	森　芳史
5）研究の基礎と考え方②	齋藤圭介
6）調査研究法①	中瀬克己
7）調査研究法②	中瀬克己
8）臨床研究法①	森下元賀
9）臨床研究法②	寺岡　睦
10）疑問（臨床、研究）の具体化	原田和宏
11）データ収集に向けて不足はないか？	原田和宏
12）実験研究法①	河村顕治
13）実験研究法②	河村顕治
14）実験研究法③	森　芳史
15）研究発表の仕方	髙橋　淳

教科書

教・書籍名１	特に定めない。必要に応じてプリントを配布する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	保健科学特論Ⅱ	担当者	京極　真
配当学科・研究科	2013～ 2016年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学1年／ 2017～ 2022年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学1年	ナンバリング	

必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	集中講義		

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに／９．産業と技術革新の基盤をつくろう／１２．つくる責任・つかう責任
到達目標	学生は修士論文を書くために医学・保健科学全般において広い知識を習得し、研究者としての倫理、研究方法について習得できる。 学生は英語論文、日本語論文のいずれの執筆でも使えるアカデミックライティングスキルを高めることができる。
授業概要	秋学期は研究計画書・修士論文・研究論文の執筆力を高めるためにアカデミックライティングスキルのトレーニングを行う。大学院生の研究計画書、修士論文の執筆状況を踏まえたトレーニングを実施する。 木曜日3限目、教室は11号館３階の共同研究室で行う。
アクティブラーニングの内容	実習
評価方法と割合	評価は、研究姿勢（50%）、担当した執筆課題の取り組み（30%）、質疑応答（20%）で実施する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題等は、授業でフィードバックする。
履修条件・注意事項	時間を厳守すると共に、与えられた課題の達成のみならず自分自身で考え、積極的に問題点を見つけ出し、明確な質疑応答が出来るようにすること。
事前学習・事後学習とその時間	予習として、あらかじめ提示されたものがあれば予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて講義を受けること。 また、復習として、毎回の講義の内容を確認し、自分なりにノートにまとめること。 なお、予習、復習には各2時間程度を要する。
オフィスアワー	個人研究室（6428）にて火曜日3限に実施する。

授業計画	担当者
1）オリエンテーション、研究計画書・修士論文・研究論文のアカデミックライティングの共通点と相違点	京極真
2）アカデミックライティング・基礎と演習	京極真
3）研究計画書とアカデミックライティング・基礎と演習	京極真
4）IMRAD構造（修士論文・研究論文）とアカデミックライティング・基礎と演習	京極真
5）事前準備（ストーリー、図表作成、投稿先決定など）・基礎と演習	京極真
6）方法のアカデミックライティング・基礎と演習	京極真
7）結果のアカデミックライティング・基礎と演習	京極真
8）考察のアカデミックライティング・基礎	京極真
9）考察のアカデミックライティング・演習	京極真
10）序論のアカデミックライティング・基礎	京極真
11）序論のアカデミックライティング・演習	京極真
12）文献リストの書き方・基礎と演習	京極真
13）要旨の書き方・基礎と演習	京極真
14）タイトルとキーワードの決め方・基礎と演習	京極真
15）投稿準備と査読対策・基礎と演習	京極真

教科書			
教・書籍名１	特に定めない。必要に応じてプリントを配布する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	

参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	保健科学研究法特論Ⅰ	担当者	齋藤　圭介、掛谷　益子、原田　和宏、京極　真、森下　元賀、中瀬　克己、高橋　淳、寺岡　睦、森　芳史、河村　顕
配当学科・研究科	2013～ 2016年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学1年／ 2017～ 2022年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学1年	ナンバリング	

必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	集中講義		

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに／９．産業と技術革新の基盤をつくろう／１２．つくる責任・つかう責任
到達目標	自らが設定する研究テーマの下で修士論文の作成に取り組む上で、研究課題の絞り込み、文献検討、研究のデザインと測定の方法論について学修する。 到達目標 ① 学生は研究の意義、研究倫理、基本的な研究プロセスと主な方法論について説明できる。 ② 学生は自己の研究課題について文献検索を行い、文献レビューを作成できる。 ③ 学生は自己の研究課題について研究計画書を作成し、プレゼンできる。
授業概要	保健科学研究科の研究指導教員がオムニバスでそれぞれのトピックスを講義する。 木曜日3限目、教室は11号館３階の共同研究室で行う。 我が国における保健科学分野における実践や研究の関心は、これまで重視されてきた慢性疾患対策や障害者・要介護高齢者に対する支援のみならず、地域住民一般を対象とした健康増進や障害予防の視点に立った支援が取り組まれる等、多様化・専門分化が進んでいる。同時にEvidence-based medicine（EBM）やEvidence-based health care（EBH）重視の潮流の下、経験則重視から科学的根拠に基づく支援への転換が図られている。こうした状況の下、保健科学分野の専門家が取り組むべき課題は山積しており、臨床上の問題や疑問を解いていくためには、科学的探究心を涵養し、研究に結びつける思考や技術を磨き、科学的エビデンスの蓄積を積み重ねていかなくてはならない。保健科学研究法は、保健科学分野の研究全般に共通して必要となる論文の読み方、研究デザインの設計、サンプリング等について、その基本的な考え方と知識について学習するものである。
アクティブラーニングの内容	実習
評価方法と割合	講義時における口頭試問（30%）、研究計画書の内容（30%）、研究計画発表のプレゼンテーション内容（40%）で評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題等は、授業でフィードバックするので最終講義までにみなおしておくこと。
履修条件・注意事項	本講義を受講することにより修士論文計画書を作成し、修士論文計画発表を行う。
事前学習・事後学習とその時間	1)研究内容に関連する最新の論文を常に検索し、いつでも引用論文として利用できるようにしておくこと。 2)論文は結果、考察以外は早くから作成できるように準備しておくこと。 毎回の指導内容について、予習復習としてそれぞれ2時間以上は要する。
オフィスアワー	各担当教員のオフィスアワーをオフィスアワーの時間とする。

授業計画	担当者
1.研究の意義と動向、研究者の責務	河村顕治
2.SCAT、GTA	寺岡　睦
3.質的統合法	掛谷　益子
4.統計学の数学的基礎	森　芳史
5.量的研究の方法とデータ収集	森下元賀
6.記述統計と基本統計の概要	齋藤圭介
7.「関連」と「因果」	齋藤圭介
8.疫学研究法　調査方法とデータ収集	中瀬克己
9.疫学研究法　リスクの考え方　バイアスと交絡	中瀬克己
10.研究仮説と自分のデータとの整合性を考える	原田和宏
11.自分のデータをもっと有効活用できないか	原田和宏

12.潜在ランク理論	寺岡　睦
13.一般化線形混合モデル	京極　真
14.構造方程式モデル	寺岡　睦
15.研究法の総合指導	髙橋　淳

教科書			
教・書籍名１	医学的研究のデザイン　第4版	教・出版社名１	メデイカル・サイエンス・インターナショナル
教・著者名１	木原雅子・木原正博訳	教・ＩＳＢＮ１	978-4-89592-783-3
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	保健科学研究法特論Ⅱ	担当者	長町　榮子
配当学科・研究科	2016年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業2年／2013～ 2016年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学2年／ 2017～ 2022年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学2年	ナンバリング	

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	自らが設定する研究テーマの下で修士論文の作成に取り組む上で、研究課題の絞り込み、文献検討、研究のデザインと測定の方法論について学修する。 到達目標 ①研究の意義、研究倫理、基本的な研究プロセスと主な方法論について説明できる。 ②自己の研究課題について文献検索を行い、文献レビューを作成できる。 ③自己の研究課題について研究計画書を作成し、プレゼンテーションできる。 ④研究計画書に基づき研究を進め、研究の中間成果をプレゼンテーションできる。
授業概要	我が国における保健科学分野における実践や研究の関心は、これまで重視されてきた慢性疾患対策や障害者・要介護高齢者に対する支援のみならず、地域住民一般を対象とした健康増進や障害予防の視点に立った支援が取り組まれる等、多様化・専門分化が進んでいる。同時にEvidence-based medicine（EBM）やEvidence-based health care（EBH）重視の潮流の下、経験則重視から科学的根拠に基づく支援への転換が図られている。こうした状況の下、保健科学分野の専門家が取り組むべき課題は山積しており、臨床上の問題や疑問を解いていくためには、科学的探究心を涵養し、研究に結びつける思考や技術を磨き、科学的エビデンスの蓄積を積み重ねていかなくてはならない。保健科学研究法は、保健科学分野の研究全般に共通して必要となる論文の読み方、研究デザインの設計、サンプリング等について、その基本的な考え方と知識について学習するものである。
アクティブラーニングの内容	PBL／ディスカッション／ディベート／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	講義時における口頭試問（30%）、研究計画書の内容（30%）、研究計画発表のプレゼンテーション内容（40%）で評価する。なお、評価のために実施した課題等は、授業でフィードバックするので最終講義までにみなおしておくこと。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	口頭または書面でフィードバックする。
履修条件・注意事項	本講義の受講により、研究の中間成果のプレゼンテーションを行う。 開講日程は教員と調整を行うこと。
事前学習・事後学習とその時間	予習として、各授業計画および、前回授業で予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。 また、復習として、毎回の授業の内容を確認し、自分なりにノートにまとめること。 なお、予習、復習には各2時間程度を要する。
オフィスアワー	水曜日３限目、６号館４階長町研究室（6425号室）にて

授業計画	担当者
1.データ収集1回目	長町
2.データ収集2回目	長町
3.データ収集3回目	長町
4.データ収集4回目	長町
5.データ収集5回目	長町
6.データ整理	長町
7.データ整理・分析	長町
8.データ分析	長町
9.結果の整理	長町
10.結果の整理・解釈	長町
11.結果の解釈に関するディスカッション	長町
12.結果の解釈	長町

13.修士論文作成：目的・方法	長町
14.修士論文作成：結果	長町
15.修士論文作成：考察	長町
16.修士論文発表	長町

教科書			
教・書籍名１	必要時適宜提示する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	保健科学研究法特論Ⅱ	担当者	河村　顕治
配当学科・研究科	2016年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業2年／2013～ 2016年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学2年／ 2017～ 2022年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学2年	ナンバリング	

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに
到達目標	修士論文を作成する過程においてまずしっかりした研究計画を立てることが重要である。学生は研究計画を立てるために様々なバイオメカニクス的解析手法を学び、研究テーマを明確にした上で、実行可能な研究計画を立てることができる。
授業概要	主にバイオメカニクス研究の指導を行う。 １．先行研究や原著について指導し、文献の検索や読解力を養い、思考能力を高める。 ２．文献の講読を行いながら研究仮説を立案し、リサーチを行う院生には実験の計画を立案させる。 ３．データの集積、分析、論文執筆などについて指導する。
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	文献など研究論文の内容理解への努力や、テーマを掘り下げていく研究姿勢及び研究指導に対する姿勢（20%）、理解促進ために提出を求める課題の内容や質疑応答における発現状況（20%）について評価すると共に、研究計画調書の内容（80%）を総合的に評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題等は、授業でフィードバックするので最終講義（口頭試問）までにみなおしておくこと。
履修条件・注意事項	本講義を通して修士論文を完成させることが求められている。
事前学習・事後学習とその時間	予習として、各授業計画および、前回授業で予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。 また、復習として、毎回の授業の内容を確認し、自分なりにノートにまとめること。 なお、予習、復習には各2時間程度を要する。
オフィスアワー	個人研究室にて、火曜日の4時限目に実施。

授業計画	担当者
第１ 回：科学的情報収集法	河村顕治
第２ 回：研究テーマ策定	河村顕治
第３ 回：基礎知識の確認	河村顕治
第４ 回：先行研究の調査①	河村顕治
第５ 回：先行研究の調査②	河村顕治
第６ 回：先行研究の調査③	河村顕治
第７ 回：先行研究の概要発表	河村顕治
第８ 回：先行研究の概要発表の講評	河村顕治
第９ 回：研究テーマの確定	河村顕治
第10回：研究計画調書作成	河村顕治
第11回：バイオメカニクス研究指導①	河村顕治
第12回：バイオメカニクス研究指導②	河村顕治
第13回：バイオメカニクス研究指導③	河村顕治
第14回：研究計画調書の再検討と修正	河村顕治
第15回：研究計画発表用資料の確認	河村顕治

教科書

教・書籍名１	特に定めない。必要に応じてプリントを配布する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書

参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	保健科学研究法特論Ⅱ	担当者	齋藤　圭介
配当学科・研究科	2016年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業2年／2013～ 2016年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学2年／ 2017～ 2022年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学2年	ナンバリング	

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	統計処理に代表される研究技術の修得をテーマに，保健科学研究法特論Ⅰに引き続き，自らが設定する研究テーマの下で修士論文の作成に取り組み研究目的を達成するための，得られたデータの統計処理の仕方や個々の統計手法の理論的背景，結果の意義づけや解釈など文献的根拠に基づき考察する能力を身につける。 到達目標 ① 基本的な統計手法の理論的背景を説明できる。 ② 研究目的達成のため，得られたデータを基に統計処理を実施することが出来る。 ③ 文献的根拠を基に結果の解釈を行い，考察としてまとめ上げる能力を身につける
授業概要	障害予防や生活モデルに立脚した自立支援を行うためにも，適切な評価と科学的視座に立った支援方法の確立が求められている。臨床上の問題や疑問を研究課題として解くためには，研究計画を立て測定するだけでなく，得られたデータを目的達成のためにどのように統計処理をするのか，その結果を文献的根拠に基づき解釈する能力を身につける必要がある。本科目では，研究全般に共通して必要となる統計手法の理論と実施する能力，得られた結果を解釈し考察する能力を身につけるための学修を進める。 ※実務経験のある教員による授業科目 この科目は，理学療法士としての実務経験と研究実績を持つ教員が，その経験を生かし，臨床現場と研究活動に実践的に役立つ授業を実施する。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション
評価方法と割合	講義時における口頭試問（60%）、統計処理課題・結果の解釈に関するプレゼンテーションの到達度（40%）で評価する。詳しい評価方法は，最初の授業時に説明する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	評価に関わる課題やレポート等は，授業内，またはMicrosoft Teamsを活用しフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	本講義を受講をとおして修士論文作成を進めることより、積極的な姿勢で臨むこと。 十分な知識と技術を身につけるために，予習と復習を行うこと。
事前学習・事後学習とその時間	事前に課題を与え報告を行ない，それを蓄積し自身の研究への還元を進めるため，予習と復習が必須である。課題は，各回授業時において指示する。予習および復習には，各2時間程度を要する。
オフィスアワー	個人研究室にて，金曜日5時限目に実施。それ以外についても随時対応する。

授業計画	担当者
1.データを統計処理することの意義と考え方	齋藤
2.関連と因果，効果をみるための統計手法の理解	齋藤
3.統計手法の理解　基本統計１	齋藤
4.統計手法の理解　基本統計２	齋藤
5.統計手法の理解　多変量解析	齋藤
6.統計手法の理解　予測	齋藤
7.統計処理実習１　データシートの作り方	齋藤
8.統計処理実習２　基本統計の実施	齋藤
9.統計処理実習３　多変量解析の実施	齋藤
10.実際のデータを基にした統計処理の実施	齋藤
11.統計処理実施結果のプレゼンテーション	齋藤
12.結果解釈の基本的考え方	齋藤
13.結果解釈の実例検討　文献抄読１	齋藤

14.結果解釈の実例検討　文献抄読２	齋藤
15.考察のまとめ方，既出事項のまとめ	齋藤

教科書			
教・書籍名１	使用しない（適宜必要な文献および資料等を提示する）	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	保健科学研究法特論Ⅱ	担当者	原田　和宏
配当学科・研究科	2016年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業2年／2013～ 2016年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学2年／ 2017～ 2022年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学2年	ナンバリング	

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	自らが設定する研究テーマの下で修士論文の作成に取り組む上で、研究課題の絞り込み、文献検討、研究のデザインと測定の方法論について学修する。 到達目標 ① 研究の意義、研究倫理、基本的な研究プロセスと主な方法について実践できる。 ② 新規の研究課題について文献検索を行い、文献レビューをこなせる。 ③ 新規の研究課題について研究計画書を作成し、プレゼンできる。
授業概要	我が国における保健科学分野における実践や研究の関心は、これまで重視されてきた慢性疾患対策や障害者・要介護高齢者に対する支援のみならず、地域住民一般を対象とした健康増進や障害予防の視点に立った支援が取り組まれる等、多様化・専門分化が進んでいる。同時にEvidence-based medicine（EBM）やEvidence-based health care（EBH）重視の潮流の下、経験則重視から科学的根拠に基づく支援への転換が図られている。こうした状況の下、保健科学分野の専門家が取り組むべき課題は山積しており、臨床上の問題や疑問を解いていくためには、科学的探究心を涵養し、研究に結びつける思考や技術を磨き、科学的エビデンスの蓄積を積み重ねていかなくてはならない。 保健科学研究法Ⅱでは、保健科学分野の新規課題に共通して必要となる論文の読み方、研究デザインの設計、サンプリング等について、その考え方と知識について応用的に学習するものである。
アクティブラーニングの内容	PBL／ディスカッション／プレゼンテーション
評価方法と割合	講義時における口頭試問、研究計画書の内容、研究計画発表のプレゼンテーション内容で評価する。 文献など研究論文の内容理解への努力や、テーマを掘り下げていく研究姿勢及び研究指導に対する姿勢（20%）、理解促進ために提出を求める課題の内容や質疑応答における発言状況（20%）について評価すると共に、作成された資料について、論旨の妥当性を総合的に評価する（60%）。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題や等は、授業でフィードバックするので最終講義（口頭試問）までにみなおしておくこと。
履修条件・注意事項	本講義を受講することにより修士論文計画書を作成し、修士論文計画発表を行う。
事前学習・事後学習とその時間	予習として、各授業計画および、前回授業で予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。 また、復習として、毎回の授業で指摘した専門用語を教科書で確認して，自分なりにノートにまとめること。 なお、予習、復習には各2時間程度を要する。
オフィスアワー	6号館4階の個人研究室において，毎週火曜日4限と木曜日3限をオフィスアワーの時間とする．

授業計画	担当者
第１回　研究の意義と動向、研究倫理と研究者の責務 第２回　研究の基本的なプロセス 第３回　疫学研究法1　調査方法とデータの収集 第４回　疫学研究法2　リスクの考え方，バイアスと交絡 第５回　質的研究の方法とデーター収集法 第６回　Ｇrounded Theory Approachによる分析方法 第７回　「関連」と「因果」 第８回　記述統計と基本統計の概要 第９回　回帰について 第10回　臨床データの有効活用 第11回　Ｒコマンダーを使用した統計の紹介（差の検定・分散分析） 第12回　Ｒコマンダーを使用した統計の紹介（重回帰分析・ロジスティック回帰分析）	原田和宏

第13回　偏りのあるデータから妥当な推論を行う統計 第14回　有意抽出による調査データの補正の具体例 第15回　修士論文計画発表について 16. 試験	

教科書			
教・書籍名１	『医学的研究のデザイン　第４版』	教・出版社名１	メディカル・サイエンス・インターナショナル
教・著者名１	木原雅子・木原正博訳	教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	保健科学研究法特論Ⅱ	担当者	森　芳史
配当学科・研究科	2016年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業2年／2013～ 2016年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学2年／ 2017～ 2022年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学2年	ナンバリング	

必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	修士論文を書くために医学全般において広い知識を習得し、研究者としての倫理、研究方法について学ぶ。 保健科学研究法特論Ⅱでは英語文献の読解力を高めることを目標とする。
授業概要	英語文献のjournal club（抄読会）を行う。これにより英語読解力を高めることができる。 木曜日4限目、教室は11号館３階の共同研究室で行う。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション
評価方法と割合	担当した英語文献など研究論文の内容理解への努力や、テーマを掘り下げていく研究姿勢（50%）、質疑応答における発言状況（50%）について評価する。 なお、評価のために実施した課題等は、授業でフィードバックするので最終講義（口頭試問）までにみなおしておくこと。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業やオンラインで必要なフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	時間を厳守すると共に、与えられた課題の達成のみならず自分自身で考え、積極的に問題点を見つけ出し、明確な質疑応答が出来るようにすること。 発表を担当する学生は、前の週までに担当する英語文献を教員及び他の学生に配布しておくこととする。
事前学習・事後学習とその時間	予習として、あらかじめ配布された英語文献について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて講義を受けること。 また、復習として、毎回の講義の内容を確認し、自分なりにノートにまとめること。 なお、予習、復習には各2時間程度を要する。
オフィスアワー	6号館4階の森のオフィスアワーをオフィスアワーの時間とする。

授業計画	担当者
１）journal club（抄読会）	森 芳史
２）journal club（抄読会）	森 芳史
３）journal club（抄読会）	森 芳史
４）journal club（抄読会）	森 芳史
５）journal club（抄読会）	森 芳史
６）journal club（抄読会）	森 芳史
７）journal club（抄読会）	森 芳史
８）journal club（抄読会）	森 芳史
９）journal club（抄読会）	森 芳史
10）journal club（抄読会）	森 芳史
11）journal club（抄読会）	森 芳史
12）journal club（抄読会）	森 芳史
13）journal club（抄読会）	森 芳史
14）journal club（抄読会）	森 芳史
15）journal club（抄読会）	森 芳史

教科書			
教・書籍名１	特に定めない。必要に応じてプリントを配布する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			

参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	保健科学研究法特論Ⅱ	担当者	安福　真弓
配当学科・研究科	2016年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業2年／2013～ 2016年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学2年／ 2017～ 2022年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学2年	ナンバリング	

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに
到達目標	①研究デザインに適したデータ収集方法が実施でき、分析を加え結果として表現できる。 ②研究の中間成果をプレゼンテーションできる。 ③研究目的に対して結果をもとに考察を加え、修士論文としてまとめることができる。
授業概要	Evidence-based medicine（EBM）やEvidence-based health care（EBH）重視の潮流の下、経験則重視から科学的根拠に基づく支援への転換が図られている。こうした状況の下、保健科学分野の専門家が取り組むべき課題は山積しており、臨床上の問題や疑問を解いていくためには、科学的探究心を涵養し、研究に結びつける思考や技術を磨き、科学的エビデンスの蓄積を積み重ねていかなくてはならない。保健科学研究法Ⅰで学習した論文の読み方、研究デザインの設計、サンプリングなどの基本的な考え方と知識を活用し、小児看護のエビデンスの探求に関する研究に取り組む。 この科目は、看護師としての実務経験と研究実績を持つ教員が、その経験を活かし、臨床現場と研究活動に実践的に役立つ授業を実施する。
アクティブラーニングの内容	PBL／ディスカッション／プレゼンテーション
評価方法と割合	講義時の質疑応答（20%）、文献講読の状況（30%）、研究の中間発表のプレゼンテーション内容（50%）を合わせて評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題等は、授業でフィードバックするので最終講義までに見直しておく。
履修条件・注意事項	本講義の受講により、研究の中間成果のプレゼンテーションを行う。 開講日程は各教員と調整を行うこと。
事前学習・事後学習とその時間	研究内容に関する最新の論文を常に検索し、いつでも引用論文として利用できるように整理する。文献の中から自己の研究課題に近い論文を中心に読み込む。自らの課題について、調べてきたことなどを元にして「自ら学ぶ」実践型の学習が必須であり、事前・事後学習ともに各2時間以上は必要となる。
オフィスアワー	月曜・2限（11：10～12：40）に個人研究室（6405）にて対応。

授業計画	担当者
1.研究課題と研究過程	安福真弓
2.文献検討	安福真弓
3.研究デザインとデータ収集	安福真弓
4.データ整理	安福真弓
5.データ分析方法について	安福真弓
6.データ分析演習	安福真弓
7.結果の整理	安福真弓
8.結果の解釈に関するディスカッション	安福真弓
9. 修士論文作成：はじめに	安福真弓
10.修士論文作成：目的・方法	安福真弓
11.修士論文作成：結果	安福真弓
12.図表の作成	安福真弓
13.修士論文作成：考察	安福真弓
14.プレ発表	安福真弓
15.中間発表まとめ	安福真弓

教科書			
教・書籍名１	必要時適宜提示する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	

教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	必要時適宜提示する。	参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	保健科学研究法特論Ⅱ	担当者	掛谷　益子
配当学科・研究科	2016年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業2年／2013～ 2016年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学2年／ 2017～ 2022年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学2年	ナンバリング	

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	AL
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	自らが設定する研究テーマの下で修士論文を作成し、発表することができる。 到達目標 ①研究デザインに適したデータ収集方法が実施でき、分析を加え結果として表現できる。 ②研究の中間成果をプレゼンテーションできる。 ③研究目的に対して結果をもとに考察を加え修士論文としてまとめることができる。
授業概要	Evidence-based nursing（EBN）重視のもと、科学的根拠に基づく看護援助が求められている。保健科学研究法Ⅰで学習した論文の読み方、研究デザインの設計、サンプリング等の基本的な考え方と知識を活用し、看護技術のエビデンスの探求に関する研究に取り組む。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション／フィールドワーク
評価方法と割合	講義時の質疑応答（20%）、文献講読の状況（30%）、研究の中間発表のプレゼンテーション内容（50%）を合わせて評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	口頭および書面にて授業中にフィードバックする。
履修条件・注意事項	本講義の受講により、研究の中間成果のプレゼンテーションを行う。
事前学習・事後学習とその時間	研究内容に関する最新の論文を常に検索し、いつでも引用論文として利用できるように整理する。文献の中から自己の研究課題に近い論文を中心に読み込む。自らの課題について、調べてきたことなどを元にして「自ら学ぶ」実践型の学習が必須であり、事前・事後学習ともに各2時間以上は必要となる。
オフィスアワー	水曜日2時限目　：　6号館4階　6402研究室

授業計画	担当者
1.データ収集準備	1.掛谷
2.データ収集	2.掛谷
3.データ収集(フィールドワーク)	3.掛谷
4.データ収集(フィールドワーク)	4.掛谷
5.データ収集(フィールドワーク)	5.掛谷
6.データ分析	6.掛谷
7.データ分析(ディスカッション)	7.掛谷
8.データ分析(ディスカッション)	8.掛谷
9.結果の整理	9.掛谷
10.結果の整理	10.掛谷
11.結果の解釈	11.掛谷
12.結果の解釈(ディスカッション)	12.掛谷
13.結果の解釈(ディスカッション)	13.掛谷
14.修士論文作成について	14.掛谷
15.修士論文発表について	15.掛谷
16.まとめ：プレゼンテーション	16.掛谷

教科書

教・書籍名１	必要時適宜提示する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書

参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	保健科学研究法特論Ⅱ	担当者	田中　富子
配当学科・研究科	2016年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業2年／2013～ 2016年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学2年／ 2017～ 2022年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学2年	ナンバリング	

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義・演習
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに
到達目標	自らが設定する研究テーマの下で修士論文の作成に取り組む上で、研究課題から研究デザインと測定の方法論について学修する。 到達目標 ① 研究の意義、研究倫理、基本的な研究プロセスと主な方法論について実施できる。 ② 自己の研究課題について文献レビューをまとめ、論文で発表できる。 ③ 自己の研究目的に基づきデータ収集・分析ができる。
授業概要	我が国における保健科学分野における実践や研究の関心は、これまで重視されてきた慢性疾患対策や障害者・要介護高齢者に対する支援のみならず、地域住民一般を対象とした健康増進や障害予防の視点に立った支援が取り組まれる等、多様化・専門分化が進んでいる。同時にEvidence-based medicine（EBM）やEvidence-based health care（EBH）重視の潮流の下、経験則重視から科学的根拠に基づく支援への転換が図られている。こうした状況の下、保健科学分野の専門家が取り組むべき課題は山積しており、臨床上の問題や疑問を解いていくためには、科学的探究心を涵養し、研究に結びつける思考や技術を磨き、科学的エビデンスの蓄積を積み重ねていかなくてはならない。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション／フィールドワーク
評価方法と割合	講義時における口頭試問(50%)、研究論文の内容(20%)、研究中間発表のプレゼンテーション内容(30%)で評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	保健科学分野の研究全評価のために実施した課題や等は、授業でフィードバックするので最終講義までにみなおしておくこと
履修条件・注意事項	本講義を受講することにより修士論文計画書の基づき、得られたデータを分析するまでの過程を中間発表に合わせてまとめる。
事前学習・事後学習とその時間	自らの課題について、得られたデータを元にして「自ら学ぶ」実践型の学習が必須である。予習として事前に参考資料を読み，理解出来ない点をディスカッションで討議し理解を深める．復習として研究目的に則りデータ分析や参考文献をまとめること．なお，予習・復習の時間は各2時間程度を要する。
オフィスアワー	個人研究室において火曜日4次限とする。

授業計画	担当者
1.データ収集 2.データ収集 3.データ収集 4.データ収集 5.データ収集 6.データ分析 7.データ分析 8.データ分析 9.結果の整理 10.結果の整理 11.結果の解釈 12.結果の解釈	田中富子

13.結果の解釈 14.修士論文作成について 15.修士論文発表について 16.まとめ：プレゼンテーション	

教科書			
教・書籍名１	授業内容により資料を配布し、必要な書籍を提示する	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	保健科学研究法特論Ⅱ	担当者	中嶋　正明
配当学科・研究科	2016年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業2年／2013～ 2016年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学2年／ 2017～ 2022年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学2年	ナンバリング	

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに
到達目標	研究思考を身につける。 到達目標 ① 研究論文を読み，その研究を始める動機になった背景について説明できる。 ② その研究が必要とされる理由を述べることが出来る。 ③ さらに研究が必要とされるか否か，そしてその理由を説明できる。
授業概要	研究をはじめ学術論文を作成出来るようになるためには，論理的思考を身につける必要がある。自らの研究テーマに関連した学術論文を用いて研究思考を身につける。 研究発表の仕方（パワーポイントによる発表スライドの作成方法を含む）や学術論文の書き方について学ぶ。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション
評価方法と割合	文献収集やその読解等の研究論文の内容理解のための取り組み姿勢（30%），文献の理解度（30%），発表技法，学術論文の書き方の習得度（20%），ついて総合的に評価する（40%）。 なお，評価のために実施した課題やレポート等は，授業でフィードバックするので見直しをしておくこと。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	実施した課題やレポート等は，授業でフィードバックするので見直しをしておくこと。
履修条件・注意事項	受け身の姿勢ではなく，積極的な取り組み姿勢で望んで下さい。
事前学習・事後学習とその時間	文献収集には時間がかかるため早めの対応を心がけること。 予習および復習には各2時間程度を有する。
オフィスアワー	水曜日3、4限，6号館3階中嶋研究室（6329）にて

授業計画	担当者
第１回　研究計画の詳細決定	中嶋正明
第２回　研究実施①　予備実験	中嶋正明
第３回　研究実施②	中嶋正明
第４回　研究実施③	中嶋正明
第５回　研究実施④	中嶋正明
第６回　データ解析①　データ整理	中嶋正明
第７回　データ解析②　統計処理	中嶋正明
第８回　データ解析③　データの解釈	中嶋正明
第９回　修士論文作成①　序論	中嶋正明
第１０回　修士論文作成②　方法と結果	中嶋正明
第１１回　修士論文作成③　考察	中嶋正明
第１２回　修士論文作成④　参考文献の整理と追加	中嶋正明
第１３回　修士論文推敲	中嶋正明
第１４回　修士論文発表会資料作成	中嶋正明
第１５回　修士論文プレゼンテーション	中嶋正明

教科書

教・書籍名１	「アクセプトされる英語医学論文を書こう！」	教・出版社名１	メジカルビュー社
教・著者名１	ネル・L・ケネディ	教・ＩＳＢＮ１	4-89553-969-5

教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	保健科学研究法特論Ⅱ	担当者	京極　真
配当学科・研究科	2016年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業2年／2013～ 2016年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学2年／ 2017～ 2022年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学2年	ナンバリング	

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	テーマ：大学院生は、実際の研究活動の手順について理解し、問題現象を明らかにする方法を習得する。 到達目標 １．大学院生は統計学の基本的知識が理解できる。 ２．大学院生は最新の統計解析の手法を理解できる。 ３．大学院生は質的研究の妥当性を高める手法を理解できる。
授業概要	この講義では、さまざまな研究法に関する理解を深められる。 大学院生は自身の研究を遂行していく中で、高度な研究法を遂行できるチカラが養える。 それにより保健科学研究の遂行に必要な技術を理解できる。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート／グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	研究指導全過程を通して評価する。 評価の配分は以下の通りである。 ・積極的な研究態度・・・２０％ ・文献読解と研究課題の設定と研究法の理解・・・２０％ ・明確な質疑応答と論理的な考察・・・２０％ ・作成された論文の妥当性、信頼性、倫理的配慮・・・４０％ なお、評価のために実施した課題等は、講義でフィードバックするので最終講義（口頭試問）までにみなおしておくこと。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	口頭または書面でフィードバックする。
履修条件・注意事項	積極的な参加を求める。
事前学習・事後学習とその時間	予習、復習には各2時間ほど必要である。 自己学習のためのレポート課題を課す。 それを作成することによって講義の予習復習が可能であり、必ず提出すること。
オフィスアワー	曜日：月曜５限目、金曜５限目 場所：６号館４階6428号室

授業計画	担当者
1. 測定誤差	京極
2. 独立変数と従属変数の選び方	京極
3. サンプルの選択	京極
4. 記述研究	京極
5. 観察データに基づく因果推論	京極
6. 症例対照研究	京極
7. 統計的推論	京極
8. 研究成果の一般化可能性	京極
9. バイアスや交絡因子	京極
10. 研究の内部・外部妥当性	京極
11. 構造方程式モデリング	京極
12. マルチレベル分析	京極
13. 質的データの妥当性	京極
14. 理論的飽和率	京極
15. 発表・まとめ	京極
16. 口頭試問	京極

教科書			
教・書籍名１	適宜紹介	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	適宜紹介	参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	保健科学研究法特論Ⅱ	担当者	佐藤　三矢
配当学科・研究科	2016年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業2年／2013～ 2016年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学2年／ 2017～ 2022年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学2年	ナンバリング	

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	【テーマ】 「高齢者／介護予防／認知症／ＱＯＬ」などをキーワードとした指導を展開する。 ※先行研究や原著を通じて文献検索や読解力を養い、思考能力を高めていく。 【到達目標】 学生は、実行と実現が可能で、有益な研究の計画立案ができるようになることを到達目標とする。
授業概要	①質の高い研究計画を立案するために、まずは「文献レビュー」を十分に行わせる。 ②文献レビューを行なえるようになれば、「研究テーマ」を明確にさせる。 ③文献の講読を行いながら研究仮説を立案し、リサーチを行う院生には実験の計画を立案させる。 ④最終的にデータの集積、分析、論文執筆などについて指導する。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート／プレゼンテーション
評価方法と割合	講義時の「質疑応答・文献講読の状況（20%）」、研究計画調書の内容（80%）などから総合的に評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	講義中に評価のために出した課題は授業にフィードバックするので、各期の最終日までに見直しておくこと。
履修条件・注意事項	本講義を通して修士論文を完成させることが求められている。
事前学習・事後学習とその時間	【予習】 各授業計画および前回授業で予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。次回講義において学ぶ予定の内容について、事前に配布された講義資料をよく読んで知っておくことが重要である。 【復習】 毎講義において、前回の講義で学んだ内容について質問をランダムに行う「質問会（15分間）」を実施するので、質問を受けても返答できるようにマイノートを作成しながら家庭学習をしておくこと。 【留意事項】 予習と復習には各２時間程度を要するため、学修のための日々のスケジュール管理が重要である。
オフィスアワー	６号館４階の個人研究室において、毎週水曜日４～５時限目をオフィスアワーの時間とする。

授業計画	担当者
１．科学的情報収集法 ２．研究テーマ検討／策定 ３．研究テーマに沿った基礎知識 ４．先行研究の発表①（研究デザインに着目） ５．先行研究の発表②（対象者特性に着目） ６．先行研究の発表③（エンドポイントに着目） ７．先行研究の概要発表 ８．先行研究の概要精査 ９．研究テーマの確定 10.研究計画調書作成 11.介護予防研究手法の指導①（筋力） 12.介護予防研究手法の指導②（関節） 13.介護予防研究手法の指導③（平衡機能） 14.研究計画調書の再検討と修正 15.研究計画発表用資料の確認	佐藤
教科書	

教・書籍名１	特に指定はせず、講義の中で適宜指示する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	保健科学研究法特論Ⅱ	担当者	中嶋　貴子
配当学科・研究科	2016年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業2年／2013～ 2016年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学2年／ 2017～ 2022年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学2年	ナンバリング	

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	テーマ：自らが設定する研究テーマの下で修士論文を作成し、発表することができる。 到達目標 ①研究デザインに適したデータ収集方法が実施でき、分析を加え結果として表現できる。 ②研究の中間成果をプレゼンテーションができる。 ③研究目的に対して結果をもとに考察を加え修士論文をしてまとめることができる。
授業概要	我が国においてうつ病、自殺、PTSD、発達障害など精神的な問題は大きく取り上げられ、医療計画に精神疾患が加わり、「五大疾患」となった。しかし、支援は不十分で、精神看護領域の専門家が取り組むべき課題は山積みしている。近年、Evidence-based nursing(EBN)重視のもと、科学的根拠に基づき看護援助が求められている。保健科学研究法Ⅰで学習した論文の読み方、研究デザインの設計、サンプリング等の基本的な考え方と知識を活用し、精神看護のエビデンスの探究に関する研究に取り組む。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション
評価方法と割合	講義時の質疑応答(20%)、文献購読の状況(30%)、研究の中間発表のプレゼンテーション内容(50%)を合わせて評価する。評価のために実施した課題等は、授業でフィードバックするので最終講義までに見直しておく。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題等は、授業でフィードバックするので最終講義までに見直しておく。
履修条件・注意事項	一方通行の講義にならないよう、事前の準備、ディスカッションなどを含め、予習・復習を行い積極的に学習に臨むこと。
事前学習・事後学習とその時間	研究内容に関する最新の論文を常に検索し、いつでも引用論文として利用できるよう整理する。文献の中から自己の研究課題に近い論文を中心に読み込む。自らの課題について、調べてきたことなどを元にして「自ら学ぶ」実践型の学習が必要であり、事前・事後学習ともに各２時間以上は必要となる。
オフィスアワー	水曜日2時間目　　：　6号館4階　6422研究室

授業計画	担当者
AL	中嶋

教科書			
教・書籍名１	特に定めない。必要に応じてプリントを配布する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	保健科学研究法特論Ⅱ	担当者	井上　茂樹
配当学科・研究科	2016年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業2年／2013～ 2016年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学2年／ 2017～ 2022年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学2年	ナンバリング	

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	自らが設定する研究テーマの下で修士論文の作成に取り組む上で、研究データの収集、研究データの分析、口頭発表、論文原稿の方法論について学修する。 到達目標 1. 研究結果の整理、解釈を作成し考察できる。 2. 自己の研究課題について口頭発表できる。 3. 自己の研究課題について論文原稿を作成する。
授業概要	自己の研究課題についてデータの収集、データの分析を行い、結果を整理し考察する。また、口頭発表の手法・準備を行い、研究課題に対してプレゼンができるようになる。そして、章立てによる論文原稿を作成し修士論文を完成させる。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート／プレゼンテーション
評価方法と割合	文献などの研究論文の内容理解への努力や、テーマを掘り下げていく研究姿勢並びに研究指導に対する姿勢（20%）、理解促進のために提出を求める課題の内容や質疑応答における発言状況（20%）、講義における口頭試問、修士論文の内容、修士論文発表のプレゼンテーション内容で評価する（60%）。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	講義中に評価のために出した課題等は授業でフィードバックするので見直しておくこと。
履修条件・注意事項	時間を厳守すると供に、与えられた課題の達成のみならず自分自身で考え、積極的に問題点を見つけ出し、明確な質疑応答が出来るようにすること。事前に課題を出し、それについて調べてきたことをもとにして授業を行うため、予習が必須である。また、指示に従って必ずノートを作成し復習すること。
事前学習・事後学習とその時間	予習として、各授業計画に記載されている部分について事前に文献および資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。復習として、毎回課題を出すので、次回の授業時に発表すること。また、毎回の授業の内容を確認し、自分なりにノートに纏めること。なお、予習、復習には各2時間程度を要する。
オフィスアワー	6号館4階の井上研究室（6437）において、毎週火曜日2時限目（11:10～12:40）をオフィスアワーの時間とする。

授業計画	担当者
1.データ収集①	井上茂樹
2.データ収集②	井上茂樹
3.データ収集③	井上茂樹
4.データ収集④	井上茂樹
5.データ収集⑤	井上茂樹
6.データ分析①	井上茂樹
7.データ分析②	井上茂樹
8.データ分析③	井上茂樹
9.結果の整理①	井上茂樹
10.結果の整理②	井上茂樹
11.結果の解釈①	井上茂樹
12.結果の解釈②	井上茂樹
13.修士論文作成について①	井上茂樹
14.修士論文作成について②	井上茂樹
15.修士論文作成について③	井上茂樹
教科書	

教・書籍名１	講義毎に文献や研究資料を配布する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	保健科学研究法特論Ⅱ	担当者	森下　元賀
配当学科・研究科	2016年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業2年／2013～ 2016年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学2年／ 2017～ 2022年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学2年	ナンバリング	

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	「修士論文執筆のための知識習得」をテーマとして、医学全般において広い知識を習得し、研究者としての倫理、研究方法について学ぶ。修士論文の完成に向けて、研究成果をまとめて口頭、書面で発表できるようになることを目標とする。
授業概要	保健科学の領域において、基礎、臨床研究を通して信頼性のある結果を蓄積していくことがこの領域の発展につながる。特にEvidenced Based Medicineの確立にあたっては、先行研究を批判的吟味し、適切な研究デザインのもとに論理的に分析、考察を進めていくことが重要となる。 本講義では、特に電気生理学的計測法を用いた研究手法の立案、研究結果の分析に焦点を当てて、先行研究のレビューから結果の解釈までの講義を行う。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション
評価方法と割合	本講義では保健科学の領域の研究手法を身につけることを目的としており、自ら学ぶ姿勢が大事であることから、評価は各回の提示する課題の内容(50%)と最終試験(口頭試問)50%とする。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題等は、授業でフィードバックするので、最終講義(口頭試問)までに見直しておくこと。
履修条件・注意事項	講義時間を厳守し、自らの研究に必要なデータ、文献、パソコン等を持参し、自ら研究結果のプレゼンテーションが出来るようにしておくこと。
事前学習・事後学習とその時間	各授業の中で課題を提示する。課題に応じて、自ら調査、分析をして予習、復習を心がけること。その課題の中から授業内で質疑応答を行う。予習、復習には各2時間程度を要する。
オフィスアワー	大学院生に関しては、木曜日に研究室にてお越しください。

授業計画	担当者
1. オリエンテーション 2. 研究課題の選び方 3. 文献レビューの方法 4. 研究デザインとデータ収集法 5. データの分析方法の解説 6. データの分析演習 7. データの分析と統計学的検定の選定 8. 統計学的分析 9. 信頼性と妥当性 10. 多変量解析 11. 分析結果の執筆法（はじめに） 12. 分析結果の執筆法（方法・結果） 13. 分析結果の執筆法（考察） 14. 図表の作成 15. 研究成果の報告 16. 口頭試問	森下元賀

教科書			
教・書籍名１	適宜資料を配布する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	

教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	保健科学研究法特論Ⅱ	担当者	狩長　弘親
配当学科・研究科	2016年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業2年／2013～ 2016年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学2年／ 2017～ 2022年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学2年	ナンバリング	

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	学生は、自らが設定する研究テーマの下で修士論文の作成に取り組む上で、研究課題の絞り込み、文献検討、研究のデザインと測定の方法論について学修する。 到達目標 ① 学生は、研究の意義、研究倫理、基本的な研究プロセスと主な方法について実践できる。 ② 学生は、新規の研究課題について文献検索を行い、文献レビューをこなせる。 ③ 学生は、新規の研究課題について研究計画書を作成し、プレゼンできる。
授業概要	我が国における保健科学分野における実践や研究の関心は、これまで重視されてきた慢性疾患対策や障害者・要介護高齢者に対する支援のみならず、地域住民一般を対象とした健康増進や障害予防の視点に立った支援が取り組まれる等、多様化・専門分化が進んでいる。同時にEvidence-based medicine（EBM）やEvidence-based health care（EBH）重視の潮流の下、経験則重視から科学的根拠に基づく支援への転換が図られている。こうした状況の下、保健科学分野の専門家が取り組むべき課題は山積しており、臨床上の問題や疑問を解いていくためには、科学的探究心を涵養し、研究に結びつける思考や技術を磨き、科学的エビデンスの蓄積を積み重ねていかなくてはならない。 　保健科学研究法IIでは、保健科学分野の新規課題に共通して必要となる論文の読み方、研究デザインの設計、サンプリング等について、その考え方と知識について応用的に学習するものである。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション
評価方法と割合	各回の課題(30%)，研究計画書の内容(40%)，プレゼンテーション(30%)により総合的に評価する．
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題類は採点結果を返却し，必要な内容を授業，または資料配付でフィードバックする．
履修条件・注意事項	研究テーマと進捗状況に応じて指導する
事前学習・事後学習とその時間	予習として、各授業計画および、前回授業で予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。 また、復習として、毎回の授業の内容を確認し、自分なりにノートにまとめること。 なお、予習、復習には各2時間程度を要する。
オフィスアワー	月曜日４限 6427研究室

授業計画	担当者
1.　オリエンテーション	1.狩長
2.　研究課題の選び方	2.狩長
3.　文献レビューの方法	3.狩長
4.　研究にける倫理	4.狩長
5.　研究デザインとデータ収集法	5.狩長
6.　信頼性と妥当性	6.狩長
7.　記述統計	7.狩長
8.　差の検定	8.狩長
9.　分散分析	9.狩長
10.　多変量解析	10.狩長
11.　分析結果の執筆法（はじめに）	11.狩長
12.　分析結果の執筆法（方法・結果）	12.狩長

13. 分析結果の執筆法（考察） 14. 図表の作成 15. 研究成果の報告	13.狩長 14.狩長 15.狩長

教科書			
教・書籍名１	適宜，指定する．	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	保健科学研究法特論Ⅱ	担当者	中瀬　克己
配当学科・研究科	2016年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業2年／2013～ 2016年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学2年／ 2017～ 2022年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学2年	ナンバリング	

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	特定地域の住民や職域の労働者等を対象とした，公衆衛生学的なアプローチが必要な研究に際して，対象者の選定や調査方法，データの集計・分析方法等を身につける。
授業概要	疫学的調査論文の批判的吟味を通じて，調査研究の方法や実行方法・分析方法と，その問題点や限界等を理解し，自身の研究に生せるようにする。 とくに，バイアスや交絡，因果関係の考え方に重点を置きたい。 一方通行の講義ではなく，ディスカッションを通じて課題を解決できるように授業を進めたい。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション
評価方法と割合	課題の提出（50%），ディスカッションを含めた講義への取り組み姿勢（50%）で総合的に評価する。 評価のために実施した課題等は、授業でフィードバックするので期末までにみなおしておくこと。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題類は採点結果を返却し，必要な内容を授業，または資料配付でフィードバックする.
履修条件・注意事項	研究遂行にあたっての疑問点や問題点を整理して授業に臨むことを期待する。
事前学習・事後学習とその時間	研究の実施・論文の作成と直結した内容であるため，研究テーマに即して行う予定である。 当然のことながら，自ら主体的に学習することが求められる。 毎回課題を出すので，必ず提出すること。課題達成にはかなりの時間を割くことになるはずである。 これらを含め，１回の授業あたり，予習復習には2時間ずつを要する。
オフィスアワー	6号館4階6424研究室にて，毎週水曜2限（教授会がある時間帯を除く）をオフィスアワーとする。

授業計画	担当者
1 疫学の基礎 1 疫学指標の意義 2 疫学の基礎 2 暴露指標の意義 3 疫学の基礎 3 研究方法 4 疫学の基礎 4 母集団と標本 5 誤差とバイアス 6 交絡とその制御 7 因果関係の捉え方 8 疫学における因果関係と実践への応用 9 既存統計資料の利用 10 スクリーニングの考え方 11 スクリーニングの有効性の評価 12 実践活動への応用 1 現状把握・ニーズの分析 13 実践活動への応用 2 介入の方法 14 実践活動への応用 3 活動評価 15 まとめ	中瀬

教科書			
教・書籍名１	使用しない	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	医学的研究のデザイン 研究の質を高める疫学的アプローチ 第4版	参・出版社名１	メディカルサイエンスインターナショナル

参・著者名１	木原雅子 (翻訳), 木原正博 (翻訳),Stephen B Hulley , Steven R Cummings MD他著	参・ＩＳＢＮ１	ISBN-10 : 4895927830 ISBN-13 : 978-4895927833
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	保健科学研究法特論Ⅱ	担当者	寺岡　睦
配当学科・研究科	2016年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業2年／2013～ 2016年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学2年／ 2017～ 2022年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学2年	ナンバリング	

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに
到達目標	テーマ：大学院生は、実際の研究活動の手順について理解し、問題解決ができる方法を習得する。 到達目標 １．大学院生は統計学の基礎知識が理解できる。 ２．大学院生は統計解析の手法を習得できる。 ３．大学院生は量的研究、質的研究の妥当性を高める手法を理解できる。
授業概要	この講義では、様々な研究法に関する理解を深めることができる。 大学院生は自身の研究遂行を通して、高度な研究法を遂行できる能力が養える。 また、それに必要な研究の技術が理解できる。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション
評価方法と割合	研究指導全過程を通して評価する。 評価の配分は以下の通りである。 ・積極的な研究態度：２０％ ・文献読解と研究課題の設定と研究法の理解：２０％ ・質疑応答と論理的な思考：２０％ ・作成された論文の妥当性、信頼性、倫理的配慮：４０％
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	毎回の取り組みで個人に合わせた課題が出される。 毎講義でフィードバックする。
履修条件・注意事項	積極的な参加を求める。
事前学習・事後学習とその時間	予習・復習のために各２時間ほど必要である。 自己学習のためのレポート課題を課す。 それを作成することにより講義の予習復習が可能になるため、必ず提出すること。
オフィスアワー	木曜２限に6430研究室

授業計画	担当者
１．オリエンテーション	１．寺岡
２．測定誤差	２．寺岡
３．独立変数と従属変数の選び方	３．寺岡
３．サンプルの選択	４．寺岡
４．記述研究	５．寺岡
５．観察データに基づく因果推論	６．寺岡
６．症例対照研究	７．寺岡
７．統計的推論	８．寺岡
８．研究結果の一般化可能性	９．寺岡
９．バイアスと交絡因子	１０．寺岡
１０．研究の内部・外部妥当性	１１．寺岡
１１．構造方程式モデリング	１２．寺岡
１２．質的データの基本	１３．寺岡
１３．質的データのサンプルとリクルート	１４．寺岡
１４．質的データ解析	１５．寺岡
１５．発表・まとめ	

教科書

教・書籍名１	適宜紹介する	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢN2	

授業科目名	内科学特論Ⅰ			担当者	服部　俊夫		
配当学科・研究科	2013～ 2016年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学1年／ 2017～ 2022年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学1年			ナンバリング			
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義・実習
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	広い範囲の医学の領域のなかで内科学は最も代表的な分野である。それを理解することにより医療従事者にとって必要な医学の基本 的概念や考え方を身につけることができる。また、医学は日々進歩しており、内科学も同様である。本講義では内科学の基礎的な考 え方や応用力を学び、さらに最新の知識も習得することを到達目標とする。
授業概要	内科学全般(循環器、呼吸器、消化器、腎臓、内分泌、代謝、血液）の臨床領域における代表的疾病につき、病態生理、診断と治療 法の理論と実践にふれ、最近の研究動向をふくめて講義する。さらに、臨床研究に不可欠な人体病理学および実験病理学の概要を講 義し、実際の発表例を題材に情報の活用、研究への取り組みについて習得させる。さらに、研究成果を基盤とする学会での発表やま とめ方を指導する。
アクティブラーニングの内容	実習
評価方法と割合	講義時における口頭試問、提出レポートについて、知識や態度、考察する力量を評価する(40%）。また、最終提出された研究計画 書の内容について評価する（60%）。なお、評価のために実施した課題などは、授業でフィードバックするので最終講義（口頭試 問）までにみなおしておくこと。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題の意図と回答の意識差について試験後討議する。
履修条件・注意事項	予習・復習を行い、講義内容が理解できるように前もってわからないところは参考書などで調べておくこと。講義の三分の二以上に 出席することがレポート提出の条件である。
事前学習・事後学習とその時間	予習として、各授業計画および、前回授業で予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受け ること。 また、復習として、毎回の授業の内容を確認し、自分なりにノートにまとめること。 なお、予習、復習には各2時間程度を要する。
オフィスアワー	個人研究室にて、水曜日の３時限目に実施。

授業計画	担当者
1.内科学概論 2.心不全 3.高血圧 4.虚血性心疾患、不整脈 5.慢性腎臓病 6.腎不全 7.急性腎炎症候群 8.腫瘍性肺疾患 9.肺炎 10.アレルギー性肺疾患など	服部俊夫

11.食道疾患 胃・十二指腸疾患 12. 肝、胆、膵疾患 13.急性肝炎、慢性肝炎 14.肝硬変、肝腫瘍 15.感染症 16.課題についてのレポートを提出する。	

教科書			
教・書籍名１	わかろいやすい内科学　第４版	教・出版社名１	文光堂
教・著者名１	井村裕夫	教・ＩＳＢＮ１	978-4-8306-2030-0
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	内科学特論Ⅰ	担当者	高橋　淳
配当学科・研究科	2013～ 2016年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学1年／ 2017～ 2022年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学1年	ナンバリング	

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに
到達目標	広い範囲の医学の領域のなかで内科学は最も代表的な分野である。それを理解することにより医療従事者にとって必要な医学の基本的概念や考え方を身につけることができる。また、医学は日々進歩しており、内科学も同様である。本講義では内科学の基礎的な考え方や応用力を学び、さらに最新の知識も習得することを到達目標とする。
授業概要	内科学全般(循環器、呼吸器、消化器、腎臓、内分泌、代謝、血液）の臨床領域における代表的疾病につき、病態生理、診断と治療法の理論と実践にふれ、最近の研究動向をふくめて講義する。さらに、臨床研究に不可欠な人体病理学および実験病理学の概要を講義し、実際の発表例を題材に情報の活用、研究への取り組みについて習得させる。さらに、研究成果を基盤とする学会での発表やまとめ方を指導する。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート
評価方法と割合	講義時における口頭試問、提出レポートについて、知識や態度、考察する力量を評価する(40%）。また、最終提出された研究計画書の内容について評価する（60%）。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題などは、授業でフィードバックするので最終講義（口頭試問）までにみなおしておくこと。
履修条件・注意事項	予習・復習を行い、講義内容が理解できるように前もってわからないところは参考書などで調べておくこと。講義の三分の二以上に出席することがレポート提出の条件である。
事前学習・事後学習とその時間	予習として、各授業計画および、前回授業で予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。 また、復習として、毎回の授業の内容を確認し、自分なりにノートにまとめること。 なお、予習、復習には各2時間程度を要する。
オフィスアワー	個人研究室にて、水曜日の4時限目に実施。

授業計画	担当者
1. 内科学概論-内科学とその進歩、老化、加齢、疾病 2. 循環器疾患の診断と治療(1)-心不全、高血圧 3. 循環器疾患の診断と治療(2)-虚血性心疾患、心筋症 4. 循環器疾患の診断と治療(3)-不整脈 5. 呼吸器疾患の診断と治療(1)-腫瘍性肺疾患 6. 呼吸器疾患の診断と治療(2)-アレルギー性肺疾患 7. 呼吸器疾患の診断と治療(3)-胸膜の疾患 8. 消化器疾患の診断と治療(1)-食道・胃・十二指腸疾患 9. 消化器疾患の診断と治療(2)-小腸・大腸疾患 10. 肝、胆、膵疾患の診断と治療(1)-急性肝炎、慢性肝炎、肝硬変 11. 肝、胆、膵疾患の診断と治療(2)-肝腫瘍 12. 肝、胆、膵疾患の診断と治療(3)-胆道疾患、膵疾患 13. 膠原病・アレルギー疾患(1)-症候、検査、治療、アレルギー疾患 14. 膠原病・アレルギー疾患(2)- 関節リウマチ、SLE、皮膚筋炎、強皮症、血管炎 15. 口頭試問	高橋

教科書			
教・書籍名１	なるほどなっとく!内科学 第2版	教・出版社名１	南山堂
教・著者名１	浅野嘉延 (編集)	教・ＩＳＢＮ１	978-4-525-20722-9
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	

参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	内科学特論Ⅱ			担当者	服部　俊夫		
配当学科・研究科	2013～ 2016年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学1年／ 2017～ 2022年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学1年			ナンバリング			
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義・実習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	集中講義		

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	広い範囲の医学の領域のなかで内科学は最も代表的な分野である。それを理解することにより医療従事者にとって必要な医学の基本 的概念や考え方を身につけることができる。また、医学は日々進歩しており、内科学も同様である。本講義では内科学の基礎的な考 え方や応用力を学び、さらに最新の知識も習得することを到達目標とする。
授業概要	内科学全般(循環器、呼吸器、消化器、腎臓、内分泌、代謝、血液）の臨床領域における代表的疾病につき、病態生理、診断と治療 法の理論と実践にふれ、最近の研究動向をふくめて講義する。さらに、臨床研究に不可欠な人体病理学および実験病理学の概要を講 義し、実際の発表例を題材に情報の活用、研究への取り組みについて習得させる。さらに、研究成果を基盤とする学会での発表やま とめ方を指導する。
アクティブラーニングの内容	実習
評価方法と割合	講義時における口頭試問、提出レポートについて、知識や態度、考察する力量を評価する(40%）。また、最終提出された研究計画 書の内容について評価する（60%）。なお、評価のために実施した課題などは、授業でフィードバックするので最終講義（口頭試 問）までにみなおしておくこと。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題の意図と回答の意識差について試験後討議する。
履修条件・注意事項	予習・復習を行い、講義内容が理解できるように前もってわからないところは参考書などで調べておくこと。講義の三分の二以上に 出席することがレポート提出の条件である。
事前学習・事後学習とその時間	予習として、各授業計画および、前回授業で予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受け ること。 また、復習として、毎回の授業の内容を確認し、自分なりにノートにまとめること。 なお、予習、復習には各2時間程度を要する。
オフィスアワー	個人研究室にて、水曜日の３時限目に実施。

授業計画	担当者
1.内科学概論 2.心不全 3.高血圧 4.虚血性心疾患、不整脈 5.慢性腎臓病 6.腎不全 7.急性腎炎症候群 8.腫瘍性肺疾患 9.肺炎 10.アレルギー性肺疾患など	服部俊夫

11.食道疾患 胃・十二指腸疾患 12. 肝、胆、膵疾患 13.急性肝炎、慢性肝炎 14.肝硬変、肝腫瘍 15.感染症 16.課題についてのレポートを提出する。	

教科書			
教・書籍名１	わかろいやすい内科学　第４版	教・出版社名１	文光堂
教・著者名１	井村裕夫	教・ＩＳＢＮ１	978-4-8306-2030-0
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	内科学特論Ⅱ	担当者	高橋　淳
配当学科・研究科	2013～ 2016年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学1年／ 2017～ 2022年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学1年	ナンバリング	

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	集中講義		

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに
到達目標	広い範囲の医学の領域のなかで内科学は最も代表的な分野である。それを理解することにより医療従事者にとって必要な医学の基本的概念や考え方を身につけることができる。また、医学は日々進歩しており、内科学も同様である。本講義では内科学の基礎的な考え方や応用力を学び、さらに最新の知識も習得することを到達目標とする。
授業概要	内科学全般(循環器、呼吸器、消化器、腎臓、内分泌、代謝、血液）の臨床領域における代表的疾病につき、病態生理、診断と治療法の理論と実践にふれ、最近の研究動向をふくめて講義する。さらに、臨床研究に不可欠な人体病理学および実験病理学の概要を講義し、実際の発表例を題材に情報の活用、研究への取り組みについて習得させる。さらに、研究成果を基盤とする学会での発表やまとめ方を指導する。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート
評価方法と割合	講義時における口頭試問、提出レポートについて、知識や態度、考察する力量を評価する(40%）。また、最終提出された研究計画書の内容について評価する（60%）。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題などは、授業でフィードバックするので最終講義（口頭試問）までにみなおしておくこと。
履修条件・注意事項	予習・復習を行い、講義内容が理解できるように前もってわからないところは参考書などで調べておくこと。
事前学習・事後学習とその時間	予習として、各授業計画および、前回授業で予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。 また、復習として、毎回の授業の内容を確認し、自分なりにノートにまとめること。 なお、予習、復習には各2時間程度を要する。
オフィスアワー	個人研究室（6414）にて、水曜日の4時限目に実施。

授業計画	担当者
1. 代謝性疾患(1)-糖尿病 2. 代謝性疾患(2)-脂質異常症、痛風、骨粗鬆症 3. 内分泌疾患(1)-症候、検査、治療、下垂体疾患 4. 内分泌疾患(2)-甲状腺・副甲状腺・副腎疾患 6. 腎・泌尿器疾患(1)-症候、検査、治療、慢性腎臓病、腎不全 7. 腎・泌尿器疾患(2)-糸球体腎炎、泌尿器科疾患 9. 血液疾患(1)-症候、検査、治療、貧血 10. 血液疾患(2)-白血病、悪性リンパ腫 11. 血液疾患(3)-多発性骨髄腫、出血性疾患 12. 感染症(1)-症候、検査、治療、ウイルス性疾患 13. 感染症(2)-細菌性疾患、真菌性疾患 14. 感染症(3)-原虫、寄生虫疾患 15. 口頭試問	高橋

教科書			
教・書籍名１	なるほどなっとく!内科学 第2版	教・出版社名１	南山堂
教・著者名１	浅野嘉延 (編集)	教・ＩＳＢＮ１	978-4-525-20722-9
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	

参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	小児科学特論Ⅰ	担当者	赤在　あゆみ
配当学科・研究科	2014～ 2017年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／ 2013～ 2016年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学1年／ 2017～ 2022年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学1年	ナンバリング	

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	小児科学の基礎、基本についての理解を深める。 小児の正常な成長・発達を十分に理解し、その上に立って小児期に良く見られる疾患の病態生理と発達障害とは何かを理解すると共に小児への関わりや支援をすることが出来る。
授業概要	小児期の特質である発達現象を「生理」と「病理」に分けて系統的に講義する。 前者では臨床的、心理学的および神経生理学的側面から小児の発達の特性を明らかにするとともに、日常での評価基準について述べる。一般小児疾患についても年齢依存性を基礎として概略を講義する。具体的には、成長と発達、小児の栄養、小児保健、アレルギー疾患、感染症、循環器、呼吸器、消化器、血液造血器、代謝・内分泌、腎・泌尿器、神経系の疾患に関する基礎的知識を習得する。 一方、後者については発達障害を中心にして病態、治療、看護の概略を学び、その疫学、社会的対策等についても講義する。これには脳性麻痺、多動性障害、自閉症、学習障害、重症心身障害を含めて概略を講義する。 これらの分野は小児看護学、小児保健学の根幹を成す重要なものであり、派生する諸問題を特論として取り上げ、研究方法の会得もはかる。
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	授業態度、質疑応答、レポートの提出状況などの内容から総合的に評価する。 講義中に出した課題、レポートは授業でフィードバックするので、各期の最終日までに見直しておくこと。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	講義中に出した課題、レポートは授業でフィードバックするので、各期の最終日までに見直しておくこと。
履修条件・注意事項	講義においては、課題について受講生がプレゼンテイションを行い、その内容をもとにディスカッションを行う。
事前学習・事後学習とその時間	学習した内容をその日の内に簡単にまとめる習慣にする。特に、疑問や解らなかった点をチェックして, 調べておくこと。 次回に質問すること。 予習、復習には各2時間を要する。
オフィスアワー	火曜日1限　研究室

授業計画	担当者
１．オリエンテーション	赤在
２．成長と発達総論	赤在
３．成長と発達、評価方法	赤在
４．脳および反射の発達変化と疾患	赤在
５．運動発達と疾患	赤在
６．心理学的発達と疾患	赤在
７．循環器の発達と疾患	赤在
８．呼吸器の発達と疾患	赤在
９．消化器の発達と疾患	赤在
１０．腎・泌尿器の発達と疾患	赤在
１１．先天異常・先天奇形	赤在
１２．新生児の特性と疾患	赤在

１３．乳児の特性と疾患	赤在
１４．乳幼児健康診断と予防注射	赤在
１５．学童・思春期の特性と疾患	赤在
１６．小児科領域におけるトピック	赤在

教科書			
教・書籍名１	特に指定しない。その都度資料を配付する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	主にプリント,スライドを使用する。参考書は適宜指示。	参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	小児科学特論Ⅱ	担当者	赤在　あゆみ
配当学科・研究科	2016年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2013～ 2016年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学1年／ 2017～ 2022年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学1年	ナンバリング	

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	集中講義		

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	小児科学の基礎、基本についての理解を深める。 小児の正常な成長・発達を十分に理解し、その上に立って小児期に良く見られる疾患の病態生理と発達障害とは何かを理解すると共に小児への関わりや支援をすることが出来る。
授業概要	小児期の特質である発達現象を「生理」と「病理」に分けて系統的に講義する。 前者では臨床的、心理学的および神経生理学的側面から小児の発達の特性を明らかにするとともに、日常での評価基準について述べる。一般小児疾患についても年齢依存性を基礎として概略を講義する。具体的には、成長と発達、小児の栄養、小児保健、アレルギー疾患、感染症、循環器、呼吸器、消化器、血液造血器、代謝・内分泌、腎・泌尿器、神経系の疾患に関する基礎的知識を習得する。 一方、後者については発達障害を中心にして病態、治療、看護の概略を学び、その疫学、社会的対策等についても講義する。これには脳性麻痺、多動性障害、自閉症、学習障害、重症心身障害を含めて概略を講義する。 これらの分野は小児看護学、小児保健学の根幹を成す重要なものであり、派生する諸問題を特論として取り上げ、研究方法の会得もはかる。
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	授業態度、質疑応答、レポートの提出状況などの内容から総合的に評価する。 講義中に出した課題、レポートは授業でフィードバックするので、各期の最終日までに見直しておくこと。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	講義中に出した課題、レポートは授業でフィードバックするので、各期の最終日までに見直しておくこと。
履修条件・注意事項	講義においては、課題について受講生がプレゼンテイションを行い、その内容をもとにディスカッションを行う。
事前学習・事後学習とその時間	学習した内容をその日の内に簡単にまとめる習慣にする。特に、疑問や解らなかった点をチェックして, 調べておくこと。 次回に質問すること。 予習、復習には各2時間を要する。
オフィスアワー	火曜日1限　研究室

授業計画	担当者
１．オリエンテーション	赤在
２．成長と発達総論	赤在
３．成長と発達、評価方法	赤在
４．脳および反射の発達変化と疾患	赤在
５．運動発達と疾患	赤在
６．心理学的発達と疾患	赤在
７．循環器の発達と疾患	赤在
８．呼吸器の発達と疾患	赤在
９．消化器の発達と疾患	赤在
１０．腎・泌尿器の発達と疾患	赤在
１１．先天異常・先天奇形	赤在
１２．新生児の特性と疾患	赤在

１３．乳児の特性と疾患	赤在
１４．乳幼児健康診断と予防注射	赤在
１５．学童・思春期の特性と疾患	赤在
１６．小児科領域におけるトピック	赤在

教科書			
教・書籍名１	特に指定しない。その都度資料を配付する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	主にプリント,スライドを使用する。参考書は適宜指示。	参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	感染予防特論Ⅰ	担当者	長町　榮子
配当学科・研究科	2016年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2013～ 2016年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学1年／ 2017～ 2022年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学1年	ナンバリング	

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	医療従事者に必要とされている各種感染症における感染予防に関する知識、技術を研究、修得できる。
授業概要	新興感染症の出現、易感染性患者や薬剤耐性菌の増加、各種感経経路の拡大などにより院内感染の危険性は増大しており、医療従事者にとって、感染及び感染予防に関する知識は不可欠である。さらに、院内感染において医療従事者を介する伝播が問題となっていることから、医療従事者は、ウイルス性疾患やMRSAなどの病原体の媒介者とならない注意と、そのための健康管理も重要である。そこで、本特論では、医療従事者に必要とされている各種感染症における感染予防に関する知識、技術を研究、修得させる。
アクティブラーニングの内容	PBL／ディスカッション／ディベート／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	議論の内容（30%）およびレポート等（70%）により総合的に評価する。 なお、講義中評価のために出した課題は、授業でフィードバックするので各期の最終日までに見直しておくこと。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	口頭または書面でフィードバックする。
履修条件・注意事項	積極的に授業、課題等に取り組むことが重要である。
事前学習・事後学習とその時間	予習として、各授業計画および、前回授業で予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。 また、復習として、毎回の授業の内容を確認し、自分なりにノートにまとめること。 なお、予習、復習には各2時間程度を要する。
オフィスアワー	水曜日３限目、６号館４階長町研究室（6425号室）

授業計画	担当者
1.初期の隔離法1	長町
2.初期の隔離法2	長町
3.CDC隔離システム1	長町
4.CDC隔離システム2	長町
5.普遍的予防策および標準予防策1	長町
6.普遍的予防策および標準予防策2	長町
7.病院の感染対策の原理1	長町
8.病院の感染対策の原理2	長町
9. 隔離予防策の原理1	長町
10. 隔離予防策の原理2	長町
11.感染経路別予防策1	長町
12.感染経路別予防策2	長町
13.空気、飛沫、接触感染予防策の経験的使用1	長町
14.空気、飛沫、接触感染予防策の経験的使用2	長町
15.管理上の対策	長町

教科書			
教・書籍名１	適宜指定する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	

参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	感染予防特論Ⅱ	担当者	長町　榮子
配当学科・研究科	2013～ 2016年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学1年／ 2017～ 2022年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学1年	ナンバリング	

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	集中講義		

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	医療従事者に必要とされている各種感染症における感染予防に関する知識、技術を研究、修得できる。
授業概要	新興感染症の出現、易感染性患者や薬剤耐性菌の増加、各種感経経路の拡大などにより院内感染の危険性は増大しており、医療従事者にとって、感染及び感染予防に関する知識は不可欠である。さらに、院内感染において医療従事者を介する伝播が問題となっていることから、医療従事者は、ウイルス性疾患やMRSAなどの病原体の媒介者とならない注意と、そのための健康管理も重要である。そこで、本特論では、医療従事者に必要とされている各種感染症における感染予防に関する知識、技術を研究、修得させる。
アクティブラーニングの内容	PBL／ディスカッション／ディベート／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	議論の内容（30%）およびレポート等（70%）により総合的に評価する。 なお、講義中評価のために出した課題は、授業でフィードバックするので各期の最終日までに見直しておくこと。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	口頭または書面でフィードバックする。
履修条件・注意事項	積極的に授業、課題等に取り組むことが重要である。
事前学習・事後学習とその時間	予習として、各授業計画および、前回授業で予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。 また、復習として、毎回の授業の内容を確認し、自分なりにノートにまとめること。 なお、予習、復習には各2時間程度を要する。
オフィスアワー	水曜日３限目、６号館４階長町研究室（6425号室）

授業計画	担当者
1.管理上の対策1	長町
2.管理上の対策2	長町
3. 標準予防策1	長町
4. 標準予防策2	長町
5.空気予防策1	長町
6.空気予防策2	長町
7.飛沫予防策1	長町
8.飛沫予防策2	長町
9.接触予防策1	長町
10.接触予防策2	長町
11.感染症および病態別予防策1	長町
12.感染症および病態別予防策2	長町
13.感染症および病態別予防策3	長町
14.職業上曝露および曝露後の対応1	長町
15.職業上曝露および曝露後の対応2	長町

教科書			
教・書籍名１	適宜指定する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	

参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	細胞・組織学特論Ⅰ	担当者	井上　茂樹
配当学科・研究科	2013～ 2016年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学1年／ 2017～ 2022年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学1年	ナンバリング	

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	生体の活動とその障害を理解するため、生体の基本である遺伝子と蛋白質及び細胞と組織の構造と働きを探求する。具体的には、遺伝子とその働き、細胞の増殖と分化、それに老化とアポトーシスについて、実物を観察し実験を行いながら理解する。
授業概要	生体の微細構造を明らかにする細胞組織学はすべてのコメディカル課程の基礎である。例えば、細胞組織学は臨床看護に必須である病気の理解の基礎に、また理学、作業療法における運動学や筋の神経支配の分子機構を知るためにも必要である。生命現象が繰り広げられる場としての細胞の微細構造を詳細に探究することは保健科学の基本を理解する上にも重要なことである。細胞組織学特論ではまず生命プログラムの青写真である遺伝子の構造から初め、次にその遺伝子の発現つまりRNAの合性について述べる。さらにDNAの遺伝情報に従って合成される蛋白質が実際に機能を発現するには、合成から分解までの各ステップが重要であるが、このステップを順を追って解説する。次に細胞がどんな情報を、どのように受け取り転換し、どのように内方に伝えるか分子レベルで解説する。また組織構築といったいわゆる細胞社会学と細胞の自己複製の課程、つまり細胞周期の基本的な機構について概説する。さらに培養細胞を用いた研究を基に、細胞の増殖や分化のための増殖因子や分化誘導因子、細胞の老化過程におけるテロメアやアポトーシスについても講義する。なお講義は英語論文を用いて行う。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート／プレゼンテーション
評価方法と割合	講義内容をまとめたレポートによって成績を評価する。さらに講義の予習、特に英語論文の翻訳が行われているか、実習を正しく行っているかについても評価に加える。一人で実験を行い英語論文が書けるようになっているかについても見極める。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	口頭もしくは書面でフィードバックする。
履修条件・注意事項	自分で考え、積極的に問題点と解決法を見つけ出し、明確な質疑応答が出来るようにすること。
事前学習・事後学習とその時間	予習として各授業計画および、実験方法等について勉強しておいて授業を受けること。また復習として毎回の授業の内容を確認し、自分なりにノートにまとめること。なお、予習、復習には各２時間程度を要する。
オフィスアワー	6号館4階の井上研究室（6437）において、毎週火曜日2時限目（11:10～12:40）をオフィスアワーの時間とする。

授業計画	担当者
１．遺伝子の構造	井上茂樹
２．遺伝子の複製	井上茂樹
３．遺伝子の発現（１）転写	井上茂樹
４．遺伝子の発現（２）翻訳	井上茂樹
５．蛋白質の働き	井上茂樹
６．細胞の構造（１）細胞膜	井上茂樹
７．細胞の構造（２）細胞小器官	井上茂樹
８．細胞の構造（３）細胞骨格	井上茂樹
９．細胞膜の透過性	井上茂樹
１０．細胞内シグナル伝達機構1	井上茂樹
１１．細胞内シグナル伝達機構2	井上茂樹
１２．細胞内シグナル伝達機構3	井上茂樹
１３．細胞内シグナル伝達機構4	井上茂樹
１４．細胞骨格の機能	井上茂樹
１５．細胞運動	井上茂樹

教科書

教・書籍名１	THE CELL	教・出版社名１	Garland Science

教・著者名１	Garland Science	教・ＩＳＢＮ１	0-8153-4072-9
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	細胞・組織学特論Ⅱ	担当者	井上　茂樹
配当学科・研究科	2013～ 2016年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学1年／ 2017～ 2022年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学1年	ナンバリング	

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	集中講義		

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	生体の活動とその障害を理解するため、生体の基本である遺伝子と蛋白質及び細胞と組織の構造と働きを探求する。具体的には、遺伝子とその働き、細胞の増殖と分化、それに老化とアポトーシスについて、実物を観察し実験を行いながら理解する。
授業概要	生体の微細構造を明らかにする細胞組織学はすべてのコメディカル課程の基礎である。例えば、細胞組織学は臨床看護に必須である病気の理解の基礎に、また理学、作業療法における運動学や筋の神経支配の分子機構を知るためにも必要である。生命現象が繰り広げられる場としての細胞の微細構造を詳細に探究することは保健科学の基本を理解する上にも重要なことである。細胞組織学特論ではまず生命プログラムの青写真である遺伝子の構造から初め、次にその遺伝子の発現つまりRNAの合性について述べる。さらにDNAの遺伝情報に従って合成される蛋白質が実際に機能を発現するには、合成から分解までの各ステップが重要であるが、このステップを順を追って解説する。次に細胞がどんな情報を、どのように受け取り転換し、どのように内方に伝えるか分子レベルで解説する。また組織構築といったいわゆる細胞社会学と細胞の自己複製の課程、つまり細胞周期の基本的な機構について概説する。さらに培養細胞を用いた研究を基に、細胞の増殖や分化のための増殖因子や分化誘導因子、細胞の老化過程におけるテロメアやアポトーシスについても講義する。なお講義は英語論文を用いて行う。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	講義内容をまとめたレポートによって成績を評価する。（20%）さらに講義の予習、特に英語論文の翻訳が行われているか、実習を正しく行っているかについても評価に加える。（20%）一人で実験を行い英語論文が書けるようになっているかについても見極める。（60%）なお、評価のために提出されたレポート等はそれぞれについて指導しフィードバックする。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	口頭および書面でフィードバックする。
履修条件・注意事項	自分で考え、積極的に問題点と解決法を見つけ出し、明確な質疑応答が出来るようにすること。
事前学習・事後学習とその時間	予習として各授業計画および、実験方法等について勉強しておいて授業を受けること。また復習として毎回の授業の内容を確認し、自分なりにノートにまとめること。なお、予習、復習には各２時間程度を要する。
オフィスアワー	6号館4階の井上研究室（6437）において、毎週火曜日2時限目（11:10～12:40）をオフィスアワーの時間とする。

授業計画	担当者
１．細胞間コミュニケーション	井上茂樹
２．細胞周期の機構	井上茂樹
３．細胞周期の分子機構	井上茂樹
４．細胞の増殖と分化1	井上茂樹
５．細胞の増殖と分化2	井上茂樹
６．細胞の老化1	井上茂樹
７．細胞の老化2	井上茂樹
８．細胞死	井上茂樹
９．組織形成	井上茂樹
１０．器官形成	井上茂樹
１１．実習：細胞培養	井上茂樹
１２．実習：細胞と組織の染色	井上茂樹
１３．実習：DNA, RNAの分析	井上茂樹
１４．実習：遺伝子組み換え	井上茂樹
１５．実習：蛋白質の分析	井上茂樹
教科書	

教・書籍名１	THE CELL	教・出版社名１	Garland Science
教・著者名１	Alberts et al.	教・ＩＳＢＮ１	0-8153-4072-9
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	生理機能特論Ｉ	担当者	水谷　雅年
配当学科・研究科	2011～ 2018年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／ 2013～ 2016年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学1年／ 2017～ 2022年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学1年	ナンバリング	

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	木曜5限		

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに／５．ジェンダー平等を実現しよう
到達目標	生体の機能のうち、より高度で複雑な生体の調節系について学び、保健科学を推進するために必要な基礎的な研究法を体得できる。
授業概要	看護保健分野とリハビリテーション援助分野に共通な領域として、自律機能(循環・呼吸・消化など）と運動機能(筋・神経・感覚など)について、学部教育をより高度なものに発展させる。生体の機能を学ぶと同時に、生理機能研究法を身につけることができる。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	授業態度、質疑応答状態による理解度を50点、期末試験の結果を50点として総合的に評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	講義中評価のために出した課題は、授業にフィードバックするので各期の最終日までに見直しておくこと。
履修条件・注意事項	時間を厳守すると共に，与えられた課題の達成のみならず自分自身で考え，積極的に問題点を見つけ出し、明確な質疑応答が出来るようにすること。
事前学習・事後学習とその時間	予習として、各授業計画および、前回授業で予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。また、復習として、毎回の授業の内容を確認し、自分なりにノートにまとめること。 なお、予習、復習には各2時間程度を要する。
オフィスアワー	非常勤講師室において、授業の前後で行う。

授業計画	担当者
1.生理機能研究法I（概論）	水谷
2.生理機能研究法II（力学）	水谷
3.生理機能研究法III（電気）	水谷
4.循環機能とその神経性・体液性調節機構	水谷
5.心臓のポンプ機能	
6.血管・リンパ管の運動機能	水谷
7.循環中枢による心・血管系の調節機構	水谷
8.心血管運動に対する自律神経とホルモンの働き	水谷
9.呼吸反射、呼吸中枢での神経回路網	水谷
10.化学受容器反射による呼吸運動、ガス交換の調節	
11.機械受容器による呼吸運動、ガス交換の調節	水谷
12.呼吸中枢ニューロンの自動性と吸息・呼息の交代性発現のメカニズム	水谷
13.消化器の運動機能	
14.摂食・嚥下（誤嚥）のメカニズム	水谷
15.嘔吐反射の中枢性メカニズム	
16.試験	水谷
	水谷
	水谷
	水谷
	水谷

教科書			
教・書籍名１	標準生理学　第9版	教・出版社名１	医学書院
教・著者名１	本間研一　【監修】	教・ＩＳＢＮ１	978-4-260-03429-6

教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	生理機能特論Ⅱ	担当者	水谷　雅年
配当学科・研究科	2014年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2014～ 2016年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／ 2013～ 2016年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学1年／ 2017～ 2022年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学1年	ナンバリング	

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	木曜5限		

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに／５．ジェンダー平等を実現しよう
到達目標	生体の機能のうち、より高度で複雑な生体の調節系について学び、保健科学を推進するために必要な基礎的な研究法を体得できる。
授業概要	看護保健分野とリハビリテーション援助分野に共通な領域として、自律機能(循環・呼吸・消化など）と運動機能(筋・神経・感覚など)について、学部教育をより高度なものに発展させる。生体の機能を学ぶと同時に、生理機能研究法を身につけることができる。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	授業態度、質疑応答状態による理解度を50点、期末試験の結果を50点として総合的に評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	講義中評価のために出した課題は、授業にフィードバックするので各期の最終日までに見直しておくこと。
履修条件・注意事項	時間を厳守すると共に，与えられた課題の達成のみならず自分自身で考え，積極的に問題点を見つけ出し、明確な質疑応答が出来るようにすること。
事前学習・事後学習とその時間	予習として、各授業計画および、前回授業で予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。また、復習として、毎回の授業の内容を確認し、自分なりにノートにまとめること。また後半の英語論文抄読においては英語訳をしっかり行ってくることが必須条件である。 なお、予習、復習には各2時間程度を要する。
オフィスアワー	非常勤講師室において、授業の前後で行う。

授業計画	担当者
1.排便反射機構（排尿反射との相似性）	水谷
2.腸壁内神経系と腸内反射（蠕動反射）のメカニズム	水谷
3.筋収縮のメカニズム	
4.骨格筋の収縮の分子機構	水谷
5.収縮エネルギー供給機構	水谷
6.脊髄反射機構とα－γ連関	水谷
7.感覚器官(筋紡錘とゴルジ腱器官)	水谷
8.英語論文の抄読 (Introduction)	水谷
9.英語論文の抄読 (Method1)	水谷
10.英語論文の抄読 (Method2)	水谷
11.英語論文の抄読 (Results1)	水谷
12.英語論文の抄読 (Results2)	水谷
13.英語論文の抄読 (Discussion1)	水谷
14.英語論文の抄読 (Discussion2)	水谷
15.英語論文の抄読 (Reference)	水谷
16.試験	水谷
	水谷

教科書

教・書籍名１	標準生理学　第9版	教・出版社名１	医学書院
教・著者名１	本間研一　【監修】	教・ＩＳＢＮ１	978-4-260-03429-6
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	基礎保健看護学特論Ⅰ	担当者	掛谷　益子、市村　美香、長町　榮子
配当学科・研究科	2015～ 2016年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学1年／ 2017～ 2022年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学1年	ナンバリング	

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	AL
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	看護は実践の科学といわれる。ここでは「看護技術」に焦点をあて、看護技術の現状と看護技術研究の現状から今後の看護技術研究のあり方までを模索し、各自の興味ある看護技術の事象を明らかにできる。 看護技術に関する文献検索を行い研究の背景が明らかにでき、文献レビューを作成できる。
授業概要	「看護技術」に関して、基礎研究、実験研究、調査研究の3側面から文献検索し、研究の背景についてまとめ文献レビューを作成し、プレゼンテーションを行う。 各回、レポーターを定め、進捗状況を報告するとともにディスカッションを行なう。 レポーターに当たっていない者は、資料を事前に必ず読んで出席し、討議に参加する。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	レポーターとしての取り組み姿勢 （40%）　　討議への参加度 （20%） 文献レビューおよびプレゼンテーション（40%）
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	口頭および書面にてフィードバックする。
履修条件・注意事項	看護技術に関して興味・関心、問題意識をもっており、研究テーマについて考えている。 研究指導は、最もその研究に適した主指導教員1名と2名の副指導教員によって行う。 時間を厳守すると共に、与えられた課題の達成のみならず自分自身で考え、積極的に問題点を見つけ出し、明確な質疑応答が出来るようにすること。
事前学習・事後学習とその時間	研究内容に関しての論文を検索し、いつでも利用できるように整理する。これらの文献の中から自己の研究課題に近い論文を読み込み、プレゼンテーションできるようにまとめる。 自らの課題について、調べてきたことなどを元にして「自ら学ぶ」実践型の学習が必須である。 予習として、各授業計画および、前回授業で予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。また、復習として、毎回の授業の内容を確認し、自分なりにノートにまとめること。
オフィスアワー	水曜日2時限目　研究室（6号館4階）にて実施する。

授業計画	担当者
１．オリエンテーション	1.長町・掛谷・市村
２．看護技術に関する基礎研究の文献検索	2.長町
３．看護技術に関する基礎研究の文献検索	3.長町
４．看護技術に関する基礎研究の背景	4.長町
５．看護技術に関する基礎研究の文献レビュー	5.長町
６．看護技術に関する基礎研究の背景のプレゼンテーション	6.長町
７．看護技術に関する実験研究の文献検索	7.市村
８．看護技術に関する実験研究の背景	8.市村
９．看護技術に関する実験研究の文献レビュー	9.市村
10.　看護技術に関する実験研究の背景のプレゼンテーション	10.市村
11.　看護技術に関する調査研究の文献検索	11.掛谷
12.　看護技術に関する調査研究の背景	12.掛谷
13.　看護技術に関する調査研究の文献レビュー	13.掛谷
14.　看護技術に関する調査研究のプレゼンテーション	14.掛谷
15.　実験研究・調査研究のポイント	15.掛谷

教科書			
教・書籍名１	必要時提示する。	教・出版社名１	

教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	基礎保健看護学特論Ⅰ演習	担当者	掛谷　益子、市村　美香、長町　榮子
配当学科・研究科	2015～ 2016年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学2年／ 2017～ 2022年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学2年	ナンバリング	

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	作成した研究計画書を基に、データを収集、整理し、分析を行うことができる。
授業概要	基礎研究、実験研究、調査研究について文献検索し、研究の背景についてまとめ、それらの文献から論文を選択して文献検討を行い、研究計画書を作成した。これらの基礎保健看護学特論Ⅰ、Ⅱで学んだ知識を基に、ディスカッションを行いながら具体的な解析方法等を学ぶ。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	研究遂行姿勢及び研究指導に対する姿勢（40%）、プレゼンテーション（40%）、討議での発言状況などの参加度（20%）　を総合的に評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	口頭および書面にてフィードバックする。
履修条件・注意事項	研究指導は、最もその研究に適した主指導教員1名と2名の副指導教員によって行う。 時間を厳守すると共に、与えられた課題の達成のみならず自分自身で考え、積極的に問題点を見つけ出し、明確な質疑応答が出来るようにすること。
事前学習・事後学習とその時間	研究内容に関する論文を検索し整理する。それらの文献の中から自己の研究課題に近い論文から、データ収集・整理方法や分析方法などについてディスカッションするので、十分な理解が必要である。 自らの課題について、調べてきたことなどを元にして「自ら学ぶ」実践型の学習が必須である。 予習として、各授業計画および、前回授業で予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。また、復習として、毎回の授業の内容を確認し、自分なりにノートにまとめること。 なお、予習、復習には各2時間程度を要する。
オフィスアワー	水曜日2時限目　研究室（6号館4階）にて実施する。

授業計画	担当者
１．データ収集及びディスカッション（1）	1.長町・掛谷･市村
２．データ収集及びディスカッション（2）	2.長町・掛谷･市村
３．データ収集及びディスカッション（3）	3.長町・掛谷･市村
４．データ収集及びディスカッション（4）	4.長町・掛谷･市村
５．データ収集及びディスカッション（5）	5.長町・掛谷･市村
６．データ整理及びディスカッション（1）	6.長町・掛谷･市村
７．データ整理及びディスカッション（2）	7.長町・掛谷･市村
８．データ整理及びディスカッション（3）	8.長町・掛谷･市村
９．データ整理及びディスカッション（4）	9.長町・掛谷･市村
10．データ整理及びディスカッション（5）	10.長町・掛谷･市村
11．データ分析及びディスカッション（1）	11.長町・掛谷･市村
12．データ分析及びディスカッション（2）	12.長町・掛谷･市村
13．データ分析及びディスカッション（3）	13.長町・掛谷･市村
14．データ分析及びディスカッション（4）	14.長町・掛谷･市村
15．データ分析及びディスカッション（5）	15.長町・掛谷･市村

教科書

教・書籍名１	必要時指示する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書

参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	基礎保健看護学特論Ⅱ	担当者	掛谷　益子、市村　美香、長町　榮子
配当学科・研究科	2015～ 2016年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学1年／ 2017～ 2022年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学1年	ナンバリング	

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	集中講義		

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	基礎保健看護学特論Ⅰでの関連文献の検索をもとに、文献検討を実施することで、クリティークの視点を持つことができる。また、先行文献で何がどこまで解明されているかについて明らかにし、実現可能な研究計画書を作成することができる。
授業概要	基礎保健看護学特論Ⅰで検索した文献の感染予防、臨床薬理学、看護技術それぞれの中から論文を選択し、文献検討を実施する。文献検討をじっくり行うことで、学生自身の研究テーマが明らかになり、そのテーマに関して何がどこまで解明されているかを明らかにする。また、さらなる文献はどういうものが必要かを討議する。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	文献検討に取り組む姿勢20% 文献検討についてのプレゼンテーション内容および準備資料60% 研究計画書の作成状況20%
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	口頭および書面にてフィードバックする。
履修条件・注意事項	研究指導は、最もその研究に適した主指導教員1名と2名の副指導教員によって行う。 時間を厳守すると共に、与えられた課題の達成のみならず自分自身で考え、積極的に問題点を見つけ出し、明確な質疑応答が出来るようにすること。
事前学習・事後学習とその時間	予習として、各授業計画および、前回授業で予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。 また、復習として、毎回の授業の内容を確認し、自分なりにノートにまとめること。
オフィスアワー	水曜日2限目　研究室（6号館4階）にて実施する。

授業計画	担当者
1.感染予防の基礎知識に関する文献検討(1)	1.長町
2.感染予防の基礎知識に関する文献検討(2)	2.長町
3.臨床薬理学に関する文献検討(1)	3.長町
4.臨床薬理学に関する文献検討(2)	4.長町
5.看護技術のエビデンスに関する文献検(1)	5.市村
6.看護技術のエビデンスに関する文献検(2)	6.市村
7.看護技術・実験研究に関する文献検討(1)	7.市村
8.看護技術・実験研究に関する文献検討(2)	8.市村
9.看護技術・調査研究に関する文献検討(1)	9.掛谷
10.看護技術・調査研究に関する文献検討(2)	10.掛谷
11.看護師が実施する感染対策に関する文献検討(1)	11.掛谷
12.看護師が実施する感染対策に関する文献検討(2)	12.掛谷
13.研究計画書(1)	13.長町
14.研究計画書(2)	14.市村
15.研究計画書(3)	15.掛谷
16.まとめ	16.長町・掛谷･市村

教科書

教・書籍名１	随時指示する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	

教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	基礎保健看護学特論Ⅱ演習	担当者	掛谷　益子、市村　美香、長町　榮子
配当学科・研究科	2015～ 2016年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学2年／ 2017～ 2022年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学2年	ナンバリング	

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	AL
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	集中講義		

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	文献検索、プレゼンテーションの方法を学び、修士論文を作成することができる。
授業概要	基礎研究、実験研究、調査研究について文献検索し、研究の背景についてまとめ、それらの文献から論文を選択して文献検討を行い、研究計画書を作成した。これらの基礎保健看護学特論Ⅰ、Ⅱで学んだ知識を基に、ディスカッションを行いながら具体的な解析方法等を学んだ。この基礎保健看護学特論Ⅰ演習に引き続き、考察、文献検索、抄録の作成方法、プレゼンテーション（パワーポイント作成、発表方法）について学び、論文を作成する。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	研究遂行姿勢及び研究指導に対する姿勢（40%）、プレゼンテーション（40%）、討議での発言状況などの参加度（20%）　を総合的に評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	口頭および書面にてフィードバックする。
履修条件・注意事項	「看護技術」に関して興味･関心、問題意識をもっており、研究テーマについて考えている。 研究指導は、最もその研究に適した主指導教員1名と2名の副指導教員によって行う。 時間を厳守すると共に，与えられた課題の達成のみならず自分自身で考え、積極的に問題点を見つけ出し、明確な質疑応答が出来るようにすること。
事前学習・事後学習とその時間	研究内容に関する論文を検索し整理する。それらの文献の中から自分の研究課題に近い論文を引用文献とするので、論文内容について十分に理解する。 自らの課題について、調べてきたことなどを元にして「自ら学ぶ」実践型の学習が必須である。 予習として、各授業計画および、前回授業で予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。また、復習として、毎回の授業の内容を確認し、自分なりにノートにまとめること。
オフィスアワー	水曜日2時限目　研究室（6号館4階）にて実施する。

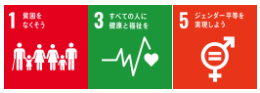
授業計画	担当者
1.考察及び文献検索（1）	1.長町・掛谷・市村
2.考察及び文献検索（2）	2.長町・掛谷・市村
3.考察及び文献検索（3）	3.長町・掛谷・市村
4.考察及び文献検索（4）	4.長町・掛谷・市村
5.考察及び文献検索（5）	5.長町・掛谷・市村
6.論文作成（1）	6.長町・掛谷・市村
7.論文作成（2）	7.長町・掛谷・市村
8.論文作成（3）	8.長町・掛谷・市村
9.論文作成（4）	9.長町・掛谷・市村
11.論文作成（5）	10.長町・掛谷・市村
11.プレゼンテーション（1）	11.長町・掛谷・市村
12.プレゼンテーション（2）	12.長町・掛谷・市村
13.プレゼンテーション（3）	13.長町・掛谷・市村
14.プレゼンテーション（4）	14.長町・掛谷・市村
15.抄録作成	15.長町・掛谷・市村
16.論文確認	16.長町・掛谷・市村

教科書			
教・書籍名１	必要時指示する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	

教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	母性・小児保健看護学特論Ⅰ	担当者	安福　真弓、福岡　美和、赤在　あゆみ
配当学科・研究科	2014～ 2017年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／ 2015～ 2016年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学1年／ 2017～ 2022年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学1年	ナンバリング	

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30時間	授業形態	講義、演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ＳＤＧｓ関連項目	1．貧困をなくそう／3．すべての人に健康と福祉を／5．ジェンダー平等を実現しよう 
到達目標	1．母子看護領域における看護の役割が説明できる。 2．母子看護の変遷や母子保健領域の統計や法律について説明できる。 3．女性のライフサイクルにおける体の変化と健康について説明できる。 4．子どもの成長発達について説明できる。
授業概要	人間は、胎生期の成長過程においては母体の心身の健康状態に強い影響を受け、人の基盤形成期である乳幼児期においてはその子どもを取り巻く家族や地域の環境の影響を受けながら、相互作用の中で成長・発達していく。母子を対象とする保健・医療・福祉分野においては、子どもと家族を一体ととらえて、その子の健やかな成長・発達の促進と家族の安心した生活が確保されるようなケアが求められる。そのための基礎を修得する。担当者は医師・看護師・助産師であり、臨床経験が豊富であり、症例の治療、看護を行ってきた経験があるため、多くの知見を得られる講義となる。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク
評価方法と割合	レポート（５０％）・プレゼンテーション（３０％）、授業への取組状況（２０％）により総合的に評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	講義中に提示した課題は、授業にフィードバックするので指定日までに見直しておくこと。
履修条件・注意事項	講義においては、課題について受講生がプレゼンテーションを行い、その内容をもとにディスカッションを行う。
事前学習・事後学習とその時間	事前に示された資料や文献などを精読し、問題や課題を明確にしながら、自分なりのノートを作成する。なお、予習・復習には各2時間程度を要する。
オフィスアワー	赤在：火曜・1限（9：30～11：00）、6420研究室にて対応 福岡：火曜・2限（11：10～12：40）、6423研究室にて対応 安福：火曜・2限（11：10～12：40）、6405研究室にて対応

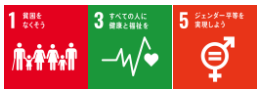
授業計画	担当者
1．オリエンテーション	赤在、安福、福岡、
2．母子看護の目指すところ（対象・目標・役割）	福岡、安福
3．母子看護の変遷	福岡、安福
4．母子看護に関する諸統計	福岡、安福
5．母子看護に関する法律	福岡、安福

6．母性の健康（1）思春期のからだ	福岡
7．母性の健康（2）妊娠と出産（正常）	福岡
8．母性の健康（2）妊娠と出産（異常）	福岡
9．子どもの成長・発達の原則	赤在、安福
10. 乳児期の子どもの成長・発達	赤在、安福
11. 幼児期の子どもの成長・発達	赤在、安福
12. 学童期の子どもの成長・発達	赤在、安福
13. 思春期の子どもの成長・発達	赤在、安福
14. 発育の評価（1）形態的成長の観察と評価	赤在
15. 発育の評価（2）心理社会的発達	赤在

教科書			
教・書籍名１	随時提示する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	母性・小児保健看護学特論Ⅰ演習	担当者	安福　真弓、福岡　美和、赤在　あゆみ
配当学科・研究科	2015～ 2016年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学2年／ 2017～ 2022年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学2年	ナンバリング	

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30時間	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ＳＤＧｓ関連項目	１．貧困をなくそう／３．すべての人に健康と福祉を／５．ジェンダー平等を実現しよう 
到達目標	１．現代社会に生きる子どもと家族を取り巻く今日的な問題や課題について説明できる。 ２．現代社会に生きる子どもや家族への母子看護の役割を説明できる。
授業概要	少子・高齢社会の中で、子どもや家族の生活も多様化している。現代社会に生きる子どもと家族の今日的な問題について文献検討を行いながら、看護支援の在り方を探求する。担当者は医師・看護師・助産師であり、臨床経験が豊富であり、症例の治療、看護を行ってきた経験があるため、多くの知見を得られる講義となる。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク
評価方法と割合	レポート（５０％）・プレゼンテーション（３０％）、授業への取組状況（２０％）により総合的に評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	講義中に提示した課題は、授業にフィードバックするので指定日までに見直しておくこと。
履修条件・注意事項	講義においては、課題について受講生がプレゼンテーションを行い、その内容をもとにディスカッションを行う。
事前学習・事後学習とその時間	事前に提示された資料や文献などを精読し、問題や課題を明確にしながら、自分なりにノートを作成する。なお、予習、復習には各2時間程度を要する。
オフィスアワー	赤在：火曜・1限（13：30～15：00）、6420研究室にて対応 福岡：月曜・2限（11：10～12：40）、6423研究室にて対応 安福：月曜・2限（11：10～12：40）、6405研究室にて対応

授業計画	担当者
１．オリエンテーション(導入と進行確認)	赤在、福岡、安福
２．母子保健・医療・福祉・看護の動向・多様化する家族	赤在、福岡、安福
３．子どもの身体変化と生活習慣	赤在、安福
４．メディア社会に生きる子どもと家族の健康	赤在、安福
５．不登校	赤在、安福
６．子どものうつ病	赤在、安福
７．子どもや家族を取り巻く環境と育児不安	赤在、福岡、安福
８．児童虐待とDV	赤在、安福
９．子どもの不慮の事故	赤在、安福
１０．思春期の喫煙・飲酒・薬物	赤在、安福、福岡
１１．若者の性意識と性感染症	福岡
１２．子どもとアレルギー	赤在、安福
１３．現代社会と子どもの生・死	赤在、安福
１４．子どもの発達障害と大人の発達障害	赤在、安福
１５．ワクチンで防げる感染症（予防接種事情）	赤在

教科書

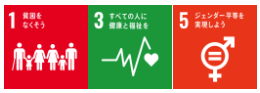
教・書籍名１	随時提示する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書

参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	母性・小児保健看護学特論Ⅱ	担当者	安福　真弓、福岡　美和、赤在　あゆみ
配当学科・研究科	2015～ 2016年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学1年／ 2017～ 2022年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学1年	ナンバリング	

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30時間	授業形態	講義、演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	集中講義		

ＳＤＧｓ関連項目	１．貧困をなくそう／３．すべての人に健康と福祉を／５．ジェンダー平等を実現しよう 
到達目標	１．子どもや家族を支える諸理論・概念について説明できる。 ２．母子保健、医療、福祉、看護分野の現状について説明できる。 ３．子どものストレス反応や対処行動に関する考え方について説明できる。 ４．母子看護領域のチーム医療における看護の役割について説明できる。 ６．子どもの権利擁護の考え方を基盤に、小児看護の倫理的課題について説明できる。
授業概要	人間は、胎生期の成長過程においては母体の心身の健康状態に強い影響を受け、人の基盤形成期である乳幼児期においてはその子どもを取り巻く家族や地域の環境の影響を受けながら、相互作用の中で成長・発達していく。母子を対象とする保健・医療・福祉分野においては、子どもと家族を一体ととらえて、その子の健やかな成長・発達の促進と家族の安心した生活が確保されるようなケアが求められる。母性・小児保健看護学特論Ⅰに引き続き、そのための基礎を習得する。担当者は医師・看護師・助産師であり、臨床経験が豊富であり、症例の治療、看護を行ってきた経験があるため、多くの知見を得られる講義となる。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク
評価方法と割合	レポート（５０％）・プレゼンテーション（３０％）、授業への取組状況（２０％）により総合的に評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	講義中に提示した課題は、授業にフィードバックするので指定日までに見直しておくこと。
履修条件・注意事項	講義においては、課題について受講生がプレゼンテーションを行い、その内容をもとにディスカッションを行う。
事前学習・事後学習とその時間	事前に提示された資料や文献などを精読し、問題や課題を明確にしながら、自分なりにノートを作成する。なお、予習、復習には各2時間程度を要する。
オフィスアワー	赤在：火曜・1限（9：30～11：00）、6420研究室にて対応 福岡：月曜・2限（11：10～12：40）、6423研究室にて対応 安福：月曜・2限（11：10～12：40）、6405研究室にて対応

授業計画	担当者
１．オリエンテーション（導入と進行確認）	赤在、安福、福岡
２．母性看護と医療制度	福岡
３．小児看護と医療制度	赤在
４．母子看護とストレスコーピング理論	福岡
５．子どものストレスコーピング（文献検討）	安福
６．遊びの発達とプレパレーション（１）	安福

７．遊びの発達とプレパレーション（２）（文献検討）	安福
８．小児看護における倫理（１）	安福
９．小児看護における倫理（２）文献検討	安福
１０．母性看護と看護理論（１）	福岡
１１．母性看護と看護理論（２）文献検討	福岡
１２．小児看護と看護理論（１）	安福
１３．小児看護と看護理論（２）文献検討	安福
１４．母性看護と多職種連携	福岡
１５．小児看護と多職種連携　講義	安福

教科書			
教・書籍名１	随時提示する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	母性・小児保健看護学特論Ⅱ演習	担当者	安福　真弓、福岡　美和、赤在　あゆみ
配当学科・研究科	2015～ 2016年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学2年／ 2017～ 2022年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学2年	ナンバリング	

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30時間	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	集中講義		

ＳＤＧｓ関連項目	１．貧困をなくそう／３．すべての人に健康と福祉を／５．ジェンダー平等を実現しよう
到達目標	１．健康障害をもった子どもと家族を取り巻く問題や課題について説明できる。 ２．健康障害をもった子どもと家族への母子看護の役割を説明できる。
授業概要	医療の進歩や衛生状態の改善は、わが国の疾病構造に大きな変化をもたらし、健康障害をもつ子どもと家族を取り巻く環境は複雑、多様化している。慢性疾患や急性疾患による健康障害をもった子どもと家族を取り巻く社会・家庭における問題・課題について文献検討を行いながら、看護支援の在り方を探求する。担当者は医師・看護師・助産師であり、臨床経験が豊富であり、症例の治療、看護を行ってきた経験があるため、多くの知見を得られる講義となる。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク
評価方法と割合	レポート（５０％）・プレゼンテーション（３０％）、授業への取組状況（２０％）により総合的に評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	講義中に提示した課題は、授業にフィードバックするので指定日までに見直しておくこと。
履修条件・注意事項	講義においては、課題について受講生がプレゼンテーションを行い、その内容をもとにディスカッションを行う。
事前学習・事後学習とその時間	事前に提示された資料や文献などを精読し、問題や課題を明確にしながら、自分なりにノートを作成する。なお、予習、復習には各2時間程度を要する。
オフィスアワー	赤在：火曜・1限（9：30～11：00）、6420研究室にて対応 福岡：月曜・2限（11：10～12：40）、6423研究室にて対応 安福：月曜・2限（11：10～12：40）、6405研究室にて対応

授業計画	担当者
１．オリエンテーション（導入と進行確認）	赤在、福岡、安福
２．周産期医療の現状	赤在、福岡
３．小児救急医療の現状	赤在、安福
４．先天性心疾患を持つ子どもと家族（１）	赤在、安福
５．先天性心疾患を持つ子どもと家族（２）文献検討	赤在、安福
６．障害児（者）をとりまく社会・家庭・学校環境	赤在、安福
７．子どもの障害告知と家族のゆらぎ（重症心身障害）	安福
８．子どもの障害告知と家族のゆらぎ（発達障害）	安福
９．子どもの障害告知と家族のゆらぎ（危機的状況）	安福
１０．子どもの障害告知により引き起こされる母親の情緒　反応のプロセス(１)	福岡、安福
１１．子どもの障害告知により引き起こされる母親の情緒　反応のプロセス（２）文献検討	福岡、安福
１２．子どもの障害告知により引き起こされる母親の情緒　反応のプロセス（３）発表	福岡、安福

１３．障害児(者)と家族のライフコース上の危機について	福岡、安福
１４．障害児(者)と家族の発達	赤在、安福
１５．障害児(者)と家族への地域サポート　講義	赤在、安福

教科書			
教・書籍名１	随時提示する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	成人・老年保健看護学特論Ⅰ	担当者	竹﨑　和子、門倉　康恵
配当学科・研究科	2014年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2015～ 2016年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学1年／ 2017～ 2022年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学1年	ナンバリング	

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	３０	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／９．産業と技術革新の基盤をつくろう
到達目標	テーマ 成人・老年保健看護学研究に関する研究法を理解できる 到達目標 1.成人期・老年期における課題や研究論文を精読し、文献レビューをすることができる。 2.成人期・老年期における課題や研究論文を精読し自分の研究テーマにどう役立つかを述べることができる 3.質的研究を理解し、成人期・老年期保健看護学研究に関連した研究テーマへの適応例を説明できる
授業概要	成人期・老年期は人生の中で最も長い期間を占めており、様々課題と共に健康問題が生じやすい。このため家族も含めた人生の集大成に向けての歩みを支えることが求められる。 この授業では、臨床における実践や文献をもとに授業での討論を経て、成人期・老年期に求められる看護について考察を深める。 各課題に関する文献や自分自身の体験をもとに論述する この科目は、看護師の実務経験があり修士課程を修了した教員がその経験を活かして指導する
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション
評価方法と割合	課題への取り組み姿勢（25%） 発表態度・発言状況（25%） レポート評価（50%）
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題やレポートは授業内でフィードバックする
履修条件・注意事項	積極的かつ自律的に参加すること
事前学習・事後学習とその時間	予習・復習には各２時間程度必要である 自己学習のためのレポートを課す。そのレポートを作成することで、授業の予習復習が可能であるため、必ず提出する
オフィスアワー	木曜日　５限　６号館　６４０４研究室

授業計画	担当者
1.成人期・老年期保健看護学における研究法の考察（量的研究）	1.竹﨑
2.成人期・老年期保健看護学における研究法の考察（質的研究）	2.竹﨑
3.成人期・老年期保健看護学における研究法の考察（混合研究）	3.竹﨑
4.成人期・老年期における課題の検討	4.竹﨑
5.先行研究の文献検索	5.門倉
6.先行研究の精読①	6.門倉
7.先行研究の精読②	7.門倉
8.先行研究のクリティーク①	8.門倉
9.先行研究のクリティーク②	9.門倉
10.クリティーク発表	10.竹﨑・門倉
11.クリティーク発表の振り返り	11.竹﨑・門倉
12.成人期・老年期保健看護学における最新の知見について検討①	12.竹﨑
13.成人期・老年期保健看護学における最新の知見について検討②	13.竹﨑

14.最新の知見についてのレビュー（発表） 15.まとめ	14.竹﨑・門倉 15.竹﨑・門倉

教科書			
教・書籍名１	資料及び参考論文は適宜提示する	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	成人・老年保健看護学特論Ⅰ演習	担当者	竹﨑　和子、門倉　康恵
配当学科・研究科	2015～ 2016年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学2年／ 2017～ 2022年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学2年	ナンバリング	

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	３０	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／９．産業と技術革新の基盤をつくろう
到達目標	テーマ 成人・老年保健看護学に関する研究課題を設定し、研究計画を理解できる 到達目標 １.先行研究のレビューが行える 2.量的・質的な研究法を理解できる 3.研究計画書を立案できる
授業概要	成人・老年保健看護学の視点から、成人期・老年期の対象とその家族の抱える諸問題を研究的視点から捉え、自らの研究課題を絞り込むことができるように、講義する。 この科目は、看護師の実務経験があり修士課程を修了した教員がその経験を活かして指導する
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション
評価方法と割合	課題（５０％） 発表（５０％）
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題等は、授業内でフィードバックする
履修条件・注意事項	積極的かつ自律的に参加すること 予習・復習を行うこと
事前学習・事後学習とその時間	課題として与えられた論文や資料を整理し、レポートに纏める また、講義の中でも自らの研究課題に関してまとめておき討論できるようにしておくこと 自己学習は予習復習で各２時間程度必要である
オフィスアワー	木曜日５限　６号館　６４０４研究室

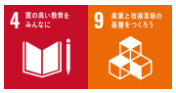
授業計画	担当者
1.課題の明確化（AL）	1.竹﨑
2.研究キーワード作成（AL）	2.竹﨑
3.文献検索（AL）	3.竹﨑
4.文献検索（AL）	4.竹﨑
5.関連論文の精読（AL）	5.門倉
6.関連論文の精読（AL）	6.門倉
7.関連論文のレビュー（発表）（AL）	7.竹﨑・門倉
8.関連論文のレビュー（発表）（AL）	8.竹﨑・門倉
9.研究法の概要（質的研究）	9.門倉
１０.研究法の概要（量的研究）	10.門倉
11.研究法の概要（混合研究）	11.門倉
12.研究テーマの検討	12.竹﨑
13.研究テーマの作成	13.竹﨑
14.研究計画書作成	14.竹﨑
15.研究計画書の発表	15.竹﨑・門倉

教科書			
教・書籍名１	資料及び関連論文は適宜提示する	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	

教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	成人・老年保健看護学特論Ⅱ	担当者	竹﨑　和子、門倉　康恵
配当学科・研究科	2015～ 2016年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学1年／ 2017～ 2022年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学1年	ナンバリング	

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	集中講義		

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／９．産業と技術革新の基盤をつくろう 
到達目標	テーマ 成人・老年領域における研究実施プロセスを理解することができる 到達目標 1.成人・老年保健看護学の視点から対象者とその家族の抱える諸問題を研究的視点から捉え、研究課題を絞り込むことができる 2.研究課題を概観し、看護的な側面から成人・老年期の人々が抱える課題に関心と興味をもち、自らの研究課題をフォーカスすることができる 3.自身の研究をまとめ、発表することができる
授業概要	自ら取り組みたい研究テーマに関連する研究課題を絞り込み、成人・老年保健看護学特論Ⅰに引き続いて受講することを前提に、成人 老年保健看護学領域で修士論文の作成を希望する者が、本領域における研究の基礎となる知識を理解し、論文作成に取り組む
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション
評価方法と割合	講義中の知識や態度・考察する力・発言する力（５０％） 課題等（５０％）
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	評価のために課されたレポート等は、授業中にフィードバックする
履修条件・注意事項	積極的に自律的に参加すること
事前学習・事後学習とその時間	予習・復習には各２時間程度必要となる 自己学習のためのレポートを課す。そのレポートを作成することで講義の予習復習が可能であるため、必ず提出する
オフィスアワー	木曜日５限　６号館　６４０４研究室

授業計画	担当者
1.ガイダンス・研究倫理教育	1.竹﨑
2.本研究と利点の議論	2.竹﨑
3.本研究と問題点の議論	3.竹﨑
４.本研究の修正と議論	4.竹﨑
5.調査方法の検討	5.竹﨑
6.調査方法の考察	6.門倉
7.調査方法の確定	7.門倉
8.調査結果の収集	8.門倉
9.調査結果の整理	9.門倉
10.調査結果の確認	10.門倉
11.調査結果の考察①	11.竹﨑・門倉
12.調査結果の考察②	12.竹﨑・門倉
13.調査結果の分析①	13.竹﨑・門倉
14.調査結果の分析②	14.竹﨑・門倉
15.まとめ	15.竹﨑・門倉

教科書			
教・書籍名１	資料および参考資料は適宜配布する	教・出版社名１	

教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	成人・老年保健看護学特論Ⅱ演習	担当者	竹﨑　和子、門倉　康恵
配当学科・研究科	2015～ 2016年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学2年／ 2017～ 2022年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学2年	ナンバリング	

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	３０	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	集中講義		

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／９．産業と技術革新の基盤をつくろう
到達目標	テーマ 成人・老年保健看護学の視点から対象者とその家族を抱える諸問題を研究的視点から捉え、自らの研究実施プロセスを理解することができる 到達目標 1.質的研究法のデータ分析法について説明できる 2.質的研究法のデータを考察することができる 3.研究の限界と今後の課題について明らかにすることができる
授業概要	この講義は、成人・老年保健看護学領域での研究の課題と新規性について、自ら課題提示をすることができるように導くものである なお、本講義は看護師の実務経験があり、修士課程を修了した教員がその経験を活かして指導する
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション
評価方法と割合	講義中の知識や態度、発言状況、考察力の評価（５０％） 課題レポート（５０％）
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	評価のために課されたレポート等は、授業内でフィードバックする
履修条件・注意事項	積極的かつ自律的に参加すること 必ず予習・復習を行うこと
事前学習・事後学習とその時間	予習復習として各２時間程度を必要とする 自己学習のためのレポートを課すが、その作成によって予習復習が可能であるため、必ず提出する
オフィスアワー	木曜日　５限　６号館６４０４研究室

授業計画	担当者
1.ガイダンス（AL）	1.竹崎
2.研究対象者に対する倫理的配慮（AL）	2.竹崎
3.質的研究方法の考察（AL）	3.竹崎
4.質的研究方法の問題点についてディスカッション（AL）	４.竹崎
5.質的データの分析①（AL）	5.竹崎
6.質的データの分析②（AL）	6.門倉
7.質的データの考察①（AL）	7.門倉
8.質的データの考察②（AL）	8.門倉
9.研究論文作成方法①（AL）	9.門倉
10.研究論文作成方法②（AL）	10.門倉
11.論文の書き方①（AL）	11.竹崎・門倉
12.論文の書き方②（AL）	12.竹崎・門倉
13.院生のプレゼンテーションとディスカッション①（AL）	13.竹崎・門倉
14.院生のプレゼンテーションとディスカッション②（AL）	14.竹崎・門倉
15.まとめ	15.竹崎・門倉

教科書			
教・書籍名１	資料及び参考文献は適宜提示する	教・出版社名１	

教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	広域保健看護学特論Ⅰ	担当者	田中　富子、中嶋　貴子、中瀬　克己
配当学科・研究科	2014～ 2017年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／ 2015～ 2016年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学1年／ 2017～ 2022年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学1年	ナンバリング	

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	疫学入門：調査研究理論と方法 集団を対象とした保健活動を進めるにあたって、健康問題の把握・実践活動・評価の各段階で、疫学的な検討が欠かせない。一方、疫学はEBMの基礎理論でもあり、応用範囲は広がっている。 この授業により，自ら調査研究を行う場合はもちろん、他の文献を読み、吟味する際にも必要な基礎知識が身につく。
授業概要	受講生の疫学に関する理解度・習熟度は入学までの経歴等によって様々なので、講義内容は受講生によって変わる可能性がある。また、受講者の研究計画なども考慮して、できるだけ柔軟に対応したい。大まかな内容としては、疫学的アプローチの方法、集めたデータの処理法、文献の批判的吟味などを考えている。 以下の授業計画は，保健師課程を履修していない全くの初心者を想定している。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション
評価方法と割合	試験（80%）のみでなく、受講態度（10%）、レポートの内容（10%）で総合的に評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題等は、授業でフィードバックするので最終試験（口頭試問）までに見直しておくこと。
履修条件・注意事項	一方通行の講義にならないよう、事前の準備、ディスカッションなどを含め、積極的な学習を望む。
事前学習・事後学習とその時間	疫学初心者にとっては取っつきにくいかも知れないので，予習復習を欠かさず，疑問点を持ち越さないこと。 毎回，予習復習を兼ねた課題を課すので，次回までに必ず仕上げて提出すること。 これらを含め，１回の授業あたり，予習復習には2時間ずつを要する。
オフィスアワー	6号館4階6424研究室（変更があり得る）にて，毎週水曜2限（教授会がある日を除く）または木曜２限を，オフィスアワーとする。。

授業計画	担当者
1.オリエンテーション 疫学とは 2.調査理論　(1)　母集団と標本 3.調査理論（2）　質問紙の作成法 4.疫学調査法(1)　疾病量の把握法 5.疫学調査法(2)　コホート調査と症例対照調査 6.疫学調査法(3)　疫学指標 7.疫学調査法(4)　介入調査 8.疫学調査法(5)　バイアスと交絡因子 9.疫学調査法(6)　因果関係 10.疫学に必要な統計　(1)　既存統計の利用 11.疫学に必 な統（2）　記述統計 12.疫学に必 な統（3）　推定と検定の考え方と方法 13.疫学に必 な統（4）　推定と検定の実際 14.疫学に必 な統（5）　多変量解析入門 15.臨床疫学入門 16試験　口頭試問	中瀬

教科書			
教・書籍名１	特に定めず随時紹介する。	教・出版社名１	

教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	医学的研究のデザイン 研究の質を高める疫学的アプローチ 第4版 その他授業時に紹介する。	参・出版社名１	メディカルサイエンスインターナショナル
参・著者名１	木原雅子 (翻訳), 木原正博 (翻訳),Stephen B Hulley , Steven R Cummings MD他著	参・ＩＳＢＮ１	ISBN-10 : 4895927830 ISBN-13 : 978-4895927833
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	広域保健看護学特論Ｉ演習	担当者	田中　富子、中嶋　貴子、中瀬　克己
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護2年／2015～ 2016年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学2年／ 2017～ 2022年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学2年	ナンバリング	

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	疫学調査研究を計画し，実行し，収集したデータを処理して，結果を考察し，報告書や論文にまとめられる能力を身につける。 あわせて，研究倫理についても身につける。
授業概要	内容は，研究テーマや調査方法によって柔軟に対応したいが，これまでに蓄積された調査データを元に，個人が特定できないよう一部加工してあるものを中心に，実際にデータの分析等を試みる。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション
評価方法と割合	提出課題の内容（50%）を重視するが，受講態度や授業中の発言などを含め（50%），総合的に評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題等は、授業でフィードバックするので最終試験（口頭試問）までに見直しておくこと。
履修条件・注意事項	データの集計等では，当然のことながら，パソコンを使用する。 自前のパソコンを用意しておくことが望ましい。
事前学習・事後学習とその時間	毎回課題を出すので，次回までにやっておくこと。 それが予習・復習にもなり，毎回かなりの時間を割くことになるはずである。 これらを含め，１回の授業あたり，予習復習には2時間ずつを要する。
オフィスアワー	6号館4階6424研究室にて，毎週水曜2限（教授会がある日を除く）または木曜２限を，オフィスアワーとする。

授業計画	担当者
1　調査計画（目的・対象・方法等）：田中 2　調査にあたっての手続き・関係者との調整、倫理審査を含む　：田中 3　調査の実施 回収法・回収率等の検討）：田中 4 データのチェックと入力（矛盾回答・無効回答などの扱い）：田中 5 データの集計（素集計と入力ミスのチェック）：田中 6 カテゴリ・データの扱い（クロス集計）：田中 7 カテゴリ・データの扱い（３次元以上の集計の扱い）：田中 8 数値データの扱い：中瀬・田中 9 順序データの扱い：中瀬・田中 10 集計結果についての推定と検定：カテゴリ・データ：田中 11 集計結果についての推定と検定：順序データ：田中 12 集計結果についての推定と検定：比例尺度データ：中瀬・田中 13 多変量解析の意義：中瀬・田中 14 結果についての考察：田中 15 研究の限界：田中 16 試験　口頭試問：田中・中瀬	中瀬　克己、田中　富子、中嶋　　貴子

教科書			
教・書籍名１	随時紹介する	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	その都度紹介する。	参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	

参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	広域保健看護学特論Ⅱ	担当者	田中　富子、中嶋　貴子、中瀬　克己
配当学科・研究科	2014～ 2017年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／ 2015～ 2016年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学1年／ 2017～ 2022年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学1年	ナンバリング	

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義・演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	集中講義		

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに／１１．住み続けられるまちづくりを／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	テーマと到達目標 公衆衛生看護活動を提供する職場・地域・家庭・学校の様々な生活場面において，対象者を総合的に捉えライフサイクルに添った継続的・包括的な看護ケアに関する、文献レビューや現地調査・支援介入・アクションリサーチに関する方法論をとおして研究的視点を持って学ぶ。職域や地域・学校等における公衆衛生看護に関連する領域の文献により研究を進める上での基本的知識を身につける。また、各担当者毎にレポートや発言内容のフードバックを行い，理解を深める。
授業概要	概要 地域看護活動の中の、職場・地域・家庭・学校のそれぞれの領域における先行研究や関係資料の探索や購読力を養う。また、デイスカッションを行う中で社会的背景や健康課題の理解を深め、研究的思考力を高めるようにする。授業担当者ごとに講義の最後の日は学んだことをプレゼンテーションで発表させ、参加者同士で質疑応答や意見交流をする中でプレゼンテーション能力、質問力も身につける。 この科目は、学校保健や行政機関等の多様な地域看護実践に長年携わった経験を活かし、地域看護学領域における健康課題や予防に関係するテーマを中心とした授業・研究指導を行う。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート／プレゼンテーション／フィールドワーク
評価方法と割合	認定試験(50%)，受講態度(10%)，レポートの内容(20%)，ディスカッションでの発言内容(20%) などによる総合的な評価とする。評価のために実施した課題や等は、授業でフィードバックするので最終講義までにみなおしておくこと。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	講義ごとに課題を提示し、発表内容によりフィードバックする
履修条件・注意事項	一方通行の講義にならないよう、事前の準備、ディスカッションなどを含め、予習・復習を行い積極的に学習に臨むこと。なお評価のために実施した課題等は、授業でフィードバックするので最終講義までにみなおしておくこと。
事前学習・事後学習とその時間	公衆衛生看護の中の職場・地域・家庭・学校の様々な生活場面における包括的看護ケアに関して、文献レビューや調査・介入に関連する領域の文献から基本的知識を身につけておくこと。なお， 予習・復習にかかる時間は各2時間程度とする。
オフィスアワー	各個人研究室（田中は6406号室、中嶋は6422号室、増本は6421号室）にて火曜日4次限で行う。

授業計画	担当者
1.公衆衛生看護活動の展開方法と対象 2.地域ケアシステムの育成と保健師の機能 3.ソーシャルキャピタル醸成と地域づくり 4.公衆衛生看護領域の文献レビューとクリティーク① 5.公衆衛生看護領域の文献レビューとクリティーク② 6.訪問看護・ACTに関する理論と実践 7.リエゾン精神看護に関する理論と実践 8.地域で生活している精神障害者に対する健康支援	田中・中嶋

9.地域精神看護領域の文献レビューとクリティーク 10.の拠点事業精神領域における多職種連携 11.ヘルスプロモーションとは12.地域におけるヘルスプロモーション 13.健康課題と保健師の役割 14.地域保健領域の文献レビュー 15..地域保健領域の文献クリテイーク	

教科書			
教・書籍名１	授業内容により資料やテキストを提示する	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	広域保健看護学特論Ⅱ演習	担当者	田中　富子、中嶋　貴子、中瀬　克己
配当学科・研究科	2015～ 2016年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学2年／ 2017～ 2022年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学2年	ナンバリング	

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習・講義
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	集中講義		

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに／１１．住み続けられるまちづくりを
到達目標	公的機関が提供する公衆衛生看護活動、地域組織活動、地域社会資源、学校などでのフィールドワークをとおして，各領域の看護活動の実際や公衆衛生看護の役割と課題を学ぶことが出来る。 各領域毎に担当教員がレポートやディスカッション内容によるフィードバックを行い、総合的な理解を深める。
授業概要	公衆衛生看護活動や地域組織活動 、精神科領域における地域社会資源である施設や病院、地域の学校、と授業担当者のそれぞれの専門領域において、演習や実習などのフィールドワークを行う。フィールドワークは1～2週間の期間とし、そこでの学びにおいて研究的視点の涵養を図る。 この科目は，学校保健や行政機関等の多様な地域看護実践に長年携わった経験を活かし、地域看護学領域における健康課題や予防に関係するテーマを中心とした演習や研究指導を行う。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション／フィールドワーク
評価方法と割合	実習の参加態度(10%)、レポートの内容(20%)、質疑応答(20%)、認定試験(50%)などから総合的に評価する。 評価のために実施した課題や等は、授業でフィードバックするので最終講義）までにみなおしておくこと。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	演習毎に課題を示し発表による振り返りで理解を深める。
履修条件・注意事項	フィールドワークにおける地域特性や背景、目的等は事前に理解を深め、積極的な実習態度で臨むこと。実習施設は各担当教員が調整する。
事前学習・事後学習とその時間	職場・地域・家庭・学校などの様々な生活場面における包括的看護活動に関する、文献レビューを行い、調査・介入に関連する基本的知識を身につけておくこと。予習復習を行い、自分なりにノートにまとめておき、積極的に学習に臨むこと。なお，予習・復習にかかる時間は各2時間程度である。フィールドワークの実習場所ごとにレポート提出し、プレゼンテーションの資料とする。
オフィスアワー	個人研究室（田中は6406号室、中嶋は6422号室）にて火曜日4次限で行う。

授業計画	担当者
１．公衆衛生看護学の実習①公衆衛生看護技術：田中 ２．公衆衛生看護学の実習②高齢者を対象とした保健指導：田中 ３．公衆衛生看護学の実習③母子を対象とした多職種連携：田中 ４．公衆衛生看護学の実習④健康問題を抱える対象への家庭訪問：田中 ５．公衆衛生看護学の実習⑤地区診断演習・まとめ発表：田中 ６．精神看護の実習①精神科病院における精神看護：田中・中島 ７．精神看護の実習②地域における精神看護：田中 ８．精神看護の実習③一般病院における精神看護；田中・中島 ９．精神看護の実習④多職種連携による健康支援；田中 １０．課題プレゼンテーション発表：田中・中嶋 １１．保健指導演習①：田中 １２．保健指導演習②：田中 １３．保健指導演習③：田中 １４．子どもの発達と健康課題への対応：田中 １５．課題プレゼンテーション発表：田中	田中・中嶋

教科書			
教・書籍名１	講義や演習内容により資料・参考図書を提示する	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	運動機能障害援助特論Ｉ	担当者	河村　顕治
配当学科・研究科	2011～ 2014年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／ 2013～ 2016年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学1年／ 2017～ 2022年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学1年	ナンバリング	

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに
到達目標	学生は身体の関節運動、姿勢と平衡の維持及び、動作・運動の遂行に関し、形態学的、運動学的、生体力学的解析法を探求することができる。さらに学生はコンピューターシミュレーションの技法を用いて、従来の手法では計測不可能な筋張力や関節に働く力を求めることができる。
授業概要	人間の基本動作である歩行、立ち上がり、スクワット等について３次元動作解析データと床反力データからコンピューターシミュレーションによって筋張力を求める手法およびそのデータ解析を中心に講義する。得られた結果は動作筋電図のデータと照らし合わせて検証される。 リハビリテーションにおける運動動作の評価を体系化していき、運動学による運動動作の比較や技術の獲得過程における有用な評価を学ぶ。運動動作の評価を実施し、個人の形態や他の心身能力との関連性とを加味しながら、後天的な技能の損失と再獲得における運動動作体系を探求する。本講では特に、基本的動作の評価と個人に特化した運動学体系について講義する。
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	文献など研究論文の内容理解への努力や、テーマを掘り下げていく研究姿勢及び研究指導に対する姿勢（20%）、理解促進ために提出を求める課題の内容や質疑応答における発現状況（80%）について評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題等は、授業でフィードバックするので最終講義（口頭試問）までにみなおしておくこと。
履修条件・注意事項	力学、運動学を理解していることを前提とする。
事前学習・事後学習とその時間	予習として、各授業計画および、前回授業で予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。 また、復習として、毎回の授業の内容を確認し、自分なりにノートにまとめること。 なお、予習、復習には各2時間程度を要する。
オフィスアワー	個人研究室にて、火曜日の4時限目に実施。

授業計画	担当者
第１ 回：動作解析の方法論①	河村顕治
第２ 回：動作解析の方法論②	河村顕治
第３ 回：動作解析の方法論③	河村顕治
第４ 回：Closed Kinetic Chain①	河村顕治
第５ 回：Closed Kinetic Chain②	河村顕治
第６ 回：Closed Kinetic Chain③	河村顕治
第７ 回：立ち上がりの筋張力解析①	河村顕治
第８ 回：立ち上がりの筋張力解析②	河村顕治
第９ 回：歩行動作の筋張力解析①	河村顕治
第10回：歩行動作の筋張力解析②	河村顕治
第11回：ＣＫＣでの二関節筋の作用①	河村顕治
第12回：ＣＫＣでの二関節筋の作用②	河村顕治
第13回：ＣＫＣでの二関節筋の作用③	河村顕治
第14回：単関節筋と二関節筋の協調	河村顕治
第15回：単関節筋と二関節筋の協調	河村顕治

教科書

教・書籍名１	特に定めない。必要に応じてプリントを配布する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	

教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	運動機能障害援助特論Ⅰ	担当者	中嶋　正明
配当学科・研究科	2011～ 2014年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／ 2013～ 2016年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学1年／ 2017～ 2022年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学1年	ナンバリング	

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに
到達目標	運動器疾患に対する理学療法を基礎医学から考える。ここでは変形性膝関節症を取り上げる。 変形性膝関節症に対する理学療法を学び，治療理論，機序について説明できる。
授業概要	運動機能障害に対する理学療法において，適切な評価と科学的視座に立った介入方法の確立が求められている。この課題達成のためには運動器疾患について理解を深めることが必須であり，その上で運動学はもとより解剖学，生理学等あらゆる見地から探求していく必要がある。 本講では，理学療法士として実務経験を持つ指導教員がその経験を踏まえて解説し、細胞・組織・器官レベルの基礎医学的な視点から運動器疾患への考察を深め障害および症状に対する理学療法について説明できる力を獲得する。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション
評価方法と割合	文献収集やその読解等の研究論文の内容理解のための取り組み姿勢（30%），文献の理解度（30%），および問題点について論理的に論ずる力（40%）を総合的に評価する。 なお，評価のために実施した課題やレポート等は，授業でフィードバックするので見直しをしておくこと。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	実施した課題やレポート等は，授業でフィードバックするので見直しをしておくこと。
履修条件・注意事項	学術論文の収集に時間がかかるため早めに取り組みを開始して欲しい。
事前学習・事後学習とその時間	収集した学術論文をよく読みしっかりポイントを抽出しておくこと。 予習および復習には各2時間程度を有する。
オフィスアワー	水曜日3,4限をオフィスアワーとする。

授業計画	担当者
1.関節軟骨の解剖生理（関節軟骨の構造）	中嶋正明
2.関節軟骨の解剖生理（軟骨細胞の新陳代謝）	中嶋正明
3.関節軟骨の解剖生理（滑りと流体力学）	中嶋正明
4.変形性膝関節症の病態（１構造的変化）	中嶋正明
5.変形性膝関節症の病態（サイトカイン，MMP）	中嶋正明
6.変形性膝関節症における膝の痛み（痛みの責任箇所）	中嶋正明
7.変形性膝関節症における膝の痛み（pain-producing substance）	中嶋正明
8.変形性膝関節症における膝の痛み（pain-enhancing　substance）	中嶋正明
9.筋血流とprecapillary sphincter	中嶋正明
10.血管平滑筋のコントロール	中嶋正明
11.軟骨細胞へのメカニカルストレスと抗炎症サイトカイン	中嶋正明
12.軟骨細胞へのメカニカルストレスと抗マトリックスプロテアーゼ	中嶋正明
13.メカニカルストレスと軟骨細胞のアポトーシス	中嶋正明
14.変形性膝関節症の保存療法を考える1	中嶋正明
15.変形性膝関節症の保存療法を考える2	中嶋正明

教科書			
教・書籍名１	「骨と軟骨のバイオロジー」	教・出版社名１	金原出版

教・著者名１	藤井 克之	教・ＩＳＢＮ１	978-4307251174
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	運動機能障害援助特論Ⅰ	担当者	井上　茂樹
配当学科・研究科	2011～ 2014年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／ 2013～ 2016年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学1年／ 2017～ 2022年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学1年	ナンバリング	

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	本特論は、研究における進め方の基本を学ぶことに主眼を置く。その中で運動障がい者のリハビリテーションに関する研究課題や研究方法について理解を深め、自分の意見を表明できることを目標とする。
授業概要	運動障がい者のリハビリテーションに関するアセスメントとインターベンションに焦点を当てて、座位、立位、歩行などの人間が活動するために必要不可欠な基本的動作における研究課題や研究方法について概説し、最新の研究動向やトピックを紹介する。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート／プレゼンテーション／実習
評価方法と割合	スクーリングでの講義の際に出されるレポート課題(70%)と講義中の発言、受講態度(30%)によって評価する。なお、講義中に評価のために出した課題等は授業でフィードバックするので見直しておくこと。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	口頭もしくは書面でフィードバックする。
履修条件・注意事項	毎回、何らかのテーマを持ってくること。欠席の場合は、前もって連絡のこと。時間を厳守すると供に、与えられた課題の達成のみならず自分自身で考え、積極的に問題点を見つけ出し、明確な質疑応答が出来るようにすること。事前に課題を出し、それについて調べてきたことをもとにして授業を行うため、予習が必須である。また、指示に従って必ずノートを作成し復習すること。
事前学習・事後学習とその時間	予習として、各授業計画に記載されている部分について事前に文献および資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。復習として、毎回課題を出すので、次回の授業時に発表すること。また、毎回の授業の内容を確認し、自分なりにノートに纏めること。なお、予習、復習には各2時間程度を要する。
オフィスアワー	6号館4階の井上研究室（6437）において、毎週火曜日2時限目（11:10～12:40）をオフィスアワーの時間とする。

授業計画	担当者
1. リハビリテーションと研究	井上茂樹
2. リハビリテーション研究の概要	井上茂樹
3. リハビリテーション研究の過程	井上茂樹
4. リハビリテーション研究の範囲	井上茂樹
5. リハビリテーション研究の流れ	井上茂樹
6. リハビリテーションにおける今日的課題①	井上茂樹
7. リハビリテーションにおける今日的課題②	井上茂樹
8. リハビリテーションにおける今日的課題③	井上茂樹
9. 研究テーマの探し方①	井上茂樹
10.研究テーマの探し方②	井上茂樹
11.研究の展開と問題解決手順①	井上茂樹
12.研究の展開と問題解決手順②	井上茂樹
13.研究の流れと研究計画①	井上茂樹
14.研究の流れと研究計画②	井上茂樹
15.統計学的手法の選択	井上茂樹

教科書			
教・書籍名１	必要な資料等は適宜配布する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			

参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	運動機能障害援助特論Ⅰ	担当者	森下　元賀
配当学科・研究科	2011～ 2014年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／ 2013～ 2016年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学1年／ 2017～ 2022年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学1年	ナンバリング	

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	「脳血管障害の理学療法介入」をテーマとして、脳血管障害の機能改善機序および同疾患のリハビリテーション介入に関する知見を学習し、エビデンスの高い理学療法介入に関して説明できることを目標とする。
授業概要	脳血管障害のリハビリテーションにおいて、様々な治療的介入が存在する中で、臨床において標準的な介入が運動器疾患ほど浸透していない理由に関して考えていきたい。また、脳血管障害の機能回復機序を最新の知見をもとに考え、標準的かつ有効な介入方法を検討していく。特にガイドライン、研究発表で有効とされている内容と臨床の理学療法士が経験的に有効と確信していることとのギャップがなぜ生まれるのか、どのようにして解消するのかということにも焦点を当てていく。 この科目は、理学療法士としての実務経験を持つ教員がその経験を活かし、医療現場において実践的に役立つ授業を実施する。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション
評価方法と割合	本講義は、脳血管障害に関する理学療法の知識の習得を目標にするため、レポート課題(60%)、プレゼンテーション課題(40%)として評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題等は、授業でフィードバックするので、最終講義(口頭試問)までに見直しておくこと。
履修条件・注意事項	文献のレビューや問題点の考察など受講者が主体的に取り組むことが必要である。提示された課題をこなすだけでなく、自ら積極的に考え、意見を述べていく姿勢が重要である。
事前学習・事後学習とその時間	各授業の中で課題を提示する。課題に応じて、自ら調査、分析をして予習、復習を心がけること。その課題の中から授業内で質疑応答を行う。予習、復習には各2時間程度を要する。
オフィスアワー	大学院生に関しては、木曜日に研究室にお越しください。

授業計画	担当者
1. 脳血管障害の概要 2. 正常な脳機能の知見 3. 脳機能障害と回復の知見 4. 脳機能とリハビリテーション 5. 神経生理学、神経科学的解釈 6. 神経心理学的解釈 7. 運動学習理論 8. ガイドラインとエビデンス 9. 臨床における現状の問題点 10. 現在行われている治療法の批判的吟味 11. 適切なアウトカム指標 12. 推奨される治療的介入 13. 課題プレゼンテーション1 14. 課題プレゼンテーション2 15. 口頭試問	森下元賀

教科書			
教・書籍名１	適宜資料を配布する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			

参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	運動機能障害援助特論Ⅰ	担当者	森　芳史
配当学科・研究科	2011～ 2014年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／ 2013～ 2016年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学1年／ 2017～ 2022年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学1年	ナンバリング	

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	運動器の障害の中でも筋・腱を含めた関節障害は主要な問題である。本講では「関節障害の成因と診断・治療」をテーマに講義する。関節の解剖・生理、関節障害の病態、痛みの発生機序や最新の診断法、治療法を学び、理学療法士として、研究者としての基礎知識を身につけることを目標とする。
授業概要	本講では関節障害の成因と診断・治療に主眼をおき講義する。まず、関節軟骨の基礎、軟骨障害の診断と再生治療を中心とした最新の軟骨修復について講義する。また、関節障害に起因する痛みの基礎を学び痛みへの対処法について探求する。さらに、関節障害の診断について、理学的検査から内視鏡を中心とした観血的診断法まで、最新の検査法や、理学療法士に必要な関節運動の生体力学的解析法について講義する。
アクティブラーニングの内容	実習
評価方法と割合	講義への参加態度ならびに課題の達成度にて評価する。 成績評価基準：参加態度（30%），課題（70%） なお、評価のために実施した課題は、授業でフィードバックするのでまとめ（口頭試験）までにみなおしておくこと。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業やオンラインで必要なフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	時間を厳守するとともに、与えられた課題の達成のみならず、自分自身で考え、積極的に問題点を見つけだし、明確な質疑応答ができるようにする。
事前学習・事後学習とその時間	自己学習のためのレポート課題を課す．それを作成することによって講義の予習復習が可能であり、必ず提出すること。なお、予習及び復習には、各2時間程度を要する。
オフィスアワー	6号館4階、6412号室：火曜日5限目、水曜日5限目、その他授業前、放課後、昼休みにお越し下さい。

授業計画	担当者
1.軟骨の基礎	森
2.軟骨障害の基礎	森
3.軟骨修復の基礎	森
4.軟骨修復の臨床	森
5.関節痛の構造的病態	森
6.関節痛の生理	森
7.関節痛の治療(薬物治療)	森
8.関節痛の治療（理学療法）	森
9.関節障害の診断（理学的検査）	森
10.関節障害の診断（血液生化学的検査）	森
11.関節障害の診断（画像的診断XP）	森
12.関節障害の診断（画像的診断MRI）	森
13.関節障害の診断（観血的診断）	森
14.関節障害の診断（関節音の解析）	森
15.まとめ（口頭試問）	森

教科書

教・書籍名１	教科書の指定は無い。前もって資料・テキストを資料を配付する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書

参・書籍名１	骨と軟骨のバイオロジー　－基礎から臨床への展開	参・出版社名１	金原出版社
参・著者名１	藤井克之　井上一	参・ＩＳＢＮ１	978-4-307-25117-4
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	運動機能障害援助特論Ｉ演習	担当者	河村　顕治
配当学科・研究科	2013～ 2016年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学2年／ 2017～ 2022年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学2年	ナンバリング	

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに
到達目標	学生は身体の関節運動、姿勢と平衡の維持及び、動作・運動の遂行に関し、形態学的、運動学的、生体力学的解析法を探求することができる。さらに学生はコンピューターシミュレーションの技法を用いて、従来の手法では計測不可能な筋張力や関節に働く力を求めることができる。
授業概要	人間の基本動作である歩行、立ち上がり、スクワット等について３次元動作解析データと床反力データからコンピューターシミュレーションによって筋張力を求める手法およびそのデータ解析を中心に講義する。得られた結果は動作筋電図のデータと照らし合わせて検証される。 リハビリテーションにおける運動動作の評価を体系化していき、運動学による運動動作の比較や技術の獲得過程における有用な評価を学ぶ。運動動作の評価を実施し、個人の形態や他の心身能力との関連性とを加味しながら、後天的な技能の損失と再獲得における運動動作体系を探求する。本演習では特に、基本的動作の評価と個人に特化した運動学体系について講義し、実際にデータを計測する。
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	文献など研究論文の内容理解への努力や、テーマを掘り下げていく研究姿勢及び研究指導に対する姿勢（20%）、理解促進ために提出を求める課題の内容や質疑応答における発言状況および演習の内容（80%）について評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題等は、授業でフィードバックするので最終講義（口頭試問）までにみなおしておくこと。
履修条件・注意事項	力学、運動学を理解していることを前提とする。
事前学習・事後学習とその時間	予習として、各演習計画および、前回講義で予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて演習を受けること。 また、復習として、毎回の演習の内容を確認し、自分なりにノートにまとめること。 なお、予習、復習には各2時間程度を要する。
オフィスアワー	個人研究室にて、火曜日の4時限目に実施。

授業計画	担当者
第１ 回：動作解析の方法論①	河村顕治
第２ 回：動作解析の方法論②	河村顕治
第３ 回：動作解析の方法論③	河村顕治
第４ 回：Closed Kinetic Chain①	河村顕治
第５ 回：Closed Kinetic Chain②	河村顕治
第６ 回：Closed Kinetic Chain③	河村顕治
第７ 回：立ち上がりの筋張力解析①	河村顕治
第８ 回：立ち上がりの筋張力解析②	河村顕治
第９ 回：歩行動作の筋張力解析①	河村顕治
第10回：歩行動作の筋張力解析②	河村顕治
第11回：ＣＫＣでの二関節筋の作用①	河村顕治
第12回：ＣＫＣでの二関節筋の作用②	河村顕治
第13回：ＣＫＣでの二関節筋の作用③	河村顕治
第14回：単関節筋と二関節筋の協調	河村顕治
第15回：単関節筋と二関節筋の協調	河村顕治

教科書

教・書籍名１	特に定めない。必要に応じてプリントを配布する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	

教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	運動機能障害援助特論Ⅰ演習			担当者	中嶋　正明		
配当学科・研究科	2013～ 2016年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学2年／ 2017～ 2022年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学2年			ナンバリング			
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに
到達目標	運動器疾患に対する理学療法を基礎医学から考える。 ここでは変形性膝関節症を取り上げ，変形性膝関節症に対する理学療法を学び，治療理論，機序を再考する。
授業概要	運動機能障害に対する理学療法において，適切な評価と科学的視座に立った介入方法の確立が求められている。この課題達成のためには運動器疾患について理解を深めることが必須であり，その上で運動学はもとより解剖学，生理学等あらゆる見地から探求していく必要がある。 本講では，実務経験を持つ担当教員が細胞・組織・器官レベルの基礎医学的な視点から運動器疾患について解説し，障害および症状に対する理学療法について文献抄読および実習を通して再考し問題点について論ずる力を獲得する。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション
評価方法と割合	文献収集等の取り組み姿勢（30%），内容の理解や質疑応答における発言状況（30%），および問題点について論理的に論ずる力（40%）を総合的に評価する.
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題やレポート等は，授業でフィードバックするので見直しをしておくこと。
履修条件・注意事項	適宜，実習を行う。
事前学習・事後学習とその時間	収集した学術論文をよく読みしっかりポイントを抽出しておく。 予習および復習には各2時間程度を有する。
オフィスアワー	水曜日3限，6号館3階中嶋研究室（6329）にて

授業計画	担当者
1.変形性膝関節症の痛み（評価１）	中嶋正明
2.変形性膝関節症の痛み（評価２）	中嶋正明
3.変形性膝関節症と膝関節アライメント	中嶋正明
4. 膝関節アライメントと軟骨細胞のアポトーシス	中嶋正明
5.変形性膝関節症と下肢筋力	中嶋正明
6.大腿四頭筋筋力強化（OKC，CKC）	中嶋正明
7.大腿四頭筋筋力強化（拮抗筋の同時収縮）	中嶋正明
8.筋力強化（筋肥大の条件１）	中嶋正明
9.筋力強化（筋肥大の条件２）	中嶋正明
10.関節運動と抗炎症サイトカイン１	中嶋正明
11.関節運動と抗炎症サイトカイン２	中嶋正明
12.関節運動と軟骨細胞の新陳代謝１（強度）	中嶋正明
13.関節運動と軟骨細胞の新陳代謝１（頻度）	中嶋正明
14.変形性膝関節症の保存療法の実際1	中嶋正明
15.変形性膝関節症の保存療法の実際2	

教科書

教・書籍名１	骨と軟骨のバイオロジー	教・出版社名１	金原出版
教・著者名１	藤井 克之 他	教・ＩＳＢＮ１	978-4307251174

教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	運動機能障害援助特論Ｉ演習	担当者	井上　茂樹
配当学科・研究科	2013～ 2016年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学2年／ 2017～ 2022年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学2年	ナンバリング	

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	本特論は、研究における進め方の基本を学ぶことに主眼を置く。その中で運動障がい者のリハビリテーションに関する研究課題や研究方法について理解を深め、自分の意見を表明できることを目標とする。
授業概要	運動障がい者のリハビリテーションに関するアセスメントとインターベンションに焦点を当てて、座位、立位、歩行などの人間が活動するために必要不可欠な基本的動作における研究課題や研究方法について概説し、最新の研究動向やトピックを探求する。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	スクーリングでの講義の際に出されるレポート課題(70%)と講義中の発言、受講態度(30%)によって評価する。なお、講義中に評価のために出した課題等は授業でフィードバックするので見直しておくこと。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	口頭もしくは書面でフィードバックする。
履修条件・注意事項	運動学を理解していることを前提とする。時間を厳守すると供に、与えられた課題の達成のみならず自分自身で考え、積極的に問題点を見つけ出し、明確な質疑応答が出来るようにすること。事前に課題を出し、それについて調べてきたことをもとにして、参加型学習法により授業を行うため、予習が必須である。また、指示に従って必ずノートを作成し復習すること。
事前学習・事後学習とその時間	予習として、各授業計画に記載されている部分について事前に文献および資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。復習として、毎回課題を出すので、次回の授業時に発表すること。また、毎回の授業の内容を確認し、自分なりにノートに纏めること。なお、予習、復習には各2時間程度を要する。
オフィスアワー	6号館4階の井上研究室（6437）において、毎週火曜日2時限目（11:10～12:40）をオフィスアワーの時間とする。

授業計画	担当者
1. 動作解析方法論①	井上茂樹
2. 動作解析方法論②	井上茂樹
3. 動作解析方法論③	井上茂樹
4. 静的姿勢について①	井上茂樹
5. 静的姿勢について②	井上茂樹
6. 動的姿勢について①	井上茂樹
7. 動的姿勢について②	井上茂樹
8. 立位姿勢解析①	井上茂樹
9. 立位姿勢解析②	井上茂樹
10. 立位姿勢解析③	井上茂樹
11. 立位姿勢解析④	井上茂樹
12. 立位姿勢解析⑤	井上茂樹
13. 計測結果の分析①	井上茂樹
14. 計測結果の分析②	井上茂樹
15. 計測結果の分析③	井上茂樹

教科書			
教・書籍名１	必要な資料等は適宜配布する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	

参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	運動機能障害援助特論Ⅰ演習	担当者	森下　元賀
配当学科・研究科	2013～ 2016年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学2年／ 2017～ 2022年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学2年	ナンバリング	

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	「脳血管障害に関する実験的研究の方法論」をテーマとして、各自の研究仮説を証明する具体的な方法を習得する。動作および認知課題を複合した、より対象者の生活に反映できる評価手法、標準的理学療法介入に関して説明できるようになることを目標とする。
授業概要	現状の脳血管障害の対象者が抱えている問題点に関して、身体的側面からだけでなく、心理的側面、認知課題、環境との相互作用などの複合的な側面から問題を捉える。そこから限定された環境の中での対象者の能力だけでなく、より生活に即した評価の方法、治療的介入に関して考えていく。 標準的な介入の構築に加えて、個人の状態において何を考慮して実践していくべきなのか。エビデンスの使用方法と臨床実践に関しても探究していく。 この科目は、理学療法士としての実務経験を持つ教員がその経験を活かし、医療現場において実践的に役立つ授業を実施する。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション
評価方法と割合	本講義は、脳血管障害に関する理学療法の知識の習得を目標にするため、各回の課題(30%)、まとめとしてのレポート課題(30%)、プレゼンテーション内容(40%)によって評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題等は、授業でフィードバックするので、最終講義(口頭試問)までに見直しておくこと。
履修条件・注意事項	文献のレビューや問題点の考察など受講者が主体的に取り組むことが必要である。提示された課題をこなすだけでなく、自ら積極的に考え、意見を述べていく姿勢が重要である。
事前学習・事後学習とその時間	各授業の中で課題を提示する。課題に応じて、自ら調査、分析をして予習、復習を心がけること。その課題の中から授業内で質疑応答を行う。予習、復習には各2時間程度を要する。
オフィスアワー	大学院生に関しては、木曜日に研究室にお越しください。

授業計画	担当者
1. 研究内容に関する最新の知見の講義 2. 研究内容に関する文献の収集方法 3. 研究内容に関する収集文献の発表1 4. 研究内容に関する収集文献の発表2 5. 教員による総括 6. 研究方法論に関して(臨床疫学) 7. 研究方法論に関して(データ収集) 8. 研究方法論に関して(データ解析) 9. 研究内容の発表の方法 10. 研究内容の要旨の報告 11. 研究内容のプレゼンテーション 12. 研究内容のまとめ方 13. 研究内容の報告書の作成 14. 全体的総括 15. 口頭試問	森下元賀

教科書

教・書籍名１	適宜資料を配布する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書

参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	運動機能障害援助特論Ｉ演習	担当者	森　芳史
配当学科・研究科	2013～ 2016年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学2年／ 2017～ 2022年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学2年	ナンバリング	

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	運動器の障害の中でも筋・腱を含めた関節障害は主要な問題である。本講では「関節障害診断の実際」をテーマに講義する。関節障害の理学的診断やX線、MRI画像の読影、筋電計や重心動揺計を用いた動作解析、新しい診断法とである超音波や関節音診断の実際を学び、理学療法士として、研究者としての基礎知識や技能を身につけることを目標とする。
授業概要	本講では関節障害の診断と動作解析に主眼をおき講義する。まず、関節障害の診断について、理学的検査やX線、MRI、超音波診断、筋電図を実際の症例について学ぶと共に新しい診断法となりうる超音波診断や関節音の分析について実技指導する。
アクティブラーニングの内容	実習
評価方法と割合	講義への参加態度ならびに課題の達成度にて評価する。 成績評価基準：参加態度（30%），課題（70%） なお、評価のために実施した課題等は、授業でフィードバックするのでまとめ（口頭試問）までにみなおしておくこと。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業やオンラインで必要なフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	時間を厳守するとともに、与えられた課題の達成のみならず、自分自身で考え、積極的に問題点を見つけだし、明確な質疑応答ができるようにする。
事前学習・事後学習とその時間	自己学習のためのレポート課題を課す．それを作成することによって講義の予習復習が可能であり、必ず提出すること。 なお、予習及び復習には、各2時間程度を要する。
オフィスアワー	6号館4階、6412号室：火曜日5限目、水曜日5限目、その他授業前、放課後、昼休みにお越し下さい。

授業計画	担当者
1.関節障害の診断（理学的検査の現況）	森
2.関節障害の診断（理学的検査の実技）	森
3.関節障害の診断（X線・MRI画像診断の現況）	森
4.関節障害の診断（X線・MRI画像読影の実技1）	森
5.関節障害の診断（X線・MRI画像読影の実技2）	森
6.関節障害の診断（超音波画像診断の現況）	森
7.関節障害の診断（超音波画像診断の実技1）	森
8.関節障害の診断（超音波画像診断の実技2）	森
9.関節障害診断への筋電計利用の現況	森
10.関節障害診断への筋電計応用の実際	森
11.関節音診断の現況	森
12.関節音の基礎	森
13.関節音分析の実技1	森
14.関節音分析の実技2	森
15．まとめ（口頭試問）	森

教科書

教・書籍名１	教科書の指定は無い。前もって資料・テキストを配付する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書

参・書籍名１	関節のMRI 第2版	参・出版社名１	メディカル・サイエンス・インターナショナル
参・著者名１	福田国彦　上谷雅孝　杉本英治　江原茂	参・ＩＳＢＮ１	978-4-89592-732-1
参・書籍名２	運動器の超音波	参・出版社名2	南山堂
参・著者名2	木野達司	参・ＩＳＢＮ2	978-4-525-22631-2

授業科目名	運動機能障害援助特論Ⅱ	担当者	河村　顕治
配当学科・研究科	2011～ 2014年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／ 2013～ 2016年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学1年／ 2017～ 2022年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学1年	ナンバリング	

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	集中講義		

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに
到達目標	学生は身体の関節運動、姿勢と平衡の維持及び、動作・運動の遂行に関し、形態学的、運動学的、生体力学的解析法を探求することができる。さらに学生はコンピューターシミュレーションの技法を用いて、従来の手法では計測不可能な筋張力や関節に働く力を求めることができる。
授業概要	人間の基本動作である歩行、立ち上がり、スクワット等について３次元動作解析データと床反力データからコンピューターシミュレーションによって筋張力を求める手法およびそのデータ解析を中心に講義する。得られた結果は動作筋電図のデータと照らし合わせて検証される。 リハビリテーションにおける運動動作の評価を体系化していき、運動学による運動動作の比較や技術の獲得過程における有用な評価を学ぶ。運動動作の評価を実施し、個人の形態や他の心身能力との関連性とを加味しながら、後天的な技能の損失と再獲得における運動動作体系を探求する。本講では特に、基本的動作の評価と個人に特化した運動学体系について講義する。
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	文献など研究論文の内容理解への努力や、テーマを掘り下げていく研究姿勢及び研究指導に対する姿勢（20%）、理解促進ために提出を求める課題の内容や質疑応答における発言状況（80%）について評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題等は、授業でフィードバックするので最終講義（口頭試問）までにみなおしておくこと。
履修条件・注意事項	力学、運動学を理解していることを前提とする。
事前学習・事後学習とその時間	予習として、各授業計画および、前回授業で予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。 また、復習として、毎回の授業の内容を確認し、自分なりにノートにまとめること。 なお、予習、復習には各2時間程度を要する。
オフィスアワー	個人研究室にて、火曜日の4時限目に実施。

授業計画	担当者
第１ 回：動作解析の方法論①	河村顕治
第２ 回：動作解析の方法論②	河村顕治
第３ 回：動作解析の方法論③	河村顕治
第４ 回：Closed Kinetic Chain①	河村顕治
第５ 回：Closed Kinetic Chain②	河村顕治
第６ 回：Closed Kinetic Chain③	河村顕治
第７ 回：立ち上がりの筋張力解析①	河村顕治
第８ 回：立ち上がりの筋張力解析②	河村顕治
第９ 回：歩行動作の筋張力解析①	河村顕治
第10回：歩行動作の筋張力解析②	河村顕治
第11回：ＣＫＣでの二関節筋の作用①	河村顕治
第12回：ＣＫＣでの二関節筋の作用②	河村顕治
第13回：ＣＫＣでの二関節筋の作用③	河村顕治
第14回：単関節筋と二関節筋の協調	河村顕治
第15回：単関節筋と二関節筋の協調	河村顕治

教科書

教・書籍名１	特に定めない。必要に応じてプリントを配布する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	

教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	運動機能障害援助特論Ⅱ	担当者	中嶋　正明
配当学科・研究科	2011～ 2014年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／ 2013～ 2016年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学1年／ 2017～ 2022年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学1年	ナンバリング	

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	集中講義		

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに
到達目標	運動器疾患に対する理学療法を基礎医学から考える。 筋力強化および筋リクルートメントパターンの修正について学ぶ。 筋力強化および筋リクルートメントパターンの修正について，その治療理論，機序について説明できることを目標とする。
授業概要	運動機能障害に対する理学療法において，適切な評価と科学的視座に立った介入方法の確立が求められている。この課題達成のためには運動器疾患について理解を深めることが必須であり，その上で運動学はもとより解剖学，生理学等あらゆる見地から探求していく必要がある。 本講では，実務経験を有する担当教員が細胞・組織・器官レベルの基礎医学的な視点から運動器疾患について講義し，障害および症状に対する理学療法について説明できる力を獲得する。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション
評価方法と割合	文献収集やその読解等の研究論文の内容理解のための取り組み姿勢（30%），文献の理解度（30%），および問題点について論理的に論ずる力（40%）を総合的に評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題やレポート等は授業でフィードバックするので見直しをしておくこと。
履修条件・注意事項	学術論文の収集に時間がかかるため早めに取り組みを開始して欲しい。
事前学習・事後学習とその時間	収集した学術論文をよく読みしっかりポイントを抽出しておく。 予習および復習には各2時間程度を有する。
オフィスアワー	水曜日3限，6号館3階中嶋研究室（6329）

授業計画	担当者
1.筋の解剖生理（構造）	中嶋正明
2.筋の解剖生理（筋張力）	中嶋正明
3.筋の解剖生理（筋肥大の条件）	中嶋正明
4.筋の解剖生理（同時収縮）	中嶋正明
5.下肢筋力強化法の実際（OKC）	中嶋正明
6.下肢筋力強化法の実際（CKC）	中嶋正明
7.下肢筋力強化法の実際（拮抗筋の同時収縮）	中嶋正明
8.運動単位（遅筋，速筋）	中嶋正明
9.運動単位（サイズの原理）	中嶋正明
10.運動単位（サイズの原理の例外）	中嶋正明
11.筋リクルートメントパターンの破綻（肩インピンジメント）	中嶋正明
12.筋リクルートメントパターンの破綻（慢性腰痛）	中嶋正明
13.破綻した筋リクルートメントパターンの修正１	中嶋正明
14.破綻した筋リクルートメントパターンの修正２	中嶋正明
15.破綻した筋リクルートメントパターンの修正３	中嶋正明

教科書

教・書籍名１	「生理学」	教・出版社名１	
教・著者名１	真島英信	教・ＩＳＢＮ１	978-4-8306-0201-6
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	適宜、配布する。	参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	運動機能障害援助特論Ⅱ	担当者	井上　茂樹
配当学科・研究科	2011～ 2014年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／ 2013～ 2016年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学1年／ 2017～ 2022年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学1年	ナンバリング	

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	集中講義		

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	本特論は、リハビリテーションにおける問題発見能力や問題解決能力、さらにそれらを研究として探求する能力を身につける。その中で、運動障がい者のリハビリテーションに関する今日的課題について、文献を通して研究課題や研究方法について理解を深め、理論的・実践的思考を身につけることを目標とする。
授業概要	運動障がい者のリハビリテーションに関するアセスメントとインターベンションに焦点を当てて、座位、立位、歩行などの人間が活動するために必要不可欠な基本的動作における研究課題や研究方法について概説し、最新の研究動向やトピックを紹介する。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート／プレゼンテーション
評価方法と割合	スクーリングでの講義の際に出されるレポート課題(70%)と講義中の発言、受講態度(30%)によって評価する。なお、講義中に評価のために出した課題等は授業でフィードバックするので見直しておくこと。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	口頭もしくは書面でフィードバックする。
履修条件・注意事項	毎回、何らかのテーマを持ってくること。欠席の場合は、前もって連絡のこと。時間を厳守すると供に、与えられた課題の達成のみならず自分自身で考え、積極的に問題点を見つけ出し、明確な質疑応答が出来るようにすること。事前に課題を出し、それについて調べてきたことをもとにして授業を行うため、予習が必須である。また、指示に従って必ずノートを作成し復習すること。
事前学習・事後学習とその時間	予習として、各授業計画に記載されている部分について事前に文献および資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。復習として、毎回課題を出すので、次回の授業時に発表すること。また、毎回の授業の内容を確認し、自分なりにノートに纏めること。なお、予習、復習には各2時間程度を要する。
オフィスアワー	6号館4階の井上研究室（6437）において、毎週火曜日2時限目（11:10～12:40）をオフィスアワーの時間とする。

授業計画	担当者
1. 文献の検索，収集，整理，レビュー1	井上茂樹
2. 文献の検索，収集，整理，レビュー2	井上茂樹
3. 文献の検索，収集，整理，レビュー3	井上茂樹
4. 研究結果のまとめ方1	井上茂樹
5. 研究結果のまとめ方2	井上茂樹
6. 研究結果のまとめ方3	井上茂樹
7. 研究発表の実際1	井上茂樹
8. 研究発表の実際2	井上茂樹
9. 研究発表の実際3	井上茂樹
10.論文の書き方1	井上茂樹
11.論文の書き方2	井上茂樹
12.論文の書き方3	井上茂樹
13.研究トピック1	井上茂樹
14.研究トピック2	井上茂樹
15.研究トピック3	井上茂樹

教科書

教・書籍名１	必要な資料等は適宜配布する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	運動機能障害援助特論Ⅱ	担当者	森下　元賀
配当学科・研究科	2011～ 2014年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／ 2013～ 2016年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学1年／ 2017～ 2022年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学1年	ナンバリング	

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	集中講義		

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	「脳血管障害に関するトピックス」をテーマとして、脳血管障害の機能改善機序および同疾患のリハビリテーション介入に関する知見を実際の論文をレビューしながら学習する。　神経心理学的研究、リハビリテーション研究、行動科学的研究の各方法に関して、研究デザインを説明できることを目標とする。
授業概要	現状の脳科学、神経生理学、神経心理学の研究に関して、レビューを行い、それぞれの研究からの知見、批判的吟味を通しての問題点、限界、リハビリテーションへの応用などについて考えていく。将来、脳に関する研究はどのように進んでいくべきなのか、リハビリテーションの立場から見た現状の脳機能研究の問題点に関しても考えていく。 この科目は、理学療法士としての実務経験を持つ教員がその経験を活かし、医療現場において実践的に役立つ授業を実施する。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション
評価方法と割合	本講義は、脳血管障害に関する理学療法の知識の習得を目標にするため、レポート課題(60%)、プレゼンテーション課題(40%)として評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題等は、授業でフィードバックするので、最終講義(口頭試問)までに見直しておくこと。
履修条件・注意事項	文献のレビューや問題点の考察など受講者が主体的に取り組むことが必要である。提示された課題をこなすだけでなく、自ら積極的に考え、意見を述べていく姿勢が重要である。
事前学習・事後学習とその時間	各授業の中で課題を提示する。課題に応じて、自ら調査、分析をして予習、復習を心がけること。その課題の中から授業内で質疑応答を行う。予習、復習には各2時間程度を要する。
オフィスアワー	大学院生に関しては、木曜日に研究室にお越しください。

授業計画	担当者
1. 正常な脳機能に関する研究1 2. 正常な脳機能に関する研究2 3. 神経生理学的研究1 4. 神経生理学的研究2 5. 神経心理学的研究1 6. 神経心理学的研究2 7. 行動科学的研究1 8. 行動科学的研究2 9. 運動学、力学的研究1 10. 運動学、力学的研究2 11. リハビリテーションにおける実験的研究1 12. リハビリテーションにおける実験的研究2 13. リハビリテーションにおける実験的研究3 14. 課題プレゼンテーション1 15. 課題プレゼンテーション2	森下元賀

教科書			
教・書籍名１	適宜資料を配布する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			

参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	運動機能障害援助特論Ⅱ	担当者	森　芳史
配当学科・研究科	2011～ 2014年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／ 2013～ 2016年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学1年／ 2017～ 2022年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学1年	ナンバリング	

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	集中講義		

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	運動器の障害の中でも筋・腱を含めた関節障害は主要な問題である。本講では「関節障害の病態と診断,治療」をテーマに講義する。関節障害の理学的診断やX線、MRI、超音波の実際、新しい診断法となりうる関節音診断を学ぶと共に関節障害の治療について探求し、理学療法士として、研究者としての基礎知識や思考力を身につけることを目標とする。
授業概要	本講では主たる関節である肩、股、膝、足関節の関節障害の診断と治療の現況と今後の課題について講義する。まず、関節障害の診断について、理学的検査やX線、MRI、超音波診断、筋電図検査の現況を文献を中心に学び、今後の課題について考えると共に、新しい診断法となりうる関節音の分析の基礎について講義する。さらにこれらの関節の治療方法を紹介すると共に新しい展開について考えていく。
アクティブラーニングの内容	実習
評価方法と割合	講義への参加態度ならびに課題の達成度にて評価する。 成績評価基準：参加態度（30%），課題（70%） なお、評価のために実施した課題や小テスト等は、授業でフィードバックするのでまとめ（口頭試問）までにみなおしておくこと。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業やオンラインで必要なフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	時間を厳守するとともに、与えられた課題の達成のみならず、自分自身で考え、積極的に問題点を見つけだし、明確な質疑応答ができるようにする。
事前学習・事後学習とその時間	自己学習のためのレポート課題を課す．それを作成することによって講義の予習復習が可能であり、必ず提出すること。なお、予習及び復習には、各2時間程度を要する。
オフィスアワー	6号館4階、6412号室：火曜日5限目、水曜日5限目、その他授業前、放課後、昼休みにお越し下さい。

授業計画	担当者
1.肩関節障害の病態生理	森
2.肩関節障害に対する診断・治療の現況	森
3.肩関節障害に対する診断・治療の今後の展開	森
4.股関節障害の病態生理	森
5.股関節障害に対する診断・治療の現況1	森
6.股関節障害に対する診断・治療の現況2	森
7.股関節障害に対する診断・治療の今後の展開	森
8.膝関節障害の病態生理	森
9.膝関節障害に対する診断治療の現況1	森
10.膝関節障害に対する診断治療の現況2	森
11.膝関節障害に対する診断・治療の今後の展開	森
12.足関節障害の病態生理	森
13.足関節障害に対する診断治療の現況	森
14.足関節障害に対する診断・治療の今後の展開	森
15.まとめ（口頭試問）	森

教科書

教・書籍名１	教科書の指定は無い。前もって資料・テキストを配付する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	多関節運動連鎖からみた変形性関節症の保存療法	参・出版社名１	全日本病院出版会
参・著者名１	井原秀俊　木藤伸宏　加藤浩	参・ＩＳＢＮ１	978-4-8817-040-3
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	運動機能障害援助特論Ⅱ演習			担当者	河村　顕治		
配当学科・研究科	2014年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学2年／2013～ 2016年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学2年／ 2017～ 2022年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学2年			ナンバリング			
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	集中講義		

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに
到達目標	学生は身体の関節運動、姿勢と平衡の維持及び、動作・運動の遂行に関し、形態学的、運動学的、生体力学的解析法を探求することができる。さらに学生はコンピューターシミュレーションの技法を用いて、従来の手法では計測不可能な筋張力や関節に働く力を求めることができる。
授業概要	人間の基本動作である歩行、立ち上がり、スクワット等について３次元動作解析データと床反力データからコンピューターシミュレーションによって筋張力を求める手法およびそのデータ解析を中心に講義する。得られた結果は動作筋電図のデータと照らし合わせて検証される。 リハビリテーションにおける運動動作の評価を体系化していき、運動学による運動動作の比較や技術の獲得過程における有用な評価を学ぶ。運動動作の評価を実施し、個人の形態や他の心身能力との関連性とを加味しながら、後天的な技能の損失と再獲得における運動動作体系を探求する。本講では特に、基本的動作の評価と個人に特化した運動学体系について講義し、実際にデータを計測する。
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	文献など研究論文の内容理解への努力や、テーマを掘り下げていく研究姿勢及び研究指導に対する姿勢（20%）、理解促進ために提出を求める課題の内容や質疑応答における発言状況および演習の内容（80%）について評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題等は、授業でフィードバックするので最終講義（口頭試問）までにみなおしておくこと。
履修条件・注意事項	力学、運動学を理解していることを前提とする。
事前学習・事後学習とその時間	予習として、各演習計画および、前回講義で予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて演習を受けること。 また、復習として、毎回の演習の内容を確認し、自分なりにノートにまとめること。 なお、予習、復習には各2時間程度を要する。
オフィスアワー	個人研究室にて、火曜日の4時限目に実施。

授業計画	担当者
第１ 回：動作解析の方法論①	河村顕治
第２ 回：動作解析の方法論②	河村顕治
第３ 回：動作解析の方法論③	河村顕治
第４ 回：Closed Kinetic Chain①	河村顕治
第５ 回：Closed Kinetic Chain②	河村顕治
第６ 回：Closed Kinetic Chain③	河村顕治
第７ 回：立ち上がりの筋張力解析①	河村顕治
第８ 回：立ち上がりの筋張力解析②	河村顕治
第９ 回：歩行動作の筋張力解析①	河村顕治
第10回：歩行動作の筋張力解析②	河村顕治
第11回：ＣＫＣでの二関節筋の作用①	河村顕治
第12回：ＣＫＣでの二関節筋の作用②	河村顕治
第13回：ＣＫＣでの二関節筋の作用③	河村顕治
第14回：単関節筋と二関節筋の協調	河村顕治
第15回：単関節筋と二関節筋の協調	河村顕治

教科書			
教・書籍名１	特に定めない。必要に応じてプリントを配布する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	

教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	運動機能障害援助特論Ⅱ演習	担当者	中嶋　正明
配当学科・研究科	2014年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学2年／2013～ 2016年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学2年／ 2017～ 2022年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学2年	ナンバリング	

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	集中講義		

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに
到達目標	運動器疾患に対する理学療法を基礎医学から考える。 筋力強化および筋リクルートメントパターンの修正について学ぶ。 筋力強化および筋リクルートメントパターンの修正について，その治療理論，機序について説明できることを目標とする。
授業概要	運動機能障害に対する理学療法において，適切な評価と科学的視座に立った介入方法の確立が求められている。この課題達成のためには運動器疾患について理解を深めることが必須であり，その上で運動学はもとより解剖学，生理学等あらゆる見地から探求していく必要がある。 本講では，実務経験を有する担当教員が細胞・組織・器官レベルの基礎医学的な視点から運動器疾患について講義し，障害および症状に対する理学療法について説明できる力を獲得する。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション
評価方法と割合	文献収集やその読解等の研究論文の内容理解のための取り組み姿勢（30%），文献の理解度（30%），および問題点について論理的に論ずる力（40%）を総合的に評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題やレポート等は授業でフィードバックするので見直しをしておくこと。
履修条件・注意事項	学術論文の収集に時間がかかるため早めに取り組みを開始して欲しい。
事前学習・事後学習とその時間	収集した学術論文をよく読みしっかりポイントを抽出しておく。 予習および復習には各2時間程度を有する。
オフィスアワー	水曜日3限，6号館3階中嶋研究室（6329）

授業計画	担当者
1.下肢筋力強化法の実際（Quad setting，SLR）	中嶋正明
2.下肢筋力強化法の実際（Squat）	中嶋正明
3.下肢筋力強化法の実際（modified Quad setting）	中嶋正明
4.下肢筋力強化法の実際（スロートレーニング１）	中嶋正明
5.下肢筋力強化法の実際（スロートレーニング２）	中嶋正明
6.下肢筋力強化法の実際（求心性収縮，遠心性収縮）	中嶋正明
7.筋リクルートメントパターン（肩インピンジメント）	中嶋正明
8. 筋リクルートメントパターン（慢性腰痛）	中嶋正明
9. 筋リクルートメントパターンと疼痛	中嶋正明
10.破綻した筋リクルートメントパターンの修正（肩インピンジメント）	中嶋正明
11. 破綻した筋リクルートメントパターンの修正（慢性腰痛　bird-dog Ex）	中嶋正明
12. 破綻した筋リクルートメントパターンの修正（慢性腰痛　modified bird-dog Ex）	中嶋正明
13. 破綻した筋リクルートメントパターンの修正（慢性腰痛　背臥位で出来る多裂筋Ex）	中嶋正明
14. 筋力強化と筋リクルートメントパターン	中嶋正明
15. まとめ（口頭試問）	中嶋正明

教科書			
教・書籍名１	「生理学」	教・出版社名１	

教・著者名１	真島英信	教・ＩＳＢＮ１	978-4-8306-0201-6
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	運動機能障害援助特論Ⅱ演習	担当者	井上　茂樹
配当学科・研究科	2014年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学2年／2013～ 2016年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学2年／ 2017～ 2022年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学2年	ナンバリング	

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	集中講義		

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	本特論は、リハビリテーションにおける問題発見能力や問題解決能力、さらにそれらを研究として探求する能力を身につける。その中で、運動障がい者のリハビリテーションに関する今日的課題について、文献を通して研究課題や研究方法について理解を深め、理論的・実践的思考を身につけることを目標とする。
授業概要	運動障がい者のリハビリテーションに関するアセスメントとインターベンションに焦点を当てて、座位、立位、歩行などの人間が活動するために必要不可欠な基本的動作における研究課題や研究方法について概説し、最新の研究動向やトピックを学習し探求する。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	スクーリングでの講義の際に出されるレポート課題(70%)と講義中の発言、受講態度(30%)によって評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	口頭もしくは書面でフィードバックする。
履修条件・注意事項	運動学を理解していることを前提とする。時間を厳守すると供に、与えられた課題の達成のみならず自分自身で考え、積極的に問題点を見つけ出し、明確な質疑応答が出来るようにすること。事前に課題を出し、それについて調べてきたことをもとにして、参加型学習法により授業を行うため、予習が必須である。また、指示に従って必ずノートを作成し復習すること。
事前学習・事後学習とその時間	予習として、各授業計画に記載されている部分について事前に文献および資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。復習として、毎回課題を出すので、次回の授業時に発表すること。また、毎回の授業の内容を確認し、自分なりにノートに纏めること。なお、予習、復習には各2時間程度を要する。
オフィスアワー	6号館4階の井上研究室（6437）において、毎週火曜日2時限目（11:10～12:40）をオフィスアワーの時間とする。

授業計画	担当者
1. 動作解析方法論①	井上茂樹
2. 動作解析方法論②	井上茂樹
3. 動作解析方法論③	井上茂樹
4. 静的姿勢について①	井上茂樹
5. 静的姿勢について②	井上茂樹
6. 動的姿勢について①	井上茂樹
7. 動的姿勢について②	井上茂樹
8. 正常歩行解析①	井上茂樹
9. 正常歩行解析②	井上茂樹
10. 正常歩行解析③	井上茂樹
11. 応用歩行解析①	井上茂樹
12. 応用歩行解析②	井上茂樹
13. 歩行周期解析	井上茂樹
14. 計測結果の分析①	井上茂樹
15. 計測結果の分析②	井上茂樹

教科書			
教・書籍名１	必要な資料等は適宜配布する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			

参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	運動機能障害援助特論Ⅱ演習	担当者	森下　元賀
配当学科・研究科	2014年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学2年／2013～ 2016年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学2年／ 2017～ 2022年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学2年	ナンバリング	

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	集中講義		

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	「脳血管障害に関する実験的研究の方法論」をテーマとして、各自の研究仮説を証明する具体的な方法を習得する。動作および認知課題を複合したより対象者の生活に反映できる評価手法、標準的理学療法介入の方法を列挙できることを目標とする。
授業概要	現状の脳血管障害の対象者が抱えている問題点に関して、身体的側面からだけでなく、心理的側面、認知課題、環境との相互作用などの複合的な側面から問題を捉える。そこから限定された環境の中での対象者の能力だけでなく、より生活に即した評価の方法、治療的介入に関して考えていく。 標準的な介入の構築に加えて、個人の状態において何を考慮して実践していくべきなのか。エビデンスの使用方法と臨床実践に関しても探究していく。 この科目は、理学療法士としての実務経験を持つ教員がその経験を活かし、医療現場において実践的に役立つ授業を実施する。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション
評価方法と割合	本講義は、脳血管障害に関する理学療法の知識の習得を目標にするため、各回の課題(30%)、まとめとしてのレポート課題(30%)、プレゼンテーション内容(40%)によって評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題等は、授業でフィードバックするので、最終講義(口頭試問)までに見直しておくこと。
履修条件・注意事項	講義の中でも受講者に積極的に発言を求めていく。提示された課題をこなすだけでなく、自ら積極的に考え、意見を述べていく姿勢が重要である。　また、研究内容のプレゼンテーションの際には他人に伝えるということを意識して、分かりやすく行うことが重要である。
事前学習・事後学習とその時間	各授業の中で課題を提示する。課題に応じて、自ら調査、分析をして予習、復習を心がけること。その課題の中から授業内で質疑応答を行う。予習、復習には各2時間程度を要する。
オフィスアワー	大学院生に関しては、木曜日に研究室で適宜実施する

授業計画	担当者
1. 研究内容に関する最新の知見の講義 2. 研究内容に関する文献の収集方法 3. 研究内容に関する収集文献の発表1 4. 研究内容に関する収集文献の発表2 5. 教員による総括 6. 研究方法論に関して(臨床疫学) 7. 研究方法論に関して(データ収集) 8. 研究方法論に関して(データ解析) 9. 研究内容の発表の方法 10. 研究内容の要旨の報告 11. 研究内容のプレゼンテーション 12. 研究内容のまとめ方 13. 研究内容の報告書の作成 14. 研究報告と質疑応答 15. 全体的総括	森下元賀

教科書			
教・書籍名１	適宜資料を配布する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	

教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	運動機能障害援助特論Ⅱ演習	担当者	森　芳史
配当学科・研究科	2014年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学2年／2013～ 2016年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学2年／ 2017～ 2022年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学2年	ナンバリング	

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	集中講義		

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	運動器の障害の中でも筋・腱を含めた関節障害は主要な問題である。本講では「関節障害の病態と診断,治療の実際」をテーマに講義する。関節障害の理学的診断やX線、MRI、超音波の実際、新しい診断法となりうる関節音診断を学ぶと共に関節障害の治療手技について探求し、理学療法士として、研究者としての基礎知識や技能、思考力を身につけることを目標とする。
授業概要	本講では主たる関節である肩、股、膝、足関節の関節障害の診断と治療の実際について講義する。まず、関節障害の診断について、理学的検査やX線、MRI、超音波診断、筋電図検査を実際の症例について経験すると共に、今後の課題について考える。また、新しい診断法となりうる関節音の分析の実際について実技指導する。さらに、現在行われている治療について症例をあげながら解説指導する。
アクティブラーニングの内容	実習
評価方法と割合	講義への参加態度ならびに課題の達成度にて評価する。 成績評価基準：参加態度（30%），課題（70%） なお、評価のために実施した課題や小テスト等は、授業でフィードバックするのでまとめ（口頭試問）までにみなおしておくこと。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業やオンラインで必要なフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	時間を厳守するとともに、与えられた課題の達成のみならず、自分自身で考え、積極的に問題点を見つけだし、明確な質疑応答ができるようにする。
事前学習・事後学習とその時間	自己学習のためのレポート課題を課す．それを作成することによって講義の予習復習が可能であり、必ず提出すること。なお、予習及び復習には、各2時間程度を要する。
オフィスアワー	6号館4階、6412号室：火曜日5限目、水曜日5限目、その他授業前、放課後、昼休みにお越し下さい。

授業計画	担当者
1.肩関節障害の画像的診断の実際 （ｘ線写真、ＭＲＩ）	森
2.肩関節障害の画像的診断の実際 （超音波画像）	森
3.肩関節障害に対する関節音診断の実際	森
4.肩関節障害の治療の実際と今後の展開	森
5.股関節障害の画像的診断の実際 （ｘ線写真、ＭＲＩ）	森
6.股関節障害の治療の実際と今後の展開	森
7.膝関節障害の画像的診断の実際 （ｘ線写真、ＭＲＩ）	森
8.膝関節障害の画像的診断の実際 （超音波画像）	森
9.膝関節障害に対する関節音診断の実際	森
10.膝関節障害の治療の実際と今後の展開	森

11.足関節障害の画像的診断の実際（ｘ線写真、ＭＲＩ）	森
12.足関節障害の画像的診断の実際（超音波画像）	森
13.足関節障害に対する関節音診断の実際	森
14.足関節障害の治療の実際と今後の展開	森
15.まとめ（口頭試問）	森

教科書			
教・書籍名１	教科書の指定は無い。前もって資料・テキストを配付する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	関節のMRI 第2版	参・出版社名１	メディカル・サイエンス・インターナショナル
参・著者名１	福田国彦　上谷雅孝　杉本英治　江原茂	参・ＩＳＢＮ１	978-4-89592-732-1
参・書籍名２	運動器の超音波	参・出版社名2	南山堂
参・著者名2	木野達司	参・ＩＳＢＮ2	978-4-525-22631-2

授業科目名	生活機能障害援助特論Ⅰ	担当者	齋藤　圭介
配当学科・研究科	2011～ 2018年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／ 2013～ 2016年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学1年／ 2017～ 2022年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学1年	ナンバリング	

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	本特論では，生活機能障害の援助に資する基本的な研究方法論の修得をテーマに，その遂行に必要な研究的思考と知識技術を身につける。 リハビリテーション援助を，「QOL」や「生活」に影響を与える健康の維持増進や疾病・障害の回復に関連した医学的活動の総称と考え，当該領域の研究課題について適切な研究デザインを設定するための科学的思考を身につける事を到達目標とする。
授業概要	近年「健康感」は疾患や障害を持ちながら身体的・精神的・社会的によりよい生活を送ることと考えられるようになった。健康に関する研究では，生活機能の自立性や生活の質（QOL）が重視され、適切な効果判定と科学的支援が求められている。本特論では，リハビリテーションをQOLに影響する健康増進や疾病・障害の回復に関連した医学的活動の総称と考え検討を進める。具体的にはQOL等の評価と規定要因の解明、因果モデル構築に資する研究方法論を身につけるための学修を進める。その他，社会活動などのライフスタイルも取り上げる。 ※実務経験のある教員による授業科目 この科目は，理学療法士としての実務経験と研究実績を持つ教員が，その経験を生かし，臨床現場と研究活動に実践的に役立つ授業を実施する。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション
評価方法と割合	授業における課題の取り組み状況（80%），ならびに研究課題の進捗状況（20%）を本科目で修得した知識・技術・研究的思考が具現化されたものとみなし，両者より評価する。詳しい評価方法は，最初の授業時に説明する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	評価に関わる課題やレポート等は，授業内，またはMicrosoft Teamsを活用しフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	事前課題に取り組むことや自らの研究を更に発展させるためにも，予習や復習に十分取り組むと共に，積極的な姿勢で臨む事。なお履修方法は相談に応じて柔軟に対応する。
事前学習・事後学習とその時間	事前に課題を与え報告を行ない，それを蓄積し自身の研究への還元を進めるため，予習と復習が必須である。課題は，各回授業時において指示する。予習および復習には，各2時間程度を要する。
オフィスアワー	個人研究室にて，金曜日5時限目に実施。それ以外についても随時対応する。

授業計画	担当者
1. 実証研究の進め方－問題意識の明確化－理論	齋藤
2. 実証研究の進め方－問題意識の明確化－応用	齋藤
3. 現象をとらえる－変数とその測定－理論	齋藤
4. 現象をとらえる－変数とその測定－応用	齋藤
5. 文献検索－先行研究のレビュー－理論	齋藤
6. 文献検索－先行研究のレビュー－応用	齋藤
7. 研究デザインの作成－モデルと仮説の構築－理論	齋藤
8. 研究デザインの作成－モデルと仮説の構築－応用	齋藤
9. 調査計画と進め方－対象と方法の決定－理論	齋藤
10. 調査計画と進め方－対象と方法の決定－ 応用	齋藤
11. 調査票の作成－理論	齋藤
12. 調査票の作成－応用	齋藤
13. データの収集と統計解析－理論	齋藤
14. データの収集と統計解析－応用	齋藤
15. 既出事項のまとめ	齋藤
教科書	

教・書籍名１	使用しない（適宜必要な文献および資料等を提示する）	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	生活機能障害援助特論Ⅰ	担当者	原田　和宏
配当学科・研究科	2011～ 2018年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／ 2013～ 2016年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学1年／ 2017～ 2022年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学1年	ナンバリング	

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	調査研究の進め方の基本を学ぶ。 健康寿命や介護予防などといった現代社会のトピックを踏まえた実証研究の具体例を紹介する。あわせてそれらのトピックと研究とのつながり、ならびに教員が取り組んでいる研究について解説する。また、履修生が取り組んでいる研究に役立つと思われる課題を設定し、指導を行っていきたいと考えている。
授業概要	少子高齢化の進展に伴い高齢者の「健康感」については近年変化がみられ、疾患や障害を持ちながら身体的・精神的・社会的によりよい生活を送ることが健康であると考えられるようになってきた。一方、高齢者の健康状態に関する研究動向をみると生活機能の自立性や生活の質（Quality of life；QOL）が重視され、その適切な効果判定と科学的な支援の方法論が求められている。 本特論においては、リハビリテーション援助をQOLに影響を与える健康の維持増進や疾病・障害の回復に関連した医学的活動の総称と考え検討を進める。具体的には、QOLの評価とその規定要因の解明、ならびにその因果モデルの構築を試みるべく、研究方法論について提示していきたいと考える。また、高齢者の多くが抱えている運動器の障害における疼痛や移動能力に着目した活動能力やQOLの評価についても取り上げる。その他、趣味活動や社会活動などのライフスタイルを適切にとらえる評価についても提示する予定である。
アクティブラーニングの内容	PBL／ディスカッション／プレゼンテーション
評価方法と割合	文献など研究論文の内容理解への努力や、テーマを掘り下げていく研究姿勢及び研究指導に対する姿勢（20%）、理解促進ために提出を求める課題の内容や質疑応答における発言状況（20%）について評価すると共に、作成された資料について、論旨の妥当性等を総合的に評価する（60%）。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題や等は、授業でフィードバックするので最終講義（口頭試問）までにみなおしておくこと。
履修条件・注意事項	リハビリテーション研究ではフレキシブルな問題解決能力が要求されると同時に、正確に情報理解するためには豊富な基礎知識も不可欠である。したがって、毎回，予習と復習について真剣に取り組んでもらいたい。
事前学習・事後学習とその時間	予習として、各授業計画および、前回授業で予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。 また、復習として、毎回の授業で指摘した専門用語を教科書で確認して，自分なりにノートにまとめること。 なお、予習、復習には各2時間程度を要する。
オフィスアワー	6号館4階の個人研究室において，毎週火曜日4限と木曜日3限をオフィスアワーの時間とする.

授業計画	担当者
1. 実証研究の進め方 —問題意識の明確化— 2. 現象をとらえる —変数とその測定— 3. 文献検索 —先行研究のレビュー— 4. 研究デザインの作成 —モデルと仮説の構築— 5. 調査計画と進め方 —対象と方法の決定— 6. 調査票の作成 7. データの収集と統計解析 8. 解析結果のまとめ方 9. 研究結果の発表の仕方 10. 論文の書き方 11. 調査票の作成 12. データの収集と統計解析 13. 解析結果のまとめ方 14. 研究結果の発表の仕方	

15. 論文の書き方 16. 試験	

教科書			
教・書籍名１	必要な資料等は適宜配布する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	生活機能障害援助特論Ⅰ	担当者	佐藤　三矢
配当学科・研究科	2011～ 2018年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／ 2013～ 2016年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学1年／ 2017～ 2022年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学1年	ナンバリング	

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	【テーマ】 ①地域や介護保険施設における介入研究の進め方の基本を学ぶ。 ②健康寿命延伸や介護予防などといった現代社会の実情をふまえた実証研究の具体例を学ぶ。 【到達目標】 学生は、本邦の地域社会におけるトレンドと研究とのつながりを理解することができるようになる。
授業概要	日本の国家予算における社会保障費にカテゴライズされている介護費の削減は加速している。この背景をふまえれば、高齢者の健康寿命延伸は必須の課題である。健康寿命延伸の実現のためには「Physical」と「Mental」の両側面が健康である必要がある。そのためには「生活機能の自立」や「生活の質（Quality of life；QOL）の維持／向上」が重要であり、その適切な効果判定と科学的な支援の方法論の探求を実践が求められている。本特論では、地域や施設内の現場レベルにおける効果的で実践的な介入方法の探求について教授する。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート／プレゼンテーション
評価方法と割合	レポートと課題発表等の内容で評価する(100%)。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	講義を通じて評価のために出した課題は、毎回授業においてフィードバックするので、期日までに見直しておくこと。
履修条件・注意事項	リハビリテーション研究では、フレキシブルな問題解決能力が要求されると同時に、正確に情報理解するためには豊富な基礎知識も不可欠である。したがって、毎回の予習と復習について真剣に取り組んでもらいたい。
事前学習・事後学習とその時間	【予習】 各授業計画および前回授業で予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。次回講義において学ぶ予定の内容について、事前に配布された講義資料をよく読んで知っておくことが重要である。 【復習】 毎講義において、前回の講義で学んだ内容について、学生に対する質問をランダムに行う「質問会（15分間）」を実施するので、質問を受けても返答できるようにノート等を確認して家庭学習をしておくこと。 【留意事項】 なお、予習と復習には各２時間程度を要するため、学修のための日々のスケジュール管理が重要である。
オフィスアワー	６号館４階の個人研究室において、毎週水曜日４～５時限目をオフィスアワーの時間とする。

授業計画	担当者
1. 研究の進め方 2. 現象のとらえ方 3. 文献検索 （先行研究のレビュー） 4. 研究デザインの作成 5. 研究計画と進め方 6. エンドポイントの決め方 7. データの収集と統計解析 8. 解析結果のまとめ方 9. 研究結果の発表の仕方 10. 論文の書き方 11. 調査票や同意書などの作成 12. データの収集と統計解析 13. 解析結果のまとめ方 14. 研究結果の発表の仕方	佐藤

15. 論文の書き方			
教科書			
教・書籍名１	特に指定はせず、講義の中で適宜指示する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	生活機能障害援助特論Ⅰ演習	担当者	齋藤　圭介
配当学科・研究科	2018年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学2年／2013～ 2016年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学2年／ 2017～ 2022年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学2年	ナンバリング	

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	本特論では，生活機能障害の援助に資する研究方法論修得をテーマに，研究を具体化させる上で必要な研究的思考と知識技術を身につける。 地域リハビリテーションの立場に立って，生活機能障害を身体的・精神的・社会的に広い事象をとらえると共に，疾患特異性や環境を踏まえた援助や介入を見出す上での方法論について理解を深め，当該領域で修士論文を作成する上での科学的思考を身につける事を到達目標とする。
授業概要	高齢社会の進展により要介護者や認知症者が急増し，健康寿命延伸が重要なテーマとなっている。また生活の質(QOL)の理念のもと主観的側面がアウトカムとして重視されている。リハビリテーション専門職は生活能力やQOLへの洞察力が求められ、能力低下や障害原因を探るとともに、将来を見据えた援助が必要である。この演習では地域リハビリテーションの立場に立って、身体的・精神的・社会的に広い事象をとらえると共に、疾患特異性や障害を踏まえた援助や介入を見出す上での方法論を身につけるための学修を進める。 ※実務経験のある教員による授業科目 この科目は，理学療法士としての実務経験と研究実績を持つ教員が，その経験を生かし，臨床現場と研究活動に実践的に役立つ授業を実施する。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション
評価方法と割合	授業における課題の取り組み状況（80%），ならびに研究課題の進捗状況（20%）を本科目で修得した知識・技術・研究的思考が具現化されたものとみなし，両者より評価する。詳しい評価方法は，最初の授業時に説明する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	評価に関わる課題やレポート等は，授業内，またはMicrosoft Teamsを活用しフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	自らの研究を更に発展させるためにも，課題に十分取り組むと共に，積極的な姿勢で臨む事。なお履修方法は相談に応じて柔軟に対応する。
事前学習・事後学習とその時間	事前に課題を与え報告を行ない，それを蓄積し自身の研究への還元を進めるため，予習と復習が必須である。課題は，各回授業時において指示する。予習および復習には，各2時間程度を要する。
オフィスアワー	個人研究室にて，金曜日5時限目に実施。それ以外についても随時対応する。

授業計画	担当者
1. キーワードの選定－方法論	齋藤
2. キーワードの 選定－実際	齋藤
3. 関連論文の抄読－方法論	齋藤
4. 関連論文の抄読－実際	齋藤
5. 社会的背景の議論－理論	齋藤
6. 社会的背景の議論－実際	齋藤
7. 研究 背景の要約－理論	齋藤
8. 研究背景の要約－実際	齋藤
9. 実証研究の手続き－方法論	齋藤
10. 実証研究の手続き－実際	齋藤
11. サンプリングの手法－方法論	齋藤
12. サンプリングの手法－実際	齋藤
13. 統計解析の方法－理論	齋藤
14. 統計解析の方法－実際	齋藤
15. 既出事項のまとめ	齋藤
教科書	

教・書籍名１	使用しない（適宜必要な文献および資料等を提示する）	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	生活機能障害援助特論Ⅰ演習	担当者	原田　和宏
配当学科・研究科	2018年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学2年／2013～ 2016年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学2年／ 2017～ 2022年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学2年	ナンバリング	

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	2年次配当科目であることから受講する院生は、調査研究による修士論文の作成を志す者である。 各自が取り組んでいる研究テーマについて発表し、積極的なディスカッションの力を身につける。
授業概要	リハビリテーション専門職にとっては、対象者の生活能力やQOLに対する深い洞察力が求められ、その能力低下や障害の原因を探るとともに、将来を見据えた上での援助が必要である。この演習では、リハビリテーション援助特論Vから引き続き、地域リハビリテーション論の立場に立って、主に地域高齢者を対象に身体的・精神的・社会的に広い事象をとらえると共に、疾患特異性や障害を踏まえた援助や介入を見出す上での方法論について検討を深めていく。
アクティブラーニングの内容	PBL／ディスカッション／プレゼンテーション
評価方法と割合	文献など研究論文の内容理解への努力や、テーマを掘り下げていく研究姿勢及び研究指導に対する姿勢（20%）、理解促進ために提出を求める課題の内容や質疑応答における発言状況（20%）について評価すると共に、作成された資料について、論旨の妥当性等を総合的に評価する（60%）。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題や等は、授業でフィードバックするので最終講義（口頭試問）までにみなおしておくこと。
履修条件・注意事項	人の行動を単位とするリハビリテーション研究ではフレキシブルな問題解決能力が要求されると同時に、正確に情報理解するためには豊富な基礎知識も不可欠である。したがって、毎回，予習と復習について真剣に取り組んでもらいたい。
事前学習・事後学習とその時間	予習として、各授業計画および、前回授業で予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。 また、復習として、毎回の授業で指摘した専門用語を教科書で確認して，自分なりにノートにまとめること。 なお、予習、復習には各2時間程度を要する。
オフィスアワー	6号館4階の個人研究室において，毎週火曜日4限と木曜日3限をオフィスアワーの時間とする．

授業計画	担当者
1. キーワードの選定 2. 関連論文の抄読 3. 社会的背景の議論 4. 研究背景の要約 5. 実証研究の手続き 6. サンプリングの手法 7. 統計解析の方法 8. 研究計画書の作成 9. 調査票の作成 10. 調査の実施とデータの解析 11. データ解析の妥当性 12. 結果の解釈と意義 13. 研究結果の吟味 14. 研究成果のまとめ方 —1 学会発表 15. 研究成果のまとめ方 —2 論文作成 16. 試験	原田和宏

教科書			
教・書籍名１	学生の発表を加え、必要に応じてプリントを配布する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	

教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	生活機能障害援助特論Ⅰ演習			担当者	佐藤　三矢		
配当学科・研究科	2018年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学2年／2013～ 2016年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学2年／ 2017～ 2022年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学2年			ナンバリング			
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	【テーマ】 本科目は大学院修士課程2年次の配当科目であり、受講する大学院生における研究活動を通じた修士論文の作成を志す者である自覚を根付かせる。 【到達目標】 学生は、自身が取り組んでいる研究テーマについて発表し、哲学的水準での熟考力を習得できるようになる。
授業概要	介護現場に携わる専門職においては、対象者の生活能力やQOLに対する深い洞察力が求められ、その能力低下や障害の原因を探るとともに将来を見据えた上での援助が必要である。本演習では、リハビリテーション援助特論Vから引き続き、地域リハビリテーション論の立場に立って、主に地域高齢者を対象に身体的・精神的・社会的に広い事象をとらえると共に、疾患特異性や障害を踏まえた援助や介入を見出す上での方法論について検討を深めていく。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート／プレゼンテーション
評価方法と割合	レポートや発表の内容および研究成果等により評価する(100%)。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	講義の中で、評価のために出した課題は授業にフィードバックするので各期の最終日までに見直しておくこと。
履修条件・注意事項	毎回予習と復習を課す。
事前学習・事後学習とその時間	【予習】 各授業計画および前回授業で予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。次回講義において学ぶ予定の内容について、事前に配布された講義資料をよく読んで知っておくことが重要である。 【復習】 毎講義において、前回の講義で学んだ内容について、学生に対する質問をランダムに行う「質問会（15分間）」を実施するので、質問を受けても返答できるようにマイノートを作成して家庭学習をしておくこと。 【留意事項】 なお、予習、復習には各２時間程度を要するため、学修のための日々のスケジュール管理が重要である。
オフィスアワー	６号館４階の個人研究室において、毎週水曜日４～５時限目をオフィスアワーの時間とする。

授業計画	担当者
1. 研究キーワード選定 2. 文献レビュー（抄読） 3. 社会的背景に関する討議 4. 研究背景要約 5. 研究手続きの検討 6. サンプリングの手法 7. 統計解析の方法 8. 研究計画書の作成 9. 調査票の作成 10. 調査の実施とデータの解析 11. データ解析の妥当性 12. 結果の解釈と意義 13. 研究結果の吟味 14. 研究成果のまとめ方 —1st発表 15. 研究成果のまとめ方 —2nd発表	佐藤

論文作成			
教科書			
教・書籍名１	特に指定はせず、講義の中で適宜指示する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	生活機能障害援助特論Ⅱ	担当者	齋藤　圭介
配当学科・研究科	2011～ 2018年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／ 2013～ 2016年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学1年／ 2017～ 2022年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学1年	ナンバリング	

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	集中講義		

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	生活機能障害援助特論Ⅰ演習から引き続き，生活機能障害の援助に資する研究方法論修得をテーマに，研究を具体化させる上で必要な研究的思考とさらなる知識技術を身につける。 地域リハビリテーション論の立場に立って，主に地域高齢者を対象に身体的・精神的・社会的に広い事象をとらえると共に，疾患特異性や環境を踏まえた援助や介入を見出す上での方法論について理解を深め，当該領域で修士論文を作成する上での更なる科学的思考を身につける事を到達目標とする。
授業概要	高齢社会進展により要介護者や認知症者が急増し，健康寿命延伸が重要なテーマとなっている。また生活の質(QOL)の理念のもと主観的側面がアウトカムとして重視されている。リハ専門職は生活能力やQOLへの洞察力が求められ，能力低下や障害原因を探るとともに，将来予測に基づく援助が必要である。この演習では生活機能障害援助特論Ⅰ演習から引き続き，地域リハの立場から身体的・精神的・社会的に広い事象をとらえると共に，疾患特異性や障害を踏まえた援助や介入を見出す上での研究方法論について更なる学修を進める。 ※実務経験のある教員による授業科目 この科目は，理学療法士としての実務経験と研究実績を持つ教員が，その経験を生かし，臨床現場と研究活動に実践的に役立つ授業を実施する。
アクティブラーニングの内容	ディベート／プレゼンテーション
評価方法と割合	授業における課題の取り組み状況（80%），ならびに研究課題の進捗状況（20%）を本科目で修得した知識・技術・研究的思考が具現化されたものとみなし，両者より評価する。詳しい評価方法は，最初の授業時に説明する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	評価に関わる課題やレポート等は，授業内，またはMicrosoft Teamsを活用しフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	自らの研究を更に発展させるためにも，課題に十分取り組むと共に，積極的な姿勢で臨む事。なお履修方法は相談に応じて柔軟に対応する。
事前学習・事後学習とその時間	事前に課題を与え報告を行ない，それを蓄積し自身の研究への還元を進めるため，予習と復習が必須である。課題は，各回授業時において指示する。予習および復習には，各2時間程度を要する。
オフィスアワー	個人研究室にて，木曜日3時限目に実施。それ以外についても随時対応する。

授業計画	担当者
1. 研究計画書の作成－方法論	齋藤
2. 研究計画書の作成－実際	齋藤
3. 調査票の作成－方法論	齋藤
4. 調査票の作成－実際	齋藤
5. 調査の実施とデータの解析－方法論	齋藤
6. 調査の実施とデータの解析－実際	齋藤
7. データ解析の妥当性－理論	齋藤
8. データ解析の妥当性－実際	齋藤
9. 結果の解釈と意義－理論	齋藤
10. 結果の解釈と意義－実際	齋藤
11. 研究結果の吟味－方法論	齋藤
12. 研究結果の吟味－実際	齋藤
13. 研究成果のまとめ方－学会発表－	齋藤
14. 研 究成果のまとめ方－論文作成－	齋藤
15. 既出事項のまとめ	齋藤
教科書	

教・書籍名１	使用しない（適宜必要な文献および資料等を提示する）	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	生活機能障害援助特論Ⅱ	担当者	原田　和宏
配当学科・研究科	2011～ 2018年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／ 2013～ 2016年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学1年／ 2017～ 2022年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学1年	ナンバリング	

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	集中講義		

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	健康寿命や介護予防などといった現代社会のトピックを踏まえた実証研究の具体例を紹介する。あわせてそれらのトピックと研究とのつながり、ならびに教員が取り組んでいる研究について解説する。 調査研究の進め方の基本を学ぶ。
授業概要	少子高齢化の進展に伴い高齢者の「健康感」については近年変化がみられ、疾患や障害を持ちながら身体的・精神的・社会的によりよい生活を送ることが健康であると考えられるようになってきた。一方、高齢者の健康状態に関する研究動向をみると生活機能の自立性や生活の質（Quality of life；QOL）が重視され、その適切な効果判定と科学的な支援の方法論が求められている。 本特論においては、リハビリテーション援助をQOLに影響を与える健康の維持増進や疾病・障害の回復に関連した医学的活動の総称と考え検討を進める。具体的には、QOLの評価とその規定要因の解明、ならびにその因果モデルの構築を試みるべく、研究方法論について提示していきたいと考える。また、高齢者の多くが抱えている運動器の障害における疼痛や移動能力に着目した活動能力やQOLの評価についても取り上げる。その他、趣味活動や社会活動などのライフスタイルを適切にとらえる評価についても提示する予定である。
アクティブラーニングの内容	PBL／ディスカッション／プレゼンテーション
評価方法と割合	文献など研究論文の内容理解への努力や、テーマを掘り下げていく研究姿勢及び研究指導に対する姿勢（20%）、理解促進ために提出を求める課題の内容や質疑応答における発言状況（20%）について評価すると共に、作成された資料について、論旨の妥当性等を総合的に評価する（60%）。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題や等は、授業でフィードバックするので最終講義（口頭試問）までにみなおしておくこと。
履修条件・注意事項	リハビリテーション研究ではフレキシブルな問題解決能力が要求されると同時に、正確に情報理解するためには豊富な基礎知識も不可欠である。したがって、毎回，予習と復習について真剣に取り組んでもらいたい。
事前学習・事後学習とその時間	予習として、各授業計画および、前回授業で予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。 また、復習として、毎回の授業で指摘した専門用語を教科書で確認して，自分なりにノートにまとめること。 なお、予習、復習には各2時間程度を要する。
オフィスアワー	6号館4階の個人研究室において，毎週火曜日4限と木曜日3限をオフィスアワーの時間とする．

授業計画	担当者
1. 研究テーマに関するレビュー：検索指導 2. 研究テーマに関するレビュー指導 — 題目 3. 研究テーマに関するレビュー指導 — 緒言 4. 研究テーマに関するレビュー指導 — 方法 5. 研究テーマに関するレビュー指導 — 結果 6. 研究テーマに関するレビュー指導 — 考察 7. 研究テーマに関するレビュー指導 — 文献孫引き 8. 研究テーマに関するレビュー指導 — アブストラクトテーブル 9. 研究テーマに関するレビュー指導 — メタアナリシス 10. アブストラクトテーブル作成指導 — 項目 11. アブストラクトテーブル作成指導 — 介入内容 12. アブストラクトテーブル作成指導 — アウトカム 13. アブストラクトテーブル作成指導 — 対象 14. アブストラクトテーブル作成指導 — 備考 15. 研究テーマの背景と必然性指導（まとめ）	原田和宏

16. 試験			
教科書			
教・書籍名１	必要な資料等は適宜配布する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	生活機能障害援助特論Ⅱ	担当者	佐藤　三矢
配当学科・研究科	2011～ 2018年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／ 2013～ 2016年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学1年／ 2017～ 2022年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学1年	ナンバリング	

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	集中講義		

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	【テーマ】 地域や介護保険施設における介入研究の進め方の基本を学ぶ。また、健康寿命延伸や介護予防などといった現代社会の実情をふまえた実証研究の具体例、教員が取り組んでいる地域での研究活動などを題材にして解説し、社会のトレンドと研究とのつながりの理解を深める。 【到達目標】 学生は、自身の研究課題と社会のトレンドとの関連性や自身の研究における社会的意義を明確に理解できるようになる。
授業概要	日本の国家予算における社会保障費にカテゴライズされている介護費の削減は加速しており、このような背景をふまえると、高齢者の健康寿命延伸は必須の課題である。健康寿命延伸の実現のためには「Physical」と「Mental」の両側面が健康である必要となる。そのためには「生活機能の自立」や「生活の質（ＱＯＬ）の維持／向上」が求められ、本科目では、その適切な効果判定と科学的な支援の方法論を探求していくとともに、地域や施設内の現場レベルにおける効果的で実践的な介入方法の探求について教授する。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート／プレゼンテーション
評価方法と割合	レポート・課題発表等の内容で評価する(100%)。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	講義中において、評価のために出した課題は授業にフィードバックするので、各期の最終日までに見直しておくこと。
履修条件・注意事項	リハビリテーション研究では、フレキシブルな問題解決能力が要求されると同時に、正確に情報理解するためには豊富な基礎知識も不可欠である。したがって、毎回の予習と復習について真剣に取り組んでもらいたい。
事前学習・事後学習とその時間	【予習】 各授業計画および前回授業で予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。次回講義において学ぶ予定の内容について、事前に配布された講義資料をよく読んで知っておくことが重要である。 【復習】 毎講義において、前回の講義で学んだ内容について、学生に対する質問をランダムに行う「質問会（15分間）」を実施するので、質問を受けても返答できるようにノート等を確認して家庭学習をしておくこと。 【留意事項】 予習、復習には各２時間程度を要するため、学修のための日々のスケジュール管理が重要である。
オフィスアワー	６号館４階の個人研究室において、毎週水曜日４～５時限目をオフィスアワーの時間とする。

授業計画	担当者
1.解析結果のまとめ方①（理論） 2.解析結果のまとめ方②（応用） 3.研究結果の発表の仕方①（理論） 4.研究結果の発表 の仕方②（応用） 5.論文の書き方①（理論） 6.論文の書き方②（応用） 7.研究トピック①（介護予防とＱＯＬ） 8.研究トピック②（自立支援） 9. 研究トピック③（障害予防） 10.研究トピック④（測定指標の開発） 11.研究トピック⑤（測定指標の開発とその応用） 12.研究トピック⑥（記述研究）	佐藤

13.研究トピック⑦（分析研究：関連） 14.研究トピック⑧（分析研究：因果） 15.まとめ	

教科書			
教・書籍名１	特に指定はせず、講義の中で適宜指示する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	生活機能障害援助特論Ⅱ演習			担当者	齋藤　圭介		
配当学科・研究科	2018年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学2年／2013～ 2016年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学2年／ 2017～ 2022年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学2年			ナンバリング			
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	集中講義		

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	生活機能障害援助特論Ⅰ演習から引き続き，生活機能障害の援助に資する研究方法論修得をテーマに，研究を具体化させる上で必要な研究的思考とさらなる知識技術を身につける。 地域リハビリテーション論の立場に立って，主に地域高齢者を対象に身体的・精神的・社会的に広い事象をとらえると共に，疾患特異性や環境を踏まえた援助や介入を見出す上での方法論について理解を深め，当該領域で修士論文を作成する上での更なる科学的思考を身につける事を到達目標とする。
授業概要	高齢社会進展により要介護者や認知症者が急増し，健康寿命延伸が重要なテーマとなっている。また生活の質(QOL)の理念のもと主観的側面がアウトカムとして重視されている。リハ専門職は生活能力やQOLへの洞察力が求められ，能力低下や障害原因を探るとともに，将来予測に基づく援助が必要である。この演習では生活機能障害援助特論Ⅰ演習から引き続き，地域リハの立場から身体的・精神的・社会的に広い事象をとらえると共に，疾患特異性や障害を踏まえた援助や介入を見出す上での研究方法論について更なる学修を進める。 ※実務経験のある教員による授業科目 この科目は，理学療法士としての実務経験と研究実績を持つ教員が，その経験を生かし，臨床現場と研究活動に実践的に役立つ授業を実施する。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション
評価方法と割合	授業における課題の取り組み状況（80%），ならびに研究課題の進捗状況（20%）を本科目で修得した知識・技術・研究的思考が具現化されたものとみなし，両者より評価する。詳しい評価方法は，最初の授業時に説明する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	評価に関わる課題やレポート等は，授業内，またはMicrosoft Teamsを活用しフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	自らの研究を更に発展させるためにも，課題に十分取り組むと共に，積極的な姿勢で臨む事。なお履修方法は相談に応じて柔軟に対応する。
事前学習・事後学習とその時間	事前に課題を与え報告を行ない，それを蓄積し自身の研究への還元を進めるため，予習と復習が必須である。課題は，各回授業時において指示する。予習および復習には，各2時間程度を要する。
オフィスアワー	個人研究室にて，木曜日3時限目に実施。それ以外についても随時対応する。

授業計画	担当者
1. 研究計画書の作成－方法論	齋藤
2. 研究計画書の作成－実際	齋藤
3. 調査票の作成－方法論	齋藤
4. 調査票の作成－実際	齋藤
5. 調査の実施とデータの解析－方法論	齋藤
6. 調査の実施とデータの解析－実際	齋藤
7. データ解析の妥当性－理論	齋藤
8. データ解析の妥当性－実際	齋藤
9. 結果の解釈と意義－理論	齋藤
10. 結果の解釈と意義－実際	齋藤
11. 研究結果の吟味－方法論	齋藤
12. 研究結果の吟味－実際	齋藤
13. 研究成果のまとめ方－学会発表－	齋藤
14. 研究成果のまとめ方－論文作成－	齋藤
15. 既出事項のまとめ	齋藤
教科書	

教・書籍名１	使用しない（適宜必要な文献および資料等を提示する）	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	生活機能障害援助特論Ⅱ演習	担当者	原田　和宏
配当学科・研究科	2018年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学2年／2013～ 2016年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学2年／ 2017～ 2022年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学2年	ナンバリング	

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	集中講義		

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	2年次配当科目であることから受講する院生は、調査研究による修士論文の作成を志す者である。 各自が取り組んでいる研究テーマについて発表し、積極的なディスカッションの力を身につける.
授業概要	リハビリテーション専門職にとっては、対象者の生活能力やQOLに対する深い洞察力が求められ、その能力低下や障害の原因を探るとともに、将来を見据えた上での援助が必要である。この演習では、リハビリテーション援助特論Ⅵから引き続き、地域リハビリテーション論の立場に立って、主に地域高齢者を対象に身体的・精神的・社会的に広い事象をとらえると共に、疾患特異性や障害を踏まえた援助や介入を見出す上での方法論について検討を深めていく。
アクティブラーニングの内容	PBL／ディスカッション／プレゼンテーション
評価方法と割合	文献など研究論文の内容理解への努力や、テーマを掘り下げていく研究姿勢及び研究指導に対する姿勢（20%）、理解促進ために提出を求める課題の内容や質疑応答における発言状況（20%）について評価すると共に、作成された資料について、論旨の妥当性等を総合的に評価する（60%）。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題や等は、授業でフィードバックするので最終講義（口頭試問）までにみなおしておくこと。
履修条件・注意事項	毎回，予習と復習を課す。
事前学習・事後学習とその時間	予習として、各授業計画および、前回授業で予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。 また、復習として、毎回の授業で指摘した専門用語を教科書で確認して，自分なりにノートにまとめること。 なお、予習、復習には各2時間程度を要する。
オフィスアワー	6号館4階の個人研究室において，毎週火曜日4限と木曜日3限をオフィスアワーの時間とする.

授業計画	担当者
1. 研究モデル指導 — 1　関連性 2. 研究モデル指導 — 2　アウトカム 3. 研究モデル指導 — 3　説明変数 4. 研究モデル指導 — 4　交絡変数 5. 研究モデル指導 — 5 6. 研究デザイン指導 — 6　内部妥当性 7. 研究デザイン指導 — 7　データ要約 8. 研究デザイン指導 — 8 9. 研究デザイン指導 — 9 10. 修論プレゼンテーション指導 — 1　パワポ 11. 修論プレゼンテーション指導 — 2　絵コンテ 12. 修論プレゼンテーション指導 — 3 13. 修論プレゼンテーション指導 — 4 14. 修論プレゼンテーション指導 — 5 15. 研究テーマの背景と必然性指導（まとめ） 16. 試験	原田和宏

教科書			
教・書籍名１	学生の発表を加え、必要に応じてプリントを配布する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	

教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	生活機能障害援助特論Ⅱ演習	担当者	佐藤　三矢
配当学科・研究科	2018年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学2年／2013～ 2016年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学2年／ 2017～ 2022年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学2年	ナンバリング	

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	集中講義		

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	【テーマ】 学生が取り組んでいる研究テーマについて発表し合い、討論を実施する。 【到達目標】 積極的かつ意義の高いディスカッションや検討を展開できる力を身につける。
授業概要	この演習では、リハビリテーション援助特論VIから引き続き、地域リハビリテーション論の立場に立って、主に地域高齢者を対象に身体的・精神的・社会的に広い事象をとらえると共に、疾患特異性や障害を踏まえた援助や介入を見出す上での方法論について検討を深めていく。リハビリテーション専門職にとっては、対象者の生活能力やQOLに対する深い洞察力が求められ、その能力低下や障害の原因を探るとともに、将来を見据えた上での援助が必要であることを教授する。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート／プレゼンテーション
評価方法と割合	レポートや発表の内容および研究成果等により評価する(100%)。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	講義中において評価のために出した課題は、授業の中でフィードバックしていくので、各期の最終日までに見直しておくこと。
履修条件・注意事項	毎回予習と復習を課す。
事前学習・事後学習とその時間	【予習】 各授業計画および、前回授業で予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。次回講義において学ぶ予定の内容について、事前に配布された講義資料をよく読んで知っておくことが重要である。 【復習】 毎講義において、前回の講義で学んだ内容についての質問をランダムに行う「質問会（15分間）」を実施するので、質問を受けても返答できるようにマイノートを作成してして家庭学習をしておくこと。 【留意事項】 予習、復習には各２時間程度を要するため、学修のための日々のスケジュール管理が重要である。
オフィスアワー	６号館４階の個人研究室において、毎週水曜日４～５時限目をオフィスアワーの時間とする。

授業計画	担当者
1.研究計画書の作成（方法論） 2.研究計画書の作成（実際） 3.調査票の作成（方法論） 4.調査票の作成（実際） 5.調査の実施とデータの解析（方法） 6.調査の実施とデータの解析（実際） 7.データ解析の妥当性（理論） 8.データ解析の妥当性（実際） 9.結果の解釈と意義（理論） 10. 結果の解釈と意義（実際） 11.研究結果の吟味（方法論） 12.研究結果の吟味（実際） 13.研究成果のまとめ方（プレゼンテーション） 14.研 究成果のまとめ方（論文作成） 15.まとめ	佐藤
教科書	

教・書籍名１	特に指定せず、講義の中で適宜指示する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	作業機能障害援助特論Ｉ	担当者	京極　真
配当学科・研究科	2014～ 2016年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／ 2013～ 2016年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学1年／ 2017～ 2022年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学1年	ナンバリング	

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	テーマ：大学院生は、作業に根ざした実践（ocupation-based practice, OBP）の理解を深め、実践と研究に活用できるようになる。 到達目標：大学院生は、先行研究の動向と課題を理解でき、新しいOBPについて総合的に理解することができる。 大学院生は、自身の実践と研究の関連性を理解できる。
授業概要	下記の講義計画にしたがい、OBPの理解を深める。具体的には、さまざまな文献の精読を通して、OBPの理論構造を解明し、典型的なアプローチについて学修する。また自身の実践と研究の関連について議論を通して理解を深めることができる。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート／グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	課題（５０％）・発表（５０％）で総合評価する. なお、評価のために実施した課題等は、講義でフィードバックするので最終講義までにみなおしておくこと。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	口頭及び書面でフィードバックする。
履修条件・注意事項	予習と復習を求める。
事前学習・事後学習とその時間	予習、復習には各2時間ほど必要である。 自己学習のためのレポート課題を課す。 それを作成することによって講義の予習復習が可能であり、必ず提出すること。
オフィスアワー	曜日：月曜５限目、金曜５限目 場所：６号館４階6428号室

授業計画	担当者
１．オリエンテーション	京極
２．先行研究の輪読１（OB）	京極
３．先行研究の輪読２（MOHO）	京極
４．先行研究の輪読３（CMOPE）	京極
５．先行研究の輪読４（OTIPM）	京極
６．先行研究の輪読５（PEOM）	京極
７．先行研究の輪読６（OAT）	京極
８．先行研究の輪読７（RM）	京極
９．OBPの課題１：哲学	京極
１０．OBPの課題２：理論	京極
１１．OBPの課題３：実践	京極
１２．新OBP１：作業機能障害の種類	京極
１３．新OBP２：信念対立	京極
１４．新OBP３：OBP2.0	京極
１５．まとめ	京極
１６．口頭試問	京極

教科書

教・書籍名１	適宜紹介	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書

参・書籍名１	適宜紹介	参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	作業機能障害援助特論Ⅰ	担当者	岩田　美幸
配当学科・研究科	2014～ 2016年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／ 2013～ 2016年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学1年／ 2017～ 2022年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学1年	ナンバリング	

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30時間	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに／１０．人や国の不平等をなくそう／１１．住み続けられるまちづくりを
到達目標	講義のテーマは，「自己の関心のある作業療法と作業機能障害の知識を学ぶ」とする．修士論文を作成する過程において，先ず研究計画，研究方針を策定する第一の科目である．先行研究より，作業療法の現状と作業機能障害について知識を深めることができる．研究テーマを明確にすることができる．研究内容に成り立つ研究体制・研究計画を確立することができるを到達目標とする．
授業概要	作業療法基礎教育及び生涯教育を円滑に行うには「教育」と「作業機能障害」に関する見識をもった指導者の育成が重要となる。この授業では、自己関心が高い作業療法教に必要な知識として、評価や治療、制度について体系的に修得する。同時に，作業療法士の資格を有する教員が経験に基づき、修士論文テーマの設定，研究計画書の策定，実施方法などを具体的に指導する．リハビリテーション援助特論と平行して、作業療法の現場にてデータを取って解析し、その知見を報告する。前期は、量的なデータ収集・解析、後期は質的なデータ収集・モデルの構築を目標とする。
アクティブラーニングの内容	PBL／ディスカッション／ディベート／グループワーク／プレゼンテーション
評価方法と割合	文献や研究論文などによる内容理解への努力や、テーマを掘り下げていく姿勢及び研究指導に対する姿勢(30%)、質疑応答における発言状況（30%）、研究進捗状況に応じた提出物の内容（40%）から、総合的に評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	口頭や書面にてフィードバックする。
履修条件・注意事項	毎週1回の講義終了時に，研究の進行に合わせて，課題を提示する．また，必ず，毎回レポートを作成し報告すること．レポートや課題については，提出した翌週の講義内にフィードバックを行う．
事前学習・事後学習とその時間	主指導教員1名と2名の副指導教員の体制の下，予習・復習はもとより，教員に指示を仰ぎ積極的な姿勢で研究課題に取り組むこと。週1回の講義終了時に，研究の進行に合わせて，課題を提示する．予習・復習を２時間以上行うこと．また，必ず，毎回レポートを作成し報告すること．
オフィスアワー	6号館4階6429研究室において毎週月曜日2限をオフィスアワーの時間とする（岩田）

授業計画	担当者
1.作業療法と作業機能障害の概要	岩田
2.研究テーマの策定	岩田
3.作業療法の基礎知識の確認	岩田
4.作業療法の先行研究の調査	岩田
5.作業療法の先行研究の概要発表	岩田
6.作業療法の概要発表の講評	岩田
7.研究テーマと先行研究の比較	岩田
8.研究テーマの発表会	岩田
9.研究テーマの確定	岩田
10.作業機能障害の基礎知識の確認	岩田
11.作業機能障害の先行研究の調査	岩田
12.作業機能障害の先行研究の発表	岩田
13.作業機能障害の概要発表の講評	岩田
14.研究テーマと先行研究の比較	岩田
15.研究計画書発表用資料の完成	岩田
16.　研究計画発表	岩田
教科書	

教・書籍名１	作業で創るエビデンス 作業療法士のための研究法の学びかた	教・出版社名１	医学書院
教・著者名１	友利　幸之介／京極　真／竹林　崇	教・ＩＳＢＮ１	978-4-260-03662-7
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	作業療法がわかるPBLテュートリアル Step by Step	参・出版社名１	医学書院
参・著者名１	編集：宮前　珠子／新宮　尚人	参・ＩＳＢＮ１	978-4-260-01700-8
参・書籍名２	作業療法研究法	参・出版社名2	医学書院
参・著者名2	竹田徳則、大浦智子	参・ＩＳＢＮ2	978-4-263-21676-7

授業科目名	作業機能障害援助特論Ⅰ	担当者	三宅　優紀
配当学科・研究科	2014～ 2016年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／ 2013～ 2016年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学1年／ 2017～ 2022年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学1年	ナンバリング	

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに
到達目標	テーマは「作業機能障害」である。作業機能障害とは、生活行為を適切にやり遂げられない状態をいい、それにより健康状態が悪化したり、QOLが低下するといわれている。疾病や障害の予防の重要性が強調されている現在、作業機能障害の実態を明らかにする意義は非常に大きい。 目標は以下である。 １）学生は作業機能障害について知識を深めることができる ２）学生は疫学研究の方法論について理解することができる
授業概要	以下の講義の計画に沿って、進めていく。作業療法学は個人を対象にする学問であるが、疫学は集団を対象とするポピュレーションアプローチである。作業療法分野での大規模疫学研究はほとんどないが、これから予防医学、産業分野で作業療法士が活躍していくためには、必要なことである。そのため文献レビューを行い、研究の動向を知りながら研究テーマをしぼっていく。 ※実務経験のある教員による授業科目 この科目では、作業療法士としての実務経験をもつ教員がその経験を活かし、作業機能障害学等の領域において実践的に役立つ授業を実施する。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション
評価方法と割合	1. 演習の理解度(50%) 2. 発表内容(50%)で評価する 総合的に評価する
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題のフィードバックは演習中に行う。
履修条件・注意事項	研究テーマにより内容の変更あり。 与えられた課題の達成のみならず自分自身で考え、積極的に問題点を見つけ出し、質疑応答ができるようにすること。
事前学習・事後学習とその時間	予習として、1時間各授業計画に記載されている部分について教科書を読み、理解できない点をまとめておき、講義内でディスカッションする。また文献レビューをすすめておく。 復習として、1時間程度文献整理、レビューを行う。
オフィスアワー	6号館3階研究室6315において毎週水曜日3限をオフィスアワーの時間とする。

授業計画	担当者
第1回.作業療法研究の概要	三宅
第2回.研究テーマの策定	三宅
第3回.研究テーマに沿った基礎知識の確認	三宅
第4回.研究テーマに関する先行研究の調査	三宅
第5回.研究テーマに関する先行研究の概要発表	三宅
第6回.概要発表の講評	三宅
第7回.研究テーマと先行研究の比較	三宅
第8回.研究テーマの確定	三宅
第9回.中間フォロー	三宅
第10回.研究計画書の執筆概要	三宅
第11回.研究計画書の確認および講評	三宅
第12回.研究計画書の完成	三宅
第13回.発表資料の執筆概要の説明と作成	三宅

第14回.研究計画書資料の確認および講評	三宅
第15回.研究計画書発表用資料の完成	三宅
第16回.　レポート試験	三宅

教科書			
教・書籍名１	必要に応じて指示します	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	作業機能障害援助特論Ｉ	担当者	寺岡　睦
配当学科・研究科	2014～ 2016年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／ 2013～ 2016年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学1年／ 2017～ 2022年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学1年	ナンバリング	

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに
到達目標	テーマ：大学院生は、作業に根ざした実践（ocupation-based practice, OBP）の理解を深め、日々の実践と研究に活用できるようになる。 到達目標：大学院生は、先行研究の動向と課題を理解でき、OBPについて総合的に理解することができる。 大学院生は、自身の実践と研究の関連性を理解できる。
授業概要	さまざまな文献の精読を通して、OBPの理論構造を解明し、典型的なアプローチについて学修する。また自身の実践と研究の関連について議論を通して理解を深めることができる。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	課題（５０％）・発表（５０％）で総合評価する. なお、評価のために実施した課題等は、講義でフィードバックするので最終講義までにみなおしておくこと。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題や発表に関しては講義内でのディスカッションでフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	予習と復習を求める。
事前学習・事後学習とその時間	予習、復習には各2時間ほど必要である。 自己学習のためのレポート課題を課す。 それを作成することによって講義の予習復習が可能であり、必ず提出すること。
オフィスアワー	曜日：月曜５限目、金曜５限目 場所：６号館４階6428号室

授業計画	担当者
1. オリエンテーション	1. 寺岡
2. 先行研究の輪読1（OBP）	2. 寺岡
3. 先行研究の輪読2（MOHO）	3. 寺岡
4. 先行研究の輪読3（CMOP-E）	4. 寺岡
5. 先行研究の輪読4（OTIPM）	5. 寺岡
6. 先行研究の輪読5（PEOM）	6. 寺岡
7. 先行研究の輪読6（OAT）	7. 寺岡
8. 先行研究の輪読7（RM）	8. 寺岡
9. OBPの課題1：哲学	9. 寺岡
10. OBPの課題2：理論	10. 寺岡
11. OBPの課題3：実践	11. 寺岡
12. 新OBP1：作業機能障害の種類	12. 寺岡
13. 新OBP2：信念対立	13. 寺岡
14. 新OBP3：OBP2.0	14. 寺岡
15. まとめ	15. 寺岡
16. 単位認定試験（ふりかえりと総まとめ）	16. 寺岡

教科書			
教・書籍名１	適宜紹介	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	適宜紹介	参・出版社名１	

参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	作業機能障害援助特論Ⅰ演習	担当者	京極　真
配当学科・研究科	2014～ 2016年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業2年／ 2013～ 2016年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学2年／ 2017～ 2022年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学2年	ナンバリング	

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	テーマ： 大学院生は、国内外の先行研究のレビューを行い、多様な研究法を理解して、洗煉された研究計画を作成することができる。 到達目標： 大学院生は、先行研究のレビューが行え、量的・質的な研究法を理解でき、研究計画を立案できる。
授業概要	この演習では、修士学位論文の作成に必要な研究の技術の習得を行う。大学院生には自身の研究テーマの明確化を行い、その意義と独創を明瞭にしてもらう。また大学院生の研究テーマにそった研究法を中心に理解を促し、精緻な研究計画の立案を行っていく。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート／グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	課題（５０％）と発表・口頭試問（５０％）で総合評価する。 なお、評価のために実施した課題等は、講義でフィードバックするので最終講義までにみなおしておくこと。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	口頭及び書面でフィードバックする。
履修条件・注意事項	予習と復習を求める。
事前学習・事後学習とその時間	予習、復習には各2時間ほど必要である。 自己学習のためのレポート課題を課す。 それを作成することによって講義の予習復習が可能であり、必ず提出すること。
オフィスアワー	曜日：月曜５限目、金曜５限目 場所：６号館４階6428号室

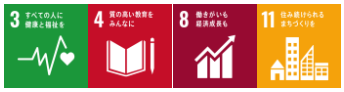
授業計画	担当者
1. オリエンテーション	京極
2. 研究テーマの焦点化	京極
3. 先行研究の収集	京極
4. レビューマトリクス	京極
5. レビューマトリクスの発表会	京極
6. 量的研究と質的研究の特徴	京極
7. RCTとコホート研究	京極
8. 調査研究と相関研究	京極
9. 尺度開発	京極
10. GTAとKJ法	京極
11. 事例コードマトリクス	京極
12. TEM	京極
13. 研究計画の立案１はじめに	京極
14. 研究計画の立案２方法	京極
15. 研究経過発表会／まとめ	京極
16. 口頭試問	

教科書			
教・書籍名１	適宜紹介	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	

教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	適宜紹介	参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	作業機能障害援助特論Ⅰ演習	担当者	岩田　美幸
配当学科・研究科	2014～ 2016年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業2年／ 2013～ 2016年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学2年／ 2017～ 2022年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学2年	ナンバリング	

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30時間	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに／８．働きがいも経済成長も／１１．住み続けられるまちづくりを 
到達目標	大学院生は、「自己の関心のある作業療法と作業機能障害の知識を学ぶ」ことをテーマとする。この科目は、修士論文を作成する過程において、先ず研究計画、研究方針を策定する第二の科目である。大学院生は、先行研究より作業療法教育の現状と作業機能障害について知識を深めることができ、研究テーマを明確にした上で、研究内容に成り立つ研究体制・研究計画を確立することを到達目標とする.
授業概要	大学院生は、自己の関心の高い作業療法の指導者に必要な知識として、評価や治療、制度について体系的に修得することができる。同時に、修士論文テーマの設定、研究計画書の策定、実施方法などを具体的に指導する。作業機能障害援助特論と平行して、作業療法教育の現場にてデータを取って解析し、その知見を報告することができる。
アクティブラーニングの内容	PBL／ディスカッション／ディベート／プレゼンテーション／フィールドワーク
評価方法と割合	文献や研究論文などによる内容理解への努力や、テーマを掘り下げていく姿勢及び研究指導に対する姿勢(30%)、質疑応答における発言状況（30%）、研究進捗状況に応じた提出物の内容（40%）から、総合的に評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	口頭および書面にてフィードバックする
履修条件・注意事項	毎週1回の講義終了時に、研究の進行に合わせて、課題を提示する。予習・復習を２時間以上行うこと。また、必ず毎回レポートを作成し報告すること。レポートや課題については、提出した翌週の講義内にフィードバックを行う。
事前学習・事後学習とその時間	主指導教員1名と2名の副指導教員の体制の下、予習・復習はもとより、教員に指示を仰ぎ積極的な姿勢で研究課題に取り組むこと。週1回の講義終了時に、研究の進行に合わせて、課題を提示する。その予習・復習を十分に行うこと。また、必ず毎回レポートを作成し報告すること。
オフィスアワー	6号館4階6429研究室において毎週月曜日2限をオフィスアワーの時間とする（岩田）

授業計画	担当者
1.作業療法と作業機能障害の概要	岩田
2.研究テーマの策定	岩田
3.作業療法の基礎知識の確認	岩田
4.作業療法の先行研究の調査	岩田
5.作業療法の先行研究の概要発表	岩田
6.作業療法の概要発表の講評	岩田
7.研究テーマと先行研究の比較	岩田
8.研究テーマの確定	岩田
9. 中間フィドバック	岩田
10.作業機能障害の基礎知識の確認	岩田
11.作業機能障害の先行研究の調査	岩田
12.作業機能障害の先行研究の発表	岩田
13.作業機能障害の概要発表の講評	岩田
14.研究テーマと先行研究の比較	岩田
15.研究計画書発表用資料の完成	岩田
16.研究発表（口頭試験）	岩田
	岩田

教科書

教・書籍名１	作業で創るエビデンス 作業療法士のための研究法の学びかた	教・出版社名１	医学書院
教・著者名１	執筆：友利　幸之介／京極　真／竹林　崇	教・ＩＳＢＮ１	978-4-260-03662-7
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	作業機能障害援助特論Ⅰ演習	担当者	三宅　優紀
配当学科・研究科	2014～ 2016年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業2年／ 2013～ 2016年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学2年／ 2017～ 2022年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学2年	ナンバリング	

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに
到達目標	テーマ：身体障害作業療法分野における研究遂行に必要な知識・技術の習得を目標とした概説を行い、学生は各自の関心テーマに応じた課題に取り組み発表する。 到達目標：学生は、研究実施やデータ分析のための方法について理解し、文献レビュー結果をふまえ、当該領域で修士論文を作成する上での科学的思考を身につける事ができる。 学生は、研究方法論について、随時提示する参考書を利用しながら理解を深めることができる。
授業概要	下記計画にしたがい、学生の研究テーマを考慮した内容を教授する。具体的には、キーワードに関連する文献の輪読やレビューを行い、それらの内容と各自の修士論文テーマをふまえた発表を通して演習内容の理解を深めるものとする。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション
評価方法と割合	演習の理解度（50%）、プレゼンテーション（50%）で総合的に評価 なお、課題類は採点結果を返却し、必要な内容を授業、または資料配付でフィードバックする
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	提出があった場合、その都度行う
履修条件・注意事項	研究テーマにより演習内容の変更あり。 授業内容を参考に、予習復習には各2時間程度要する。課題フィードバックは、演習内で行う。
事前学習・事後学習とその時間	予習として、各授業計画および、前回授業で予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。 また、復習として、毎回の授業の内容を確認し、自分なりにノートにまとめること。 なお、予習、復習には各2時間程度を要する。
オフィスアワー	6号館3階研究室6315　毎週水曜日3限

授業計画	担当者
第1回.作業療法研究の概要	三宅
第2回.研究テーマの策定	三宅
第3回.研究テーマに沿った基礎知識の確認	三宅
第4回.研究テーマに関する先行研究の調査	三宅
第5回.研究テーマに関する先行研究の概要発表	三宅
第6回.概要発表の講評	三宅
第7回.研究テーマと先行研究の比較	三宅
第8回.研究テーマの確定	三宅
第9回.中間フォローアップ	三宅
第10回.研究計画書の執筆概要	三宅
第11回.研究計画書の確認および講評	三宅
第12回.研究計画書の完成	三宅
第13回.研究計画書発表資料の執筆概要の説明と作成	三宅
第14回.研究計画書資料の確認および講評	三宅
第15回.研究計画書発表用資料の完成	三宅
第16回.　レポート試験	三宅

教科書

教・書籍名１	必要に応じて指定	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢN2	

授業科目名	作業機能障害援助特論Ⅰ演習	担当者	寺岡　睦
配当学科・研究科	2014～ 2016年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業2年／ 2013～ 2016年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学2年／ 2017～ 2022年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学2年	ナンバリング	

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに
到達目標	テーマ： 大学院生は、国内外の先行研究のレビューを行い、多様な研究法を理解して、洗煉された研究計画を作成することができる。 到達目標： 大学院生は、先行研究のレビューが行え、量的・質的な研究法を理解でき、研究計画を立案できる。
授業概要	この演習では、修士学位論文の作成に必要な研究の技術の習得を行う。大学院生には自身の研究テーマの明確化を行い、その意義と独創を明瞭にしてもらう。また大学院生の研究テーマにそった研究法を中心に理解を促し、精緻な研究計画の立案を行っていく。
アクティブラーニングの内容	グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	課題（５０％）と発表（５０％）で総合評価する。 なお、評価のために実施した課題等は、講義でフィードバックするので最終講義までにみなおしておくこと。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題への取り組みや研究については講義内でディスカッションをしてフィードバックする。
履修条件・注意事項	予習と復習を求める。
事前学習・事後学習とその時間	予習、復習には各2時間ほど必要である。 自己学習のためのレポート課題を課す。 それを作成することによって講義の予習復習が可能であり、必ず提出すること。
オフィスアワー	曜日：月曜５限目、金曜５限目 場所：６号館４階6428号室

授業計画	担当者
1. オリエンテーション	1. 寺岡
2. 研究テーマの焦点化	2. 寺岡
3. 先行研究の収集	3. 寺岡
4. レビューマトリクス	4. 寺岡
5. レビューマトリクスの発表会	5. 寺岡
6. 量的研究と質的研究の特徴	6. 寺岡
7. RCTトコホート研究	7. 寺岡
８．調査研究と相関研究	8. 寺岡
9. 尺度開発	9. 寺岡
10. GTAとKJ法	10. 寺岡
11. 事例コードマトリクス	11. 寺岡
12. TEM	12. 寺岡
13. 研究計画の立案1：はじめに	13. 寺岡
14. 研究計画の立案2：方法	14. 寺岡
15. 研究経過発表会とまとめ	15. 寺岡
16. 振り返りと総まとめ	16. 寺岡

教科書			
教・書籍名１	適宜紹介	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	

教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	適宜紹介	参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	作業機能障害援助特論Ⅱ	担当者	京極　真
配当学科・研究科	2014～ 2016年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／ 2013～ 2016年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学1年／ 2017～ 2022年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学1年	ナンバリング	

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	集中講義		

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	テーマ：大学院生は、作業に根ざした実践（ocupation-based practice, OBP）の理解を深め、実践と研究に活用できるようになる。 到達目標：大学院生は、先行研究の動向と課題を理解でき、新しいOBPについて総合的に理解することができる。 大学院生は、自身の実践と研究の関連性を理解できる。
授業概要	下記の講義計画にしたがい、OBPの理解を深める。具体的には、さまざまな文献の精読を通して、OBPの理論構造を解明し、典型的なアプローチについて学修する。また自身の実践と研究の関連について議論を通して理解を深めることができる。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート／グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	課題（５０％）・発表（５０％）で総合評価する. なお、評価のために実施した課題等は、講義でフィードバックするので最終講義までにみなおしておくこと。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	口頭及び書面でフィードバックする。
履修条件・注意事項	予習と復習を求める。
事前学習・事後学習とその時間	予習、復習には各2時間ほど必要である。 自己学習のためのレポート課題を課す。 それを作成することによって講義の予習復習が可能であり、必ず提出すること。
オフィスアワー	曜日：月曜５限目、金曜５限目 場所：６号館４階6428号室

授業計画	担当者
1.　研究倫理	京極
2.　研究の基本的な過程	京極
3.　研究テーマの吟味	京極
4.　文献検討	京極
5.　研究テーマの設定	京極
6.　研究法の設定	京極
7.　予備研究	京極
8.　本研究のデータ収集	京極
9.　データの整理	京極
10.　データ解析	京極
11.　結果の整理	京極
12.　学位論文執筆（方法と結果）	京極
13.　学位論文執筆（考察）	京極
14.　学位論文執筆（はじめに）	京極
15.　発表	京極
16.　口頭試問	京極

教科書

教・書籍名１	適宜紹介	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書

参・書籍名１	適宜紹介	参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	作業機能障害援助特論Ⅱ	担当者	岩田　美幸
配当学科・研究科	2014～ 2016年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／ 2013～ 2016年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学1年／ 2017～ 2022年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学1年	ナンバリング	

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30時間	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	集中講義		

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに／１０．人や国の不平等をなくそう／１１．住み続けられるまちづくりを
到達目標	講義のテーマは，「作業療法の知識を学ぶ」とする．修士論文を作成する過程において，先ず研究計画，研究方針を策定する第一の科目である．先行研究より，作業療法教育の現状について知識を深め，研究テーマを明確にした上で，研究内容に成り立つ研究体制・研究計画を確立することを到達目標とする．
授業概要	授業では、作業療法の指導者に必要な知識として、評価や治療、制度について体系的に修得する。同時に，作業療法研究の実務経験のある作業療法士が、修士論文テーマの設定，研究計画書の策定，実施方法などを具体的に指導する．
アクティブラーニングの内容	PBL／ディベート／実習／フィールドワーク
評価方法と割合	文献や研究論文などによる内容理解への努力や、テーマを掘り下げていく姿勢及び研究指導に対する姿勢(30%)、質疑応答における発言状況（30%）、研究進捗状況に応じた提出物の内容（40%）から、総合的に評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	口頭および書面にてフィードバックする。
履修条件・注意事項	主指導教員1名と2名の副指導教員の体制の下，予習・復習はもとより，教員に指示を仰ぎ積極的な姿勢で研究課題に取り組むこと。本科目は，作業機能障害援助特論II演習と合同開催され，受講を必修とする
事前学習・事後学習とその時間	毎週1回の講義終了時に，研究の進行に合わせて，課題を提示する．予習・復習を２時間以上行うこと．また，必ず，毎回レポートを作成し報告すること．レポートや課題については，提出した翌週の講義内にフィードバックを行う．
オフィスアワー	6号館4階6429研究室において毎週月曜日2限をオフィスアワーの時間とする（岩田）

授業計画	担当者
1.作業療法研究の概要	岩田
2.研究テーマの策定	岩田
3.テーマに沿った基礎知識の確認	岩田
4.研究テーマに関する先行研究の調査	岩田
5.研究テーマに関する先行研究の概要発表	岩田
6.概要発表の講評	岩田
7.研究テーマと先行研究の比較	岩田
8.研究テーマの確定	岩田
9.中間フォロー	岩田
10.研究計画書の執筆概要	岩田
11.研究計画書の確認および講評	岩田
12.研究計画書の完成	岩田
13.研究計画書発表資料の執筆概要の作成	岩田
14.研究計画書資料の確認および講評	岩田
15.研究計画書発表用資料の完成	岩田
16.　研究計画発表	岩田

教科書

教・書籍名１	作業で創るエビデンス 作業療法士のための研究法の学びかた	教・出版社名１	医学書院
教・著者名１	友利　幸之介／京極　真／竹林　崇	教・ＩＳＢＮ１	978-4-260-03662-7

教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	作業機能障害援助特論Ⅱ	担当者	三宅　優紀
配当学科・研究科	2014～ 2016年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／ 2013～ 2016年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学1年／ 2017～ 2022年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学1年	ナンバリング	

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	集中講義		

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに
到達目標	講義のテーマは，「身体障害領域の作業療法」とする． 学生は先行研究より，身体障害領域の作業療法の現状を調査し，研究テーマを明確にしたうえで研究計画書を作成することを目標とする．
授業概要	身体障害領域に関する研究の調査を行い研究命題を明確にし，計画書の作成を行う．
アクティブラーニングの内容	ディスカッション
評価方法と割合	発表内容（50%），特論の理解度（50%）で総合的に判断する．
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	提出があった場合はその都度行う。
履修条件・注意事項	本科目は，作業機能障害援助特論II演習と合同開催され，受講を必修とする．
事前学習・事後学習とその時間	予習として，研究計画書作成と文献レビューを行う． 復習として，研究計画書の修正，文献整理を行う． 予習復習には，各2時間程度要する.課題に対するフィードバックは演習内で行う．
オフィスアワー	6号館3階研究室で，毎週水曜3限をオフィスアワーとする．

授業計画	担当者
第1回.発表会の結果の確認と論文題目の確定 第2回.現在までの資料点検と不備の確認 第3回.不備内容を補完する実験／調査の実施 第4回.上記実験／調査結果の収集 第5回.上記実験／調査結果の整理 第6回.修士論文の構成の点検と修正 第7回.修士論文の執筆 第8回.修士論文の内容確認と講評 第9回.修士論文の修正 第10回.修士論文の提出 第11回.修士論文査読結果と修正内容の確定 第12回.修士論文の修正 第13回.修正箇所の確認と全体の見直し 第14回.模擬口頭試問への準備 第15回.模擬口頭試問の実施と講評 第16回．試験	三宅

教科書			
教・書籍名１	必要に応じて提示する	教・出版社名１	

教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	作業機能障害援助特論Ⅱ	担当者	寺岡　睦
配当学科・研究科	2014～ 2016年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／ 2013～ 2016年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学1年／ 2017～ 2022年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学1年	ナンバリング	

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	集中講義		

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに
到達目標	テーマ：大学院生は、作業機能障害研究に必要な研究計画書の立案ができる。 到達目標 １．大学院生は、研究テーマの設定ができる。 ２．大学院生は、研究テーマに関連した文献検討ができる。 ３．大学院生は、予備研究ができる。 ４．大学院生は、研究計画書の立案ができる。
授業概要	作業機脳障害研究を行うためには，適切な研究計画の立案が欠かせない。本科目では，作業機脳障害研究の計画立案に求められる基礎知識を学び，自ら理解し、実際に計画の立案を行い，理解を深め，実行力を養うことができる。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	出席（20%）・レポート（40%）・発表（40%）で総合評価する。 なお、評価のために実施した課題等は、講義でフィードバックするので最終講義までにみなおしておくこと。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題や研究の取り組みについて、毎回の講義でディスカッションをすることによりフィードバックする。
履修条件・注意事項	本科目は，作業機能障害援助特論Ⅱ演習とあわせて必ず履修すること。予習と復習，積極的な発言が求められる。
事前学習・事後学習とその時間	予習、復習には各2時間ほど必要である。 自己学習のためのレポート課題を課す。 それを作成することによって講義の予習復習が可能であり、必ず提出すること。
オフィスアワー	曜日：月曜3限目、金曜５限目 場所：６号館４階6430号室

授業計画	担当者
1. 作業機能障害研究概要	1. 寺岡
2. 研究テーマの設定	2. 寺岡
3. 研究テーマにそった研究基礎論	3. 寺岡
4. 文献検索	4. 寺岡
5. 文献検索結果の発表	5. 寺岡
6. 研究テーマの吟味と設定	6. 寺岡
7. 研究計画と研究倫理	7. 寺岡
8. 研究計画書の執筆	8. 寺岡
9. 研究計画書の吟味	9. 寺岡
10. 予備研究の準備	10. 寺岡
11. 予備研究の実施	11. 寺岡
12. 予備研究の結果の分析とまとめ	12. 寺岡
13. 研究計画書の洗練	13. 寺岡
14. 研究計画書の発表	14. 寺岡
15. 研究計画書の完成	15. 寺岡
16. 単位認定試験（ふりかえりと総まとめ）	16. 寺岡

教科書			
教・書籍名１	適宜紹介	教・出版社名１	

教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	適宜紹介	参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	作業機能障害援助特論Ⅱ演習	担当者	京極　真
配当学科・研究科	2014～ 2016年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業2年／ 2013～ 2016年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学2年／ 2017～ 2022年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学2年	ナンバリング	

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	集中講義		

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	テーマ：大学院生は、作業機能障害研究に必要な研究基礎論を学ぶことができる． 到達目標 １．大学院生は，研究の過程を理解できる． ２．大学院生は，作業機能障害に関連した研究テーマの設定ができる． ３．大学院生は，作業機能障害研究で必要な主だった研究法を理解できる． ４．大学院生は，研究を遂行し，論文にまとめ，発表ができる．
授業概要	作業機能障害研究に関連した研究を実際に行い，修士学位論文の執筆と発表を行う．
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート／グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	発表（２０％），口頭試問（３０％），論文（５０％）で総合評価する。 なお、評価のために実施した課題等は、講義でフィードバックするので最終講義までにみなおしておくこと。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	口頭及び書面でフィードバックする。
履修条件・注意事項	作業機能障害援助特論Ⅰに続く科目である．院生は予習と復習，研究の遂行が求められる．
事前学習・事後学習とその時間	予習、復習には各2時間ほど必要である。 自己学習のためのレポート課題を課す。 それを作成することによって講義の予習復習が可能であり、必ず提出すること。
オフィスアワー	曜日：月曜５限目、金曜５限目 場所：６号館４階6428号室

授業計画	担当者
1. 研究倫理	京極
2. 研究の基本的な過程	京極
3. 研究テーマの吟味	京極
4. 文献検討	京極
5. 研究テーマの設定	京極
6. 研究法の設定	京極
7. 予備研究	京極
8. 本研究のデータ収集	京極
9. データの整理	京極
10. データ解析	京極
11. 結果の整理	京極
12. 学位論文執筆（方法と結果）	京極
13. 学位論文執筆（考察）	京極
14. 学位論文執筆（はじめに）	京極
15. 発表	京極
16. 口頭試問	京極

教科書

教・書籍名１	適宜紹介	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	適宜紹介	参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	作業機能障害援助特論Ⅱ演習	担当者	岩田　美幸
配当学科・研究科	2014～ 2016年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業2年／ 2013～ 2016年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学2年／ 2017～ 2022年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学2年	ナンバリング	

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30時間	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	集中講義		

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに／１０．人や国の不平等をなくそう／１１．住み続けられるまちづくりを
到達目標	講義のテーマは，「作業療法の知識を学ぶ」とする．修士論文を作成する過程において，先ず研究計画，研究方針を策定する第一の科目である。先行研究より，作業療法教育の現状について知識を深め，研究テーマをそった修士論文の作成を到達目標とする。
授業概要	これ迄の作業機能障害援助特論の科目を総括となる科目である．研究テーマにそって研究を実施し，作業療法研究の実務経験のある作業療法士が修士論文作成の指導を行なう
アクティブラーニングの内容	PBL／ディスカッション／ディベート／プレゼンテーション／フィールドワーク
評価方法と割合	文献や研究論文などによる内容理解への努力や、テーマを掘り下げていく姿勢及び研究指導に対する姿勢(30%)、質疑応答における発言状況（30%）、研究進捗状況に応じた提出物の内容（40%）から、総合的に評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	口頭および書面によりフィードバックする。
履修条件・注意事項	作業機能障害援助特論Iと演習に続く講義である。研究テーマと進歩状況に応じて指導する
事前学習・事後学習とその時間	毎週1回の講義終了時に，研究の進行に合わせて，課題を提示する。予習・復習を２時間以上行うこと。また，必ず，毎回レポートを作成し報告すること。レポートや課題については，提出した翌週の講義内にフィードバックを行う。
オフィスアワー	6号館4階6429研究室において毎週月曜日２限をオフィスアワーの時間とする（岩田）

授業計画	担当者
1.発表会の確認と題目の確定	岩田
2.必要資料点検と不備の確認	岩田
3.不備内容を補完する実験／調査の実施	岩田
4.上記実験／調査結果の収集	岩田
5.上記実験／調査結果の整理	岩田
6.修士論文の構成の点検と修正	岩田
7.修士論文の執筆	岩田
8.修士論文の中間発表	岩田
9.修士論文の内容確認と講評	岩田
10.修士論文の修正	岩田
11.修士論文の提出	岩田
12.修士論文査読結果の確認	岩田
13.修士論文の修正	岩田
14.修正の全体の見直し	岩田
15.模擬口頭試問への準備	岩田
16.模擬口頭試問の実施と講評	岩田

教科書

教・書籍名１	崇必作業で創るエビデンス 作業療法士のための研究法の学びかた	教・出版社名１	医学書院
教・著者名１	友利　幸之介／京極　真／竹林	教・ＩＳＢＮ１	978-4-260-03662-7
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書

参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	作業機能障害援助特論Ⅱ演習	担当者	三宅　優紀
配当学科・研究科	2014～ 2016年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業2年／ 2013～ 2016年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学2年／ 2017～ 2022年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学2年	ナンバリング	

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	集中講義		

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに
到達目標	講義のテーマは，「身体障害領域の作業療法」を学ぶとする． 学生は修士論文を作成する過程において，研究計画書，調査方法のを明確にすることを目的とし，論文を作成することを目標とする．
授業概要	下記演習計画に従い学生の研究テーマを考慮した内容を教授する． 具体的には，文献レビューなどを行い，それらの内容と各自の修士論文テーマを踏まえた発表をする． ※実務経験のある教員による授業科目 この科目では，作業療法士としての実務経験をもつ教員がその経験を活かし，作業機能障害学等の領域において実践的に役立つ授業を実施する．
アクティブラーニングの内容	ディスカッション
評価方法と割合	口頭試問（50%）・発表（50%）で総合評価する．
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	演習の中でその都度フィードバックする
履修条件・注意事項	作業機能障害援助特論ⅠとⅠ演習に続く講義である．研究テーマと進歩状況に応じて指導する．
事前学習・事後学習とその時間	論文執筆，加筆修正を行っていく． 予習復習には各2時間程度要する．　疑問点などの受付，フィードバックは，演習内で行う．
オフィスアワー	6号館3階　毎週水曜日3限

授業計画	担当者
第1回.発表会の結果の確認と論文題目の確定 第2回.現在までの資料点検と不備の確認 第3回.不備内容を補完する実験／調査の実施 第4回.上記実験／調査結果の収集 第5回.上記実験／調査結果の整理 第6回.修士論文の構成の点検と修正 第7回.修士論文の執筆 第8回.修士論文の内容確認と講評 第9回.修士論文の修正 第10回.修士論文の提出 第11回.修士論文査読結果と修正内容の確定 第12回.修士論文の修正 第13回.修正箇所の確認と全体の見直し 第14回.模擬口頭試問への準備 第15回.模擬口頭試問の実施と講評 第16回．試験	三宅

教科書			
教・書籍名１	必要に応じて指示をします	教・出版社名１	

教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	作業機能障害援助特論Ⅱ演習	担当者	寺岡　睦
配当学科・研究科	2014～ 2016年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業2年／ 2013～ 2016年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学2年／ 2017～ 2022年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学2年	ナンバリング	

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	集中講義		

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに
到達目標	テーマ：大学院生は、作業機能障害研究に必要な研究基礎論を学ぶことができる． 到達目標 １．大学院生は，研究の過程を理解できる． ２．大学院生は，作業機能障害に関連した研究テーマの設定ができる． ３．大学院生は，作業機能障害研究で必要な主だった研究法を理解できる． ４．大学院生は，研究を遂行し，論文にまとめ，発表ができる．
授業概要	作業機能障害研究に関連した研究を実際に行い，修士学位論文の執筆と発表を行う．
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	発表（２０％），口頭試問（３０％），論文（５０％）で総合評価する。 なお、評価のために実施した課題等は、講義でフィードバックするので最終講義までにみなおしておくこと。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題や日々の取り組みについては、毎回の講義でディスカッションを行いフィードバックする。
履修条件・注意事項	作業機能障害援助特論Ⅰに続く科目である．院生は予習と復習，研究の遂行が求められる．
事前学習・事後学習とその時間	予習、復習には各2時間ほど必要である。 自己学習のためのレポート課題を課す。 それを作成することによって講義の予習復習が可能であり、必ず提出すること。
オフィスアワー	曜日：月曜3限目、金曜５限目 場所：６号館４階6430号室

授業計画	担当者
1. 研究倫理	1. 寺岡
2. 研究の基本的な過程	2. 寺岡
3. 研究テーマの吟味	3. 寺岡
4. 文献検討	4. 寺岡
5. 研究テーマの設定	5. 寺岡
6. 研究法の設定	6. 寺岡
7. 予備研究	7. 寺岡
8. 本研究のデータ収集	8. 寺岡
9. データの整理	9. 寺岡
10. データ解析	10. 寺岡
11. 結果の整理	11. 寺岡
12. 学位論文執筆（方法と結果）	12. 寺岡
13. 学位論文執筆（考察）	13. 寺岡
14. 学位論文執筆（はじめに）	14. 寺岡
15. 学位審査発表	15. 寺岡
16. 単位認定試験（ふりかえりと総まとめ）	16. 寺岡

教科書

教・書籍名１	適宜紹介	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	適宜紹介	参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	心身機能障害援助特論Ⅰ	担当者	狩長　弘親
配当学科・研究科	2013～ 2016年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学1年／ 2017～ 2022年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学1年	ナンバリング	

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	テーマ：本特論では、リハビリテーションにおいて基礎となる神経学的側面や高次脳機能障害の各症状の障害特性を学ぶ。 到達目標：注意・記憶・半側空間無視を中心に、高次脳機能障害者の支援における作業療法士のあり方ついて理解を深めることを目的とする。
授業概要	高次脳機能障害は「見えない障害」として知られ、運動麻痺や感覚障害等の神経症状をきたさなければ、病院での保護的な環境においては問題がみられず、在宅での生活や職場・学校等で気づかれることが多い。高次脳機能障害のリハビリテーションの歴史はまだ浅く、確固たる方法論が十分とはいえない。本邦では平成13年度からの高次脳機能障害機能障害支援モデル事業（平成18年度より高次脳機能障害支援普及事業）の実施により、「高次脳機能障害」という用語が医療関係者のみならず一般の人々へも知られることとなった。このような変換の中、社会では高次脳機能障害者への支援に多くの職種、人々が関わるシステムが構築され、その中で専門職として作業療法士が位置づけられ、ますます高次脳機能障害の知識と実践が求められている。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション
評価方法と割合	レポート40%、プレゼンテーション40%、受講態度20%
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題類は採点結果を返却し，必要な内容を授業，または資料配付でフィードバックする．
履修条件・注意事項	講義内容を理解するために予習や復習に十分取り組むと共に，積極的な姿勢で臨むこと。
事前学習・事後学習とその時間	予習として、各授業計画および、前回授業で予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。 また、復習として、毎回の授業の内容を確認し、自分なりにノートにまとめること。 なお、予習、復習には各2時間程度を要する。
オフィスアワー	月曜日４限 6427研究室

授業計画	担当者
1.高次脳機能障害リハビリテーションの歴史 2.高次脳機能障害の特殊性 3.高次脳機能障害の回復の基盤 4.注意の障害 5.注意障害の評価 6.注意障害の治療的訓練 7.記憶の障害 8.記憶障害の評価 9.記憶障害の治療的訓練 10.半側無視とは 11.半側無視の評価 12.半側無視の治療的訓練 13.視覚性認知の障害 14.視覚性認知の障害の評価 15.視覚性認知の障害の治療的訓練	狩長

教科書			
教・書籍名１	高次脳機能障害の作業療法	教・出版社名１	三輪書店
教・著者名１	高次脳機能障害の作業療法	教・ＩＳＢＮ１	978-4-89590-359-2
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	心身機能障害援助特論Ⅰ	担当者	山本　倫子
配当学科・研究科	2013～ 2016年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学1年／ 2017～ 2022年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学1年	ナンバリング	

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	学生が、病いに関する本質ついて文献を詳読しながらを考察し討議を行なうことで医療人としての介入・援助の方法の理解を深めることができる。
授業概要	学生がこれまでの自身の生活経験や、自身の臨床経験を振り返り対象者の状態を分析し、どのような関わりができたかを討論する。 文献の詳読も取り入れる。 また、毎回の授業のテーマのレポート課題に取り組む。 学生は、精神障害作業療法の実務経験を有し、精神障害リハビリテーション研究の実践経験を有する教員の助言・指導を受け学習を深めていく。
アクティブラーニングの内容	PBL／ディスカッション／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	授業への参加度50%、レポート試験の内容50%
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	提出課題は、授業でフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	各講義テーマの内容をもとに討論形式で授業を進める。 そのためには教科書の該当部分（１回目の授業でオリエンテーション）を詳読しておくことが必要である（予習）。 討論の内容で理解が深まったこと、新たな課題などをノートにまとめる（復習）。
事前学習・事後学習とその時間	予習として、各授業計画について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。 また、復習として、毎回の授業の内容を確認し、自分なりにノートにまとめること。 なお、予習、復習には各2時間程度を要する。
オフィスアワー	木曜日4時限目に、6号館4階6417研究室にて

授業計画	担当者
1.オリエンテーション、症状と障害の意味	1. 山本
２.病の個人的な意味と社会的意味	2. 山本
３.痛みの脆弱性と脆弱性の痛み	3. 山本
４.生きることの痛み	4. 山本
５.慢性の痛み	5. 山本
６.神経衰弱症	6. 山本
７.慢性の病をもつ患者のケアにおける相反する説明モデル	7. 山本
８.大いなる願望と勝利	8. 山本
９.死に至る病	9. 山本
10.病のスティグマと羞恥心	10. 山本
11.慢性であることの社会的文脈	11. 山本
12.疾患を作り出すこと	12. 山本
13.治療者たち	13. 山本
14.慢性の病を持つ患者をケアするための1つの方法	14. 山本
15.医学教育と医療実践のための、意味を中心としたモデルのチャレンジ	15. 山本
16. レポート試験	16. 山本

教科書

教・書籍名１	病いの語り	教・出版社名１	誠信書房
教・著者名１	アーサー・クラインマン　著 江口重幸/五木田紳/上野豪志　訳	教・ＩＳＢＮ１	4-414-42910-2

教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	心身機能障害援助特論Ｉ演習	担当者	狩長　弘親
配当学科・研究科	2013～ 2016年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学2年／ 2017～ 2022年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学2年	ナンバリング	

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	テーマ：高次脳機能障害作業療法分野における研究遂行に必要な知識・技術の習得を目標とした概説を行い、学生は各自の関心テーマに応じた課題に取り組み発表する。 到達目標：学生は，研究実施やデータ分析のための方法について理解し，文献レビュー結果をふまえ、当該領域で修士論文を作成する上での科学的思考を身につける事を目標とする。
授業概要	本演習では国内外の文献検索方法と結果の評価等を吟味する方法を学習し、実際に関心テーマについて要約する。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション
評価方法と割合	各回の課題40%、プレゼンテーション40%、受講態度20%
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題類は採点結果を返却し，必要な内容を授業，または資料配付でフィードバックする．
履修条件・注意事項	講義内容を理解するために予習や復習に十分取り組むと共に，積極的な姿勢で臨むこと。
事前学習・事後学習とその時間	予習として、各授業計画および、前回授業で予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。 また、復習として、毎回の授業の内容を確認し、自分なりにノートにまとめること。 なお、予習、復習には各2時間程度を要する。
オフィスアワー	月曜日４限 6427研究室

授業計画	担当者
1. キーワード選定の方法	1.狩長
2. キーワード選定の実際	2.狩長
3. 文献検索の方法	3.狩長
4. 文献検索の実際	4.狩長
5. 文献レビューの方法	5.狩長
6. 文献レビューの実際	6.狩長
7. 量的研究と質的研究	7.狩長
8. 量的研究の手法ーランダム化比較試験	8.狩長
9. 量的研究の手法ーコホート研究	9.狩長
10. 量的研究の手法ー横断研究	10.狩長
11. 量的研究の手法ーシングルシステムデザイン	11.狩長
12. 信頼性と妥当性	12.狩長
13. 統計解析の方法	13.狩長
14. 統計解析の実際	14.狩長
15. 研究デザインの総括とまとめ	15.狩長

教科書

教・書籍名１	講義の他に適宜学生の発表を加え、必要に応じて資料を配布する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	

教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	心身機能障害援助特論Ⅰ演習	担当者	山本　倫子
配当学科・研究科	2013～ 2016年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学2年／ 2017～ 2022年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学2年	ナンバリング	

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	【テーマ】傾聴するとは、どういうことかという問いについて議論し対象者への支援方法を探求していく 【目標】院生は、精神機能障害の支援について考察を深め，支援方法を探求していくことができる。
授業概要	心身機能障害に対する支援を理解するために、心身の機能について探求していく姿勢が求められている。 この科目では、傾聴する、対話するちはどういうことか、という問いに着目し、学習していく。 また、学習を通して精神機能の障害支援の方法について探求し、授業回ごとにレポート課題を作成しながら学習を深めていく。 院生は、精神障害リハビリテーション研究の実践経験のある教員より助言・指導を受けながら学習を進めていく。
アクティブラーニングの内容	PBL／ディスカッション／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	授業出席態度50%、レポート試験の内容50％で、総合評価とする。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	レポートは授業でフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	各自、授業テーマに関する知識を主体的に身につける努力をすること
事前学習・事後学習とその時間	授業時間前後に復習と授業準備の時間を各2時間程度もつこと。 予習、復習には該当講義に関する教科書範囲を読むこと。
オフィスアワー	木曜3限、6417研究室

授業計画	担当者
1.オリエンテーション	1.山本
2.傾聴とオープンダイアログ	2.山本
3.有効なネットワークについて	3.山本
4.専門職が陥りがちなこと	4.山本
5.感情の共有について	5.山本
6.クライシスについて	6.山本
7.対話の分かりやすさについて	7.山本
8.水平と垂直の対話について	8.山本
9.いま・ここの可能性について	9.山本
10.「ともに」のありようについて	10.山本
11.専門職における対話について	11.山本
12.事例検討１（母子関係）	12.山本
13.事例検討2（地域支援）	13.山本
14.学習発表会準備	14.山本
15.学習発表会	15.山本
16.　レポート試験	

教科書			
教・書籍名１	オープンダイアログを実践する	教・出版社名１	日本評論社
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	978-4-535-9844-3-1
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	

参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	心身機能障害援助特論Ⅱ	担当者	狩長　弘親
配当学科・研究科	2013～ 2016年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学1年／ 2017～ 2022年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学1年	ナンバリング	

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	集中講義		

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	テーマ：リハビリテーションにおいて基礎となる神経学的側面や高次脳機能障害の各症状の障害特性を学ぶ。 到達目標：学生は、身体意識・運動/行為・遂行機能障害を中心に、高次脳機能障害者の支援における作業療法士のあり方ついて理解を深めることを目的とする。
授業概要	高次脳機能障害は「見えない障害」として知られ、運動麻痺や感覚障害等の神経症状をきたさなければ、病院での保護的な環境においては問題がみられず、在宅での生活や職場・学校等で気づかれることが多い。高次脳機能障害のリハビリテーションの歴史はまだ浅く、確固たる方法論が十分とはいえない。本邦では平成13年度からの高次脳機能障害機能障害支援モデル事業（平成18年度より高次脳機能障害支援普及事業）の実施により、「高次脳機能障害」という用語が医療関係者のみならず一般の人々へも知られることとなった。このような変換の中、社会では高次脳機能障害者への支援に多くの職種、人々が関わるシステムが構築され、その中で専門職として作業療法士が位置づけられ、ますます高次脳機能障害の知識と実践が求められている。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション
評価方法と割合	各回の課題40%、プレゼンテーション40%、受講態度20%
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題類は採点結果を返却し，必要な内容を授業，または資料配付でフィードバックする．
履修条件・注意事項	講義内容を理解するために予習や復習に十分取り組むと共に，積極的な姿勢で臨むこと。
事前学習・事後学習とその時間	予習として、各授業計画および、前回授業で予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。 また、復習として、毎回の授業の内容を確認し、自分なりにノートにまとめること。 なお、予習、復習には各2時間程度を要する。
オフィスアワー	月曜日４限 6427研究室

授業計画	担当者
1.空間認知の障害とは	1.狩長
2.空間認知の障害の評価	2.狩長
3.空間認知の障害の治療的訓練	3.狩長
4.読字・書字・計算の障害とは	4.狩長
5.読字・書字・計算の障害の評価	5.狩長
6.読字・書字・計算の障害の治療的訓練	6.狩長
7.身体意識の障害とは	7.狩長
8.身体意識の障害の評価	8.狩長
9.身体意識の障害の治療的対応	9.狩長
10.運動/動作の高次障害とは	10.狩長
11.運動/動作の高次障害の評価	11.狩長
12.運動/動作の高次障害の治療的訓練	12.狩長
13.遂行機能障害とは	13.狩長
14.遂行機能所具合の評価	14.狩長
15.遂行機能障害の治療的訓練と支援	15.狩長

教科書			
教・書籍名１	高次脳機能障害の作業療法	教・出版社名１	三輪書店
教・著者名１	高次脳機能障害の作業療法	教・ＩＳＢＮ１	978-4-89590-359-2
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	心身機能障害援助特論Ⅱ	担当者	山本　倫子
配当学科・研究科	2013～ 2016年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学1年／ 2017～ 2022年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学1年	ナンバリング	

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	集中講義		

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	【テーマ】ひとの心がどのようにしてつくられるか，という問いについて知覚，記憶，思考，情動，想像，意思に着目し学習する。 【目標】院生は、精神機能障害の支援について考察を深め，支援方法を探求していくことができる。
授業概要	心身機能障害に対する支援を理解するために、心身の機能について探求していく姿勢が求められている。 この科目では、人の心がどのようにつくられるのかという問いに対して知覚、記憶、思考、情動、想像、意思に着目し、学習する。 また、学習を通して精神機能の障害支援の方法について探求していく。 院生は、精神障害リハビリテーション研究の実践経験のある教員より助言・指導を受けながら学習を進める。
アクティブラーニングの内容	PBL／ディスカッション／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	学習発表会の内容50%、提出課題内容50％で、総合評価とする。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	提出課題は授業でフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	各自、授業テーマに関する知識を主体的に身につける努力をすること
事前学習・事後学習とその時間	授業時間前後に復習と授業準備の時間を各2時間程度もつこと。 予習、復習には該当講義に関する紹介書籍の範囲を読むこと。
オフィスアワー	木曜3限、6417研究室

授業計画	担当者
1.オリエンテーション	1. 山本
2.知覚について	2. 山本
3.記憶について	3. 山本
4.思考について	4. 山本
5.情動について	5. 山本
6.想像について	6. 山本
7.意思について	7. 山本
8.知覚、記憶、思考の関連について	8. 山本
9.情動、想像、意思の関連について	9. 山本
10.こころがつくられるについて	10. 山本
11.精神機能障害との関連について	11. 山本
12.作業療法支援とこころについて	12. 山本
13.事例検討1（こども）	13. 山本
14.事例検討2（成人）	14. 山本
15.学習発表会（まとめ）	15. 山本
16.学習発表会（口頭試問）	16. 山本

教科書			
教・書籍名１	子どもの心はつくられる　ヴィゴツキーの心理学講座　普及版	教・出版社名１	新読書社
教・著者名１	ヴィゴツキー著 / 菅田洋一郎　監訳 / 広瀬信雄　訳	教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	

参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	心身機能障害援助特論Ⅱ演習	担当者	狩長　弘親
配当学科・研究科	2013～ 2016年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学2年／ 2017～ 2022年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学2年	ナンバリング	

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	集中講義		

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	テーマ：高次脳機能障害作業療法分野における研究遂行に必要な知識・技術の習得を目標とした概説を行い、学生は各自の関心テーマに応じた課題に取り組み発表する。 到達目標：学生は研究実施やデータ分析のための方法について理解し，文献レビュー結果をふまえ、当該領域で修士論文を作成する上での科学的思考を身につける事を目標とする。
授業概要	本演習では国内外の文献検索方法と結果の評価等を吟味する方法を学習し、実際に関心テーマについて要約する。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション
評価方法と割合	各回の課題40%、プレゼンテーション40%、受講態度20%
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題類は採点結果を返却し，必要な内容を授業，または資料配付でフィードバックする．
履修条件・注意事項	講義内容を理解するために予習や復習に十分取り組むと共に，積極的な姿勢で臨むこと。
事前学習・事後学習とその時間	予習として、各授業計画および、前回授業で予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。 また、復習として、毎回の授業の内容を確認し、自分なりにノートにまとめること。 なお、予習、復習には各2時間程度を要する。
オフィスアワー	月曜日４限 6427研究室

授業計画	担当者
1.実験・調査方法の検討	1.狩長
2.実験・調査方法の確定	2.狩長
3.実験・調査の実施	3.狩長
4.実験・調査結果の収集	4.狩長
5.実験・調査結果の整理	5.狩長
6.研究進歩状況報告書の概要説明	6.狩長
7.研究進歩状況報告書の作成	7.狩長
8.研研究進歩状況報告書の内容確認と講評	8.狩長
9.研究進歩状況報書の提出と研究の推進	9.狩長
10.実験・調査方法の見直し	10.狩長
11.実験・調査の再実施	11.狩長
12.実験・調査結果の再収集	12.狩長
13.実験・調査結果の分析	13.狩長
14.分析結果のまとめ方	14.狩長
15.研究成果の報告	15.狩長

教科書

教・書籍名１	講義の他に適宜学生の発表を加え、必要に応じて資料を配布する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書

参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	心身機能障害援助特論Ⅱ演習	担当者	山本　倫子
配当学科・研究科	2013～ 2016年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学2年／ 2017～ 2022年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学2年	ナンバリング	

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	集中講義		

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	【テーマ】 ・感情の働きに着目し学習する。 ・精神機能障害の支援について考察を深め、支援方法を探求していく。 【目標】 院生は、感情の働きについて探求、学習し、精神機能障害の支援について考察を深め探求していくことができる。
授業概要	心身機能障害に対する支援を理解するために、心身の機能について探求していく姿勢が求められている。 この科目では、情動に着目し、進化史に触れながら、気分操作の技法や機械と情動について学習する。 また、学習を通して精神機能の障害支援の方法について探求していく。 院生は、精神障害リハビリテーション研究について実践経験のある教員より助言・指導を受けながら学習を進めていく。
アクティブラーニングの内容	PBL／ディスカッション／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	提出課題50%と学習発表会の内容50%により総合評価
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	提出課題は授業でフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	各自、積極的に授業に参加し、授業テーマに関する知識を主体的に身につけるよう、努力すること。
事前学習・事後学習とその時間	授業開始前後に復習と授業準備の時間を各2時間程度もつこと。 予習、復習には該当講義の教科書範囲を読むこと。
オフィスアワー	木曜3時限目、6号館4階6417研究室にて

授業計画	担当者
1.オリエンテーション	1．山本
2.第1章輪読	2．山本
3.第1章と精神機能障害の検討	3．山本
4.第2章輪読	4．山本
5.第2章と精神機能障害支援について検討	5．山本
6.第3章輪読	6．山本
7.第3章と臨床実践について検討	7．山本
8.第4章輪読	8．山本
9.第4章と臨床実践について検討	9．山本
10.第5章輪読	10．山本
11.第5章と臨床実践について検討	11．山本
12.事例検討1（こども）	12．山本
13.事例検討2（成人）	13．山本
14.事例検討3（老年期）	14．山本
15.学習発表会（まとめ）	15．山本
16.学習発表会（口頭試問）	16．山本

教科書

教・書籍名１	感情	教・出版社名１	岩波書社
教・著者名１	訳・解説　遠藤利彦	教・ＩＳＢＮ１	4-00-026884-8
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	特別研究Ⅰ	担当者	長町　榮子
配当学科・研究科	2011～ 2013年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／ 2013～ 2016年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学1年／ 2017～ 2022年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学1年	ナンバリング	

必修・選択	必修	単位数	4単位	時間数	60	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	集中講義		

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	研究を行うのに必要な手続き、態度および方法について指導し、研究成果を論文としてまとめる。
授業概要	１．先行研究や原著について指導し、文献の検索や読解力を養い、思考能力を高める。 ２．文献の講読を行いながら研究仮説を立案し、リサーチを行う院生には実験あるいは調査の計画を立案させる。また、文献研究を行う院生にはその構想を立案させる。 ３．データの集積、分析、論文執筆などについて指導する。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート／グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	講義時における口頭試問（30%）、研究計画書の内容（30%）、研究計画発表のプレゼンテーション内容（40%）で評価する。なお、評価のために実施した課題等は、授業でフィードバックするので最終講義までにみなおしておくこと。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	口頭または書面でフィードバックする。
履修条件・注意事項	研究指導は、最もその研究に適した主指導教員１名と２名の副指導教員によって行う。
事前学習・事後学習とその時間	予習として、各授業計画および、前回授業で予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。 また、復習として、毎回の授業の内容を確認し、自分なりにノートにまとめること。 なお、予習、復習には各2時間程度を要する。
オフィスアワー	水曜日3限目、６号館４階長町研究室（6425号室）

授業計画	担当者
1..研究の意義、研究倫理等 2.基本的な研究方法1 3.基本的な研究方法2 4.科学的情報収集法1 5.科学的情報収集法2 6.系統的文献検索法1 7.系統的文献検索法2 8.系統的文献検索法3 9.系統的文献検索法4 10.実験計画法1 11実験計画法2 12.実験計画法3 13.実験計画法4 14.研究課題とデザイン1 15.研究課題とデザイン2 16.研究課題とデザイン3 17.研究課題とデザイン4 18.研究論文作成法1 19.研究論文作成法2 20.研究論文作成法3 21.研究論文作成法4 22.研究論文作成法5 23.研究計画書作成1	長町

24.研究計画書作成2 25.研究計画書作成3 26.研究計画書作成4 27.研究計画書作成5 28.研究発表方法1 29.研究発表方法2 30.研究発表方法3	

教科書			
教・書籍名１	適宜必要な文献・資料等を提示する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	特別研究Ｉ	担当者	中瀬　克己
配当学科・研究科	2011～ 2013年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／ 2013～ 2016年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学1年／ 2017～ 2022年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学1年	ナンバリング	

必修・選択	必修	単位数	4単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	集中講義		

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	テーマは、修士論文作成に向けての先行研究について概観と吟味であり、到達目標は研究テーマの絞り込みができることである。
授業概要	修士論文作成に向けて、ゼミ形式にて指導する。学生の関心に基づいて、先行研究をレビューし、研究動向と未解明の領域をを明らかにしていく中で、研究目的を明確化していく。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション
評価方法と割合	受講態度（50%）と修論テーマの絞り込み程度による（50%）。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	各自の発表に基づいて，その都度フィードバックを行う。
履修条件・注意事項	自主的に取り組むこと。ほぼ、毎回発表が求められる。
事前学習・事後学習とその時間	修士課程のゼミらしく、自分で調べて、それでもわからないところは質問する。 発表の準備に2時間以上、復習・課題の整理に2時間は要する。
オフィスアワー	火曜２限、６４２４研究室。

授業計画	担当者
１．オリエンテーション	中瀬
２．今後の研究計画について	中瀬
３．文献検索　基礎	中瀬
４．文献検索(キーワードの検討)	中瀬
５．中心的関連文献(図書)の精読	中瀬
６．周辺的関連文献(図書)の探索	中瀬
７．実験計画法（基礎）	中瀬
８．実験計画法（要因計画）	中瀬
９．記述統計	中瀬
10．検定と推定	中瀬
11．実験計画と分析疫学	中瀬
12．雑誌論文紹介(レビュー)	中瀬
13．雑誌論文紹介(方法・結果)	中瀬
14．雑誌論文紹介（考察・問題点）	中瀬
15．研究テーマの発表とまとめ	中瀬

教科書			
教・書籍名１	教科書は使用しない。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	適宜、指示する。	参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	特別研究Ⅰ	担当者	高橋　淳
配当学科・研究科	2011～ 2013年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／ 2013～ 2016年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学1年／ 2017～ 2022年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学1年	ナンバリング	

必修・選択	必修	単位数	4単位	時間数	60	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	集中講義		

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに／９．産業と技術革新の基盤をつくろう／１２．つくる責任・つかう責任
到達目標	学生が腫瘍生物学研究に必要な知識、方法、実験技術、思考法を学び、その成果を発表できることを目標とする。
授業概要	1, 腫瘍生物学の最先端を理解するための基礎知識を学ぶ。 2. 実験方法を学び、分子細胞生物学的手技に習熟する。 3. 保健福祉研究所で実験に従事して、データを取得・解析する。 4. 研究発表の方法を学ぶ。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート／プレゼンテーション
評価方法と割合	講義後の提出レポートで、知識を評価する（30%）。実験において、態度を評価する（30%）。実験結果の検討会で実験技術、思考法を評価する（40%）。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題等は、ゼミでフィードバックするので見直しをしておくこと。
履修条件・注意事項	研究指導は、主指導教員1名によって行う。適宜、副指導教員による指導も行う。 実験研究に対して、真摯に臨み、よく考え、盛んに討論し、勤勉に努力する態度を涵養する。 動物実験に従事するかどうかは、本人の希望を尊重する。
事前学習・事後学習とその時間	腫瘍学に知的好奇心を持ち、積極的に質問し、レポート課題に前向きに取り組んでほしい。研究者は実験室で育つ。実験を進めながら、積極的に質問し、討論し、実地に学んでほしい。
オフィスアワー	個人研究室にて、水曜日の4時限目に実施。

授業計画	担当者
1. 腫瘍生物学総論 2. 分子細胞生物学実験法 3. 実験（1） 4. 実験（2） 5. 実験（3） 6. 実験（4） 7. 実験（5） 8. 実験（6） 9. 実験（7） 10.実験（8） 11.実験（9） 12.実験（10） 13.実験結果検討会 14.研究計画書作成 15.研究計画発表の予行演習	高橋

教科書			
教・書籍名１	教科書は特に指定しないが、必要に応じて資料を配布する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	

参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	特別研究Ⅰ	担当者	河村　顕治
配当学科・研究科	2011～ 2013年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／ 2013～ 2016年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学1年／ 2017～ 2022年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学1年	ナンバリング	

必修・選択	必修	単位数	4単位	時間数	60	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	集中講義		

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに
到達目標	修士論文を作成する過程においてまずしっかりした研究計画を立てることが重要である。学生は研究計画を立てるために様々なバイオメカニクス的解析手法を学び、研究テーマを明確にした上で、実行可能な研究計画を立てることができる。
授業概要	主にバイオメカニクス研究の指導を行う。 １．先行研究や原著について指導し、文献の検索や読解力を養い、思考能力を高める。 ２．文献の講読を行いながら研究仮説を立案し、リサーチを行う院生には実験の計画を立案させる。 ３．データの集積、分析、論文執筆などについて指導する。
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	文献など研究論文の内容理解への努力や、テーマを掘り下げていく研究姿勢及び研究指導に対する姿勢（20%）、理解促進ために提出を求める課題の内容や質疑応答における発言状況（20%）について評価すると共に、作成された研究計画書について、研究テーマの妥当性、研究方法の妥当性、倫理的配慮等を総合的に評価する（60%）。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題等は、授業でフィードバックするので最終講義（口頭試問）までにみなおしておくこと。
履修条件・注意事項	本講義を通して修士論文研究計画を完成させることが求められている。
事前学習・事後学習とその時間	予習として、各授業計画および、前回授業で予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。 また、復習として、毎回の授業の内容を確認し、自分なりにノートにまとめること。 なお、予習、復習には各2時間程度を要する。
オフィスアワー	個人研究室にて、火曜日の4時限目に実施。

授業計画	担当者
第１回：科学的情報収集法①	河村顕治
第２回：科学的情報収集法②	河村顕治
第３回：研究テーマ策定①	河村顕治
第４回：研究テーマ策定②	河村顕治
第５回：基礎知識の確認①	河村顕治
第６回：基礎知識の確認②	河村顕治
第７回：先行研究の調査①	河村顕治
第８回：先行研究の調査②	河村顕治
第９回：先行研究の調査③	河村顕治
第10回：先行研究の調査④	河村顕治
第11回：先行研究の調査⑤	河村顕治
第12回：先行研究の調査⑥	河村顕治
第13回：先行研究の概要発表①	河村顕治
第14回：先行研究の概要発表②	河村顕治
第15回：先行研究の概要発表の講評①	河村顕治
第16回：先行研究の概要発表の講評②	河村顕治
第17回：研究テーマの確定①	河村顕治

第18回：研究テーマの確定②	河村顕治
第19回：研究計画調書作成①	河村顕治
第20回：研究計画調書作成②	河村顕治
第21回：バイオメカニクス研究指導①	河村顕治
第22回：バイオメカニクス研究指導②	河村顕治
第23回：バイオメカニクス研究指導③	河村顕治
第24回：バイオメカニクス研究指導④	河村顕治
第25回：バイオメカニクス研究指導⑤	河村顕治
第26回：バイオメカニクス研究指導⑥	河村顕治
第27回：研究計画調書再検討と修正①	河村顕治
第28回：研究計画調書再検討と修正①	河村顕治
第29回：研究計画発表用資料確認①	河村顕治
第30回：研究計画発表用資料確認②	河村顕治

教科書			
教・書籍名１	特に定めない。必要に応じてプリントを配布する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	特別研究Ｉ	担当者	齋藤　圭介
配当学科・研究科	2011～ 2013年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／ 2013～ 2016年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学1年／ 2017～ 2022年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学1年	ナンバリング	

必修・選択	必修	単位数	4単位	時間数	60	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	集中講義		

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	研究を行なうのに必要な手続き，態度および方法を身につけ，修士論文の研究計画書としてまとめることを到達目標とする。
授業概要	1. 先行研究や原著について指導し，文献の検索や読解力を養い，思考能力を高める。 2. 文献の講読を行いながら研究仮説を立案し，リサーチを行なう院生には実験あるいは調査の計画を立案させる。また，文献研究を行なう院生にはその構想を立案させる。 3. 適切なデータの収集，分析方法について先行研究や専門書を基に立案する思考性を身につける。 ※実務経験のある教員による授業科目 この科目は，理学療法士としての実務経験と研究実績を持つ教員が，その経験を生かし，臨床現場の研究活動に実践的に役立つ授業を実施する。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	課題の取り組み状況（40%），研究課題の進捗状況（20%），研究計画書の達成度（30%）から評価する。研究計画書については，知識・技術・研究的思考が具現化されたものとみなす。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	評価に関わる課題やレポート等は，授業内，またはMicrosoft Teamsを活用しフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	主指導教員1名と2名の副指導教員の体制の下，予習・復習はもとより，教員に指示を仰ぎ積極的な姿勢で研究課題に取り組むこと。
事前学習・事後学習とその時間	事前に課題を与え報告を行ない，それを蓄積し研究の具体化を進めるため，予習と復習が必須である。課題は，各回授業時において指示する。予習および復習には，各2時間程度を要する。
オフィスアワー	個人研究室にて，木曜日3時限目に実施。それ以外についても随時対応する。

授業計画	担当者
1・2. 研究計画のアウトライン	齋藤
3・4. 社会的背景の吟味	齋藤
5・6. 研究レビューの吟味	齋藤
7・8. 研究方法の吟味	齋藤
9・10. 研究対象選定の吟味	齋藤
11・12. 統計処理方法の吟味	齋藤
13・14. 予想される結果と研究意義の吟味	齋藤
15・16. 緒言の執筆　社会的背景	齋藤
17・18. 緒言の執筆　先行研究の到達点と課題	齋藤
19・20. 緒言の執筆　研究目的	齋藤
21・22. 研究方法の執筆	齋藤
23・24. 予想される結果と研究意義の吟味の執筆	齋藤
25・26. 研究計画書の最終確認	齋藤
27・28. 研究計画発表会に向けた準備	齋藤
29・30. 研究計画発表会に向けた最終確認	齋藤

教科書

教・書籍名１	使用しない（適宜必要な文献および資料等を提示する）	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	特別研究Ⅰ	担当者	原田　和宏
配当学科・研究科	2011～ 2013年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／ 2013～ 2016年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学1年／ 2017～ 2022年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学1年	ナンバリング	

必修・選択	必修	単位数	4単位	時間数	60	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	集中講義		

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	「脳血管障害の長期機能予後に関する研究」，「地域高齢者の評価に関する研究」に関して 研究を行うのに必要な手続き，態度および方法について身につけ，大学院生が研究成果を論文としてまとめることができる。
授業概要	１．先行研究や原著について指導し，文献の検索や読解力を養い，思考能力を高める。 ２．文献の購読を行いながら研究仮説を立案し，リサーチを行う院生には実験あるいは調査の計画を立案させる。また，文献研究を行う院生にはその構想を立案させる。 ３．データの集積，分析，論文執筆などについて指導する。
アクティブラーニングの内容	PBL／ディスカッション／プレゼンテーション
評価方法と割合	文献など研究論文の内容理解への努力や、テーマを掘り下げていく研究姿勢及び研究指導に対する姿勢（20%）、理解促進ために提出を求める課題の内容や質疑応答における発言状況（20%）について評価すると共に、作成された論文について、研究テーマの妥当性、研究方法、論旨の妥当性、倫理的配慮等を総合的に評価する（60%）。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題や等は、授業でフィードバックするので最終講義（口頭試問）までにみなおしておくこと。
履修条件・注意事項	研究指導は，最もその研究に適した主指導教員１名と２名の副指導教員によって行う。 リハビリテーション研究ではフレキシブルな問題解決能力が要求されると同時に、正確に情報理解するためには豊富な基礎知識も不可欠である。したがって、毎回，予習と復習について真剣に取り組んでもらいたい。
事前学習・事後学習とその時間	予習として、各授業計画および、前回授業で予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。 また、復習として、毎回の授業で指摘した専門用語を教科書で確認して，自分なりにノートにまとめること。 なお、予習、復習には各2時間程度を要する。
オフィスアワー	6号館4階の個人研究室において，毎週火曜日4限と木曜日3限をオフィスアワーの時間とする．

授業計画	担当者
（前半） 1. 研究領域の検討と策定 2. 研究領域に沿った基礎知識の確認 3. 研究領域に沿った先行研究の調査１ 4. 研究領域に沿った先行研究の調査２ 5. 研究領域に沿った先行研究の調査３ 6. 研究領域に沿った先行研究のまとめ 7. 研究テーマの候補 8. 研究テーマにおける独立変数と従属変数の選定１ 9. 研究テーマにおける独立変数と従属変数の選定２ 10. 研究テーマに沿った測定方法の計画１ 11. 研究テーマに沿った測定方法の計画２ 12. 研究テーマにおけるサンプル数の決定 13. 研究計画書の作成１ 14. 研究計画書の作成２	原田和宏

15. 研究計画書の決定 16.　試験 （後半） 16. 研究計画の修正 17.参考文献の調査 18.参考文献の精読 19.調査方法の検討 20.調査方法の確定 21.調査の実施 22.調査結果の収集 23.調査気課の整理 24.研究進捗状況報告書の概要説明 25.研究進捗状況報告書の作成 26.研究進捗状況報告書の内容確認と講評 27.研究進捗状況報告書の提出と研究の進捗 28.調査方法の見直し 29.調査の再実施 30.調査結果の最収集，他まとめ 31.　試験	

教科書			
教・書籍名１	医学的研究のデザイン：研究の質を高める疫学的アプローチ　第４版	教・出版社名１	ﾒﾃﾞｨｶﾙ･ｻｲｴﾝｽ・ｲﾝﾀｰｼｮﾅﾙ
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	978-4-89592-583-9
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	特別研究Ｉ	担当者	中角　祐治
配当学科・研究科	2011～ 2013年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／ 2013～ 2016年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学1年／ 2017～ 2022年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学1年	ナンバリング	

必修・選択	必修	単位数	4単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	集中講義		

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	テーマ；神経生理を理解する。 到達目標；学生が、臨床的に神経生理検査を応用できるようになる。
授業概要	脳・脊髄・末梢神経・筋・骨関節の障害で生じる随意運動障害について、神経生理学的なアプローチを紹介して行く。これらの手法は、原因部位の診断のみならず、重症度も把握できる。そのため、治療経過での症状の推移を追うことにも応用できる。 上肢機能の改善を目的とした作業療法は、ハンドセラピーとも呼ばれ、専門的な治療が行われている。作業療法士は、臨床検査を行うことも可能で、この領域の知識と技術を学ぶことは、臨床的に有用と考えられる。 まず、臨床神経生理学の歴史的な変遷を紹介する。 次に、神経筋の構造と機能を再学習する。 そして、神経伝導検査の原理と実際を学ぶ。ここでは、臨床でもちいられている検査機器の構造と特性を知ることから、運動神経と知覚神経の伝導速度の測定、Ｆ波やＨ反射の誘発、神経筋接合部の疾患に対する反復刺激検査、瞬目反射、さらに、大脳磁気刺激による運動誘発電位についても学ぶ。 その他、針筋電図の原理と実際について、神経原性、筋原性疾患の特徴を学習する。 最後に、症例が提示されるので、実際的な臨床応用のありかたも感じとってもらいたい。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション
評価方法と割合	期末試験（100%）
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	試験結果について文章でフィードバックします。
履修条件・注意事項	学生時代に習った生理学、神経学を復習してください。
事前学習・事後学習とその時間	予習復習に各2時間を要す
オフィスアワー	水曜３限、６号館４階６４１１研究室

授業計画	担当者
１；臨床神経生理学の歴史	中角
２；神経生理の基礎	中角
３；筋の構造と機能１	中角
４；筋の構造と機能２	中角
５；神経筋接合部の構造と機能	中角
５；末梢神経の構造と機能１	中角
６；末梢神経の構造と機能２	中角
７；脊髄の構造と機能１	中角
８；脊髄の構造と機能２	中角
９；脳幹の構造と機能１	中角
10；脳幹の構造と機能２	中角
11；小脳の構造と機能１	中角
12；小脳の構造と機能２	中角
13；間脳の構造と機能１	中角
14；間脳の構造と機能２	中角
15；大脳の構造と機能１	中角
16；期末試験	

教科書			
教・書籍名１	神経伝導検査と筋電図を学ぶ人のために	教・出版社名１	医学書院
教・著者名１	木村淳、幸原伸夫	教・ＩＳＢＮ１	978-4-260-0085-2
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	特別研究Ⅰ	担当者	森　芳史
配当学科・研究科	2011～ 2013年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／ 2013～ 2016年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学1年／ 2017～ 2022年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学1年	ナンバリング	

必修・選択	必修	単位数	4単位	時間数	60	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	集中講義		

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	自らの臨床疑問や研究疑問を研究課題とし、研究を行うのに必要な手続き、態度および方法について学び、その成果として研究計画書を作成することができる。
授業概要	１．先行研究や原著について指導し、文献の検索や読解力を養い、思考能力を高める。 ２．文献の購読を行いながら研究仮説を立案し、リサーチを行う院生には実験あるいは調査の計画を立案させる。また、文献研究を行う院生にはその構想を立案させる。
アクティブラーニングの内容	プレゼンテーション／実習
評価方法と割合	講義時における口頭試問、提出レポートについて、知識や態度、考察する力等を評価する（40%）。また、最終提出された研究計画書の内容について評価する（60%）。なお、評価のために実施した課題や小テスト等は、授業でフィードバックするので最終講義までにみなおしておくこと。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業やオンラインで必要なフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	研究指導は、最もその研究に適した主指導教員1名と2名の副指導教員によって行う。 時間を厳守するとともに、与えられた課題の達成のみならず、自分自身で考え、積極的に問題点を見つけだし、明確な質疑応答ができるようにする。
事前学習・事後学習とその時間	自己学習のためのレポート課題を課す．それを作成することによって講義の予習復習が可能であり、必ず提出すること。なお、予習及び復習には、各2時間程度を要する。
オフィスアワー	6号館4階、6412号室：火曜日5限目、水曜日5限目、その他授業前、放課後、昼休みにお越し下さい。

授業計画	担当者
1.修士課程における研究の概要	森
2. 臨床疑問、研究疑問の社会的背景の整理１	森
3. 臨床疑問、研究疑問の社会的背景の整理２	森
4. 研究と倫理１	森
5. 研究と倫理２	森
6. 参考文献の調査	森
7. 研究テーマの作成	森
8. 研究対象者の選択	森
9. 測定方法の計画１	森
10. 測定方法の計画２	森
11. サンプルサイズの推定１	森
12. サンプルサイズの推定２	森
13. 研究デザイン（コホート研究）	森
14. 研究デザイン（横断研究とケースコントロール研究）	森
15. 研究デザイン（観察研究における交絡と交互作用）	森
16. 研究テーマの検討と策定	森
17. 研究テーマに沿った基礎知識の確認	森
18. 研究テーマに沿った先行研究の調査１	森
19. 研究テーマに沿った先行研究の調査２	森
20. 研究テーマに沿った先行研究の調査３	森
21. 研究テーマに沿った先行研究のまとめ	森
22. 研究テーマの確定	森
23. 研究テーマにおける独立変数と従属変数の選定１	森

24. 研究テーマにおける独立変数と従属変数の選定２	森
25. 研究テーマに沿った測定方法の計画１	森
26. 研究テーマに沿った測定方法の計画２	森
27. 研究テーマにおけるサンプル数の決定	森
28. 研究計画書の作成１：	森
29. 研究計画書の作成２	森
30. 研究計画書の発表	森

教科書			
教・書籍名１	教科書の指定は無い。前もって資料・テキストを配付する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	医学的研究のデザイン　第4版	参・出版社名１	メディカルサイエンスインターナショナル
参・著者名１	木原雅子（翻訳），木原正博（翻訳）	参・ＩＳＢＮ１	978-4-89592-783-3
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	特別研究Ｉ	担当者	服部　俊夫
配当学科・研究科	2011～ 2013年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／ 2013～ 2016年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学1年／ 2017～ 2022年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学1年	ナンバリング	

必修・選択	必修	単位数	4単位	時間数	180	授業形態	実習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	集中講義		

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	骨から由来するオステオポンチンなどの蛋白の感染・免疫に及ぼす影響
授業概要	オステオポンチンの組織での局在を細胞株、組織で解析し、感染・免疫疾患において、どのような役割をするかを研究する。同時に 同じマトセルラー蛋白であるgalectin-9についても検討し、比較する。
アクティブラーニングの内容	グループワーク／実習
評価方法と割合	実験データーや、それに関する研究現況の把握。 レポートの提出後はその内容に関してフィードバックを行う。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題の目的が学生のもつ向学心に沿っているかをその都度確認する。
履修条件・注意事項	予習・復習を行い、講義内容が理解できるように前もってわからないところは参考書などで調べておくこと。講義の三分の二以上に 出席することがレポート提出の条件である。
事前学習・事後学習とその時間	予習として、各授業計画および、前回授業で予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受け ること。 また、復習として、毎回の授業の内容を確認し、自分なりにノートにまとめること。 なお、予習、復習には各2時間程度を要する。
オフィスアワー	毎週木曜日午前１１時から12時 ６号館 ４０８

授業計画	担当者
1年次 1. 博士課程における研究の概要 2. 臨床疑問、研究疑問の発表 3. 臨床疑問、研究疑問の社会的背景の整理 4. 研究と倫理（臨床研究） 5. 研究と倫理（実験研究） 6. 参考文献の調査 7. 研究テーマの作成 8. 研究対象者の選択 9. 測定方法の計画（臨床研究） 10. 測定方法の計画（実験研究） 11. サンプルサイズの推定 12. サンプルサイズの推定・実技 13. 研究デザイン（コホート研究） 14. 研究デザイン（横断研究とケースコントロール研究） 15. 研究デザイン（観察研究における交絡と交互作用） 2年次 1. 研究対象者に対する倫理的配慮	服部俊夫

2. 実験における問題点の発表 3. 実験における問題点のディスカッション 4. プレ実験概要説明 5. プレ実験試行 6. プレ実験における問題点の検討 7. 改善プレ実験の概要説明 8. 改善プレ実験試行 9. プレ実験における問題点の検討 10. 実験方法の最終確定 11. 本実験と問題点のまとめ 12. 本実験と問題点の報告 13. 本実験と問題点のディスカッション 14. 本実験と問題点のディスカッションのまとめ 15. 本実験結果の中間報告とディスカッション	

教科書			
教・書籍名１	免疫生物学	教・出版社名１	南江堂
教・著者名１	笹月健彦	教・ＩＳＢＮ１	978-4-524-25115-5
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	特別研究Ｉ	担当者	赤在　あゆみ
配当学科・研究科	2011～ 2013年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／ 2013～ 2016年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学1年／ 2017～ 2022年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学1年	ナンバリング	

必修・選択	必修	単位数	4単位	時間数	60	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	集中講義		

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	研究を行うのに必要な手続き、態度および方法について指導し、研究成果を論文としてまとめる。
授業概要	1.先行研究や原著論文について指導し、文献検索や原著の読解力を養い、思考力を高める。 ２．文献を十分検索したうえで研究仮説を立案し、研究計画を作成する。 3.データの集積、分析、論文作成などについて指導する。
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	講義時の設問(３０％)、研究計画の内容(３０％)、研究計画の発表内容(４０％)で評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	○○○○○
履修条件・注意事項	研究指導はその研究に適した指導教員で行う。
事前学習・事後学習とその時間	各授業計画に沿っての予習、授業内容の確認を行う復習にには各々2時間程度を要する。
オフィスアワー	金曜日２限、６号館４階６４２０研究室

授業計画	担当者
１；研究の意義・倫理	赤在
２；基本的研究方法１	赤在
３；基本的研究方法２	赤在
４；情報収集法１	赤在
５；情報収集法２	赤在
６；文献検索法１	赤在
７；文献検索法２	赤在
８；文献検索法３	赤在
９；文献検索法４	赤在
10；研究課題とデザイン１	赤在
11；研究課題とデザイン２	赤在
12；研究課題とデザイン３	赤在
13；研究課題とデザイン４	赤在
14；研究論文作成方法１	赤在
15；研究論文作成方法２	赤在
16；研究論文作成方法３	赤在
17；研究論文作成方法４	赤在
18；研究論文作成方法５	赤在
19；研究計画書作成１	赤在
20；研究計画書作成２	赤在
21；研究計画書作成３	赤在
22；研究計画書作成４	赤在
23；研究計画書作成５	赤在
24；研究発表方法１	赤在
25；研究発表方法２	赤在
26；研究発表方法３	赤在
27；研究発表方法４	赤在
28；研究発表方法５	赤在

教科書			
教・書籍名１	必要な文献・資料等を提示する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	特別研究Ⅰ	担当者	田中　富子
配当学科・研究科	2011～ 2013年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／ 2013～ 2016年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学1年／ 2017～ 2022年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学1年	ナンバリング	

必修・選択	必修	単位数	4単位	時間数	60	授業形態	講義・演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	集中講義		

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに
到達目標	保健看護学分野で、修士論文の作成に取り組むうえでの基本的な考え方や知識を学ぶことができる。 研究計画書を書くことができる。
授業概要	研究の基礎となる文献検索と文献検討の方法、量的、質的研究方法、研究デザインの基本的構成、倫理的課題などを学ぶとともに、研究計画書を書き、発表する。 この科目は，行政機関等の多様な地域看護実践に長年携わった経験を活かし，地域看護学領域における健康課題や予防に関係するテーマを中心とした授業・研究指導を行う。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション
評価方法と割合	講義時における口頭試問、提出レポートについて、知識や態度、考察する力を等を評価する（40%）。また 最終提出された研究計画書の内容について評価する（60%）。なお、提出を求められた課題等は、授業でフィードバックするので最終講義までにはみなおしておくこと。　研究への取り組み状況、プレゼンテーションの内容、出席状況等も評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業毎に提示した課題を発表しディスカッションを行いフィードバックする
履修条件・注意事項	日常の看護事象を研究的視点から見るようにする。関連領域の研究論文をクリティークする習慣をつける。
事前学習・事後学習とその時間	問題意識を持って保健科学分野での論文を自ら進んで文献をクリティークし、研究論文を作成するための基本を理解をする。自己学習の課題として与えられた論文や資料を整理しリポートに纏める。また講義の中でも自ら研究発表ができるように研究課題に関する疑問や課題を整理しておくこと。なお、予習や復習には各2時間程度を要する。
オフィスアワー	木曜日　12：40～13：30　6号館　6407研究室

授業計画	担当者
1.研究とは何か 2.研究的視点と研究課題の対峙 3.研究倫理に基づく責任ある研究活動 4.文献研究 5.文献研究 6.論文のクリティークの方法 7.論文のクリティーク（1） 8.論文のクリティーク（2） 9.論文のクリティーク（3） 11.研究デザインと研究方法 12.量的研究法 13.質的研究法 14..事例検討法 15.研究課題と研究方法 16.研究方法の検討	田中富子

17.研究デザインを描く 18.研究デザインを描く 19.研究方法の検討 20.研究と倫理的課題 21.研究計画書の作成 22.研究計画書の作成 23.研究計画書の準備・資料作成 24.研究計画発表 25.研究テーマと先行研究 26.研究テーマと先行研究 27.研究対象者の選択 28.研究対象者の選択 28.文献の再整理 29.文献の再整理 30..まとめ	

教科書			
教・書籍名１	テーマや授業内容とにより資料を配布・テーマに必要な書籍を提示する	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	特別研究Ⅰ			担当者	掛谷　益子		
配当学科・研究科	2011～ 2013年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／ 2013～ 2016年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学1年／ 2017～ 2022年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学1年			ナンバリング			
必修・選択	必修	単位数	4単位	時間数	60	授業形態	AL
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	集中講義		

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	研究を行うために必要な手続き、方法、および向き合い方について理解でき、自身の研究疑問を明確にしたうえで研究計画書を作成できる。そして、研究計画に沿ってデータの収集と結果の分析に着手できることを到達目標とする。
授業概要	1. 先行研究や原著について指導し、文献の検索や読解力を養い、思考能力を高める。 2. データの集積、分析、論文執筆について理解を深める。
アクティブラーニングの内容	PBL／ディスカッション／ディベート／グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	研究指導全般を通じて、研究へ取り組む姿勢・積極性（50%）、提出課題の内容（50%）をあわせて評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	口頭および書面にてフィードバックする。
履修条件・注意事項	研究指導は最もその研究に適した主指導教員1名と2名の副指導教員によって行う. 与えられた課題の達成のみならず、自分自身で考え積極的に問題点を見つけ出し、明確な質疑応答ができるように準備しておく。
事前学習・事後学習とその時間	自らの課題に対して、事前に調べた資料を読み込み、理解できない点をまとめておき、授業を受ける。授業後は、事前に理解できていなかった点が確実に理解できるように授業の内容を再確認する。「自ら学ぶ」実践型の学習が必須である。
オフィスアワー	水曜日2限、研究室（6402）にて実施する。

授業計画	担当者
1. 修士課程における研究の概要	1.掛谷
2. 研究疑問・研究課題の検討	2.掛谷
3. 研究課題における社会的背景の	3.掛谷
検討	4.掛谷
4. 研究課題における社会的背景の	5.掛谷
整理	6.掛谷
5. 研究における倫理的配慮1	7.掛谷
6. 研究における倫理的配慮2	8.掛谷
7. 文献レビューとは	9.掛谷
8. 文献レビューの方法と管理	10.掛谷
9. 文献の活用	11.掛谷
10. 研究テーマの検討	12.掛谷
11. 研究テーマの決定	13.掛谷
12. 研究デザインの検討	14.掛谷
13. 研究方法の検討	15.掛谷
14. 研究対象者の検討	16.掛谷
15. 測定方法の検討	17.掛谷
16. サンプルサイズの推定	18.掛谷
17. データ収集の注意点	19.掛谷
18. データ収集1	20.掛谷
19. データ収集2	21.掛谷
20. 収集したデータの整理	22.掛谷
21. 収集したデータの分析の視点	23.掛谷
22. 分析方法・統計的手法の妥当性	24.掛谷

23. データの分析	25.掛谷
24. 分析結果の検討1	26.掛谷
25. 分析結果の検討2	27.掛谷
26. 図表の作成	28.掛谷
27. 分析結果の報告	29.掛谷
28. 分析結果の再検討	30.掛谷
29. 分析結果のまとめ	
30. 今後の方針	

教科書			
教・書籍名１	適宜指示する.	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	特別研究Ⅰ			担当者	京極　真		
配当学科・研究科	2011～ 2013年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／ 2013～ 2016年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学1年／ 2017～ 2022年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学1年			ナンバリング			
必修・選択	必修	単位数	4単位	時間数	60	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	集中講義		

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	テーマ：大学院生は、研究計画の立案ができるようになる。 到達目標：大学院生は、先行研究の調査、研究計画の吟味と立案、倫理審査を受けることができる。
授業概要	この講義では、大学院生が自身の研究課題を研究計画として立案し遂行まで導くものである。 学生の関心に基づいて、先行研究をレビューし、研究動向と未解明の領域を明らかにする。 未解明の領域のなかで社会的意義があるテーマを検討し、研究目的を明確化していく。 研究目的に照らし合わせて、具体的な研究方法を定め、研究計画書を立案していく。 そのうえで研究倫理審査の承認を受ける。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート／グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	課題（５０％）・発表（５０％）　で評価する。 なお、評価のために実施した課題等は、講義でフィードバックするので最終講義までにみなおしておくこと。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	口頭及び書面でフィードバックする。
履修条件・注意事項	積極的にかつ自律的に参加すること。 必ず予習と復習を行うこと。
事前学習・事後学習とその時間	予習、復習には各2時間ほど必要である。 自己学習のためのレポート課題を課す。 それを作成することによって講義の予習復習が可能であり、必ず提出すること。
オフィスアワー	曜日：月曜５限目、金曜５限目 場所：６号館４階6428号室

授業計画	担当者
1. 研究の概要	京極
2.　社会背景の検討	京極
3. 研究倫理	京極
4. 先行研究の調査	京極
5.　先行研究の吟味	京極
6. 先行研究の整理	京極
7. 研究テーマの検討	京極
8. 研究テーマの作成	京極
9. 対象者の選定基準	京極
10. 対象者の除外基準	京極
11. 理論的研究のデザイン	京極
12. 理論的研究の実行	京極
13.　理論的研究の報告	京極
14. 質的研究の目的	京極
15. 質的研究の方法	京極
16. 質的研究の評価基準	京極
17. 量的研究の目的	京極
18. 量的研究の方法	京極
19. 量的研究の評価基準	京極
20. 混合研究法の目的	京極

21. 混合研究法の方法	京極
22. 混合研究法の評価基準	京極
23. 研究計画書の形式	京極
24. 研究計画書の作成	京極
25. 研究計画書の決定	京極
26. 研究計画書の発表	京極
27. 研究計画書の吟味	京極
28. 研究計画書の修正	京極
29. 研究計画書の再作成	京極
30.　まとめ	京極

教科書			
教・書籍名１	適宜紹介	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	適宜紹介	参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	特別研究Ⅰ			担当者	柘野　浩子		
配当学科・研究科	2011～ 2013年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／ 2013～ 2016年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学1年／ 2017～ 2022年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学1年			ナンバリング			
必修・選択	必修	単位数	4単位	時間数	60時間	授業形態	講義、演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	集中講義		

ＳＤＧｓ関連項目	１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	テーマ 研究を行うのに必要な手続き、態度および方法について学び、自己の研究課題を明確にし、研究計画書を作成する。 到達目標 １．具体的な研究課題を明確にできる。 ２．研究テーマに沿った適切な研究方法が選択できる。 ３．実践可能な研究計画書を作成する。
授業概要	研究目的を明らかにし、研究デザイン、研究方法を具体的に計画する。 国内外の先行研究のクリティークを通して課題を明らかにし、研究テーマにそった研究方法論に基づく研究計画書を作成する。 研究倫理審査の承認を受ける。
アクティブラーニングの内容	PBL／ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション
評価方法と割合	研究姿勢及び研究指導に対する姿勢（20%） 課題の内容、ディスカッションの内容（20%） 研究計画書について、研究テーマの妥当性、研究方法、倫理的配慮、プレゼンテーション等について総合的に評価する（60%）
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	ゼミの中でフィードバックする
履修条件・注意事項	研究は科学的探究心をもって、主体的かつ創造的に取り組むこと。 文献を読み、ディスカッションができる準備をしておくこと。
事前学習・事後学習とその時間	課題に対して、事前に資料を読み込み、自己の考えをまとめ、ディスカッションができる準備をしておくこと。 予習、復習をし、理解を深めること。予習・復習にはそれぞれ約2時間必要である。
オフィスアワー	金曜日　3限　6号館　6433号室

授業計画	担当者
1. ガイダンス 2. 研究課題の検討 3. 関連する文献の検索 4. 文献整理 5. 関連する文献検討 6. 関連する文献の検討 7. 関連する文献の検討 8. 関連する文献の検討 9. 研究課題の明確化 10. 研究目的の明確化	

11. 研究デザインの検討 12. 質的研究方法の特徴 13. 質的研究方法の検討 14. 量的研究方法の特徴 15. 実験研究方法の特徴 16. 研究方法の検討 17. 研究の倫理 18. 対象者の検討 19. データ収集方法の検討 20. 分析方法の検討 21. 倫理的配慮 22. 研究計画書の作成 23. 研究計画書の作成 24. 研究計画書の作成 25. 倫理審査書類の作成 26. 研究計画書発表プレゼンテーション資料作成 27. 研究計画書プレゼンテーション 28.. 研究計画書の修正 29. 文献整理 30. まとめ	柘野浩子

教科書			
教・書籍名１	看護における看護研究第2版	教・出版社名１	日本看護協会出版会
教・著者名１	南裕子、野嶋佐由美	教・ＩＳＢＮ１	978－4－8180－2066－5
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	「看護研究・看護実践の質を高める文献レビューの基本」	参・出版社名１	医歯薬出版
参・著者名１	大木秀一	参・ＩＳＢＮ１	978-4-263-23581-2
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	特別研究Ⅰ			担当者	竹﨑　和子		
配当学科・研究科	2011～ 2013年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／ 2013～ 2016年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学1年／ 2017～ 2022年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学1年			ナンバリング			
必修・選択	必修	単位数	4単位	時間数	６０	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	集中講義		

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／９．産業と技術革新の基盤をつくろう
到達目標	テーマ 修士論文作成に向けての自己の研究課題を明確にし、研究テーマを設定する 到達目標 ①研究課題の明確化 ②文献検討 ③研究における倫理的配慮についての言語化 ④研究計画書の立案
授業概要	主にリハビリテーション看護領域の研究指導を行う １.先行研究や原著論文について指導し、文献の検索や読解力を養い、思考能力を高める ２.文献の購読を行いながら、研究テーマ、研究目的を明確化する ３.研究目的に照らし合わせて、具体的な研究方法を定め、研究計画書を立案していく ４.研究倫理審査の承認を受ける
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション
評価方法と割合	研究姿勢及び研究指導に対する姿勢（２０％） 課題の内容や質疑応答における発言状況（２０％） 作成された研究計画書について、研究テーマの妥当性、研究方法の妥当性、倫理的配慮等を総合的に評価する（６０％）
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	提出されたレポートはコメントを返すため今後の学習に役立てること
履修条件・注意事項	積極的かつ自律的に参加すること 必ず予習・復習を行うこと
事前学習・事後学習とその時間	予習として、各授業計画及び、前回授業で予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点を纏めて授業を受けること（2時間） 復習として、毎回の授業内容を確認し、自分なりにノートに纏めること（2時間）
オフィスアワー	木曜日　５限　６号館　６４０４研究室

授業計画	担当者
1.　研究の概要（講義）	1.　竹﨑
2.　社会背景の検討（講義）	2.　竹﨑
3.　研究倫理教育（AL）	3.　竹﨑
4.　先行研究の調査（AL）	4.　竹﨑
5.　先行研究の吟味（AL）	5.　竹﨑
6.　先行研究の整理（AL）	6.　竹﨑
7.　研究テーマの検討（AL）	7.　竹﨑
8.　研究テーマの作成（AL）	8.　竹﨑
9.　対象者の選定基準（AL）	9.　竹﨑
10.　対象者の除外基準（AL）	10.　竹﨑
11.　理論的研究のデザイン（AL）	11.　竹﨑

12.　理論的研究の実行（AL）	12.　竹﨑
13.　理論的研究の報告（AL）	13.　竹﨑
14.　質的研究の目的（AL）	14.　竹﨑
15.　質的研究の方法（AL）	15.　竹﨑
16.　質的研究の評価基準（AL）	16.　竹﨑
17.　量的研究の目的（AL）	17.　竹﨑
18.　量的研究の方法（AL）	18.　竹﨑
19.　量的研究の評価基準（AL）	19.　竹﨑
20.　混合研究法の目的（AL）	20.　竹﨑
21.　混合研究法の方法（AL）	21.　竹﨑
22.　混合研究法の評価基準（AL）	22.　竹﨑
23.　研究計画書の形式（AL）	23.　竹﨑
24.　研究計画書の作成（AL）	24.　竹﨑
25.　研究計画書の決定（AL）	25.　竹﨑
26.　研究計画書の発表（AL）	26.　竹﨑
27.　研究計画書の吟味（AL）	27.　竹﨑
28.　研究計画書の修正（AL）	28.　竹﨑
29.　研究計画書の再作成（AL）	29.　竹﨑
30.　まとめ（AL）	30.　竹﨑

教科書			
教・書籍名１	適宜必要な文献・資料等を提示する	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	特別研究Ⅰ	担当者	三宅　優紀
配当学科・研究科	2011～ 2013年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／ 2013～ 2016年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学1年／ 2017～ 2022年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学1年	ナンバリング	

必修・選択	必修	単位数	4単位	時間数	60	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	集中講義		

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに
到達目標	テーマ：大学院生は研究テーマに沿った考察の進展と論文作成を行う 到達目標：大学院生は、研究の枠組みや仮説に則って進めてきた研究の成果を分析検討し、具体的に論文において表明できるように整理していく事ができるようになる。 関係する文献や情報、資料、データ等の入手に積極的に取り組む。また、その他の院生の研究にも積極的な関心を持ち、テーマが異なる場合でも共通する諸課題に対する論点や、考察のための論理的思考を身につけられるように取り組む事ができるようになる。
授業概要	1. 先行研究や原著について指導し、文献の検索や読解力を養い、思考能力を高める。 2. 調査結果や文献研究からの考察点による論文の構成概要を固め、その具体的な記述を進めていく。
アクティブラーニングの内容	PBL／ディスカッション／プレゼンテーション／フィールドワーク
評価方法と割合	文献や研究論文などによる内容理解への努力や、テーマを掘り下げていく姿勢及び研究指導に対する姿勢(30%)、質疑応答における発言状況（30%）、研究進捗状況に応じたレポート（40%）から、総合的に評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題類は採点結果を返却し、必要な内容を授業、または資料配付でフィードバックする。
履修条件・注意事項	主指導教員1名と2名の副指導教員の体制の下，予習・復習はもとより，教員に指示を仰ぎ積極的な姿勢で研究課題に取り組むこと。なお評価のために実施した課題等は、授業でフィードバックするので最終講義（口頭試問）までにみなおしておくこと。
事前学習・事後学習とその時間	予習として、各授業計画および、前回授業で予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。 また、復習として、毎回の授業の内容を確認し、自分なりにノートにまとめること。 なお、予習、復習には各2時間程度を要する。
オフィスアワー	6315研究室，水曜日3限

授業計画	担当者
１．研究計画内容、仮説の再検討１	三宅
２．研究計画内容、仮説の再検討２	三宅
３．データ収集の再検討１	三宅
４．データ収集の再検討２	三宅
５．関連文献からの検討（1）調査結果	三宅
６．関連文献からの検討（1）先行研究	三宅
７．関連文献からの検討（2）引用表現１	三宅
８．関連文献からの検討（2）引用表現２	三宅
９．関連文献からの検討（3）論点１	三宅
10．関連文献からの検討（3）論点２	三宅
11．引用文献の挿入１	三宅
12．引用文献の挿入２	三宅
13．データの全体的特徴の把握１	三宅
14．データの全体的特徴の把握２	三宅
15．データ処理方法	三宅
16．研究目的達成に向けた解析	三宅

17. 解析結果の解釈１	三宅
18. 解析結果の解釈２	三宅
19. 中間発表の準備1全体の構成１	三宅
20. 中間発表の準備1全体の構成２	三宅
21. 中間発表の準備2論文構成の課題１	三宅
22. 中間発表の準備2論文構成の課題２	三宅
23. 中間発表の準備3要旨のまとめ方１	三宅
24. 中間発表の準備3要旨のまとめ方１	三宅
25. 中間発表の準備4結果の提示１	三宅
26. 中間発表の準備4結果の提示２	三宅
27. 中間発表の準備5考察と検討	三宅
28. 中間発表の準備5結論の検討	三宅
29. プレゼンテーションの実施の仕方	三宅
30. 最終試験 最終レポート	三宅

教科書			
教・書籍名１	作業で創るエビデンス 作業療法士のための研究法の学びかた	教・出版社名１	医学書院
教・著者名１	友利　幸之介／京極　真／竹林　崇	教・ＩＳＢＮ１	978-4-260-03662-7
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	特別研究Ｉ	担当者	中嶋　正明
配当学科・研究科	2011～ 2013年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／ 2013～ 2016年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学1年／ 2017～ 2022年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学1年	ナンバリング	

必修・選択	必修	単位数	4単位	時間数	60	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	集中講義		

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに
到達目標	学生が研究思考を身につけ、研究計画を立てることができることを目標とする。
授業概要	1.研究テーマにかかわる先行研究にあたり分かっていること、分かっていないことを明確にさせる指導を行う。 2.研究を始めるに至った背景を説明できるよう指導を行う。 3.データの集積、分析、論文執筆などについて指導を行う。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション
評価方法と割合	講義時および研究指導時における口頭試問、提出レポートについて、知識や態度、考察力を評価する（４０％）。 また、最終提出された研究計画書の内容について評価する（６０％）。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施したレポートは授業でフィードバックするので見直しをしておくこと。
履修条件・注意事項	研究指導は、その研究内容に合った主指導教員1名と副指導教員2名によって行われる。 予習、復習を各2時間程度を必要とする。
事前学習・事後学習とその時間	研究に関連する項目について自身で学習すること。授業で学習したの内容については、自分なりにノートにまとめること。
オフィスアワー	水曜日３時限、研究室（6329）

授業計画	担当者
第１回　理学療法における研究の意義	中嶋正明
第２回　研究者の責務と倫理	中嶋正明
第３回　リサーチクエスチョン	中嶋正明
第４回　文献レビューとその方法	中嶋正明
第５回　文献検索①　批判的リーディング	中嶋正明
第６回　文献検索②　批判的リーディング	中嶋正明
第７回　レビューマトリックスの作成①	中嶋正明
第８回　レビューマトリックスの作成②	中嶋正明
第９回　研究デザイン①　枠組み	中嶋正明
第１０回　研究デザイン②　研究方法の検討	中嶋正明
第１１回　　研究デザイン③　研究方法の選択	中嶋正明
第１２回　研究計画書の作成①	中嶋正明
第１３回　研究計画書の作成②	中嶋正明
第１４回　研究計画書の作成③　推敲	中嶋正明
第１５回　研究計画プレゼンテーション	中嶋正明

教科書			
教・書籍名１	実験計画法　活用編	教・出版社名１	日科技連出版社
教・著者名１	山田秀／編著	教・ＩＳＢＮ１	978-4-8171-0390-1
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	特別研究Ⅰ			担当者	佐藤　三矢		
配当学科・研究科	2011～ 2013年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／ 2013～ 2016年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学1年／ 2017～ 2022年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学1年			ナンバリング			
必修・選択	必修	単位数	4単位	時間数	60	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	集中講義		

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	学生は、自身の研究を行なうために必要な考え方や取り組みの項目をディスカッションやレポート作成などを通じて適切に把握し、最終的に研究計画を自分で作成できるようになる。
授業概要	1.先行研究や原著について指導し、文献の検索や読解力を養い、思考能力を高める。 2.文献の講読を行いながら研究仮説を立案し、リサーチを行なう院生には実験あるいは調査の計画を立案させる。また、文献研究を行なう院生にはその構想を立案させる。 3.データの集積、分析、論文執筆などについて指導する。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート／プレゼンテーション
評価方法と割合	研究指導全般で行われる講義時の口頭試問や提出された課題レポートの内容などを通じて、履修学生におけりう知識や態度、考察する力等を評価する（４０％）。また、最終的に提出された研究計画書の内容について評価する（６０％）。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題等は、授業でフィードバックするので最終講義（口頭試問）までに見直しておくこと。
履修条件・注意事項	研究指導は、履修学生の研究に最も適した主指導教員（1名）と副指導教員（2名）によっておこなう。
事前学習・事後学習とその時間	関連する研究に必要な項目を自身で積極的に学習することが重要である。 【予習】 各授業計画および前回授業で予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて授業・実習を受けること。 【復習】 毎回の講義において学習した内容を確認し、自分なりにノートにまとめていくこと。 ※予習と復習には各2時間程度を要する。
オフィスアワー	個人研究室のて木曜日の３時限に実施する。

授業計画	担当者
1.保健科学研究領域の概要(1)Physical編 2.保健科学研究領域の概要(2)Mental編 3.研究テーマの検討 4.研究テーマの策定 5.研究テーマの基礎知識の確認(1)研究デザイン編 6.研究テーマの基礎知識の確認(2)対象と評価項目 7.研究テーマの先行研究の調査(1)研究デザイン編 8.研究テーマの先行研究の調査(2)対象と評価項目編 9.先行研究の概要発表(1)Physical編 10.概要発表の講評(1) 11.先行研究の概要発表(2)Mental編 12.概要発表の講評(2) 13.研究に必要な実験手技の指導(1)対象 14.研究に必要な実験手技の指導(2)方法 15.研究に必要な実験手技の指導(3)評価項目 16.研究に必要な実験手技の指導(4)データ解析 17.研究に必要な実験手技の指導(5)結果の解釈 18.研究に必要な実験手技の指導(6)考察の進め方 19.研究テーマの最終検討	佐藤

20.研究テーマの確定 21.研究計画の概要作成(1)対象／サンプリング 22.研究計画の概要作成(2)方法／手順から解析まで 23.研究計画の確認および修正(1)対象／サンプリング 24.研究計画の確認および修正(2)方法／手順から解析まで 25.研究計画の検討・完成 26.研究計画の最終確認 27.研究計画発表資料(1)の作成・発表 28.研究計画発表資料(1)の修正 29.研究計画発表の最終確認（発表に関すること） 30.研究計画発表の最終確認（質疑応答の検討）	

教科書			
教・書籍名１	実験計画法　活用編	教・出版社名１	日科技連出版社
教・著者名１	山田秀／編著	教・ＩＳＢＮ１	978-4-8171-0390-1
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	特別研究Ⅰ			担当者	岩田　美幸		
配当学科・研究科	2011～ 2013年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／ 2013～ 2016年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学1年／ 2017～ 2022年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学1年			ナンバリング			
必修・選択	必修	単位数	4単位	時間数	60時間	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	集中講義		

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに／１０．人や国の不平等をなくそう／１１．住み続けられるまちづくりを／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	大学院生は、研究テーマに沿った考察の進展と論文作成をテーマに１年間取り組むことができる。 大学院生は、研究の枠組みや仮説に則って進めてきた研究の成果を分析検討し、具体的に論文において表明できるように整理していく事を到達目標とする。自己の研究テーマ関係する文献や情報、資料、データ等の入手に積極的に取り組むことができる。また、その他の院生の研究にも積極的な関心を持ち、テーマが異なる場合でも共通する諸課題に対する論点や、考察のための論理的思考を身につけられるように取り組む事ができる。
授業概要	1. 先行研究や原著について指導し、文献の検索や読解力を養い、思考能力を高めることができる。 2. 調査結果や文献研究からの考察点による論文の構成概要を固め、その具体的な記述を進めることができる。 １と２の実施過程において、作業療法研究の実務経験のある作業療法士が、指導・助言を行う。
アクティブラーニングの内容	PBL／ディスカッション／ディベート／プレゼンテーション／フィールドワーク
評価方法と割合	文献や研究論文などによる内容理解への努力や、テーマを掘り下げていく姿勢及び研究指導に対する姿勢(30%)、質疑応答における発言状況（30%）、研究進捗状況に応じた提出物の内容（40%）から、総合的に評価する。なお、課題類は採点結果を返却し、必要な内容を授業、または資料配付でフィードバックする。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	口頭および書面にてフィードバックする。
履修条件・注意事項	主指導教員1名と2名の副指導教員の体制の下，予習・復習はもとより，教員に指示を仰ぎ積極的な姿勢で研究課題に取り組むこと。なお評価のために実施した課題等は、授業でフィードバックするので最終講義（口頭試問）までにみなおしておくこと。
事前学習・事後学習とその時間	予習として、各授業計画および、前回授業で予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。 また、復習として、毎回の授業の内容を確認し、自分なりにノートにまとめること。なお、予習、復習には各2時間程度を要する。
オフィスアワー	月曜日２限 6429研究室（岩田）とする．

授業計画	担当者
１．研究計画内容、仮説の再検討１	岩田
２．研究計画内容、仮説の再検討２	岩田
３．データ収集の再検討１	岩田
４．データ収集の再検討２	岩田
５．関連文献からの検討（1）調査結果	岩田
６．関連文献からの検討（1）先行研究	岩田
７．関連文献からの検討（2）引用表現１	岩田
８．関連文献からの検討（2）引用表現２	岩田
９．関連文献からの検討（3）論点１	岩田
１０．関連文献からの検討（3）論点２	岩田
１１．引用文献の挿入１	岩田
１２．引用文献の挿入２	岩田
１３．データの全体的特徴の把握１	岩田
１４．データの全体的特徴の把握２	岩田

１５．データ処理方法	岩田
１６．研究目的達成に向けた解析	岩田
１７．解析結果の解釈１	岩田
１８．　解析結果の解釈２	岩田
１９．中間発表の準備　１　全体の構成１	岩田
２０．中間発表の準備　１　全体の構成２	岩田
２１．中間発表の準備2　論文構成の課題１	岩田
２２．中間発表の準備2　論文構成の課題２	岩田
２３．中間発表の準備3　要旨のまとめ方１	岩田
２４．中間発表の準備3　要旨のまとめ方１	岩田
２５．中間発表の準備4　結果の提示１	岩田
２６．中間発表の準備4　結果の提示２	岩田
２７．中間発表の準備5　考察と検討	岩田
２８．中間発表の準備5　結論の検討	岩田
２９．プレゼンテーションの実施の仕方	岩田
３０．最終試験 最終レポート	岩田

教科書			
教・書籍名１	作業で創るエビデンス 作業療法士のための研究法の学びかた	教・出版社名１	978-4-260-03662-7
教・著者名１	医学書院	教・ＩＳＢＮ１	友利　幸之介／京極　真／竹林　崇
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	特別研究Ⅰ	担当者	井上　茂樹
配当学科・研究科	2011～ 2013年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／ 2013～ 2016年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学1年／ 2017～ 2022年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学1年	ナンバリング	

必修・選択	必修	単位数	4単位	時間数	60	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	集中講義		

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	（テーマ）自己の持つ理学療法領域の疑問を研究疑問にする。 （到達目標）理学療法の研究領域にはどのような研究があるのかを把握し、自己の疑問がどの領域にあるのかを明らかにする。
授業概要	理学療法領域における研究法にはどのようなものがあるのかを調べ、各々の研究方法についてその特徴、利点や限界について学ぶ。理学療法領域における研究法にはどのようなものがあるのかを調べ、各々の研究方法についてその特徴、利点や限界について学ぶ。
アクティブラーニングの内容	PBL／ディスカッション／ディベート／プレゼンテーション／実習／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	文献などの研究論文の内容理解への努力や、テーマを掘り下げていく研究姿勢並びに研究指導に対する姿勢（20%）、理解促進のために提出を求める課題の内容や質疑応答における発言状況（20%）、作成された論文について、研究テーマの妥当性、研究方法、論旨の妥当性、倫理的配慮等を総合的に評価する（60%）。なお、講義中に評価のために出した課題等は授業でフィードバックするので見直しておくこと。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	口頭もしくは書面でフィードバックする。
履修条件・注意事項	時間を厳守すると供に、与えられた課題の達成のみならず自分自身で考え、積極的に問題点を見つけ出し、明確な質疑応答が出来るようにすること。事前に課題を出し、それについて調べてきたことをもとにして、参加型学習法により授業を行うため、予習が必須である。また、指示に従って必ずノートを作成し復習すること。
事前学習・事後学習とその時間	予習として、各授業計画に記載されている部分について事前に文献および資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。 復習として、毎回課題を出すので、次回の授業時に発表すること。また、毎回の授業の内容を確認し、自分なりにノートに纏めること。 なお、予習、復習には各2時間程度を要する。
オフィスアワー	6号館4階の井上研究室（6437）において、毎週火曜日2時限目（11:10～12:40）をオフィスアワーの時間とする。

授業計画	担当者
1. 研究を行ううえでの基本姿勢①	井上茂樹
2. 研究を行ううえでの基本姿勢②	井上茂樹
3. 研究の過程・範囲・流れ①	井上茂樹
4. 研究の過程・範囲・流れ②	井上茂樹
5. 研究テーマの探し方①	井上茂樹
6. 研究テーマの探し方②	井上茂樹
7. 研究の展開と問題解決手順①	井上茂樹
8. 研究の展開と問題解決手順②	井上茂樹
9. 研究テーマの策定①	井上茂樹
10. 研究テーマの策定②	井上茂樹
11. 研究テーマに関する先行研究の調査の方法①	井上茂樹
12. 研究テーマに関する先行研究の調査の方法②	井上茂樹
13. 研究テーマに関する先行研究の調査①	井上茂樹
14. 研究テーマに関する先行研究の調査②	井上茂樹
15. 研究テーマに関する先行研究の調査③	井上茂樹
16. 研究テーマに関する先行研究の調査④	井上茂樹
17. 研究テーマの概要の確と定研究計画の概要作成①	井上茂樹

18. 研究テーマの概要の確と定研究計画の概要作成②	井上茂樹
19. 研究計画のための先行研究の発表①	井上茂樹
20. 研究計画のための先行研究の発表②	井上茂樹
21. 研究における倫理①	井上茂樹
22. 研究における倫理②	井上茂樹
23. 研究計画書の原案と指導①	井上茂樹
24. 研究計画書の原案と指導②	井上茂樹
25. 研究計画書の完成	井上茂樹
26. 研究計画発表用資料作成と指導①	井上茂樹
27. 研究計画発表用資料作成と指導②	井上茂樹
28. 研究計画発表用資料作成と指導③	井上茂樹
29. 研究計画発表の予行演習①	井上茂樹
30. 研究計画発表の予行演習②	井上茂樹

教科書			
教・書籍名１	必要に応じて文献や研究資料を配布する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	特別研究Ⅰ	担当者	森下　元賀
配当学科・研究科	2011～ 2013年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／ 2013～ 2016年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学1年／ 2017～ 2022年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学1年	ナンバリング	

必修・選択	必修	単位数	4単位	時間数	60	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	集中講義		

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	「研究手続きの習得」をテーマとして、研究を行うのに必要な手続き、態度および方法について指導し、学生が研究成果を論文としてまとめることができることを目標とする。
授業概要	研究の手続き、方法を学ぶためには単にデータを収集して分析するだけでなく、綿密な研究計画、結果の予想、文章の構成能力が必要である。本講義では特に以下の点に関して指導していく。 １．先行研究や原著について指導し、文献の検索や読解力を養い、思考能力を高める。 ２．文献の購読を行いながら研究仮説を立案し、リサーチを行う院生には実験の計画を立案する。 ３．データの集積、分析、論文執筆などについて指導する。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション
評価方法と割合	修士論文に関わる研究の理解度、臨む姿勢に関して評価するために、各回の課題(20%)、最終レポート課題(40%)、研究計画プレゼンテーションの内容(40%)で評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題等は、授業でフィードバックするので、最終講義(口頭試問)までに見直しておくこと。
履修条件・注意事項	研究指導は，主指導教員１名と２名の副指導教員によって行う。各回に提示される課題だけではなく、自ら進んで研究の問題点の把握に努め、担当教員の質疑応答に回答できるよう考えをまとめておくことが必要である。出された課題に基づく予習、研究指導の内容に関する復習を必ず行うこと。
事前学習・事後学習とその時間	リハビリテーションにおける研究では正確な情報収集能力と批判的吟味を通した正しい理解が必要である。各回に課題を提示するので、その課題を通して十分な予習・復習を行うこと。予習、復習には各2時間程度を要する。
オフィスアワー	大学院生に関しては、木曜日に研究室にお越しください。

授業計画	担当者
1. オリエンテーション 2. 研究疑問の見つけ方 3. 研究疑問の定式化 4. 研究疑問からテーマの関連 5. 研究テーマの策定 6. 研究テーマに関する講義 7. 研究テーマに関する先行研究の調査の方法 8. 文献の検索方法 9. 研究テーマに関する先行研究の調査 10. 研究テーマに関する先行研究の発表 11. 先行研究の整理 12. 発表内容に関する講義 13. 研究テーマの概要の確定 14. 解析項目の選定 15. 解析項目の信頼性と妥当性 16. サンプルサイズの計算(単変量) 17. サンプルサイズの計算(多変量) 18. 統計学的検定(差の検定) 19. 統計学的検定(相関) 20. 統計学的検定(多変量)	森下元賀

21. 統計学的検定の結果の解釈 22. 予想される結果の整理 23. 先行研究との関連 24. 研究計画の吟味 25. 研究計画書の書き方 26. 研究における倫理 27. 研究計画書の原案と指導 28. 研究計画書の完成 29. 研究計画発表用資料の原案と指導 30. 研究研究計画発表の予行演習	

教科書			
教・書籍名１	臨床研究first stage	教・出版社名１	医学書院
教・著者名１	網本和、高倉保幸編	教・ＩＳＢＮ１	978-4-260-03227-8
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	特別研究Ⅰ			担当者	福岡　美和		
配当学科・研究科	2011～ 2013年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／ 2013～ 2016年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学1年／ 2017～ 2022年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学1年			ナンバリング			
必修・選択	必修	単位数	4単位	時間数	60時間	授業形態	講義・演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	集中講義		

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／５．ジェンダー平等を実現しよう
到達目標	テーマ：自らの研究を探求し、研究について理解を深める。 到達目標： １．先行研究や原著論文について意見を述べることができる。 ２．文献の購読を行いながら仮説を立案し、計画を立案することができる。
授業概要	・自ら研究テーマを決め、論文作成するため、先行研究や原著論文について学びぶ。 ・読解力を養い、思考能力を高める。 ・文献の購読を行いながら仮説を立案し、計画を立案する。 ・計画書に沿って、対象者の選定、データ収集
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション
評価方法と割合	研究の遂行、指導に対する姿勢（(20%） 研究への取り組み（20%） 研究テーマの妥当性、研究方法、論旨の妥当性、倫理的配慮について総合的に評価する。 （60%）
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題提出方法、試験範囲は適宜伝達する。
履修条件・注意事項	１．各自文献を必ず読み、説明ができること。 ２．理解できないことはそのままにしないこと。
事前学習・事後学習とその時間	１．シラバスを基に事前学習を行い、内容を把握しておくこと。 ２．各講義終了後は必ず復習を行い、理解を深め、疑問点はそのままにせず質問し解決する。
オフィスアワー	月曜日～金曜日：12:40～13:30　　福岡研究室（6423号室）

授業計画	担当者
1. 文献検索方法 2. 興味のある研究テーマの選出 3. 先行研究のレビューの説明 3. 先行研究の動向 4. 先行研究から見出された課題の説明 5. 先行研究から見出された課題についてのディスカッション 6. 先行研究から見出された課題についての追求 7. 研究テーマの決定 8. 調査方法の検討（研究倫理に基づく責任ある研究の見直し等） 9. 調査方法の決定 10. 調査対象の検討 11. 調査対象の決定	

12. 研究計画書の作成 13. 研究計画書：タイムスケジュールの検討 14. 研究計画書：タイムスケジュールの決定 15. 研究計画書：序論の検討 16. 研究計画書：序論の決定 17. 研究計画書：対象者の選出方法の再検討 18. 研究計画書：対象者の選出方法の決定 19. 研究計画書：データ収集の方法の再検討 20. 研究計画書：データ収集の方法の決定 21. 研究計画書：分析方法の再検討 22. 研究計画書：分析方法の決定 23. 研究計画書：序論、対象者の選出方法、データ収集の方法、分析方法の見直し 24. 調査内容の検討（質問内容の検討） 25. 調査内容の検討（質問内容の作成と検討） 26. 調査内容の検討（質問紙のプレテスト） 27. 調査内容の決定、作成 28. 同意説明文書、同意書の検討、決定 29. 対象者への協力依頼 30. 対象者への同意説明	福岡美和

教科書			
教・書籍名１	随時提示する。	教・出版社名１	医歯薬出版株式会社
教・著者名１	有森直子	教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	特別研究Ⅰ	担当者	狩長　弘親
配当学科・研究科	2011～ 2013年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／ 2013～ 2016年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学1年／ 2017～ 2022年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学1年	ナンバリング	

必修・選択	必修	単位数	4単位	時間数	60	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	集中講義		

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	テーマ：学生は、修士論文のテーマの設定、研究フィールドの確定、研究計画の策定を行う。 到達目標：学生は、自身が掲げている計画内容について目的を明確化するとともに、そのテーマをめぐる一般的な知識、実態や諸課題を整理する。また、研究テーマに沿って、研究活動を具体的に進めていくことを目標とする。研究テーマに沿った研究手法を習得のため、各方法に応じた具体的な作業手順を学び、受講生各自が自らの研究活動（調査や、フィールドワーク等）に臨む。研究に係わる文献の収集と先行研究の検討を十分に行い、研究を開始させることを到達目標とする。
授業概要	1. 先行研究や原著について指導し、文献の検索や読解力を養い、思考能力を高める。 2. 文献の講読を行いながら研究仮説を立案し、リサーチを行なう院生には実験あるいは調査の計画を立案させる。また、文献研究を行なう院生にはその構想を立案させる。 3. データの集積、分析、論文執筆などについて指導する。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション
評価方法と割合	文献や研究論文などによる内容理解への努力や、テーマを掘り下げていく姿勢及び研究指導に対する姿勢(30%)、質疑応答における発言状況（30%）、研究進捗状況に応じた提出物の内容（40%）から、総合的に評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題類は採点結果を返却し，必要な内容を授業，または資料配付でフィードバックする．
履修条件・注意事項	主指導教員1名と2名の副指導教員の体制の下，予習・復習はもとより，教員に指示を仰ぎ積極的な姿勢で研究課題に取り組むこと。
事前学習・事後学習とその時間	予習として、各授業計画および、前回授業で予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。 また、復習として、毎回の授業の内容を確認し、自分なりにノートにまとめること。 なお、予習、復習には各2時間程度を要する。
オフィスアワー	月曜日４限 6427研究室

授業計画	担当者
1.　研究の概要	1.狩長
2.　研究疑問の見つけ方	2.狩長
3.　文献検索方法	3.狩長
4.　研究倫理	4.狩長
5.　先行研究の調査	5.狩長
6.　先行研究の吟味	6.狩長
7.　先行研究の整理	7.狩長
8.　研究テーマの検討	8.狩長
9.　研究テーマの作成	9.狩長
10.　対象者の選定基準	10.狩長
11.　対象者の除外基準	11.狩長
12.　研究のデザイン	12.狩長
13.　調査研究の目的	13.狩長
14.　調査研究の方法	14.狩長

15. 観察研究の目的 16. 観察研究の方法 17. 量的研究の目的 18. 量的研究の方法 19. 質的研究の目的 20. 質的研究の方法 21. ミックスメソッド 22. 研究計画書の書き方 23. 研究計画書の作成（タイトル） 24. 研究計画書の作成（論拠） 25. 研究計画書の作成（目的） 26. 研究計画書の作成（仮説） 27. 研究計画書の作成（方法） 28. 発表の準備(プレゼン資料作成) 29. 発表の準備(プレゼンの練習) 30. 研究計画発表会（発表）	15.狩長

教科書			
教・書籍名１	適宜，指定する．	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	特別研究Ⅰ	担当者	寺岡　睦
配当学科・研究科	2011～ 2013年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／ 2013～ 2016年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学1年／ 2017～ 2022年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学1年	ナンバリング	

必修・選択	必修	単位数	4単位	時間数	60	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	集中講義		

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに
到達目標	テーマ：大学院生は，研究計画の立案が出来るようになる 到達目標：大学院生は，先行研究の調査，研究計画の立案，倫理審査の承認が行える
授業概要	この講義では，学生の関心を研究として遂行できるようにするために，先行研究をレビューし，研究動向と未解明の領域を明らかにする． 未解明の領域の中で医療福祉領域の発展に社会的意義があるテーマを検討し，研究目的を具体化していく． 研究目的に照らしあわせ，具体的な研究方法を定め，研究計画書の立案を行う． 研究計画書の作成にあたり、毎回講義で質疑応答を行う。 学生は研究遂行が円滑に進むように準備し発表する。 研究計画が定まると倫理審査委員会で研究実施の承認を受ける．
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	課題50％，発表50％で評価する
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題や研究遂行については毎回の講義の中でディスカッションを行いフィードバックする。
履修条件・注意事項	評価のために実施した課題等は，講義でフィードバックするので最終講義までに見直しておくこと
事前学習・事後学習とその時間	予習・復習は各2時間ほど必要となる． 講義終了後は毎回課題を課す． その課題を遂行することによって次回の講義参加が円滑に進むため必ず行うこと．
オフィスアワー	木曜4限に6430研究室で対応する

授業計画	担当者
1.　研究の概要	寺岡
2.　社会背景の理解	寺岡
3.　研究倫理	寺岡
4.　先行研究の文献検索	寺岡
5.　文献の吟味	寺岡
6.　先行研究の整理	寺岡
7.　研究テーマの検討	寺岡
8.　研究テーマの吟味	寺岡
9.　対象者の選定	寺岡
10.　対象者の除外基準	寺岡
11.　理論研究のデザイン	寺岡
12.　理論研究の実行	寺岡
13.　理論研究の報告	寺岡
14.　質的研究の目的	寺岡
15.　質的研究の方法	寺岡
16.　質的研究の評価基準	寺岡
17.　量的研究の目的	寺岡
18.　量的研究の方法	寺岡
19.　量的研究の評価基準	寺岡
20.　混合研究の目的	寺岡
21.　混合研究の方法	寺岡
22.　混合研究の評価基準	寺岡

23. 研究計画書の作成	寺岡
24. 研究計画書の内容整理	寺岡
25. 研究計画書の決定	寺岡
26. 研究計画書の発表	寺岡
27. 研究計画書の吟味	寺岡
28. 研究計画書の修正	寺岡
29. 研究計画書の再作成	寺岡
30. まとめ	寺岡

教科書			
教・書籍名１	適宜紹介	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	特別研究Ⅱ			担当者	長町　榮子		
配当学科・研究科	2013～ 2016年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学2年／ 2017～ 2022年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学2年			ナンバリング			
必修・選択	必修	単位数	4単位	時間数	60	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／１５．陸の豊かさも守ろう
到達目標	研究論文作成のために必要な、手続き、取り組む姿勢及び方法について学び、研究成果を論文としてまとめる。
授業概要	自己の研究課題に基づき、先行研究や原著について理解し、文献の検索や読解力を養い、思考能力を高める。文献の検討を行いながら、研究仮説を立案し、リサーチを行う場合は、調査の計画を立案する。そして、データの集積、分析、論文作成までが概要となる。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	文献など研究論文の内容理解への努力や、テーマを掘り下げていく研究姿勢及び研究指導に対する姿勢（20%）、理解促進ために提出を求める課題の内容や質疑応答における発現状況（20%）について評価すると共に、作成された論文について、研究テーマの妥当性、研究方法、論旨の妥当性、倫理的配慮等を総合的に評価する（60%）。 なお、講義中評価のために出した課題は、授業でフィードバックするので各期の最終日までに見直しておくこと。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	口頭または書面でフィードバックする。
履修条件・注意事項	研究課題の明確化から論文作成まで、計画的かつ継続的に実施する。
事前学習・事後学習とその時間	予習として、各授業計画および、前回授業で予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。 また、復習として、毎回の授業の内容を確認し、自分なりにノートにまとめること。 なお、予習、復習には各2時間程度を要する。
オフィスアワー	水曜日３限目、６号館４階長町研究室（6425号室）

授業計画	担当者
1.実験に関するディスカッション1 2.実験に関するディスカッション2 3.実験に関するディスカッション3 4.実験に関するディスカッション4 5.実験に関するディスカッション5 6.データの収集1 7.データの収集2 8.データの収集3 9.データの収集4 10データの収集5 11.データの解析1 12.データの解析2 13.データの解析3 14.データの解析4 15.データの解析5 16.実験結果の考察1 17.実験結果の考察2 18.実験結果の考察3 19.実験結果の考察4 20.実験結果の考察5 21.研究論文作成1 22.研究論文作成2 23.研究論文作成3	長町

24.研究論文作成4 25.研究論文作成5 26.プレゼンテーションとディスカッション1 27.プレゼンテーションとディスカッション2 28.プレゼンテーションとディスカッション3 29.プレゼンテーションとディスカッション4 30.プレゼンテーションとディスカッション5	

教科書			
教・書籍名１		教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	特別研究Ⅱ			担当者	中瀬　克己		
配当学科・研究科	2013～ 2016年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学2年／ 2017～ 2022年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学2年			ナンバリング			
必修・選択	必修	単位数	4単位	時間数	60	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	研究論文作成のために必要な、手続き、取り組む姿勢及び方法について学び、研究成果を論文としてまとめる。
授業概要	自己の研究課題に基づき、先行研究や原著について理解し、文献の検索や読解力を養い、思考能力を高める。文献の検討を行いながら、研究仮説を立案し、リサーチを行う場合は、調査の計画を立案する。そして、データの集積、分析、論文作成までが全体の概要となる。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション
評価方法と割合	文献など研究論文の内容理解への努力や、テーマを掘り下げていく研究姿勢及び研究指導に対する姿勢（20%）、理解促進ために提出を求める課題の内容や質疑応答における発現状況（20%）について評価すると共に、作成された論文について、研究テーマの妥当性、研究方法、論旨の妥当性、倫理的配慮等を総合的に評価する（60%）。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	毎回の授業を踏まえた研究の進捗と感想をまとめを作成・共有することで教員と理解を図るので、必要時フォードバックも記録し共有する。 講義中評価のために出した課題は、授業でフィードバックするので各期の最終日までに見直しておくこと。
履修条件・注意事項	研究課題の明確化から論文作成まで、計画的かつ継続的に実施する。
事前学習・事後学習とその時間	予習として、各授業計画および、前回授業で予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。 また、復習として、毎回の授業の内容を確認し、自分なりにノートにまとめること。 なお、予習、復習には各2時間程度を要する。
オフィスアワー	6号館4階6424研究室にて，毎週水曜2限（教授会がある日を除く）または木曜２限を，オフィスアワーとする。

授業計画	担当者
1.研究に関するディスカッション1 2. 研究に関するディスカッション2 3. 研究に関するディスカッション3 4. 研究に関するディスカッション4 5. 研究に関するディスカッション5 6.データの収集1 7. データの収集2 8. データの収集3 9. データの収集4 10データの収集5 11.データの分析1 12. データの分析2 13. データの分析3 14. データの分析4 15. データの分析5 16.研究結果の考察1 17.研究結果の考察2 18.研究結果の考察3 19.研究結果の考察4 20.研究結果の考察5 21.研究論文作成1 22.研究論文作成2	中瀬

23.研究論文作成3 24.研究論文作成4 25.研究論文作成5 26.プレゼンテーションとディスカッション1 27.プレゼンテーションとディスカッション2 28.プレゼンテーションとディスカッション3 29.プレゼンテーションとディスカッション4 30.プレゼンテーションとディスカッション5	

教科書			
教・書籍名１	適宜必要な文献・資料等を提示する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	特別研究Ⅱ	担当者	高橋　淳
配当学科・研究科	2013～ 2016年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学2年／ 2017～ 2022年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学2年	ナンバリング	

必修・選択	必修	単位数	4単位	時間数	60	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに／９．産業と技術革新の基盤をつくろう／１２．つくる責任・つかう責任
到達目標	学生が腫瘍生物学研究に必要な知識、方法、実験技術、思考法を学び、その成果を論文（日本語）としてまとめ、発表できることを目標とする。
授業概要	1, 腫瘍生物学の最先端を理解するための基礎知識を学ぶ。 2. 実験方法を学び、分子細胞生物学的手技に習熟する。 3. 保健福祉研究所で実験に従事して、データを取得・解析する。 4. 研究発表の方法、論文執筆法を学ぶ。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート／プレゼンテーション
評価方法と割合	講義後の提出レポートで、知識を評価する（10%）。実験において、態度を評価する（20%）。実験結果の検討会で実験技術、思考法を評価する（30%）。修士論文の内容で方法への理解、思考法を評価する（20%）。修士論文発表会の際の口頭試問で、研究内容への理解を評価する（20%）。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	講義中評価のために出した課題・レポートは、授業でフィードバックするので、最終講義までに見直しておくこと。
履修条件・注意事項	研究指導は、主指導教員1名によって行う。適宜、副指導教員による指導も行う。 実験研究に対して、真摯に臨み、よく考え、盛んに討論し、勤勉に努力する態度を涵養する。 動物実験に従事するかどうかは、本人の希望を尊重する。
事前学習・事後学習とその時間	腫瘍学に知的好奇心を持ち、積極的に質問し、レポート課題に前向きに取り組んでほしい。研究者は実験室で育つ。実験を進めながら、積極的に質問し、討論し、実地に学んでほしい。予習、復習には各2時間程度を要する。
オフィスアワー	個人研究室（6414）にて、水曜日の4時限目に実施。

授業計画	担当者
1. 研究計画の再吟味 2. 実験（1） 3. 実験（2） 4. 実験（3） 5. 実験（4） 6. 実験（5） 7. 中間発表準備 8. 実験（6） 9. 実験（7） 10. 実験（8） 11.実験（9） 12.実験結果検討会 13.修士論文執筆（1） 14.修士論文執筆（2） 15.修士論文発表会準備	高橋

教科書			
教・書籍名１	教科書は特に指定しないが、必要に応じて資料を配布する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	

参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	特別研究Ⅱ	担当者	河村　顕治
配当学科・研究科	2013～ 2016年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学2年／ 2017～ 2022年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学2年	ナンバリング	

必修・選択	必修	単位数	4単位	時間数	60	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに
到達目標	学生は特別研究Ⅰで立てた研究計画を実行に移し、実験研究の結果得られたデータを解析することができる。学生は、その結果を実験中間報告書にまとめ研究中間報告を行うことができる。
授業概要	主にバイオメカニクス研究の指導を行う。 １．先行研究や原著について指導し、文献の検索や読解力を養い、思考能力を高める。 ２．文献の講読を行いながら研究仮説を立案し、リサーチを行う院生には実験の計画を立案させる。 ３．データの集積、分析、論文執筆などについて指導する。
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	文献など研究論文の内容理解への努力や、テーマを掘り下げていく研究姿勢及び研究指導に対する姿勢（20%）、理解促進ために提出を求める課題の内容や質疑応答における発言状況（20%）について評価すると共に、作成された研究中間報告書について、研究テーマの妥当性、研究方法、論旨の妥当性、倫理的配慮等を総合的に評価する（60%）。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題等は、授業でフィードバックするので最終講義（口頭試問）までにみなおしておくこと。
履修条件・注意事項	本講義を通して実験研究を実施し、修士論文研究中間報告を行うことが求められている。
事前学習・事後学習とその時間	予習として、各授業計画および、前回授業で予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。 また、復習として、毎回の授業の内容を確認し、自分なりにノートにまとめること。 なお、予習、復習には各2時間程度を要する。
オフィスアワー	個人研究室にて、火曜日の4時限目に実施。

授業計画	担当者
第１回：研究計画の再確認①	河村顕治
第２回：研究計画の再確認②	河村顕治
第３回：先行研究調査①	河村顕治
第４回：先行研究調査②	河村顕治
第５回：実験研究の準備①	河村顕治
第６回：実験研究の準備②	河村顕治
第７回：実験研究の実施①	河村顕治
第８回：実験研究の実施②	河村顕治
第９回：実験研究の実施③	河村顕治
第10回：実験研究の実施④	河村顕治
第11回：実験研究の実施⑤	河村顕治
第12回：実験研究の実施⑥	河村顕治
第13回：実験研究の実施⑦	河村顕治
第14回：実験研究の実施⑧	河村顕治
第15回：実験研究の実施⑨	河村顕治
第16回：実験研究の実施⑩	河村顕治
第17回：実験データの分析①	河村顕治
第18回：実験データの分析②	河村顕治
第19回：実験データの分析③	河村顕治
第20回：実験データの分析④	河村顕治
第21回：研究中間報告書の作成①	河村顕治

第22回：研究中間報告書の作成②	河村顕治
第23回：研究中間報告書の作成③	河村顕治
第24回：研究中間報告書の作成④	河村顕治
第25回：研究中間報告書の作成⑤	河村顕治
第26回：研究中間報告書の作成⑥	河村顕治
第27回：研究中間報告資料の作成①	河村顕治
第28回：研究中間報告資料の作成②	河村顕治
第29回：研究中間報告発表資料確認	河村顕治
第30回：研究中間報告発表資料確認	河村顕治

教科書			
教・書籍名１	特に定めない。必要に応じてプリントを配布する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	特別研究Ⅱ			担当者	齋藤　圭介		
配当学科・研究科	2013～ 2016年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学2年／ 2017～ 2022年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学2年			ナンバリング			
必修・選択	必修	単位数	4単位	時間数	60	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	研究を行なうのに必要な手続き，態度および方法を身につけ，研究成果を論文としてまとめることが出来る事を到達目標とする。
授業概要	1. 先行研究や原著について指導し，文献の検索や読解力を養い，思考能力を高める。 2. 文献の講読を行いながら研究仮説を立案し，リサーチを行なう院生には実験あるいは調査の計画を立案させる。また，文献研究を行なう院生にはその構想を立案させる。 3. データの集積，分析，論文執筆などについて指導する。 ※実務経験のある教員による授業科目 この科目は，理学療法士としての実務経験と研究実績を持つ教員が，その経験を生かし，臨床現場の研究活動に実践的に役立つ授業を実施する。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	課題の取り組み状況（40%），研究課題の進捗状況（20%），研究成果の達成度（30%）から評価する。研究成果については，知識・技術・研究的思考が具現化されたものとみなす。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	評価に関わる課題やレポート等は，授業内，またはMicrosoft Teamsを活用しフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	主指導教員1名と2名の副指導教員の体制の下，予習・復習はもとより，教員に指示を仰ぎ積極的な姿勢で研究課題に取り組むこと。
事前学習・事後学習とその時間	事前に課題を与え報告を行ない，それを蓄積し研究の具体化を進めるため，予習と復習が必須である。課題は，各回授業時において指示する。予習および復習には，各2時間程度を要する。
オフィスアワー	個人研究室にて，春学期は金曜日５時限目，秋学期は木曜日３時限目に実施。それ以外についても随時対応する。

授業計画	担当者
1. 第 1回　研究計画の再吟味 第 2回　データ収集の再吟味	齋藤
2. 第 3回　社会的背景の再吟味 第 4回　研究レビューの再吟味	齋藤
3. 第 5回　データ整理方法再吟味 第 6回　集計対象の属性分析	齋藤
4. 第 7回　データの特徴把握 第 8回　変数の特徴把握	齋藤
5. 第 9回　研究目的に向けた解析 第10回　解析結果の解釈	齋藤
6. 第11回　解析のアウトライン 第12回　解析の方法論	齋藤
7. 第13回　解析の実施 第14回　解析結果の再吟味	齋藤
8. 第15回　解析提示内容の確定1 第16回　解析提示内容の確定2	齋藤
9. 第17回　論文構成の検討1 第18回　論文構成の検討2	齋藤
10. 第19回　緒言の執筆1 第20回　緒言の執筆2	齋藤

11. 第21回　方法・結果の執筆1	齋藤
第22回　方法・結果の執筆2	
12. 第23回　考察の執筆1	齋藤
第24回　考察の執筆2	
13. 第25回　中間発表の全体構成	齋藤
第26回　中間発表 背景・目的	
14. 第27回　中間発表 結果提示	齋藤
第28回　中間発表 考察	
15. 第29回　ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝの仕方1	齋藤
第30回　ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝの仕方2	

教科書			
教・書籍名１	使用しない（適宜必要な文献および資料等を提示する）	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	特別研究Ⅱ			担当者	原田　和宏		
配当学科・研究科	2013～ 2016年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学2年／ 2017～ 2022年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学2年			ナンバリング			
必修・選択	必修	単位数	4単位	時間数	60	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	「脳血管障害の長期機能予後に関する研究」，「地域高齢者の評価に関する研究」の方法論に関して， 研究を行うのに必要な手続き，態度および方法を身につけ，大学院生が研究成果を論文としてまとめることができる。
授業概要	１．先行研究や原著について指導し，文献の検索や読解力を養い，思考能力を高める。 ２．文献の購読を行いながら研究仮説を立案し，リサーチを行う院生には実験あるいは調査の計画を立案させる。 また，文献研究を行う院生にはその構想を立案させる。 ３．データの集積，分析，論文執筆などについて指導する。
アクティブラーニングの内容	PBL／ディスカッション／プレゼンテーション
評価方法と割合	文献など研究論文の内容理解への努力や、テーマを掘り下げていく研究姿勢及び研究指導に対する姿勢（20%）、理解促進ために提出を求める課題の内容や質疑応答における発言状況（20%）について評価すると共に、作成された論文について、研究テーマの妥当性、研究方法、論旨の妥当性、倫理的配慮等を総合的に評価する（60%）。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題や等は、授業でフィードバックするので最終講義（口頭試問）までにみなおしておくこと。
履修条件・注意事項	研究指導は，最もその研究に適した主指導教員１名と２名の副指導教員によって行う。 リハビリテーション研究ではフレキシブルな問題解決能力が要求されると同時に、正確に情報理解するためには豊富な基礎知識も不可欠である。したがって、毎回，予習と復習について真剣に取り組んでもらいたい。
事前学習・事後学習とその時間	予習として、各授業計画および、前回授業で予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。 また、復習として、毎回の授業で指摘した専門用語を教科書で確認して，自分なりにノートにまとめること。 なお、予習、復習には各2時間程度を要する。
オフィスアワー	6号館4階の個人研究室において，毎週火曜日4限と木曜日3限をオフィスアワーの時間とする.

授業計画	担当者
（前半） 1. 修士課程における研究の概要 2. 臨床疑問、研究疑問の社会的背景の整理１ 3. 臨床疑問、研究疑問の社会的背景の整理２ 4. 研究と倫理１ 5. 研究と倫理２ 6. 参考文献の調査 7. 研究テーマの作成 8. 研究対象者の選択 9. 測定方法の計画１ 10. 測定方法の計画２ 11. サンプルサイズの推定１ 12. サンプルサイズの推定２ 13. 研究デザイン（コホート研究） 14. 研究デザイン（横断研究とケースコントロール研究） 15. 研究デザイン（観察研究における交絡と交互作用）	原田和宏
16.修論研究領域の概要 17.研究テーマの策定 18.研究テーマに沿った基礎知識の確認	

19.研究テーマに関する先行研究の調査 20.研究テーマに関する先行研究の概要発表 31.概要発表の講評 22.研究テーマと先行研究の比較 23.研究テーマの確定 24.中間フォロー 25.研究計画調書の執筆概要の説明と作成 26.研究計画調書の確認および講評 27.研究計画調書の完成 28.研究計画調書発表資料の執筆概要の説明と作成 29.研究計画調書発表資料の確認及び講評 30.研究計画調書発表資料の完成 31。試験	

教科書			
教・書籍名１	医学的研究のデザイン：研究の質を高める疫学的アプローチ　第４版	教・出版社名１	ﾒﾃﾞｨｶﾙ･ｻｲｴﾝｽ・ｲﾝﾀｰｼｮﾅﾙ
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	978-4-89592-583-9
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	特別研究Ⅱ	担当者	中角　祐治
配当学科・研究科	2013～ 2016年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学2年／ 2017～ 2022年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学2年	ナンバリング	

必修・選択	必修	単位数	4単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	テーマ；神経生理を理解する。 到達目標；学生が、臨床的に神経生理検査を応用できるようになる。
授業概要	脳・脊髄・末梢神経・筋・骨関節の障害で生じる随意運動障害について、神経生理学的なアプローチを紹介して行く。これらの手法は、原因部位の診断のみならず、重症度も把握できる。そのため、治療経過での症状の推移を追うことにも応用できる。 上肢機能の改善を目的とした作業療法は、ハンドセラピーとも呼ばれ、専門的な治療が行われている。作業療法士は、臨床検査を行うことも可能で、この領域の知識と技術を学ぶことは、臨床的に有用と考えられる。 まず、臨床神経生理学の歴史的な変遷を紹介する。 次に、神経筋の構造と機能を再学習する。 そして、神経伝導検査の原理と実際を学ぶ。ここでは、臨床でもちいられている検査機器の構造と特性を知ることから、運動神経と知覚神経の伝導速度の測定、Ｆ波やＨ反射の誘発、神経筋接合部の疾患に対する反復刺激検査、瞬目反射、さらに、大脳磁気刺激による運動誘発電位についても学ぶ。 その他、針筋電図の原理と実際について、神経原性、筋原性疾患の特徴を学習する。 最後に、症例が提示されるので、実際的な臨床応用のありかたも感じとってもらいたい。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション
評価方法と割合	期末試験（100%）
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	試験結果について文章でフィードバックします。
履修条件・注意事項	学生時代に習った生理学、神経学を復習してください。
事前学習・事後学習とその時間	予習復習に各2時間を要す
オフィスアワー	水曜３限、６号館４階６４１１研究室

授業計画	担当者
１；大脳の構造と機能２	中角
２；大脳の構造と機能３	中角
３；大脳の構造と機能４	中角
４；検査装置と器具	中角
５；神経伝導検査の基本原理	中角
６；遅発電位とその臨床的意義	中角
７；H反射について	中角
８；F波について	中角
９；神経伝導検査の実際	中角
10；神経筋接合部の検査法	中角
11；脳幹部反射	中角
12；脳刺激による運動誘発電位	中角
13；体性感覚誘発電位	中角
14；視覚誘発電位	中角
15；聴覚誘発電位	中角
16；期末試験	中角

教科書

教・書籍名１	神経伝導検査と筋電図を学ぶ人のために	教・出版社名１	医学書院

教・著者名１	木村淳、幸原伸夫	教・ＩＳＢＮ１	978-4-260-0085-2
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	特別研究Ⅱ			担当者	服部　俊夫		
配当学科・研究科	2013～ 2016年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学2年／ 2017～ 2022年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学2年			ナンバリング			
必修・選択	必修	単位数	4単位	時間数	60	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	研究を実施し、論文にまとめることができるようになるための、第二段階となる科目である。研究を実施しながら、データの整理、 表現法などを身につける。また、平行して論文作成や口頭発表のための方法を身につける。
授業概要	データの集積や研究成果をまとめ検討するのに必要な方法について指導する。
アクティブラーニングの内容	ディベート
評価方法と割合	研究指導全般を通して態度及び研究発表に必要な能力などを総合的に評価する。毎回の講義において口頭試問を行う（30%）。また 宿題としてレポートを課す（30%）。および、最終提出の研究概要の内容（40%）で評価を行う。なお、毎回最初に前回のフィード バックを行う。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	出した課題の意義と学生の修学意識の乖離について、検討し、指導する。
履修条件・注意事項	関連論文、研究計画書、データ解析結果、プレゼン資料、論文草稿などの準備をして授業に臨むこと。
事前学習・事後学習とその時間	関連論文、研究計画書、データ解析結果、プレゼン資料、論文草稿などの準備をして授業に臨むこと。 また、復習として、その回の内容をノートにまとめておくこと。なお、予習と復習にはそれぞれ二時間以上を要する。
オフィスアワー	6号館408研究室にて、毎週木曜日11：00～12：00 をオフィスアワーとする。

授業計画	担当者
①研究実施、またそれにに伴う問題点の検討 ②研究実施、またそれにに伴う問題点の検討 ③研究推進と研究テーマに沿った基礎知識の 確認 ④研究推進と基礎知識の確認 ⑤研究推進と内容に関連した文献の再検索 ⑥研究推進及び収集文献抄読 ⑦研究推進及び収集文献抄読 ⑧研究進行に伴う問題点の検討 ⑨研究進行に伴う問題点の改善 ⑩研究推進と平行してデータの整理 ⑪研究推進と平行して引き続きデータの整理 ⑫データの整理と統計処理 ⑬データの整理 ⑭研究結果の初段階考察 ⑮ 研究結果の考察続き ⑯研究結果の考察まとめ ⑰研究論文のイントロの検討 ⑱続研究論文のイントロの検討	服部俊夫

⑲研究論文の材料方法のまとめ検討 ⑳研究論文の材料方法のまとめ ㉑研究論文の結果まとめ検討 ㉒研究論文の結果まとめ ㉓研究論文の考察検討 ㉔研究論文の考察発展 ㉕研究論文の文献整理 ㉖続研究論文の文献整理 ㉗口頭発表の検討と資料作成 ㉘続口頭発表の検討と資料作成 ㉙口頭発表リハーサル１回目 ㉚口頭発表リハーサル２回目	

教科書			
教・書籍名１	特に指定なし	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	特別研究Ⅱ	担当者	赤在　あゆみ
配当学科・研究科	2013～ 2016年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学2年／ 2017～ 2022年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学2年	ナンバリング	

必修・選択	必修	単位数	4単位	時間数	60	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	研究論文作成のために必要な手続き、取り組む姿勢および方法について学び、研究成果を論文としてまとめる。
授業概要	自己の研究課題に基づき、先行研究や原著について理解し、文献の検索や原著などを理解し、文献の検索やその読解力磨き、思考力を高める。その結果、研究仮説を立案する。そして、データの集積、分析、論文作成まで行う。
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	完成論文の内容(50%)と研究発表会における質疑応答の内容(50%)を合わせて評価する。評価のため実施した課題等は、授業でフィールドバックするので最終講義までに見直しておく。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	○○○○○
履修条件・注意事項	自ら積極的に研究課題について探求し、データ集積、分析、考察を行う等、研究課題の明確化から論文作成まで、計画的かつ継続的に実施する必要がある。
事前学習・事後学習とその時間	研究内容に関する最新の論文を読み、その理解を深めることが重要である。他国の論文を理解するには時間を要するが、内容を整理することで論文作成に重要となる。予習として、論文概要を把握し、復習として、授業中検討した論文の内容を深く理解する。予習復習には少なくとも各々2時間程度は必要である。
オフィスアワー	木曜３限、６号館４階6420研究室

授業計画	担当者
研究テーマの再検討	赤在
１；研究計画内容、仮説の再検討	赤在
３；研究テーマに基づいた文献の分析方法	赤在
４；研究テーマに基づいた文献の先行研究との比較	赤在
５；研究テーマに基づいた文献の図表等の表し方	赤在
６；研究テーマに基づいた文献のまとめ	赤在
７；研究テーマの確定	赤在
８；データの集積	赤在
９；データ入力	赤在
10；データ生理	赤在
11；データ分析１	赤在
12；データ分析２	赤在
13；データ分析結果の検討	赤在
14；プレゼンテーション技術(スライド作成について)	赤在
15；プレゼンテーション技術(要旨・発表内容について)	赤在
16；中間発表とディスカッション	赤在
17；中間発表の問題点の整理	赤在
18；結果に対する考察の検討１	赤在
19；結果に対する考察の検討２	赤在
20；結果に対する考察の検討３	赤在
21；研究論文作成１(目的)	赤在
22；研究論文作成目的２(意義)	赤在
23；研究論文作成３(方法)	赤在
24；研究論文作成４(結果)	赤在
25；研究論文作成５(考察)	赤在
26；研究論文作成６(結論)	赤在

27；結論の検討	赤在
28；看護への活用	赤在
29；論論文の完成に向けての注意事項	赤在
30；研究論文の作成・発表	赤在

教科書			
教・書籍名１	適宜、必要な文献・資料等を提示する。	教・出版社名１	医学書院
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	978-4-260-0085-2
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	特別研究Ⅱ			担当者	田中　富子		
配当学科・研究科	2013～ 2016年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学2年／ 2017～ 2022年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学2年			ナンバリング			
必修・選択	必修	単位数	4単位	時間数	60	授業形態	演習・講義
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに
到達目標	学生が 臨床上の疑問を研究の疑問とする課題を見出し、看護研究の方法（研究計画から論文作成までの一連の過程）を実践的に学び、研究成果を研究論文としてまとめ発表することができることを目標とする。
授業概要	看護研究における研究計画の立案から論文作成までの一連の過程を学ぶ。具体的には、質的・量的研究方法ともに先行研究や原著についての文献検索や読解力を養い思考能力を高める。研究仮説を立案し研究計画に基づくデータ収集・分析・論文の執筆への指導を行い論文を完成する。 進捗状況に合わせた指導を行う。 この科目は，行政機関で多様な領域や健康レベルの対象者に対する公衆衛生看護実践に長年携わった経験を活かし，教育現場において実践的に役立つ授業を行う。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション／フィールドワーク
評価方法と割合	研究態度20％、研究内容30％、文献検索30％、論文作成プロセス20％ 演習毎に課題や研究内容等についてフィードバックし議論を深める.
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	演習ごとに課題を提示し、ディスカッションを踏まえフィードバックする
履修条件・注意事項	研究に取り組む姿勢が重要になる。学生の自主的な姿勢が大切になるので、積極的に研究に取り組むこと
事前学習・事後学習とその時間	研究テーマにそった文献検索をしまとめる。文献レビューの発表ができるよう準備する。 演習毎に課題を提示するので、予習復習は2コマを目安に行い充分準備をして臨むこと
オフィスアワー	個人研究室において授業終了後及び毎週木曜日5限をオフィスアワーの時間とする.

授業計画	担当者
1.キーワードの選定 2.論文に取り組む心構え 3.研究計画書の作成 4. 研究計画書の作成 5. データ整理 6. データ分析 7. データ分析 8.データを読み解く 9.背景・社会動向の分析 10.研究倫理に基づく責任ある研究活動 11.はじめにを書く 12. 研究方法を書く 13.結果に必要な図表の検討 14.結果の書き方 15.結果を書く 16. 考察を書く 17.考察を書く	田中富子

18.考察を書く 19.研究のまとめ 20. 研究のまとめ 21.論文全体の校正 22. 論文全体の校正 23.学会発表の方法を知る 24. 研究要約を書く 25.プレゼンテーションの準備 26. プレゼンテーションの準備 27.プレゼンテーションの準備 28. 研究論文として纏める 29.研究論文として纏める 30. 振り返り・まとめ	

教科書			
教・書籍名１	テーマや講義内容により資料を配布し、必要な書籍は随時提示する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	特別研究Ⅱ	担当者	掛谷　益子
配当学科・研究科	2013～ 2016年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学2年／ 2017～ 2022年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学2年	ナンバリング	

必修・選択	必修	単位数	4単位	時間数	60	授業形態	AL
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	研究論文作成のために必要な、手続き、取り組む姿勢及び方法について学び、研究結果の分析及び考察を深めたうえで、研究成果を論文としてまとめる。
授業概要	自己の研究課題に基づき、先行研究や原著について理解し、文献の検索や読解力を養い、思考能力を高める。文献の検討を行いながら、研究仮説を立案し、リサーチを行う場合は、調査の計画を立案する。そして、データの集積、分析、論文作成までを行う。
アクティブラーニングの内容	PBL／ディスカッション／ディベート／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	完成論文の内容（50%）と研究発表会における研究内容及び質疑応答の内容（50%）を合わせて評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	口頭および書面にてフィードバックする。
履修条件・注意事項	自ら積極的に研究課題について探求し、データ収集、分析、考察を行うなど、研究課題の明確化から論文作成まで、計画的かつ継続的に実施する必要がある。
事前学習・事後学習とその時間	研究内容に関する最新の論文を読み、理解を深めることが重要である。外国の論文を理解するには、かなりの時間を要するが、内容を整理することで論文の作成につながる。予習として、論文の概要を把握しておき、復習として、授業中検討した論文の内容の意味を深く理解する。
オフィスアワー	木曜日昼休憩、研究室（6402）にて実施する。

授業計画	担当者
1. 研究テーマの再検討	1.掛谷
2. 研究計画内容、仮説の再検討	2.掛谷
3. 研究テーマに沿った文献の再検討（分析方法について）	3.掛谷
4. 研究テーマに沿った文献の再検討（調査結果と先行研究との比較）	4.掛谷
5. 研究テーマに沿った文献の再検討（図・表等の表現について）	5.掛谷
6. 研究テーマに沿った文献検討	6.掛谷
（まとめ）	7.掛谷
7. 研究テーマの確定	8.掛谷
8. データ収集	9.掛谷
9. データ入力	10.掛谷
10. データ整理	11.掛谷
11. データ分析1	12.掛谷
12. データ分析2	13.掛谷
13. データ分析結果の検討	14.掛谷
14. プレゼンテーション技術（スライド構成について）	15.掛谷
15. プレゼンテーション技術（要旨・発表内容について）	16.掛谷
16. 中間発表とディスカッション	17.掛谷
17. 中間発表の問題点の整理	18.掛谷
18. 結果に対する考察の検討1	19.掛谷
19. 結果に対する考察の検討2	20.掛谷
20. 結果に対する考察の検討3	21.掛谷
21. 研究論文作成1（目的）	22.掛谷
22. 研究論文作成2（意義）	23.掛谷
23. 研究論文作成3（方法）	24.掛谷
24. 研究論文作成4（結果）	25.掛谷

25. 研究論文作成5（考察）	26.掛谷
26. 研究論文作成6（結論）	27.掛谷
27. 研究論文作成7（文献）	28.掛谷
28. 研究論文作成8（資料）	29.掛谷
29. 結論の検討	30.掛谷
30. 看護への活用	

教科書			
教・書籍名１	適宜必要な文献・資料等を提示する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	特別研究Ⅱ			担当者	京極　真		
配当学科・研究科	2013～ 2016年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学2年／ 2017～ 2022年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学2年			ナンバリング			
必修・選択	必修	単位数	4単位	時間数	60	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	テーマ：大学院生は、自身の研究実施プロセスを理解できることである。 到達目標 １．大学院生は自身の研究に必要な予備実験ができる. ２．大学院生は自身の研究の本実験ができる. ３．大学院生は自身の研究をまとめ，発表ができる.
授業概要	この演習では、自身の立てた研究計画にそって研究を遂行しながら研究を完遂するテクニックを学ぶ。研究の意義と独創性、実証的成果を明らかにしながら、研究の限界について検討していく。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート／グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	課題（５０％）、発表（５０％）　で行う。 なお、評価のために実施した課題等は、講義でフィードバックするので最終講義までにみなおしておくこと。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	口頭及び書面でフィードバックする。
履修条件・注意事項	積極的にかつ自律的に参加すること。
事前学習・事後学習とその時間	予習、復習には各2時間ほど必要である。 自己学習のためのレポート課題を課す。 それを作成することによって講義の予習復習が可能であり、必ず提出すること。
オフィスアワー	曜日：月曜５限目、金曜５限目 場所：６号館４階6428号室

授業計画	担当者
1. 対象のリクルートの方法	京極
2.　対象のリクルートの課題	京極
3. 研究における利点の議論	京極
4. 研究における問題点の議論	京極
5. プレ研究の方法	京極
6. プレ研究における利点の検討	京極
7. プレ研究における問題点の検討	京極
8.　研究法の概要（質的研究）	京極
9.　研究法の概要（量的研究）	京極
10.　研究法の概要（混合研究）	京極
11.　各研究法の利点	京極
12.　各研究法の欠点	京極
13. 研究法の吟味	京極
14. 研究法の最終確定	京極
15. 本研究と利点の議論	京極
16. 本研究と問題点の議論	京極
17.　本研究の修正の議論	京極
18. 本研究結果の中間報告	京極
19.　中間報告の結果を踏まえた議論	京極
20.　社会的背景の整理	京極
21.　社会的背景の確認	京極
22. 本研究方法の整理	京極
23. 本研究方法の確認	京極

24. 研究結果の整理	京極
25. 研究結果の確認	京極
26. 研究結果に対する考察	京極
27. 研究結果に対する限界	京極
28. 論文作成1	京極
29. 作成論文の発表と議論	京極
30. 論文作成・発表	京極

教科書			
教・書籍名１	適宜紹介	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	適宜紹介	参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	特別研究Ⅱ	担当者	柘野　浩子
配当学科・研究科	2013～ 2016年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学2年／ 2017～ 2022年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学2年	ナンバリング	

必修・選択	必修	単位数	4単位	時間数	60時間	授業形態	講義、演習
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ＳＤＧｓ関連項目	１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	テーマ 研究計画書に基づいた研究の実践を通して研究のプロセスを修得し、その成果を研究論文としてまとめる。 到達目標 １．研究のプロセスを実践できる。 ２．独自性のある研究論文としてまとめ、発表できる。
授業概要	研究プロセスに沿って研究を実践する。研究における倫理的配慮のもと、データを収集し分析する方法慧遠を修得する。先行研究からの知見と研究結果をもとに考察を深め、独自性のある研究論文をまとめる。指導を受け、修士論文を作成する。
アクティブラーニングの内容	PBL／ディスカッション／プレゼンテーション
評価方法と割合	研究計画書に沿った研究の遂行（20%） 修士論文の内容（40%） 研究発表会における発表・質疑応答内容、態度（40%）
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	ゼミの中でフィードバックする
履修条件・注意事項	研究に取り組む姿勢が重要になる。主体的に研究に取り組むこと。予習・復習をすること。
事前学習・事後学習とその時間	研究内容に関する国内外の最新の文献を読み、理解を深めることが重要である。また、内容の整理をすること。 予習として、論文の概要を把握しておく。 復習として、授業中検討し多論文の内容の意味を深く理解する。
オフィスアワー	金曜日3限　6号館4階　研究室・6433号室

授業計画	担当者
１．研究テーマの再検討 ２．研究計画内容、仮説の再検討 3. 研究テーマに沿った文献の再検討（分析方法について） ４．研究テーマに沿った文献の再検討（調査結果と先行研究との比較） ５．研究テーマに沿った文献の再検討（図・表等と先行研究の比較） ６．研究テーマに沿った文献の再検討（まとめ） ７．研究テーマの確定 ８．データ収集 ９．データ入力 １０．データ整理 １１．データ分析１ １２．データ分析２ １３．データ分析結果の検討 １４．プレゼンテーション技術（スライド構成について） １５．プレゼンテーション技術（要旨、発表内容について） １６．中間発表とdiscussion １７．中間発表の問題点の整理 １８．結果に対する考察の検討１ １９．結果に対する考察の検討２ ２０．結果に対する考察の検討３ ２１．研究論文の作成１（目的） ２２．研究論文の作成２（意義）	柘野浩子

２３．研究論文の作成３（方法） ２４．研究論文の作成４（結果） ２５．研究論文の作成５（考察） ２６．研究論文の作成６（結論） ２７．研究論文の作成７（文献） ２８．結論の検討、看護への活用 ２９．修士論文プレゼンテーションの準備 ３０．修士論文作成・発表	

教科書			
教・書籍名１	看護における研究第2版	教・出版社名１	日本看護協会出版会
教・著者名１	南裕子（編集）、野嶋佐由美（編集）	教・ＩＳＢＮ１	978-4-8180-2066-5
教・書籍名２	黒田裕子の 看護研究 Step by Step 第5版	教・出版社名2	医学書院
教・著者名2	黒田裕子	教・ＩＳＢＮ2	978-4-260-03015-1
参考書			
参・書籍名１	よくわかる看護研究論文のクリティーク 第2版: 研究手法別のチェックシートで学ぶ (essentials of EBP)	参・出版社名１	日本看護協会出版会
参・著者名１	牧本清子 (著, 編集), 山川みやえ (著, 編集)	参・ＩＳＢＮ１	978-4-818-02271-3
参・書籍名２	看護研究　原理と方法	参・出版社名2	医学書院
参・著者名2	D.F.ポーリット＆C.T.ベック（近藤潤子監訳）	参・ＩＳＢＮ2	978-4-260-00526-5

授業科目名	特別研究Ⅱ			担当者	竹﨑　和子		
配当学科・研究科	2013～ 2016年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学2年／ 2017～ 2022年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学2年			ナンバリング			
必修・選択	必修	単位数	4単位	時間数	６０	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／９．産業と技術革新の基盤をつくろう
到達目標	テーマ 自分自身の研究実施プロセスを理解できる 到達目標 1.自身の研究に必要な予備実験ができる 2.自身の研究の本実験ができる 3.自身の研究を纏め、発表ができる
授業概要	この演習では、自身の立てた研究計画にそって研究を遂行しながら研究を完遂するテクニックを学ぶ。研究の意義と独創性、実証的成果を明らかにしながら、研究の限界について検討していく
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート／プレゼンテーション
評価方法と割合	課題（５０％） 発表（５０％）
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題等は、講義でフィードバックする
履修条件・注意事項	積極的かつ自律的に参加すること
事前学習・事後学習とその時間	予習、復習には各２時間程度必要である 自己学習のためのレポート課題を課す レポート課題の作成により、講義の予習復習が可能であり、必ず提出すること
オフィスアワー	木曜日　５限　６号館　６４０４研究室

授業計画	担当者
1.対象のリクルートの方法（AL）	1.竹﨑
2.対象のリクルートの課題（AL）	２.竹﨑
3.研究における利点の議論（AL）	３.竹﨑
4.研究における問題点の議論（AL）	4.竹﨑
5.プレ研究の方法（AL）	5.竹﨑
6.プレ研究における利点の検討（AL）	6.竹﨑
7.プレ研究における問題点の検討（AL）	7.竹﨑
8.研究法の概要（質的研究）（AL）	8.竹﨑
9.研究法の概要（量的研究）（AL）	9.竹﨑
10.研究法の概要（混合研究）（AL）	10.竹﨑
11.各研究法の利点（AL）	11.竹﨑
12.各研究法の欠点（AL）	12.竹﨑
13.研究法の吟味（AL）	13.竹﨑
14.研究法の最終確定（AL）	14.竹﨑
15.本研究と利点の議論（AL）	15.竹﨑
16.本研究と問題点の議論（AL）	16.竹﨑
17.本研究の修正の議論（AL）	17.竹﨑
18.本研究結果の中間報告（AL）	18.竹﨑
19.中間報告の結果を踏まえた議論（AL）	19.竹﨑
20.社会的背景の整理（AL）	20.竹﨑

21.社会的背景の確認（AL）	21.竹﨑
22.本研究方法の整理（AL）	22.竹﨑
23.本研究方法の確認（AL）	23.竹﨑
24.研究結果の整理（AL）	24.竹﨑
25.研究結果の確認（AL）	25.竹﨑
26.研究結果に対する考察（AL）	26.竹﨑
27.研究結果に対する限界（AL）	27.竹﨑
28.論文作成（AL）	28.竹﨑
29.作成論文の発表と議論（AL）	29.竹﨑
30.論文作成・発表（試験）	30.竹﨑

教科書			
教・書籍名１	適宜必要な文献・資料を提示する	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	特別研究Ⅱ			担当者	三宅　優紀		
配当学科・研究科	2013～ 2016年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学2年／ 2017～ 2022年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学2年			ナンバリング			
必修・選択	必修	単位数	4単位	時間数	60	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに
到達目標	テーマ：大学院生は研究テーマに沿った考察の進展と論文作成を行う 到達目標：院生は、研究の枠組みや仮説に則って進めてきた研究の成果を分析検討し、具体的に論文において表明できるように整理していく事ができるようになる。 関係する文献や情報、資料、データ等の入手に積極的に取り組む。また、その他の院生の研究にも積極的な関心を持ち、テーマが異なる場合でも共通する諸課題に対する論点や、考察のための論理的思考を身につけられるように取り組む事ができるようになる。
授業概要	1. 先行研究や原著について指導し、文献の検索や読解力を養い、思考能力を高める。 2. 調査結果や文献研究からの考察点による論文の構成概要を固め、その具体的な記述を進めていく。
アクティブラーニングの内容	PBL／ディスカッション／プレゼンテーション／フィールドワーク
評価方法と割合	文献や研究論文などによる内容理解への努力や、テーマを掘り下げていく姿勢及び研究指導に対する姿勢(30%)、質疑応答における発言状況（30％）、研究進捗状況に応じたレポート（40％）から、総合的に評価する。なお、課題類は採点結果を返却し、必要な内容を授業、または資料配付でフィードバックする。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	なお、課題類は採点結果を返却し、必要な内容を授業、または資料配付でフィードバックする。
履修条件・注意事項	主指導教員1名と2名の副指導教員の体制の下、予習・復習はもとより、教員に指示を仰ぎ積極的な姿勢で研究課題に取り組むこと。
事前学習・事後学習とその時間	予習として、各授業計画および、前回授業で予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。 また、復習として、毎回の授業の内容を確認し、自分なりにノートにまとめること。 なお、予習、復習には各2時間程度を要する。
オフィスアワー	6315研究室，水曜日3限

授業計画	担当者
１．研究計画内容、仮説の再検討１	三宅
２．研究計画内容、仮説の再検討２	三宅
３．データ収集の再検討１	三宅
４．データ収集の再検討２	三宅
５．関連文献からの検討（1）調査結果	三宅
６．関連文献からの検討（1）先行研究	三宅
７．関連文献からの検討（2）引用表現１	三宅
８．関連文献からの検討（2）引用表現２	三宅
９．関連文献からの検討（3）論点１	三宅
10．関連文献からの検討（3）論点２	三宅
11．引用文献の挿入１	三宅
12．引用文献の挿入２	三宅
13．データの全体的特徴の把握１	三宅
14．データの全体的特徴の把握２	三宅
15．データ処理方法	三宅
16．研究目的達成に向けた解析	三宅
17．解析結果の解釈１	三宅

18. 解析結果の解釈２	三宅
19. 中間発表の準備１全体の構成１	三宅
20. 中間発表の準備１全体の構成２	三宅
21. 中間発表の準備2論文構成の課題１	三宅
22. 中間発表の準備2論文構成の課題２	三宅
23. 中間発表の準備3要旨のまとめ方１	三宅
24. 中間発表の準備3要旨のまとめ方１	三宅
25. 中間発表の準備4結果の提示１	三宅
26. 中間発表の準備4結果の提示２	三宅
27. 中間発表の準備5考察と検討	三宅
28. 中間発表の準備5結論の検討	三宅
29. プレゼンテーション実施	三宅
30. 最終試験 最終レポート	三宅

教科書			
教・書籍名１	作業で創るエビデンス 作業療法士のための研究法の学びかた	教・出版社名１	医学書院
教・著者名１	友利　幸之介／京極　真／竹林　崇	教・ＩＳＢＮ１	978-4-260-03662-7
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	特別研究Ⅱ	担当者	中嶋　正明
配当学科・研究科	2013～ 2016年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学2年／ 2017～ 2022年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学2年	ナンバリング	

必修・選択	必修	単位数	4単位	時間数	60	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに
到達目標	理学療法領域における高度な専門知識と研究者として研究テーマを抽出し研究を進めていくことのできる基礎能力を身につける。
授業概要	理学療法領域における課題を見極め，系統的に探求し修士論文にまとめる基礎能力を習得する。 特別研究Ⅰで立てた研究計画に従い研究を実施し，その研究成果を修士論文として完成させる。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション
評価方法と割合	講義時の口頭試問，提出レポートおよび修士論文の審査により評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題等は授業でフィードバックするので審査までに見直しておくこと。
履修条件・注意事項	指導教員の指導を受け修士論文を完成させること以上に，その過程で研究に必要な論理的思考能力を身につけるべく能動的な取り組み姿勢が欠かせない。
事前学習・事後学習とその時間	研究テーマに関する学術論文をできるだけたくさん読み，深い理解の基，研究を進めて欲しい。 予習および復習には各2時間程度を有する。
オフィスアワー	水曜日3限に中嶋研究室（6329）

授業計画	担当者
第１回　研究計画の詳細決定	中嶋正明
第２回　研究実施①　予備実験	中嶋正明
第３回　研究実施②	中嶋正明
第４回　研究実施③	中嶋正明
第５回　研究実施④	中嶋正明
第６回　データ解析①　データ整理	中嶋正明
第７回　データ解析②　統計処理	中嶋正明
第８回　データ解析③　統計処理の確認	中嶋正明
第９回　修士論文作成①　序論	中嶋正明
第１０回　修士論文作成②　方法と結果	中嶋正明
第１１回　修士論文作成③　考察	中嶋正明
第１２回　修士論文作成④　参考文献	中嶋正明
第１３回　修士論文推敲	中嶋正明
第１４回　修士論文発表会資料作成	中嶋正明
第１５回　修士論文プレゼンテーション	中嶋正明

教科書

教・書籍名１	アクセプトされる英語医学論文を書こう	教・出版社名１	メジカルビュー
教・著者名１	ネル・L・ケネディ	教・ＩＳＢＮ１	89553-969-5
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書

参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	特別研究Ⅱ	担当者	佐藤　三矢
配当学科・研究科	2013～ 2016年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学2年／ 2017～ 2022年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学2年	ナンバリング	

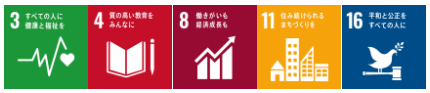
必修・選択	必修	単位数	4単位	時間数	60	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	【テーマ】 修士課程での研究を行なうために必要な手続き・手順および進行方法について指導する。 【到達目標】 学生は、研究成果を論文としてまとめことができるようになる。
授業概要	1.先行研究や原著について指導し、文献の検索や読解力を養い、思考能力を高める。 2.文献の講読を行いながら研究仮説を立案し、リサーチを行なう院生には実験あるいは調査の計画を立案させる。また、文献研究を行なう院生にはその構想を立案させる。 3.データの集積、分析、論文執筆などについて指導する。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート／プレゼンテーション
評価方法と割合	研究指導全般での講義時における口頭試問、提出レポートについて、知識や態度、考察する力等を評価する（４０％）。また、最終提出された研究計画書の内容について評価する（６０％）。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	評価にために実施した課題等は、授業でフィードバックするので最終講義（口頭試問）までに見直しておくこと。
履修条件・注意事項	研究指導は、最もその研究に適した主指導教員1名と2名の副指導教員によって行う。
事前学習・事後学習とその時間	各自の興味のある卒業研究へのテーマ設定、また関連する先行研究の調査など自身で積極的に進めることが重要。関連する研究に必要な項目を予習として、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて授業・実習を受けること。復習として、毎回学習した内容や実験結果を、自分なりにノートにまとめること。なお、予習、復習には各2時間程度を要する。
オフィスアワー	個人研究室にて月曜日の３時限目、木曜日の３時限に実施。

授業計画	担当者

教科書			
教・書籍名１	医学的研究のデザイン：研究の質を高める疫学的アプローチ　第４版	教・出版社名１	ﾒﾃﾞｨｶﾙ･ｻｲｴﾝｽ・ｲﾝﾀｰｼｮﾅﾙ
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	978-4-89592-583-9
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	特別研究Ⅱ			担当者	岩田　美幸		
配当学科・研究科	2013～ 2016年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学2年／ 2017～ 2022年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学2年			ナンバリング			
必修・選択	必修	単位数	4単位	時間数	60時間	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに／８．働きがいも経済成長も／１１．住み続けられるまちづくりを／１６．平和と公正をすべての人に 
到達目標	大学院生は、「研究テーマに沿った考察の進展と論文作成」をテーマに１年間取り組みます。 大学院生は、研究の枠組みや仮説に則って進めてきた研究の成果を分析検討し、具体的に論文において表明できるように整理していく事を到達目標とする。関係する文献や情報、資料、データ等の入手に積極的に取り組む。また、その他の院生の研究にも積極的な関心を持ち、テーマが異なる場合でも共通する諸課題に対する論点や、考察のための論理的思考を身につけられるように取り組む事を目標とする。
授業概要	1. 先行研究や原著について指導し、文献の検索や読解力を養い、思考能力を高めることができる。 2. 調査結果や文献研究からの考察点による論文の構成概要を固め、その具体的な記述を進めることができる。 この科目では、作業療法士としての実務経験をもつ教員がその経験を活かし、研究に役立つ授業を実施することができる。
アクティブラーニングの内容	PBL／ディスカッション／ディベート／グループワーク／フィールドワーク
評価方法と割合	文献や研究論文などによる内容理解への努力や、テーマを掘り下げていく姿勢及び研究指導に対する姿勢(30%)、質疑応答における発言状況（30％）、研究進捗状況に応じた提出物の内容（40％）から、総合的に評価する。なお、課題類は採点結果を返却し、必要な内容を授業、または資料配付でフィードバックする。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	口頭と書面にてフィードバックする。
履修条件・注意事項	主指導教員1名と2名の副指導教員の体制の下，予習・復習はもとより，教員に指示を仰ぎ積極的な姿勢で研究課題に取り組むこと。なお評価のために実施した課題等は、授業でフィードバックするので最終講義（口頭試問）までにみなおしておくこと。
事前学習・事後学習とその時間	予習として、各授業計画および、前回授業で予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。 また、復習として、毎回の授業の内容を確認し、自分なりにノートにまとめること。 なお、予習、復習には各2時間程度を要する。
オフィスアワー	月曜日２限　6429研究室（岩田）とする．

授業計画	担当者
１．研究計画内容、仮説の再検討１	岩田
２．研究計画内容、仮説の再検討２	岩田
３．データ収集の再検討１	岩田
４．データ収集の再検討２	岩田
５．関連文献からの検討（1）調査結果	岩田
６．関連文献からの検討（1）先行研究	岩田
７．関連文献からの検討（2）引用表現１	岩田
８．関連文献からの検討（2）引用表現２	岩田
９．関連文献からの検討（3）論点１	岩田
１０．関連文献からの検討（3）論点２	岩田
１１．引用文献の挿入１	岩田
１２．引用文献の挿入２	岩田
１３．データの全体的特徴の把握１	岩田
１４．データの全体的特徴の把握２	岩田

１５．データ処理方法	岩田
１６．研究目的達成に向けた解析	岩田
１７．解析結果の解釈１	岩田
１８．　解析結果の解釈２	岩田
１９．中間発表の準備　１　全体の構成１	岩田
２０．中間発表の準備　１　全体の構成２	岩田
２１．中間発表の準備2　論文構成の課題１	岩田
２２．中間発表の準備2　論文構成の課題２	岩田
２３．中間発表の準備3　要旨のまとめ方１	岩田
２４．中間発表の準備3　要旨のまとめ方１	岩田
２５．中間発表の準備4　結果の提示１	岩田
２６．中間発表の準備4　結果の提示２	岩田
２７．中間発表の準備5　考察と検討	岩田
２８．中間発表の準備5　結論の検討	岩田
２９．プレゼンテーションの実施の仕方	岩田
３０．最終試験 最終レポート	岩田

教科書			
教・書籍名１	作業で創るエビデンス 作業療法士のための研究法の学びかた	教・出版社名１	医学書院
教・著者名１	友利　幸之介／京極　真／竹林　崇	教・ＩＳＢＮ１	978-4-260-03662-7
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	特別研究Ⅱ			担当者	井上　茂樹		
配当学科・研究科	2013～ 2016年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学2年／ 2017～ 2022年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学2年			ナンバリング			
必修・選択	必修	単位数	4単位	時間数	60	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	（テーマ）理学療法研究領域における自己のテーマに沿って、データを集め、分析し、論文にまとめる。 （到達目標）修士論文を仕上げる。
授業概要	自己のテーマに沿った先行文献の読み込み、データの収集を行い、分析し、結果を考察する。 そして、文章化して修士論文を完成させる。
アクティブラーニングの内容	PBL／ディスカッション／ディベート／プレゼンテーション／実習／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	文献などの研究論文の内容理解への努力や、テーマを掘り下げていく研究姿勢並びに研究指導に対する姿勢（20%）、理解促進のために提出を求める課題の内容や質疑応答における発言状況（20%）、作成された論文について、研究テーマの妥当性、研究方法、論旨の妥当性、倫理的配慮等を総合的に評価する（60%）。なお、講義中に評価のために出した課題等は授業でフィードバックするので見直しておくこと。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	口頭もしくは書面でフィードバックする。
履修条件・注意事項	時間を厳守すると供に、与えられた課題の達成のみならず自分自身で考え、積極的に問題点を見つけ出し、明確な質疑応答が出来るようにすること。事前に課題を出し、それについて調べてきたことをもとにして、参加型学習法により授業を行うため、予習が必須である。また、指示に従って必ずノートを作成し復習すること。
事前学習・事後学習とその時間	予習として、各授業計画に記載されている部分について事前に文献および資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。 復習として、毎回課題を出すので、次回の授業時に発表すること。また、毎回の授業の内容を確認し、自分なりにノートに纏めること。 なお、予習、復習には各2時間程度を要する。
オフィスアワー	6号館4階の井上研究室（6437）において、毎週火曜日2時限目（11:10～12:40）をオフィスアワーの時間とする。

授業計画	担当者
1. 研究計画の策定①	井上茂樹
2. 研究計画の策定②	井上茂樹
3. 参考文献調査①	井上茂樹
4. 参考文献調査②	井上茂樹
5. 参考文献調査③	井上茂樹
6. 実験研究の準備①	井上茂樹
7. 実験研究の準備②	井上茂樹
8. 実験研究の実施①	井上茂樹
9. 実験研究の実施②	井上茂樹
10. 実験研究の実施③	井上茂樹
11. 実験研究の実施④	井上茂樹
12. 実験研究の実施⑤	井上茂樹
13. 実験研究の実施⑥	井上茂樹
14. 実験研究の実施⑦	井上茂樹
15. 実験研究の実施⑧	井上茂樹
16. 実験データの分析①	井上茂樹
17. 実験データの分析②	井上茂樹
18. 実験データの分析③	井上茂樹
19. 実験データの分析④	井上茂樹
20. 実験データの分析⑤	井上茂樹

21. 研究中間報告書の作成①	井上茂樹
22. 研究中間報告書の作成②	井上茂樹
23. 研究中間報告書の作成③	井上茂樹
24. 研究中間報告書の作成④	井上茂樹
25. 研究中間報告書の作成⑤	井上茂樹
26. 研究中間報告資料の作成①	井上茂樹
27. 研究中間報告資料の作成②	井上茂樹
28. 研究中間報告資料の作成③	井上茂樹
29. 研究中間報告発表用資料の確認	井上茂樹
30. 研究中間報告発表用資料の完成	井上茂樹

教科書			
教・書籍名１	必要に応じて文献や研究資料を配布する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	特別研究Ⅱ			担当者	森下　元賀		
配当学科・研究科	2013～ 2016年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学2年／ 2017～ 2022年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学2年			ナンバリング			
必修・選択	必修	単位数	4単位	時間数	60	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	「修士論文の執筆の実際」をテーマとして、研究を行うのに必要な手続き、態度および方法について指導し、学生が研究成果を論文としてまとめることができることを目標とする。
授業概要	研究計画が立案されれば、速やかに研究の実施、結果の分析、考察が必要となる。 １．先行研究や原著について指導し、文献の検索や読解力を養い、思考能力を高める。 ２．文献のレビューを行いながら研究仮説を立案し、リサーチを行う院生には実験の計画を立案する。 ３．データの集積、分析、論文執筆などについて指導する。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション
評価方法と割合	修士論文に関わる研究の理解度、臨む姿勢に関して評価するために、各回の課題(20%)、最終レポート課題(40%)、研究成果プレゼンテーションの内容(40%)で評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題等は、授業でフィードバックするので、最終講義(口頭試問)までに見直しておくこと。
履修条件・注意事項	研究指導は，主指導教員１名と２名の副指導教員によって行う。各回に提示される課題だけではなく、自ら進んで研究の問題点の把握に努め、担当教員の質疑応答に回答できるよう考えをまとめておくことが必要である。
事前学習・事後学習とその時間	リハビリテーションにおける研究では正確な情報収集能力と批判的吟味を通した正しい理解が必要である。各回に課題を提示するので、その課題を通して十分な予習・復習を行うこと。予習、復習には各2時間程度を要する。
オフィスアワー	大学院生に関しては、木曜日に研究室にお越しください。

授業計画	担当者
1. オリエンテーション 2. 研究実施計画の策定 3. 実験実施計画書、倫理申請書の作成 4. 対象者募集方法の検討 5. 予備実験の実施1 6. 予備実験の実施2 7. 予備実験の実施3 8. 予備実験結果の解析、検討 9. 予備実験での結果の整理 10. 予備実験での問題点の整理 11. 研究計画の修正、見直し 12. 本実験計画の整理 13. 本実験の機材の整理 14. 本実験の実施1 15. 本実験の実施2 16. 本実験の実施3 17. 実験結果の解析 18. 実験結果の解釈、考察1 19. 実験結果の解釈、考察2 20. 実験結果のまとめと追加実験の検討 21. 中間報告の作成 22. 追加実験の実施1 23. 追加実験の実施2 24. 実験結果のまとめ、解析 25. 修士論文の書き方	森下元賀

26. 修士論文の作成 27. 最終発表のスライドの作成 28. 修士論文の原案提出 29. 修士論文の指導 30. 修士論文の提出	

教科書			
教・書籍名１	適宜資料を配布する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	特別研究Ⅱ			担当者	福岡　美和		
配当学科・研究科	2013～ 2016年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学2年／ 2017～ 2022年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学2年			ナンバリング			
必修・選択	必修	単位数	4単位	時間数	60時間	授業形態	講義・演習
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／５．ジェンダー平等を実現しよう
到達目標	テーマ：研究について深く学ぶことにより、自らの研究を探求できる態度を養う。 到達目標： １．調査、分析、考察から研究課題、解決策を見出すことができる。 ２．研究成果を広く周知するためのプレゼンテーションができる。 ３．自己の研究に取り組む姿勢を振り返ることができる。 ４．研究者としての自己の傾向を知ることができる。
授業概要	１．論文作成するため、先行研究や原著論文を読解する力を養い、思考能力を高める。 ２．研究結果から示唆れた内容、今後の課題を見出すことができる。 ３．論文の作成 ４．研究成果を母性看護に関連した学会への投稿を行う。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション／フィールドワーク
評価方法と割合	文献検索し、先行研究の内容理解や研究について自ら探求する姿勢や指導や助言に対する姿勢(20%) 課題内容の理解や質疑応答における発言内容(20%) 作成された研究計画書をもとに論文作成を行い、論文の完成度やプレゼンテーション能力について総合的に評価する。（60%）
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	随時提示する。
履修条件・注意事項	興味関心のあるトピックス等は常にチェックしておくこと。また各自、事前に文献を読み内容を理解してくること。
事前学習・事後学習とその時間	１．研究がスムーズに遂行できるようにする。 ２．自己の意見をはっきり他者に伝えることができること、また他者の意見を取り入れ、自己の意見との相違を考えることができること。
オフィスアワー	月曜日～金曜日：12:40～13:30　　福岡研究室（ 6423号室）

授業計画	担当者
１．オリエンテーション（研究倫理に基づく責任ある研究の見直し） ２．研究参加の依頼 ３．研究参加の承諾確認 ４．データ収集（Aフィールド） ５．データ収集（Bフィールド） ６．データ収集（Cフィールド） ７．データ収集（Dフィールド） ８．データの確認 ９．データの整理 10．データの解析 11．データの分析 12．データの解析、分析についての検討 13．研究進捗状況の報告	

14. 研究進捗状況報告書の作成 15. 研究進捗状況報告書の確認 16. 研究進捗状況報告書の提出 17. データの再確認 18. データの再収集 19. データの整理 20. データの解析、分析 21. 結果のまとめ 22. 考察の検討 23. 論文の作成 24. 論文の再構成 25. 論文検討 26 論文完成 27. 発表準備 28. 発表と講評 29. 論文投稿の準備 30. 論文投稿	福岡美和

教科書			
教・書籍名１	随時提示する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	特別研究Ⅱ	担当者	狩長　弘親
配当学科・研究科	2013～ 2016年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学2年／ 2017～ 2022年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学2年	ナンバリング	

必修・選択	必修	単位数	4単位	時間数	60	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	テーマ：学生は、研究テーマに沿った考察の進展と論文作成を行う。 到達目標：学生は、研究の枠組みや仮説に則って進めてきた研究の成果を分析検討し、具体的に論文において表明できるように整理していく事を目標とする。関係する文献や情報、資料、データ等の入手に積極的に取り組む。また、その他の院生の研究にも積極的な関心を持ち、テーマが異なる場合でも共通する諸課題に対する論点や、考察のための論理的思考を身につけられるように取り組む事を目標とする。
授業概要	1. 先行研究や原著について指導し、文献の検索や読解力を養い、思考能力を高める。 2. 調査結果や文献研究からの考察点による論文の構成概要を固め、その具体的な記述を進めていく。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション
評価方法と割合	文献や研究論文などによる内容理解への努力や、テーマを掘り下げていく姿勢及び研究指導に対する姿勢(30%)、質疑応答における発言状況（30%）、研究進捗状況に応じた提出物の内容（40%）から、総合的に評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題類は採点結果を返却し，必要な内容を授業，または資料配付でフィードバックする．
履修条件・注意事項	主指導教員1名と2名の副指導教員の体制の下，予習・復習はもとより，教員に指示を仰ぎ積極的な姿勢で研究課題に取り組むこと。なお評価のために実施した課題等は、授業でフィードバックするので最終講義（口頭試問）までにみなおしておくこと。
事前学習・事後学習とその時間	予習として、各授業計画および、前回授業で予告した部分について、事前に参考資料を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。 また、復習として、毎回の授業の内容を確認し、自分なりにノートにまとめること。 なお、予習、復習には各2時間程度を要する。
オフィスアワー	月曜日４限 6427研究室

授業計画	担当者
１．研究計画内容、仮説の再検討１	1.狩長
２．研究計画内容、仮説の再検討２	2.狩長
３．データ収集の再検討１	3.狩長
４．データ収集の再検討２	4.狩長
５．関係する文献からの検討（1）調査結果と先行研究１	5.狩長
６．関係する文献からの検討（1）調査結果と先行研究２	6.狩長
７．関係する文献からの検討（2）引用表現の工夫１	7.狩長
８．関係する文献からの検討（2）引用表現の工夫２	8.狩長
９．関係する文献からの検討（3）論点の議論１	9.狩長
１０．関係する文献からの検討（3）論点の議論２	10.狩長
１１．関係する文献からの検討（4）引用文献の挿入１	11.狩長
１２．関係する文献からの検討（4）引用文献の挿入２	12.狩長
１３．データの全体的特徴の把握１	13.狩長
１４．データの全体的特徴の把握２	14.狩長
１５．データ処理方法について1　研究目的達成に向けた解析１	15.狩長
１６．データ処理方法について1　研究目的達成に向けた解析２	
１７．データ処理方法について2　解析結果の解釈１	

１８．データ処理方法について2　解析結果の解釈１ １９．中間発表の準備1　全体の構成１ ２０．中間発表の準備1　全体の構成２ ２１．中間発表の準備2　論文構成の課題１ ２２．中間発表の準備2　論文構成の課題２ ２３．中間発表の準備3　要旨のまとめ方１ ２４．中間発表の準備3　要旨のまとめ方１ ２５．中間発表の準備4　結果の提示の仕方１ ２６．中間発表の準備4　結果の提示の仕方２ ２７．中間発表の準備5　考察と結論の検討１ ２８．中間発表の準備5　考察と結論の検討２ ２９．プレゼンテーションの実施の仕方１ ３０．全体総括	

教科書			
教・書籍名１	適宜，指定する．	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	特別研究Ⅱ			担当者	寺岡　睦		
配当学科・研究科	2013～ 2016年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学2年／ 2017～ 2022年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学2年			ナンバリング			
必修・選択	必修	単位数	4単位	時間数	60	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに
到達目標	テーマ：大学院生は，研究実施プロセスを一通り理解できる 到達目標：大学院生は，自身の研究に必要な知識を収集できる． 大学院生は，自身の研究の実施が出来る． 大学院生は，自身の研究を適切にまとめ，発表ができる
授業概要	研究計画に沿って研究を遂行しながら，研究をやり遂げるテクニックを学ぶ． その中で研究の意義と独創性，実証的成果を明らかにしながら研究の限界について検討する．
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	課題50％，発表50％で行う 評価のために実施した課題等は講義内でフィードバックを行う．
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題や研究遂行に関しては毎回の講義の中でディスカッションを行いフィードバックする。
履修条件・注意事項	講義前後で研究を遂行していくこと 講義内での議論や検討に積極的に参加すること
事前学習・事後学習とその時間	研究遂行のための予習・復習には各2時間行う必要がある． 毎回の講義終了時には次回の研究報告を円滑に行うために課題を課す． それを遂行することによって次回講義への円滑な参加が行える．
オフィスアワー	木曜4限，6430教室で行う．

授業計画	担当者
1.　研究法概要	1.　寺岡
2.　研究における利点の議論	2.　寺岡
3.　研究における問題点の議論	3.　寺岡
4.　対象のリクルート方法	4.　寺岡
5.　対象のリクルートによる課題	5.　寺岡
6.　プレ研究の方法	6.　寺岡
7.　プレ研究における利点の検討	7.　寺岡
8.　プレ研究における問題点の検討	8.　寺岡
9.　質的研究の概要	9.　寺岡
10.　量的研究の概要	10.　寺岡
11.　各研究法の利点と欠点	11.　寺岡
12.　研究法の吟味	12.　寺岡
13.　研究法の最終確定	13.　寺岡
14.　本研究と利点の議論	14.　寺岡
15.　本研究と問題点の議論	15.　寺岡
16.　本研究の修正の議論	16.　寺岡
17.　本研究結果の中間報告	17.　寺岡
18.　中間報告の結果を踏まえた議論	18.　寺岡
19.　社会的背景の整理	19.　寺岡
20.　社会的背景の確認	20.　寺岡
21.　本研究の方法の整理	21.　寺岡
22.　本研究の方法の確認	22.　寺岡
23.　研究結果の整理	23.　寺岡
24.　研究結果の確認	24.　寺岡

25. 研究結果に対する考察	25. 寺岡
26. 研究結果に対する限界の検討	26. 寺岡
27. 論文作成1	27. 寺岡
28. 作成論文の発表と議論	28. 寺岡
29. 論文作成・発表	29. 寺岡
30. まとめ	30. 寺岡

教科書			
教・書籍名１	適宜紹介	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	特別研究Ⅱ			担当者	森　芳史		
配当学科・研究科	2013～ 2016年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学2年／ 2017～ 2022年度 吉備国際大学 大学院 保健科学研究科 保健科学2年			ナンバリング			
必修・選択	必修	単位数	4単位	時間数	60	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	研究を行うのに必要な手続き、態度および方法について学び、その成果を研究論文としてまとめ発表することができる。
授業概要	１．研究における倫理的配慮について学ぶ。 ２．測定方法の信頼性、妥当性について学習する。 ３．データの集積、分析、論文執筆、発表方法などについて指導する。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション／実習
評価方法と割合	講義時における口頭試問、提出レポートについて、知識や態度、考察する力等を評価する（40%）。また、まとめ時における口頭試問の内容について評価する（60%）。 なお、評価のために実施した課題や小テスト等は、授業でフィードバックするのでまとめ（口頭試問）までにみなおしておくこと。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業やオンラインで必要なフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	研究指導は、最もその研究に適した主指導教員1名と2名の副指導教員によって行う。 時間を厳守するとともに、与えられた課題の達成のみならず、自分自身で考え、積極的に問題点を見つけだし、明確な質疑応答ができるようにする。
事前学習・事後学習とその時間	自己学習のためのレポート課題を課す．それを作成することによって講義の予習復習が可能であり、必ず提出すること。なお、予習及び復習には、各2時間程度を要する。
オフィスアワー	6号館4階、6412号室：火曜日5限目、水曜日5限目、その他授業前、放課後、昼休みにお越し下さい。

授業計画	担当者
1. 研究対象者に対する倫理的配慮1	森
2. 研究者に対する倫理的配慮2	森
3. 実験における問題点のディスカッション（対象者）	森
4. 実験における問題点のディスカッション（方法）1	森
5. 実験における問題点のディスカッション（方法）2	森
6. 実験結果の統計処理（方法の選択）	森
7. 実験結果の統計処理1	森
8. 実験結果の統計処理2	森
9. 実験結果の統計処理3	森
10. 実験結果の考察・整理1	森
11. 実験結果の考察・整理2	森
12. 実験結果の考察・ディスカッション1	森
13. 実験結果の考察・ディスカッション2	
14. 実験結果の考察・ディスカッション3	森
15. 研究論文作成法1	
16. 研究論文作成法2	森
17. 研究発表方法1	
18. 研究発表方法2	森
19. 院生のプレゼンテーションと	森

ディスカッション(緒論)1	森
20. 院生のプレゼンテーションと	森
ディスカッション(緒論)2	森
21. 院生のプレゼンテーションと ディスカッション(対象及び方法)1	森
22. 院生のプレゼンテーションと ディスカッション(対象及び方法)2	森
23. 院生のプレゼンテーションと ディスカッション(結果)1	森
24. 院生のプレゼンテーションと ディスカッション(結果)2	森
25. 院生のプレゼンテーションと ディスカッション(結果)3	森
26. 院生のプレゼンテーションと ディスカッション(考察)1	森
27. 院生のプレゼンテーションと ディスカッション(考察)2	森
28.院生のプレゼンテーションと ディスカッション(考察)3	森
29. 院生のプレゼンテーションと ディスカッション(今後の課題)	森
30. まとめ（口頭試問）	森
	森

教科書			
教・書籍名１	教科書の指定は無い。前もって資料・テキストを配付する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	医学的研究のデザイン　第4版	参・出版社名１	メディカルサイエンスインターナショナル
参・著者名１	木原雅子（翻訳），木原正博（翻訳）	参・ＩＳＢＮ１	978-4-89592-783-3
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	